主要地方道成田松尾線Ⅲ

鯉　ヶ　窪　遺　跡

中　台　柿　谷　遺　跡

遠　山　天　ノ　作　遺　跡

昭和61年3月

千　葉　県　土　木　部

財団法人 千葉県文化財センター

主要地方道成田松尾線Ⅲ

鯉　ヶ　窪　遺　跡

中　台　柿　谷　遺　跡

遠　山　天　ノ　作　遺　跡

昭和61年3月

千　葉　県　土　木　部

財団法人 千葉県文化財センター

序　　文

下総台地の南部・木戸川に開析された地域は，古代から自然条件に恵まれており，先土器時代から歴史時代に至るまで数多くの遺跡が知られております。

主要地方道成田松尾線事業地内におきましても遺跡の所在が確認され，昭和53年度から千葉県教育委員会の指導のもとに，当センターが発掘を実施してまいりました。既にその一部は「主要地方道成田松尾線Ⅰ」「同Ⅱ」として成果を発表しております。

このたび，昭和53，54，57，58年度に発掘した№2，3，4，5遺跡の調査成果がまとまり，本報告書として刊行する運びとなりました。収載する遺跡は，横芝町・芝山町・松尾町が接する地域に各々所在しております。

当遺跡からは，先土器時代，古墳時代の遺構が，確認され，当該期の人々の生活を知るうえで貴重な資料を得ることができました。特に№4遺跡の古墳は，殿塚，姫塚を擁する芝山古墳群に隣接し興味深いものがあります。

本書が学術資料としてはもとより，郷土を知る教育資料として，文化財保護普及のために広く活用されることを望んでやみません。

終わりに，発掘調査から整理に至るまで多大な御協力，御支援をいただきました千葉県土木部，千葉県山武土木事務所，千葉県教育庁文化課，横芝町教育委員会をはじめ，関係諸機関にお礼を申し上げるとともに，酷寒・酷暑の中で調査に協力された調査補助員の皆様に心から謝意を表します。

昭和61年3月

財団法人　千葉県文化財センター

理事長　　山本　孝也

例　　言

1．本書は，主要地方道成田松尾線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。遺跡コード番号は，遠山天ノ作遺跡(№２)を408-002，中台柿谷遺跡(№３)を408-004，鯉ヶ窪遺跡(№4・5）408-001とした。

2．遠山天ノ作遺跡は，山武郡横芝町遠山天ノ作306の４他に所在する。中台柿谷遺跡は，山武郡横芝町中台字柿谷121の１他に所在する。鯉ヶ窪遺跡は，山武郡横芝町鯉ヶ窪1437-1他に所在する遺跡である。

3．発掘調査は，遠山天ノ作遺跡が，昭和54，57，58年度に，中台柿谷遺跡が，昭和54年度に，鯉ヶ窪遺跡が，昭和53年度に実施し，整理作業を昭和56，58，59年度に行った。作業は，千葉県教育委員会の指導のもとに，千葉県土木部との委託契約に基づいて，財団法人千葉県文化財センターが実施した。

4．作業の分担は，調査部長西野元（53年），白石竹雄（54～58年），鈴木道之助（59～），部長補佐天野努（56年），岡川宏道（57，58，60年），根本弘（59年），班長杉山晋作（53，54年）斎木勝（56，57年），高橋賢一（58～），主任調査研究員萬崎博昭（56，57年）調査研究員折原繁（53，54年），萬崎博昭（53，54年），奥田正彦（56～58年），榊原弘二（56年），伊藤智樹（57～59年），高橋博文（59年）が担当した。整理作業は，遠山天ノ作遺跡を奥田正彦，高橋博文，中台柿谷遺跡を萬崎博昭，鯉ヶ窪遺跡を奥田正彦が担当し執筆した。

5．発掘調査から本書の刊行に至るまで，下記諸機関・諸氏の御指導，御協力を賜わり，深く謝意を表わす次第であります。

　千葉県教育庁文化課，千葉県土木部道路建設課，千葉県山武郡土木事務所，横芝町教育委員会，地元諸氏。

6．現地発掘調査にあたり，酷暑，酷寒の中調査に従事して頂いた調査補助員の方々及び整理作業にあたって頂いた調査補助員の方々には終始調査に対する御協力を頂き感謝致します。

本 文 目 次

序 文
例 言
第1章 遺跡の位置と環境……1
第1項 遺跡の地理的・歴史的環境……1
第2章 鯉ヶ窪遺跡……7
第1項 調査の方法と概要……7
1．調査の方法……7
2．土 層……10
3．調査の概要……10
第2項 遺構と遺物……12
1．先土器時代……12
2．縄文時代……29
3．古墳時代……35
4．その他……54
(1) 炭 窯……54
(2) グリッド出土遺物……57
第3項 小 結……58
第3章 中台柿谷遺跡……59
第1項 調査の方法と概要……59
1．調査の方法……59
2．土 層……59
3．調査の概要……62
第2項 遺構と遺物……63
1．先土器時代……63
2．縄文時代……64
第3項 小 結……73
第4章 遠山天ノ作遺跡……74
第1項 調査の方法と概要……74
1．調査の方法……74
2．土 層……76
3．調査の概要……76

第2項　遺構と遺物…… 79
1．第1次調査…… 79
(1)　先土器時代…… 79
(2)　縄文時代…… 101
2．第2次調査…… 103
(1)　先土器時代…… 103
第3項　小　結…… 133
第5章　結　語…… 134
CONTENTS
SUMMARY

挿 図 目 次

第１図　周辺地形図（1/50,000）…… 2

鯉 ヶ 窪 遺 跡

第２図　遺跡周辺地形図（1/5,000）…… 8
第３図　遺跡地形図（1/2,000）・グリッド配置図（1/400）・土層断面図（1/80）…… 9
第４図　003号墳下石器出土状況図（１／80）…… 13
第５図　003号墳下出土石器実測図（１）（2/3）…… 15
第６図　003号墳下出土石器実測図（２）（2/3）…… 16
第７図　003号墳下出土石器実測図（３）（2/3）…… 17
第８図　003号墳下出土石器実測図（４）（2/3）…… 18
第９図　003号墳下出土石器実測図（５）（2/3）…… 19
第10図　003号墳下出土石器実測図（６）（2/3）…… 20
第11図　003号墳下出土石器実測図（７）（2/3）…… 21
第12図　003号墳下出土石器実測図（８）（2/3）…… 22
第13図　003号墳下出土石器実測図（９）（1/2）…… 23
第14図　003号墳下出土石器実測図（10）（1/2）…… 24
第15図　縄文土器拓影図（１）（1/3）…… 31
第16図　縄文土器拓影図（２）（1/3）…… 33
第17図　縄文土器拓影・実測図（３）・土製品実測図（1/3）…… 34
第18図　001号墳実測図（1/200・1/80）…… 35
第19図　001号墳出土遺物実測図（1/4）…… 36
第20図　002号墳実測図（1/200・1/120）…… 37
第21図　002号墳周溝内遺物出土状況図（1/20）…… 38
第22図　002号墳出土遺物実測図（1/4）…… 39
第23図　003号墳実測図（1/200）…… 41
第24図　003号墳墳丘土層断面図（1/120）…… 43
第25図　003号墳石室実測図（１）（1/40）…… 45
第26図　003号墳石室実測図（２）（1/40）…… 47
第27図　003号墳石室内遺物出土状況図（1/40）…… 49
第28図　003号墳石室内出土遺物実測図（１）（2/3）…… 49
第29図　003号墳石室内出土遺物実測図（２）（1/2）…… 50
第30図　003号墳墳丘出土遺物実測図（1/4・1/2）…… 53

第31図　炭窯跡実測図（1/60）…… 55
第32図　炭窯（燻炭窯）跡実測図（1/60）…… 56
第33図　グリッド出土遺物実測図（1/4・1/2）…… 57
中台柿谷遺跡
第34図　遺跡周辺地形図(1/5,000)　…… 60
第35図　遺跡地形図(1/2,000)・グリッド分割図(1/400)・土層断面図(1/80)…… 61
第36図　第1群・第2群石器出土状況図（1/80）…… 65
第37図　第1群石器実測図(1)(2/3)　…… 67
第38図　第1群石器実測図(2)・第2群石器実測図(1)(2/3)　…… 68
第39図　第2群石器実測図(2)・グリッド出土石器実測図(1)(2/3)　…… 69
第40図　グリッド出土石器実測図(2)(2/3)　…… 70
第41図　縄文土器拓影図(1/3)　…… 72
遠山天ノ作遺跡
第42図　遺跡周辺地形図(1/5,000)　…… 75
第43図　遺跡地形図(1/2,000)・グリッド分割図(1/400)・土層断面図(1/80)…… 77
第44図　A2グリッド出土石器実測図(2/3)　…… 80
第45図　A2グリッド石器出土状況図（1/80）…… 81
第46図　A4グリッド石器出土状況図(1)(1/80)　…… 83
第47図　A4グリッド石器出土状況図(2)(1/80)　…… 86
第48図　A4グリッド石器出土状況図(3)(1/80)　…… 87
第49図　A4グリッド石器出土状況図(4)(1/80)　…… 88
第50図　A4グリッド出土石器実測図(1)(2/3)　…… 89
第51図　A4グリッド出土石器実測図(2)(2/3)　…… 90
第52図　A4グリッド出土石器実測図(3)(2/3)　…… 91
第53図　A4グリッド出土石器実測図(4)(2/3)　…… 92
第54図　A4グリッド出土石器実測図(5)(2/3)　…… 93
第55図　A4グリッド出土石器実測図(6)(1/2)　…… 94
第56図　A4グリッド出土石器実測図(7)(1/2)　…… 95
第57図　A4グリッド出土石器実測図(8)(1/2)　…… 96
第58図　A6グリッド石器出土状況図(1/80)…… 100
第59図　A6グリッド出土石器実測図(2/3)　…… 101
第60図　縄文土器拓影図(1/3)　…… 102
第61図　第1群石器出土状況図(1/80)…… 103

第62図　第１群石器実測図……104
第63図　第２群石器出土状況図(1/80)……105
第64図　第２群石器実測図(1)(2/3)　……106
第65図　第２群石器実測図(2)(2/3)　……107
第66図　第２群石器実測図(3)(2/3)　……108
第67図　第２群石器実測図(4)(2/3)　……109
第68図　第２群石器実測図(5)(2/3)　……110
第69図　第２群石器実測図(6)(2/3)　……111
第70図　第２群石器実測図(7)(2/3)　……112
第71図　第２群石器実測図(8)(2/3)　……113
第72図　第２群石器実測図(9)(2/3)　……114
第73図　第２群石器実測図(10)(2/3)　……115
第74図　第２群石器実測図(11)(1/2)　……116
第75図　第２群石器実測図(12)(1/2)　……117
第76図　第２群石器実測図(13)(1/2)　……118
第77図　第２群石器実測図(14)(1/2)　……119
第78図　第３・４群石器出土状況図(1/80)……125
第79図　第３群石器実測図(1)(2/3)　……127
第80図　第３群石器実測図(2)(2/3)　……128
第81図　第３群石器実測図(3)(2/3)　……129
第82図　第３群石器実測図(4)(2/3)　……130
第83図　第３群石器実測図(5)(1/2)　……131
第84図　その他のグリッド出土石器実測図(2/3)　……132

表　目　次

表 1　遺跡一覧表…… 3
表 2　003号墳下出土石器表 …… 25
表 3　001号墳出土遺物表 …… 36
表 4　002号墳出土遺物表 …… 39
表 5　003号墳石室内出土遺物表 …… 51
表 6　003号墳墳丘出土遺物表 …… 53
表 7　炭窯計測表…… 54
表 8　出土石器表…… 71
表 9　A 2 グリッド出土石器表…… 79
表10　A 4 グリッド出土石器表…… 97
表11　A 6 グリッド出土石器表…… 101
表12　第 1 群石器表…… 104
表13　第 2 群石器表…… 120
表14　第 3 群石器表…… 131
表15　その他のグリッド出土石器表…… 132

図 版 目 次

鯉ヶ窪遺跡

図版１　1.鯉ヶ窪遺跡全景(航空写真)，2.同遺跡近景

図版２　1.調査区北端部確認状況,2.001号墳全景

図版３　1.002号墳全景，2.002号墳周溝内遺物出土状況，3.002号墳周溝

図版４　1.003号墳全景(調査前)，2.003号墳全景

図版５　1.003号墳墳丘土層断面，2.003号墳墳丘土層断面,3.003号墳周溝内土層断面

図版６　1.003号墳周溝，2.003号墳下石器出土状況，3.003号墳下石器出土状況

図版７　1.003号墳全景(封土除去後)，2.003号墳石室検出状況

図版８　1.003号墳石室検出状況，2.003号墳石室検出状況

図版９　1.003号墳石室玄門部，2.003号墳石室玄門部,3.003号墳石室内遺物検出状況

図版10　1.003号墳石室構築状況，2.003号墳石室構築状況

図版11　1.003号墳石室内状況，2.003号墳石室堀り方，3.003号墳石室堀り方

図版12　1.１号炭窯全景，2.２号炭窯全景，3.７号炭窯全景

図版13　003号墳下出土石器（１）

図版14　003号墳下出土石器（２）

図版15　003号墳下出土石器（３）

図版16　003号墳下出土石器（４）・グリッド出土石器

図版17　縄文土器（１）

図版18　縄文土器（２）

図版19　縄文土器（３）

図版20　石室内出土遺物

中台柿谷遺跡

図版21　1.中台柿谷遺跡全景(航空撮影)，2.土層断面，3.局部磨製石斧出土状況

図版22　第１群・第２群石器

図版23　第２群グリッド出土石器

遠山天ノ作遺跡

図版24　1.遠山天ノ作遺跡全景(航空撮影)，2.同遺跡近景

図版25　1.試掘状況，2.試掘状況

図版26　1.Ａ２グリッド土層，2.Ａ４グリッド土層

図版27　1.Ａ４グリッド石器出土状況，2.Ａ４グリッド石器出土状況

図版28　Ａ２グリッド出土石器・Ａ４グリッド出土石器(1)

図版29　Ａ４グリッド出土石器(2)

図版30　Ａ４グリッド出土石器(3)

図版31　Ａ４グリッド出土石器(4)

図版32　Ａ４グリッド出土石器(5)

図版33　Ａ６グリッド出土石器

図版34　縄文土器

図版35　1.発掘風景　2.８Ａグリッド石器出土状況

図版36　1.7Bグリッド石器出土状況
　　2.7Bグリッド石器出土状況
図版37　第1群・第2群(1)・(2)石器
図版38　第2群(2)・(3)石器
図版39　第2群(4)・(5)石器
図版40　第2群(5)・(6)石器
図版41　第2群(7)・(8)石器
図版42　第2群(8)・(9)石器
図版43　第2群(10)・(11)石器
図版44　第2群(11)・(12)石器
図版45　第2群(13)・(14)石器
図版46　第3群(1)・(2)石器
図版47　第3群(3)・(4)石器
図版48　第3群(5)石器

第１章　遺跡の位置と環境

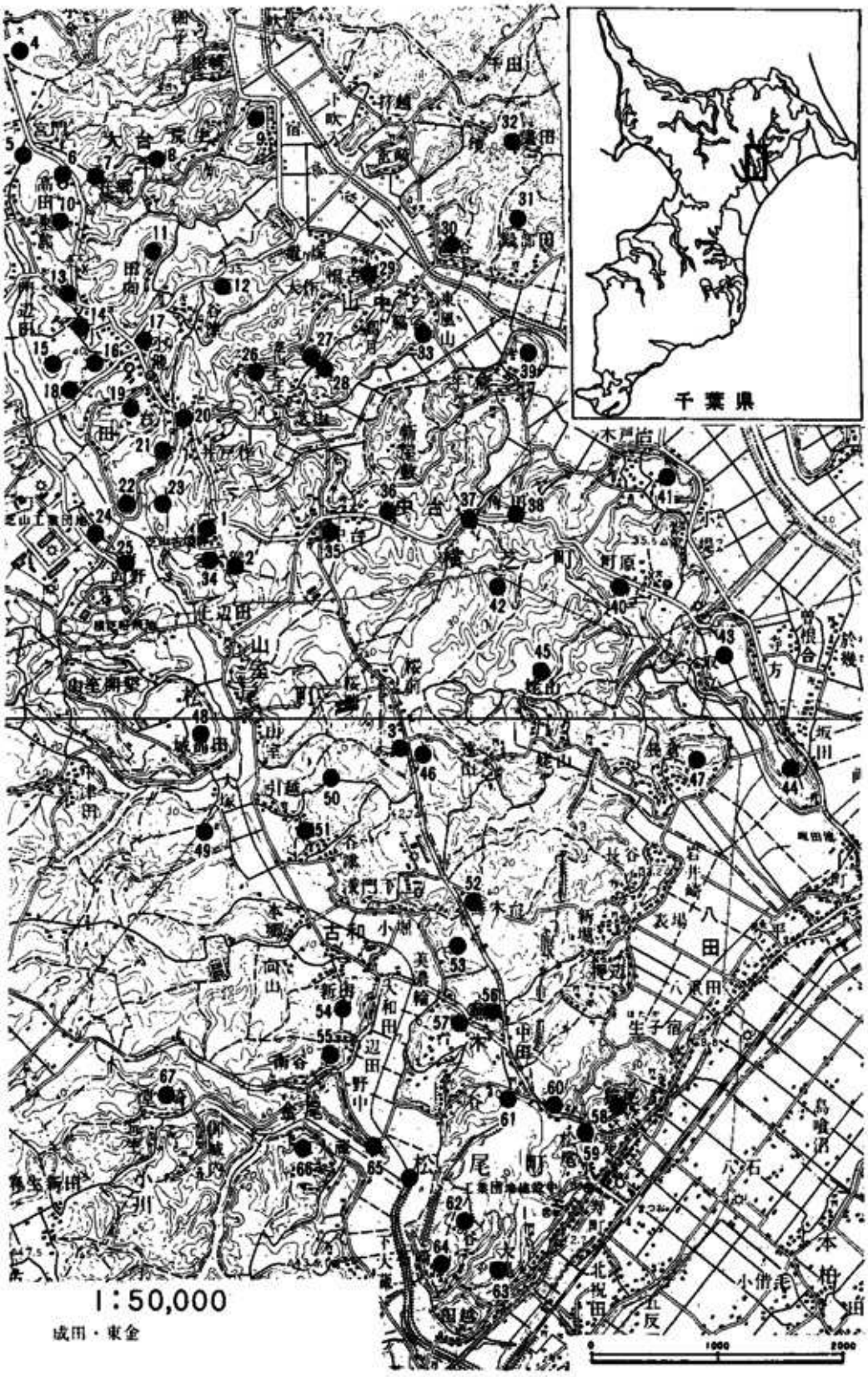
第１項　遺跡の地理的・歴史的環境

千葉県は，房総半島の全域を占め，北側に利根川，西側に江戸川，東京湾，東側と南側に太平洋と，四方を水で囲まれている。房総半島の南部には，標高300～400mの山地があるが，全体としては地形の変化がゆるやかである。　とくに，半島の中央部・北部の大半を占める下総台地は，台地面の起伏がほとんどなく，平坦面が広がっている。

下総台地は，主に沖積世に形成された，砂を主体とする成田層群と，上位の火山灰を主体とする関東ローム層からできている。台地は，河川の浸食により，樹枝状の谷によって刻まれ，周辺部では，複雑な地形を造り出している。台地面は一般にゆるく北西に傾斜し，関東構造盆地の中心方向へゆるく傾斜することになる。(1)

本書で報告する鯉ケ窪遺跡，中台柿谷遺跡，遠山天ノ作遺跡は，房総半島の北東部，地形的に，下総台地の南東部に位置する。行政上は，山武郡横芝町に所在する。下総台地南東部では，九十九里海岸へ流れ出る各河川の浸食により複雑な地形を呈する。木戸川，高谷川など，南東へ流れる河川に沿って尾根状の台地がならび，それらの河川の支流に浸食されて形成された舌状台地が，各台地から河川に向かって細長く樹枝状にのびている。標高は30～40mで，台地上はほぼ平坦である。このような台地の平坦部には，多くの遺跡が確認され，鯉ケ窪遺跡，中台柿谷遺跡，遠山天ノ作遺跡もこれに含まれる。

木戸川，高谷川（栗山川）に面した台地上には，縄文時代，古墳時代，奈良・平安時代および中近世の城跡が多く存在する。縄文時代では，晩期の標式遺跡の１つである山武姥山貝塚（横芝町）(2)をはじめ，中台貝塚（後期）（横芝町）(3)，牛熊貝塚（中～晩期）（横芝町）(4)などの貝塚が古くから知られている。古墳時代の遺跡として，多量の形象埴輪の出土で有名な殿塚古墳，姫塚古墳を有する芝山古墳群（横芝町）(5)をはじめとする古墳（群）が多く存在する。形象埴輪を出土した古墳としては，宝馬古墳(6)，宝馬にわとり塚古墳(7)（芝山町山田・宝馬古墳群に所在），殿部田１号墳(8)（芝山町殿部田古墳群に所在），朝日の岡古墳(9)（松尾町蕪木古墳群に所在）などが知られている。また，古墳時代の集落跡(10)も，発掘調査などにより，内容が徐々に明らかになっている。奈良・平安時代の遺跡は，山田廃寺跡（芝山町）(11)，小金台廃寺跡（芝山町）(12)，小川廃寺跡（松尾町）(13)などの寺院跡が知られるところであったが，集落跡(14)も，近年の発掘調査により内容が明らかになりつつある。中近世の城跡は，文献や，土塁，空堀などから，古くより知られたものが多い。山中城跡（芝山町），田向（小池）城跡（芝山町），大台城跡（芝山町），小堤要害城（横芝町）(15)，坂田(城山)城跡（横芝町）(16)，山室城跡（松尾町），蕪木城跡（松尾町）などが所在している。(17)



第１図　周辺地形図（1/50,000）

第1表　遺跡一覧表

No.	遺跡名	時期等	No.	遺跡名	時期等
1	鯉ヶ窪遺跡	本書。	25	スノコ遺跡	和泉。
2	中台柿谷遺跡	本書。	26	新起遺跡	鬼高。
3	遠山天ノ作遺跡	本書。	27	松原遺跡	称名寺、安行。
	芝山町		28	新林遺跡	国分。
4	山田・宝馬古墳群（山田魔寺、小金台魔寺）	前方後円墳、円墳。（奈良・平安時代）	29	山中城跡	中世。
5	権現遺跡	鬼高、真間、国分。	30	折戸遺跡	加曽利B、和泉、真間。
6	大台西藤ヶ作遺跡	鬼高、国分。	31	殿部田古墳群	前方後円墳、円墳。
7	大台古墳	前方後円墳。	32	境遺跡	黒浜、阿玉台、加曽利E、称名寺、加曽利B、安行、姥山、前浦。
8	荒生遺跡	鬼高。	33	東風山横穴群	横穴。
9	大台城跡	中世。		横芝町	
10	宮門遺跡	鬼高。	34	芝山古墳群	前方後円墳、円墳。
11	田向（小池）城跡	中世。	35	中台貝塚	阿玉台、加曽利E、堀之内、称名寺。
12	小池麻生古墳群	前方後円墳、円墳。	36	中台遺跡	阿玉台、加曽利E、堀之内、称名寺。
13	猪ノ堤遺跡	鬼高。	37	角田遺跡（角田貝塚、鴻巣貝塚）	加曽利E、堀之内。
14	小池台・小池麻生遺跡	加曽利E、鬼高、真間、国分。	38	木戸台遺跡（木戸台貝塚）	阿玉台、加曽利E、堀之内。
15	小池上人塚古墳群	円墳。	39	牛熊貝塚	加曽利E、安行、姥山、千網。
16	宮郷台遺跡	和泉、鬼高、国分。	40	町原古墳群	前方後円墳、円墳、方墳。
17	丸辺遺跡	鬼高。	41	小堤要害城跡	中世。
18	下ノ内古墳群	円墳。	42	東長山野遺跡	縄文、国分。
19	御田台遺跡	和泉、鬼高。	43	寺方古墳群	古墳、和泉、鬼高。
20	井戸作遺跡	加曽利B、姥山。	44	坂田（城山）城跡	中世。
21	京寺遺跡	鬼高、真間。	45	姥山貝塚	阿玉台、加曽利E、堀之内、姥山。
22	三田古墳群	円墳。	46	桜前遺跡	縄文。
23	舟塚古墳群	前方後円墳、円墳。	47	長倉遺跡（長倉砦跡）	縄文（中世）
24	紅葉遺跡	鬼高。		松尾町	

No.	遺跡名	時期等	No.	遺跡名	時期等
48	山室城跡	中世。	60	蕪木貝塚	縄文。
49	大塚古墳群（大塚遺跡）	円墳。（土師）	61	蕪木古墳群	前方後円墳、円墳。
50	引越遺跡	包含地。	62	田越古墳群	古墳。
51	谷津遺跡	土師。	63	大堤古墳群	前方後円墳、円墳。
52	蕪木台古墳群	円墳。	64	田越遺跡	包含地。
53	蕪木城跡	中世。	65	金尾城跡	中世。
54	金尾古墳群（金尾遺跡）	前方後円墳、円墳。	66	大蔵城跡	中世。
55	金尾城跡	中世。	67	小川廃寺跡	平安。
56	蕪木遺跡	古墳。			
57	高砂城跡	中世。			
58	狐尾貝塚 狐尾古墳群	縄文（後期、晩期）。			
59	松尾台古墳群	前方後円墳、円墳。			

〔参考文献〕

『千葉県埋蔵文化財分布図』千葉県広報協会　昭和53年
『芝山町の遺跡』芝山町教育委員会　昭和57年
『横芝町史』横芝町史編纂委員会　昭和50年

地図は，国土地理院著作発行の５万分の１地形図（N1-54-19-10・昭和53年6月，N1-54-19-11・昭和52年11月）を使用した。

また，栗山川の沖積地からは，縄文時代の丸木舟が数多く出土し(18)，台地上だけでなく，低地にも注目すべきものが多い。

(注)

(1)『千葉県　地学のガイド』　コロナ社　昭和49年
(2) 昭和35・38・42年慶応義塾大学考古学研究室調査
(3) 昭和54年（財）千葉県文化財センター調査
(4) 昭和29年慶応義塾大学考古学研究室調査
(5) 滝口宏「千葉県芝山古墳群調査速報」『古代』第19・20号　早稲田大学考古学会　昭和31年
(6) 武部喜充他『山田・宝馬古墳群』　山武考古学研究所　昭和57年
(7) 昭和32年　芝山はにわ博物館調査
(8) 昭和47年芝山はにわ博物館調査
(9) 軽部慈恩「千葉県山武郡朝日ノ岡古墳」『日本考古学年報』5　昭和32年
(10) 平岡和夫他『宮門』　山武考古学研究会　昭和49年
柿沼修平，新井和之他『山武猪ノ堤遺跡』山武猪ノ堤遺跡調査団　昭和53年
萬崎博昭他『主要地方道成田松尾線Ⅰ』（財）千葉県文化財センター　昭和58年
岡田誠造『芝山町山田古墳群・山田出口遺跡』（財）千葉県文化財センター　昭和58年
(11) 神山　崇「山武郡芝山町金光寺について」『MUSEUMちば』2　千葉県博物館協会　昭和48年
(12) 同　上
(13) 平野元三郎，滝口　宏「上代仏教遺跡調査予報」『千葉県史跡名勝天然記念物調査』14輯　昭和12年
(14) 萬崎博昭他「主要地方道成田松尾線Ⅰ」（財）千葉県文化財センター　昭和58年
(15)『千葉県山武郡横芝町小堤要害城跡調査』　小堤要害城跡調査団　昭和52年
『小堤要害城跡調査』　小堤要害城跡調査団　昭和53年
(16) 沼沢　豊他「坂田（城山）城跡発掘調査報告」『千葉県中近世城跡研究調査報告書』第３集　（財）千葉県文化財センター　昭和58年
(17)『横芝町史』横芝町史編纂委員会　昭和50年
(18)『八日市場市史』上巻　八日市場市史編さん委員会　昭和57年

第２章　鯉ケ窪遺跡

第１項　調査の方法と概要

１．調査の方法

鯉ケ窪遺跡は，山武郡横芝町鯉ケ窪に所在する。発掘調査は，昭和53年10月23日から昭和54年３月31日にかけて実施された。調査対象地は，道路敷地内に限られたため，20m毎に設置されている道路の中心杭を基準にグリッドを設定した。中心杭№381と№391を結んだ直線を基準線として，杭の両側10mと杭間の20mを20×20mの大グリッドとした。大グリッドは調査区域の北端よりＡ１からＡ10とし東隣の大グリットにＢ，西隣の大グリッドにＺと付した。また，大グリッドの中を第３図グリッド分割図のように，北西から東へ00～09，北西から南へ60～90とし，99までの小グリッドを設定した。

また，調査区は，道路の直線部分にあたるため，各中心杭と各大グリッドの05小グリッド北西隅が応対もする。

発掘調査は，大グリッドの南北方向の中心線（道路中心線）と，その両側３m間隔に，２m幅のトレンチを設定して，ソフトローム層上面まで発掘し，遺物の検出を行った。

また，調査区中央部および北端部（台地中央部および北端部）に，マウンドが確認され，古墳と推定されたので，平板測量を行った。調査区中央部のマウンド（後に003号墳と呼称）には「コ」字状に溝が廻り，方形を呈していた。測量後，墳丘の中央を交点として，土層観察のためのセクションベルトを残し，封土の発掘および周溝の確認を行った。その結果，調査区北端部のマウンドは，周溝がなく，土層にも，人為的な盛土が観察されなかったので，古墳ではないことが確認された。調査区中央部のマウンドでは，土層に黒色土とロームブロックが互層状に観察された。また，円形に廻る周溝が検出されたので，円墳であることが確認された。

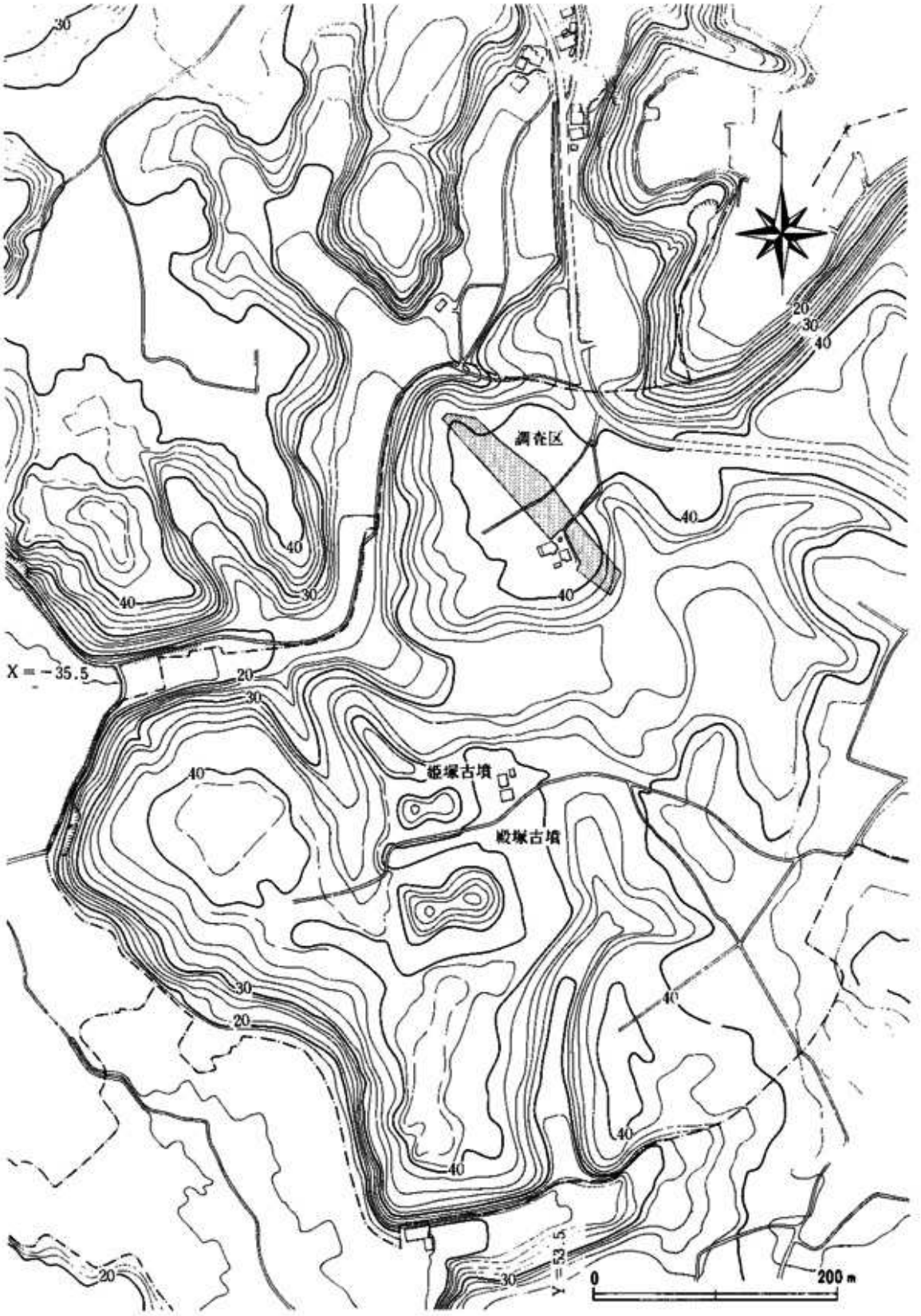
トレンチによる調査では，古墳周溝状の溝，土壙が検出されたので，トレンチを拡張し，検出遺構の平面形を確認した。また，上層遺構の確認の後，先土器時代の確認調査を行った。２m×２mのグリッドを設定し，武蔵野ローム層上面まで発掘し，遺構，遺物の検出を行った。

そして，これらの作業の後，航空写真の撮影を行った。

以上のようにして，本跡の性格を把握した後に，精査を行い，遺構，遺物の記録（実測，写真撮影など）を行った。実測は平板測量を基本とし，一部遣り方測量を併用した。写真撮影には４×５ inch，６×７cm，35mmの白黒および35mmカラースライドを使用した。

遺構はそれぞれに遺構番号を付し，各遺構出土の遺物に遺構番号を付した。また遺構外出土の遺物には，出土グリッドの番号を付して，遺物番号を付した。

整理作業においても，発掘で採用した遺構番号，遺物番号を使用したが，報告書編集にあた



第2図　遺跡周辺地形図（1/5,000）

遺跡周辺地形図

0　100 m

A1

00	01	02	03	04	05	06	07	08	09
10	11								
20		22							
30			33						
40				44					
50					55				
60						66			
70							77		
80								88	
90									99

20m

グリッド分割図

0　4 m

A6－38　42.00m

Ⅰ～Ⅱ
Ⅲ
Ⅵ～Ⅵ
Ⅶ
Ⅷ

土層断面図

0　1 m

第３図　遺跡地形図（1/2,000）・グリッド分割図(1/400)・土層断面図(1/80)

り，次のように遺構番号を変更している。

発掘・整理		報告書
001	……	該当なし
002	……	001号墳
003	……	003号墳
004	……	1号炭窯跡
005	……	2号炭窯跡
006	……	3号炭窯跡
007	……	4号炭窯跡
008	……	5号炭窯跡
009	……	6号炭窯跡
010	……	7号炭窯跡
011	……	8号炭窯跡
012	……	002号墳
013	……	9号炭窯跡

また，調査において使用した道路中心杭№389とA9－05，№390とA10－05が対応している。

2．土　層

舌状台地のほぼ中央部，A6－38グリッドの土層である。標高は42mである。

Ⅰ～Ⅱ層…耕作がⅢ層までおよび，Ⅱ層（黒色土）との境が不明瞭。

Ⅲ層　…立川ローム層。いわゆるソフトロームで黄褐色を呈する。

Ⅳ～Ⅵ層…立川ローム層。橙褐色を呈し，クラックが発達する。分層が困難である。

Ⅶ層　…立川ローム層。暗褐色を呈し，第2黒色帯に比定できる。

Ⅷ層　…立川ローム層。硬質茶褐色。立川最下層である。

3．調査の概要

本遺跡は，木戸川と高谷川にはさまれた標高30～40mの尾根状の台地が，木戸川の小支流によって開析された舌状台地上に位置する。北隣の同様の舌状台地先端部には，前方後円墳の小池大塚古墳が所在している。また，南隣の舌状台地上には，多数の形象埴輪を出土した。殿塚古墳，姫塚古墳が所在している。地形的には，木戸川の低地からは，やや奥まった台地上にあり，小池大塚の台地と殿塚，姫塚の台地に囲まれた形になる。また，この地域は，横芝町と芝山町との境界にあたり，木戸川と高谷川にはさまれた尾根状台地の幅が最も狭くなるところである。

調査の結果，本跡は古墳を主体とした遺跡と確認された。縄文土器が出土しているが，遺構はなく，集落跡としての可能性は少ない。また，弥生時代以降の住居跡は検出されなかった。003号墳の精査中に，墳丘下からチャートの剝片などが多数検出され，先土器時代の石器ブロックが確認された。

古墳は3基確認された。墳丘の遺存する古墳が1基（003号墳），周溝のみの遺存が2基（001・002号墳）である。主体部は，003号墳から横穴式石室が検出されている。他の2基では主体部が確認できなかった。しかし，道路敷の発掘調査のため，古墳の一部が調査区域外になり，調査が不可能であったので，未調査部分に主体部が遺存している可能性がある。

土壙はすべて炭窯跡と確認され，後世の遺構と考えられる。

調査区域は，台地をほぼ南北に縦断する形になり，台地全域の様相を把握するには不十分である。しかし，調査区域外にも，マウンド状の地形がみられ，遺跡の所在する舌状台地には，さらに数基の古墳が所在する可能性が大である。

第2項　遺構と遺物

本遺跡では，先土器時代ブロック1か所，古墳3基，炭窯跡9基が検出されている。以下，時代別に概要を述べる。

1．先土器時代（第4～14図，表2，図版13～16）

位置・層位・出土状況

3号墳の墳丘下に検出された石器群である。出土層位はIII～VI層で，とくにIV，V層に集中していると思われる。総点数は，109点である。ほとんどがチャートの剝片で，103点をかぞえる。他のは，玉髓のナイフ形石器，砂岩の磨石，珪質頁岩の剝片などである。また表面採集石器として，磨石，台石などがある。また，接合資料が3点みられる。

遺物

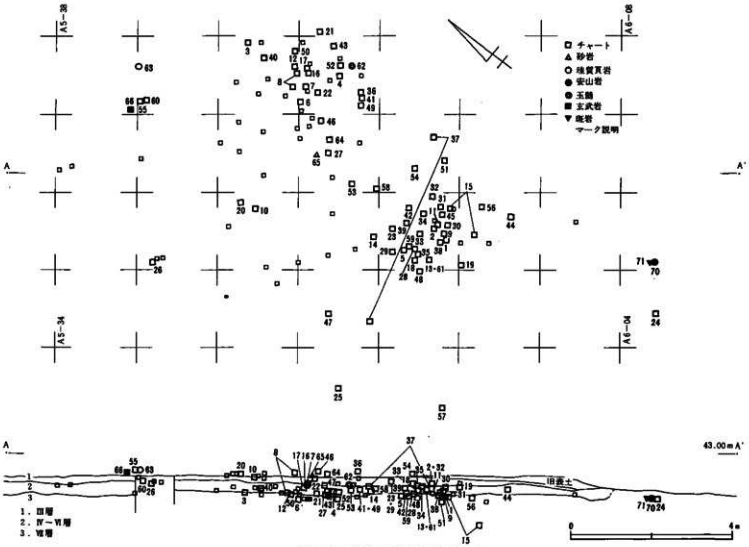
1～53はチャートの剝片である。1～14は，青灰色で，ヒビが多いチャートで，同一原石と考えられる。1，3，4，5，7は，複数の方向の剝離跡がみられる。2は片面に複数の剝離跡がある。6，8は一分に自然面を残し，8は接合資料である。9～14は，縦形剝片で，石刃状になる。とくに10，12～14は，片面に稜をもち，断面が扁平な三角形になる。

15～20は青灰色でヒビが多く，一部乳白色で，まだら状のものである。同一原石と考えられる。15・17・18は，ほぼ正方形の剝片である。片面に複数方向の剝離跡がみられる。16・19は縦長の剝片である。片面に稜をもち，断面が三角形を示す。20は，縦形剝片の折損と考えられる。片面の一側縁にやや細かい剝離がみられる。断面は扁平な台形を示す。

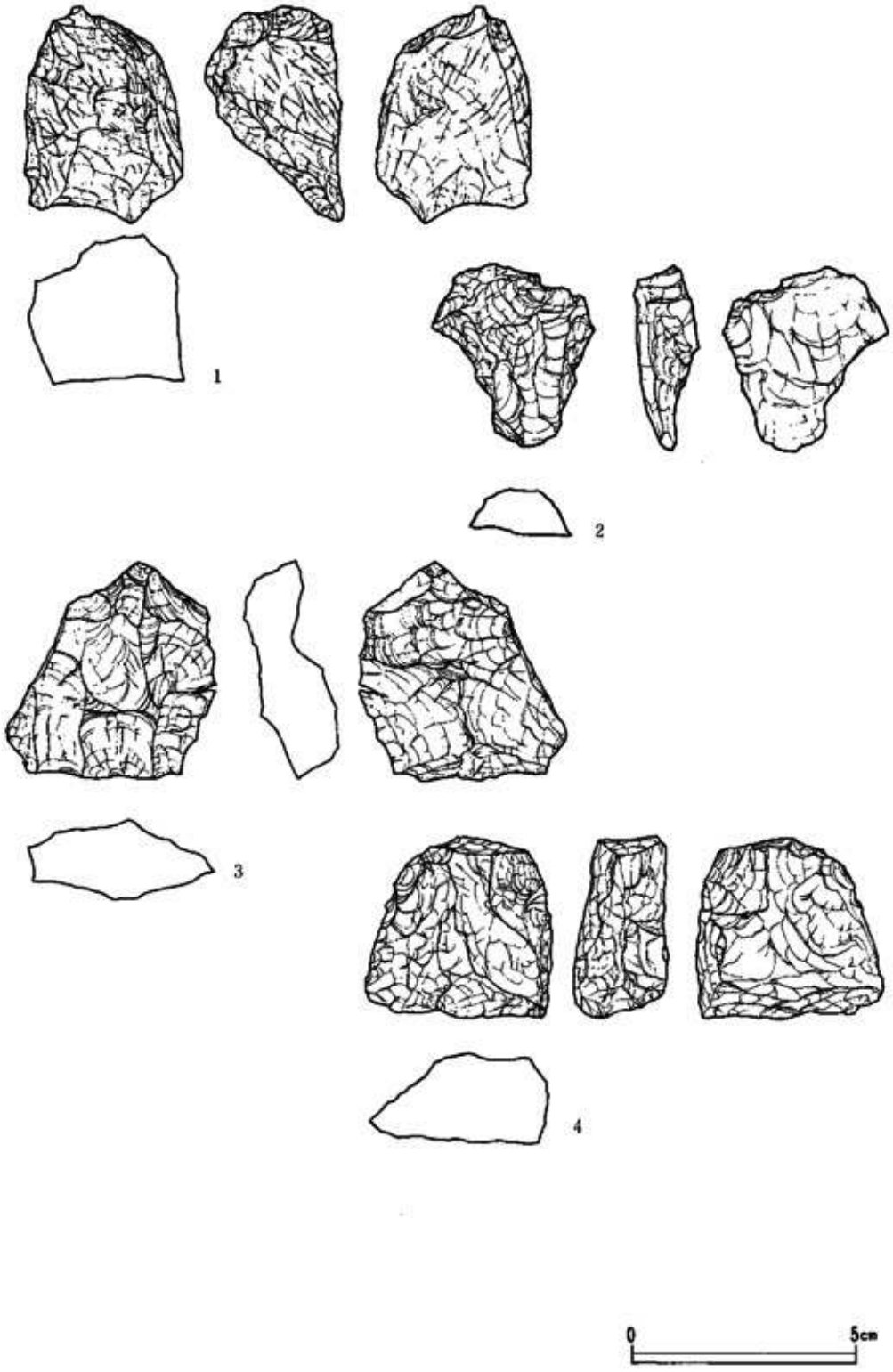
21～40は，青灰色で，一部が緑灰色を示し，全体にぬれたようなツヤがみられる。21は一部に自然面が残る。21・22・24・25は縦形剝片で片面に稜をもち，断面が扁平な三角形を示す。26は，縦形の剝片の一側縁にやや粗いが，調整剝離がみられるので，ナイフ形石器の可能性もある。27は，方柱状の剝片の片面片側に調整剝離がみられる。28～35は，正方形にちかい剝片である。28は端部に細かな剝離がみられる。29・33・35は，一部に自然面が残る。32はやや縦長の剝片である。片面に平行した複数の剝離がみられ，断面は扁平な台形状になる。

36～40は，横形の剝片である。36は片面に稜をもち，断面が三角形になる。37は接合剝片である。一部に自然面を残し，接合の状況から，自然面側から打撃が加えられていることがわかる。38，39も一部に自然面を残している。39は片面に複数方向の剝離がみられる。40は片面は自然面で，円形礫を打ち割った剝片である。

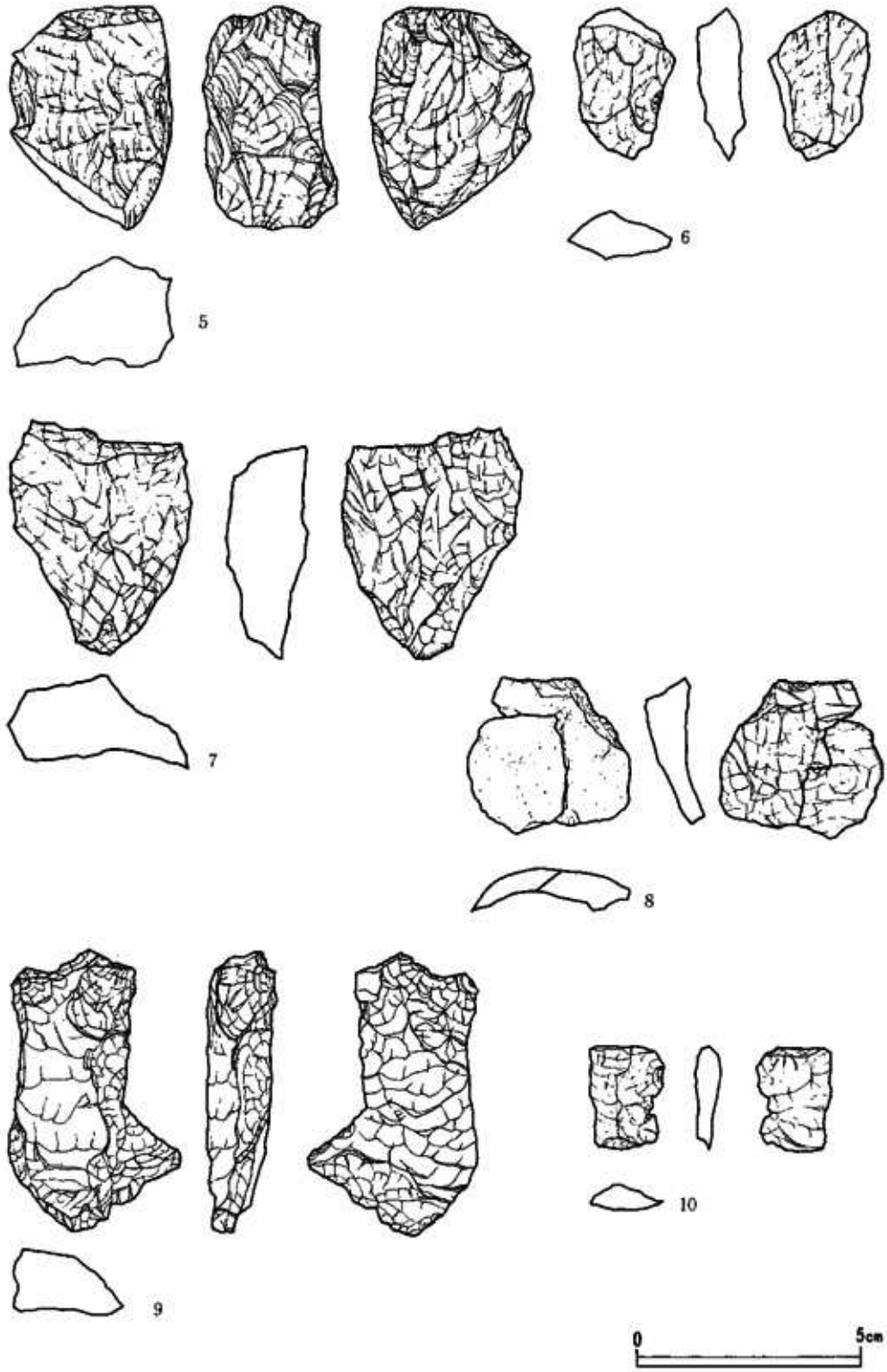
41～52は，青灰色，黒色，白色，茶色がまだら状になった色調で，ヒビがみられる。41は片面の縁辺部に調整剝離が施されている。片側は細かく，他の側はやや粗い調整である。42は縦形剝片の片面両側にやや粗いが，調整剝離がみられる。43～53は，縦形の剝片である。49は，



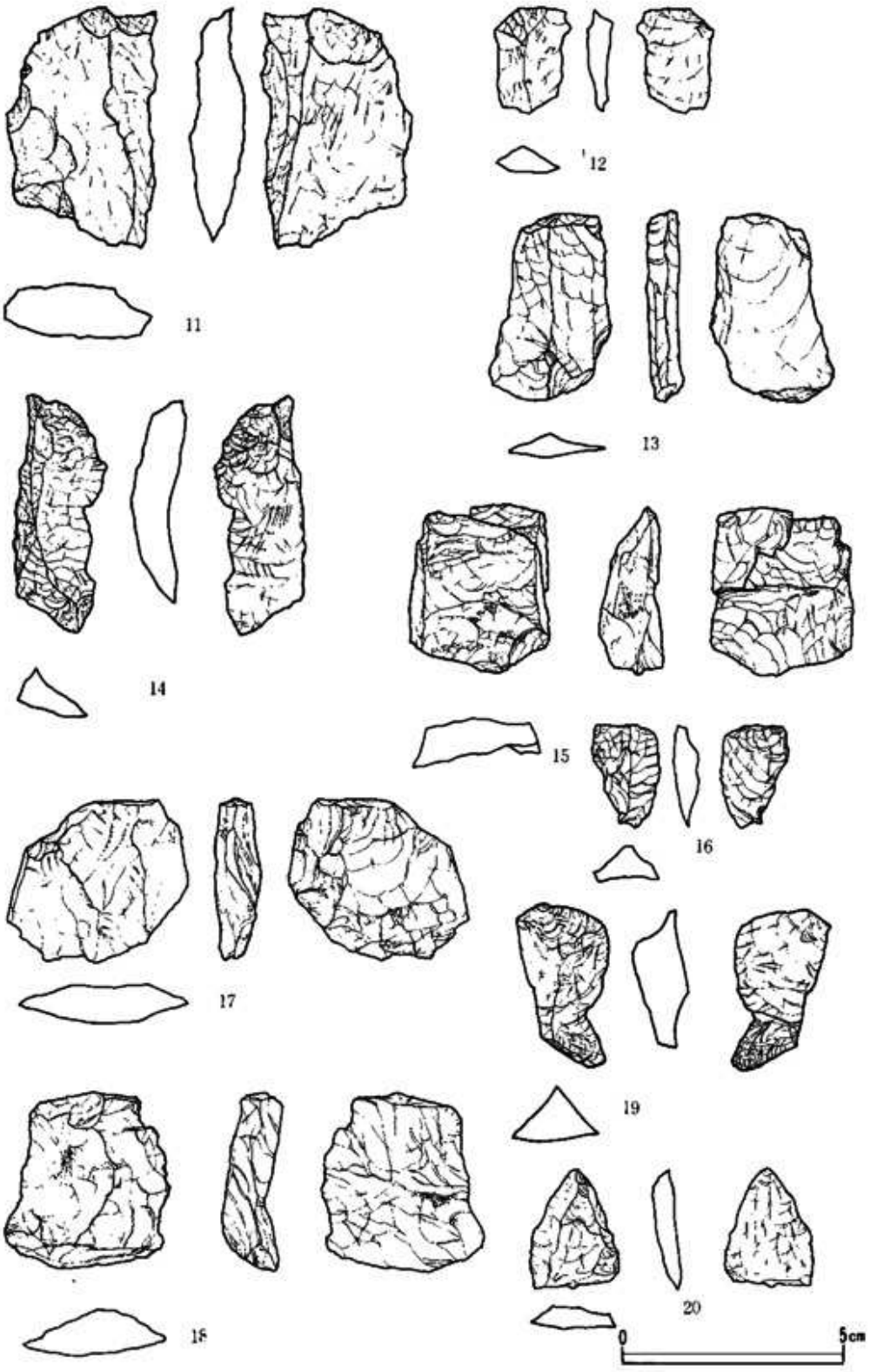
第4図　003号墳下石器出土状況図(1/80)



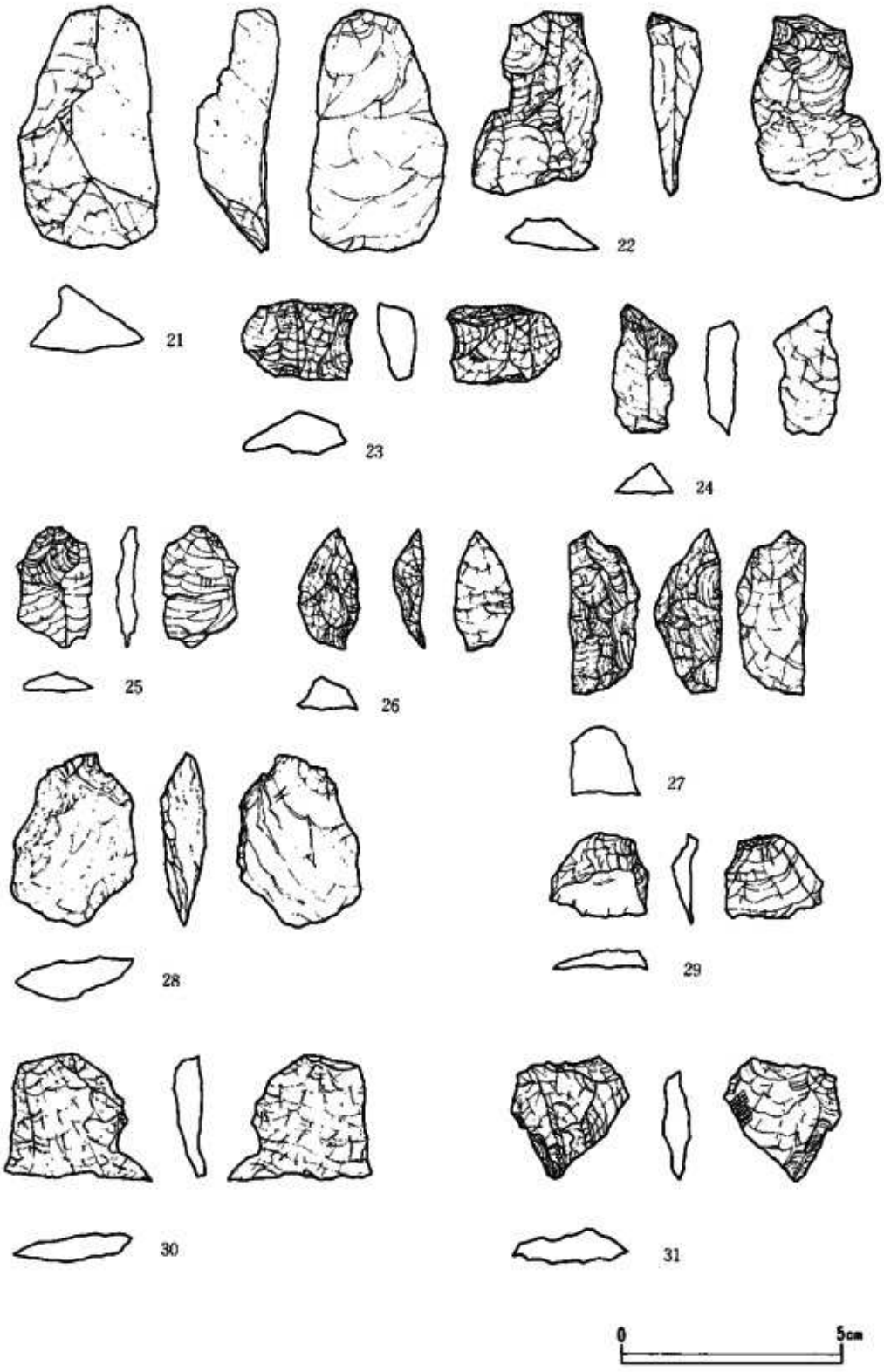
第５図　003号墳下出土石器実測図（１）(2/3)



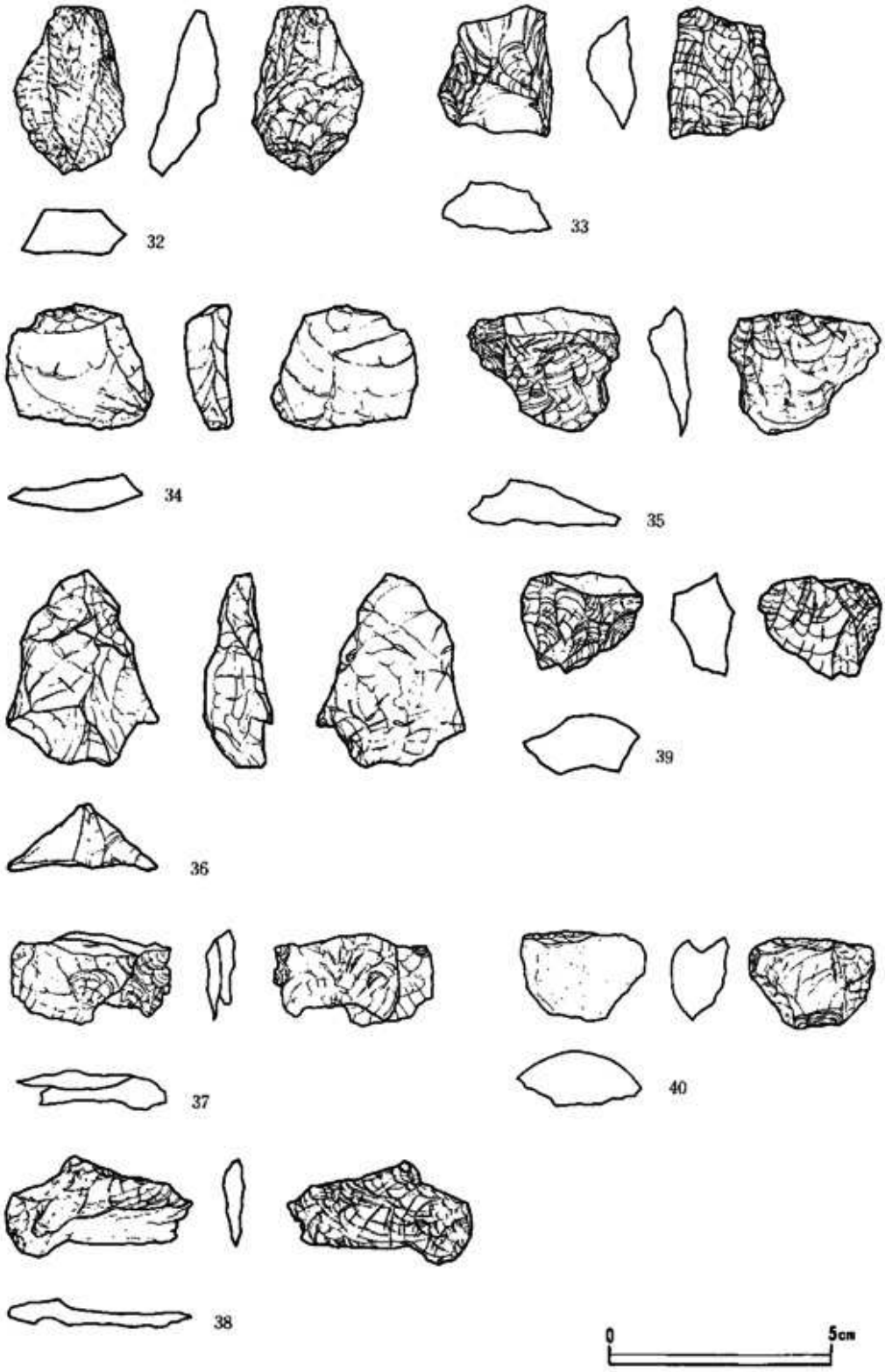
第6図　003号墳下出土石器実測図(2)(2/3)



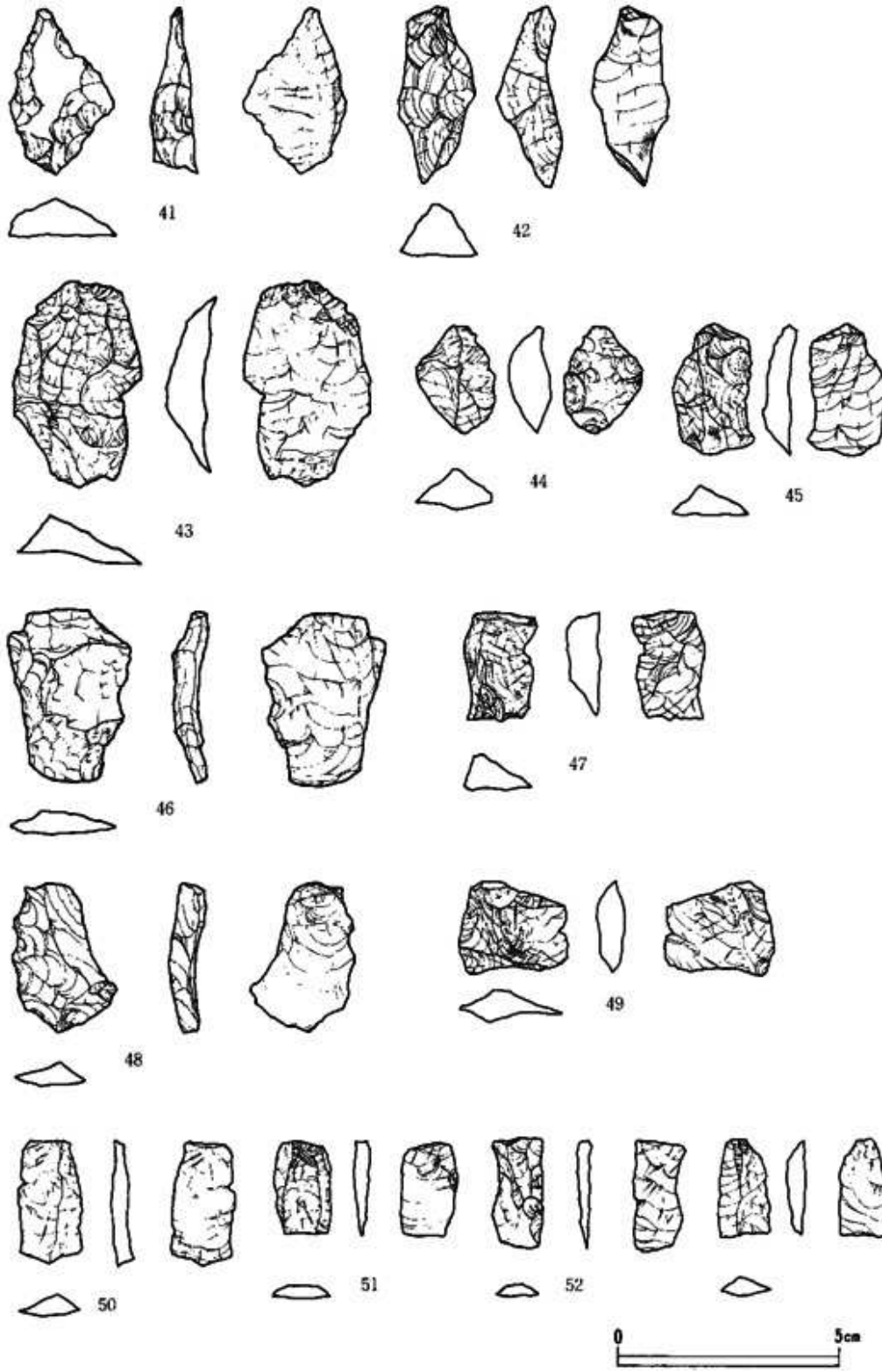
第７図　003号墳下出土石器実測図（３）(2/3)



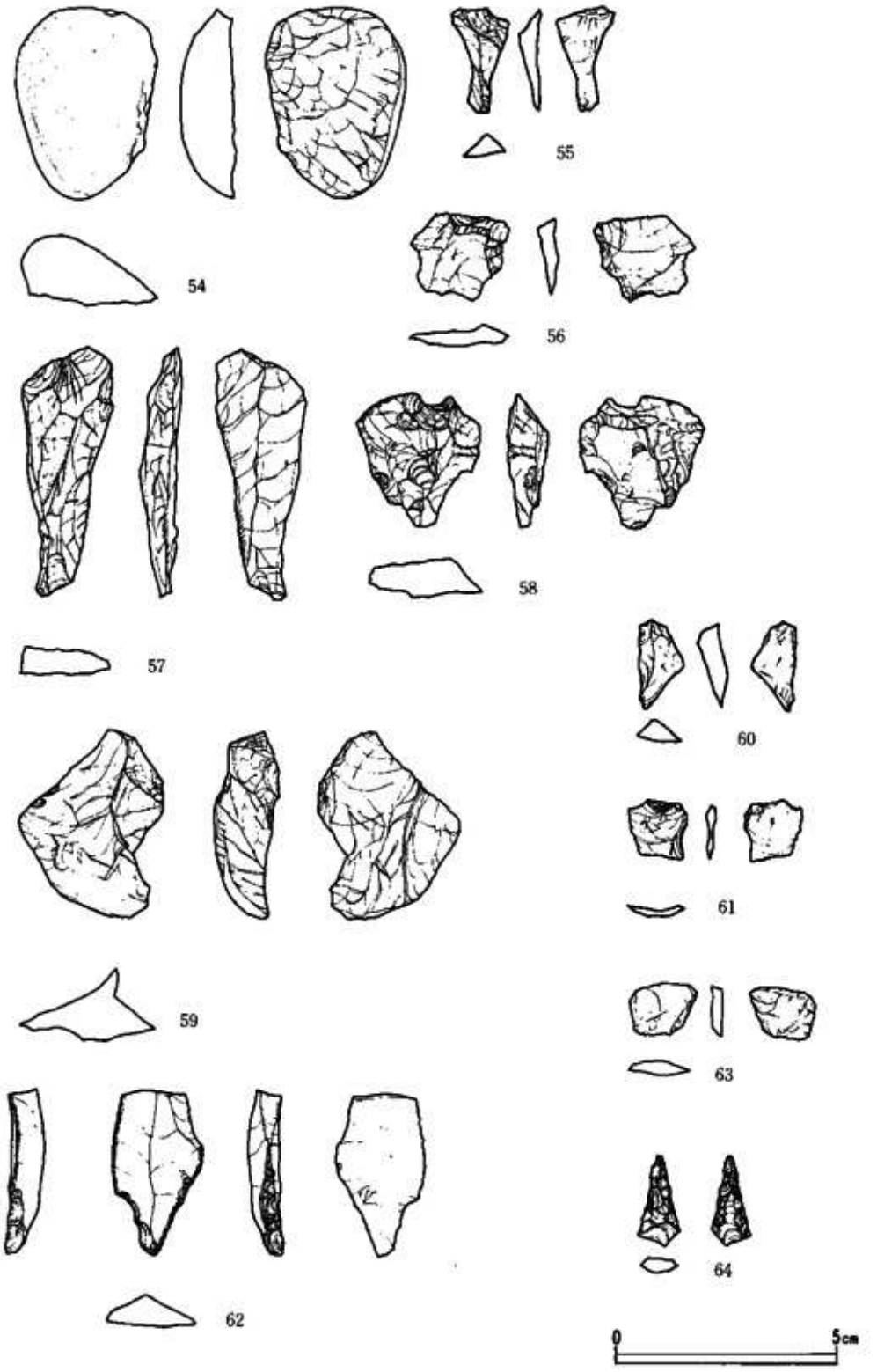
第８図　003号墳下出土石器実測図（４）(2/3)



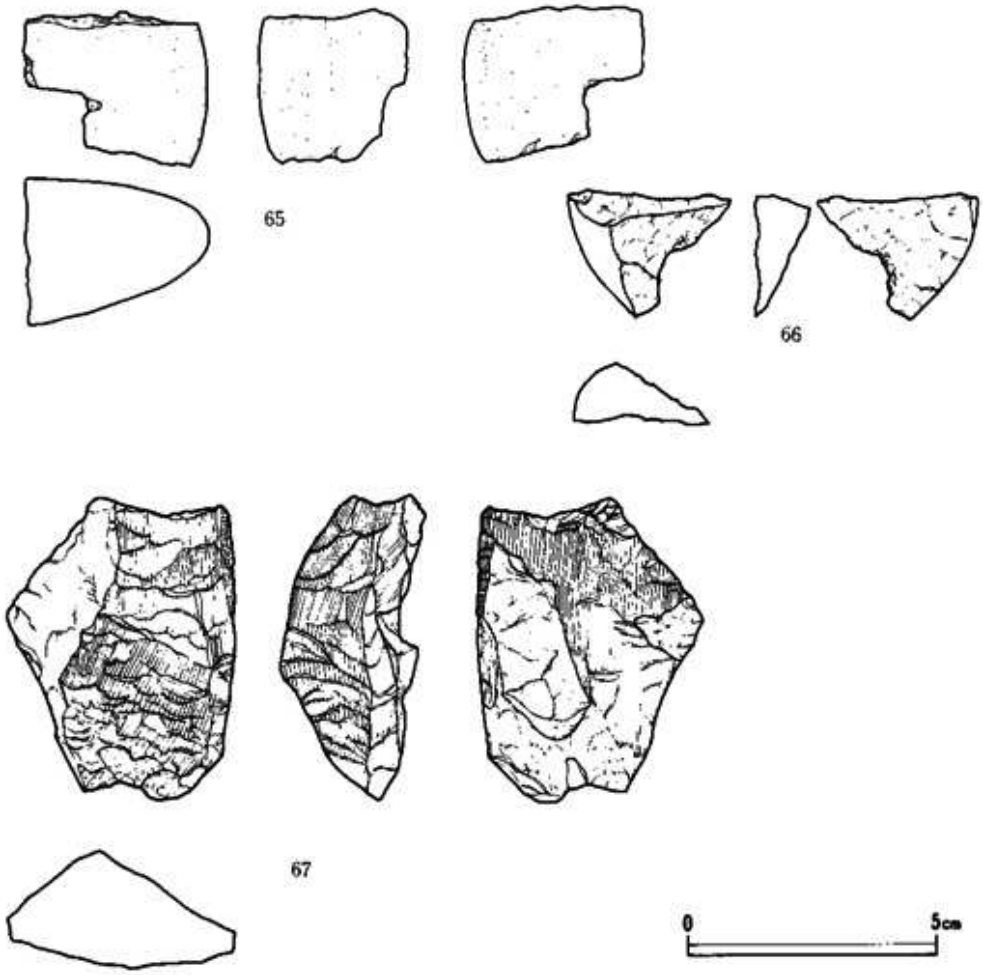
第９図　003号墳下出土石器実測図（５）(2/3)



第10図　003号墳下出土石器実測図（６）(2/3)



第11図　003号墳下出土石器実測図(7)(2/3)

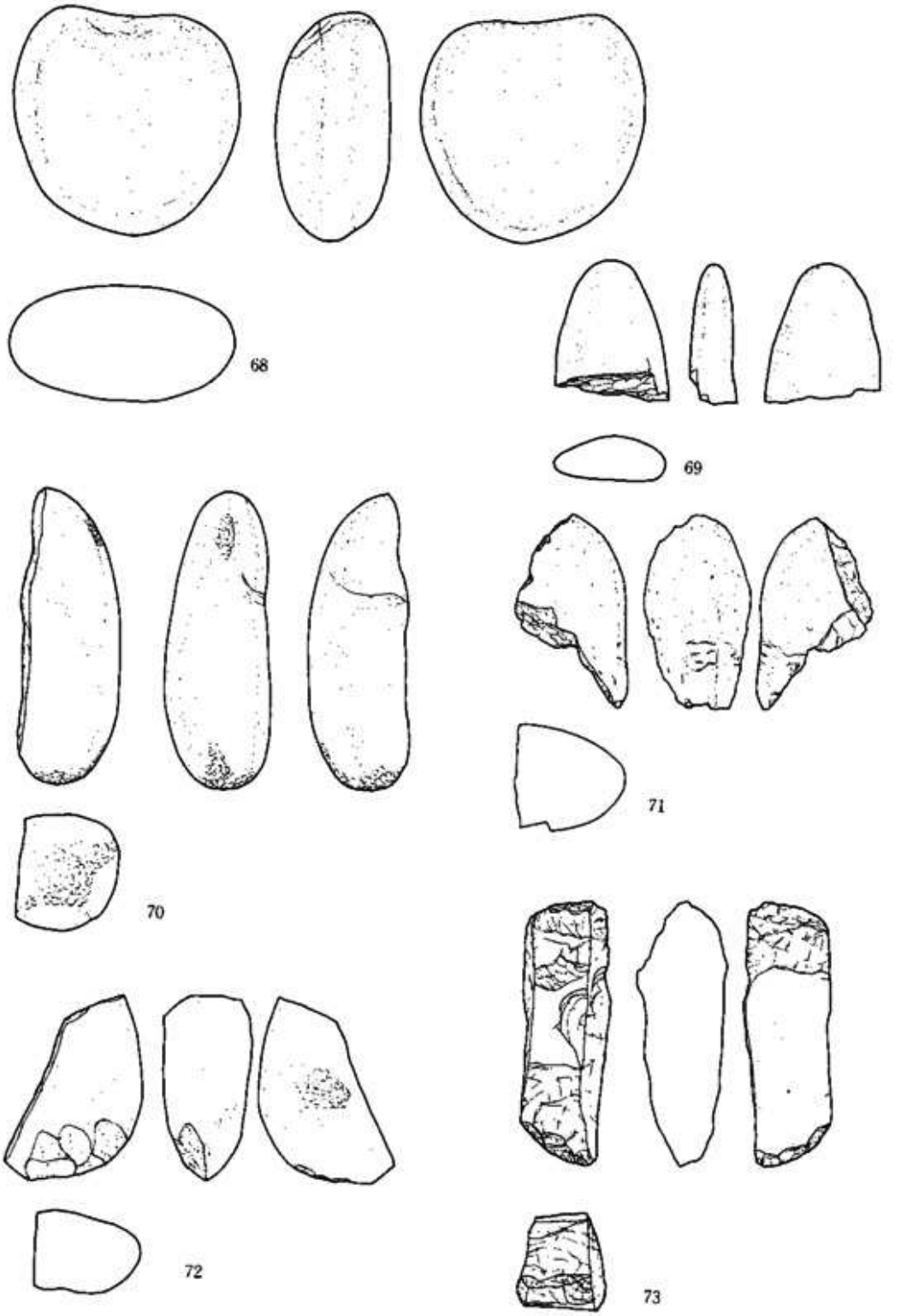


第12図　003号墳下出土石器実測図(8)(2/3)

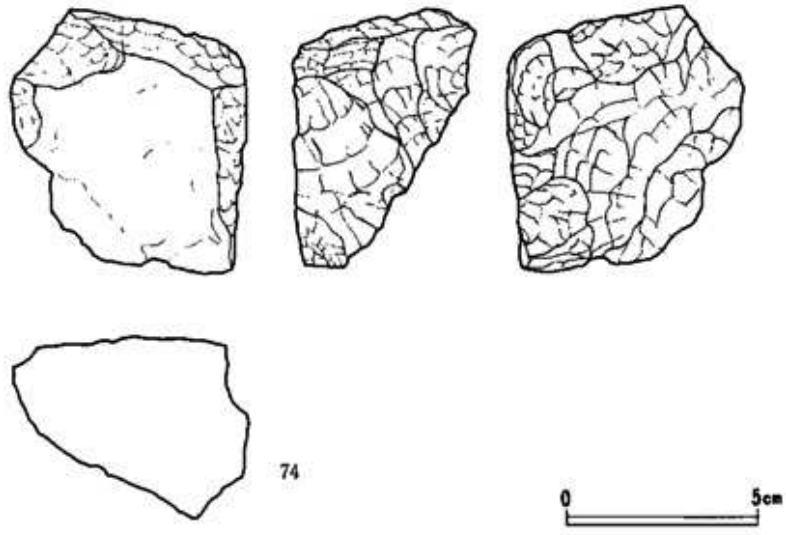
縦形剝片の切損である。片面に平行した2つの剝離跡がみられる。形はほぼ長方形で，断面は扁平な三角形である。石質から，同一原石と考えられる。

54～61はチャートの剝片である。1～53のチャートと比べて質的にかなり均質と思われ，ヒビもほとんどない。色調は青黒色である。54は円形礫を半割したもので，打撃は一方向から加えられている。55～61は，縦形の剝離を主体とした剝片である。57は縦形剝片である。両面に複数の剝離跡が平行しはしっている。55・56・60・61は小剝片であるが，縦形剝片を意図したものと考えられる。58，59も同様である。

62はナイフ形石器である。石質は玉髄である。刃部を切損しているが，遺存部にはかなり細かく，ていねいな調整剝離がみられる。片面に稜をもち，断面は扁平な三角形を示す。他に玉髄の石器はなく，単独の出土と考えられる。43は珪質頁岩である。珪質頁岩は1点のみである。



第13図　003号墳下出土石器実測図(９)(1/2)



第14図　003号墳下出土石器実測図(10)(1/2)

64～74は縄文時代の石器と考えられる。64は石鏃の鏃身である。石質はチャート質で両面に細かな調整が施されている。65は磨石である。砂岩質で，側縁部に磨耗痕がみられる。円盤状河原石を利用したと考えられる。66は玄武岩の剝片である。一部に自然面が残り，円形礫を利用したと考えられる。67は蛇紋岩の剝片である。緑色で，線状の細かな模様がみられ，光沢がある。また，黒色で緻密な岩質を包含している。

68は扁平な円形礫を利用した磨石である。縁辺部全体が磨耗している。岩質は砂岩である。69は扁平な楕円形礫を利用した磨石である。全体になめらかで，縁辺部がとく磨耗している。石質は粘板岩質である。70は叩石である。方柱状の礫を利用している。先端部に叩き跡がみられる。全体に磨耗している。石質は砂岩である。71は磨石の破片である。やや扁平な楕円形の礫を利用している縁辺部がとくに磨耗している。岩質は斑岩である。72は敲石である。先端部が打撃のため剝離している。また，側面にも敲き跡がみられる。石質は玢岩質で，やや扁平な円形礫を利用している。

73は安山岩である。両面に磨耗の跡がみられ，磨石と考えられるが，剝離が，やや細かく，石斧とも考えられる。74は石灰岩質の大形剝片である。用途は不明であるが，敲石か台石に使用されたと考えられる。

表2　003号墳下出土石器表

挿図番号	器種	計測値 (cm)			重量(g)	色調	石質	備考
		長	幅	厚				
1	剥片	4.8	3.6	4.0	57g	青灰色	チャート	
2	剥片	4.0	3.6	1.0	16.2g	青灰色	チャート	
3	剥片	4.7	4.7	1.7	32.5g	青灰色	チャート	
4	剥片	4.0	4.2	2.0	42g	青灰色	チャート	
5	剥片	4.9	3.6	2.4	64g	青灰色	チャート	
6	剥片	3.3	2.3	1.1	9g	青灰色	チャート	
7	剥片	5.1	4.0	1.7	35g	青灰色	チャート	
8	剥片	3.4	3.7	0.6	12g	青灰色	チャート	接合資料
9	剥片	6.1	3.8	1.4	26g	青灰色	チャート	
10	剥片	2.2	1.7	0.5	2.1g	青灰色	チャート	
11	剥片	5.5	3.4	1.2	21g	青灰色	チャート	
12	剥片	2.3	1.7	0.5	1.7g	青灰色	チャート	
13	剥片	4.1	2.7	0.5	6.9g	青灰色	チャート	
14	剥片	5.3	2.1	0.8	8.6g	青灰色	チャート	
15	剥片	3.7	3.2	0.6	16g	青灰色 一部乳白色	チャート	
16	剥片	2.3	1.5	0.7	1.9g	青灰色 一部乳白色	チャート	
17	剥片	3.1	4.1	0.8	13.7g	青灰色 一部乳白色	チャート	
18	剥片	3.4	3.8	1.0	14.8g	青灰色 一部乳白色	チャート	
19	剥片	3.6	2.1	1.2	5.8g	青灰色 一部乳白色	チャート	
20	剥片	2.7	2.0	0.4	2.8g	青灰色 一部乳白色	チャート	
21	剥片	5.5	3.2	1.4	20.7g	青灰色 一部緑灰色	チャート	

挿図番号	器種	計測値 (cm)			重量(g)	色調	石質	備考
		長	幅	厚				
22	剥片	4.1	2.8	0.7	8.4g	青灰色 一部緑灰色	チャート	
23	剥片	1.8	2.6	0.9	4.2g	青灰色 一部緑灰色	チャート	
24	剥片	2.8	1.4	0.6	2.6g	青灰色 一部緑灰色	チャート	
25	剥片	2.6	1.7	0.4	2g	青灰色 一部緑灰色	チャート	
26	剥片	2.7	1.3	0.7	1.8g	青灰色 一部緑灰色	チャート	
27	剥片	3.6	1.5	1.5	9.1g	青灰色 一部緑灰色	チャート	
28	剥片	3.8	2.9	0.9	8.1g	青灰色 一部緑灰色	チャート	
29	剥片	1.8	2.2	0.4	1.8g	青灰色 一部緑灰色	チャート	
30	剥片	2.8	3.3	0.6	5.9g	青灰色 一部緑灰色	チャート	
31	剥片	2.7	2.7	0.7	4.1g	青灰色 一部緑灰色	チャート	
32	剥片	3.8	2.5	1.0	10g	青灰色 一部緑灰色	チャート	
33	剥片	3.0	2.6	1.0	7.4g	青灰色 一部緑灰色	チャート	
34	剥片	2.7	3.2	0.7	7.7g	青灰色 一部緑灰色	チャート	
35	剥片	2.8	3.5	0.9	6.3g	青灰色 一部緑灰色	チャート	
36	剥片	4.3	3.4	1.4	11.6g	青灰色 一部緑灰色	チャート	
37	剥片	2.0	3.6	0.7	3.3g	青灰色 一部緑灰色	チャート	
38	剥片	2.4	4.2	0.4	4g	青灰色 一部緑灰色	チャート	
39	剥片	2.2	2.7	1.3	8g	青灰色 一部緑灰色	チャート	
40	剥片	2.0	2.8	1.2	7g	青灰色 一部緑灰色	チャート	
41	剥片	3.8	2.4	0.9	4.8g	青灰色、黒色 白色、茶色	チャート	
42	剥片	4.1	1.7	1.1	5.9g	青灰色、黒色 白色、茶色	チャート	

挿図番号	器種	計測値 (cm) 長	幅	厚	重量(g)	色調	石質	備考
43	剥片	4.6	3.0	0.8	1.1g	青灰色、黒色 白色、茶色	チャート	
44	剥片	2.3	1.8	0.9	2.2g	青灰色、黒色 白色、茶色	チャート	
45	剥片	2.9	1.8	0.6	2.6g	青灰色、黒色 白色、茶色	チャート	
46	剥片	3.8	2.8	0.5	5.4g	青灰色、黒色 白色、茶色	チャート	
47	剥片	2.4	1.6	0.8	2.7g	青灰色、黒色 白色、茶色	チャート	
48	剥片	3.3	2.4	0.5	3.5g	青灰色、黒色 白色、茶色	チャート	
49	剥片	2.0	2.5	0.7	2.9g	青灰色、黒色 白色、茶色	チャート	
50	剥片	2.7	1.4	0.5	1.8g	青灰色、黒色 白色、茶色	チャート	
51	剥片	2.1	1.3	0.4	1.1g	青灰色、黒色 白色、茶色	チャート	
52	剥片	2.4	1.2	0.3	1g	青灰色、黒色 白色、茶色	チャート	
53	剥片	2.1	1.2	0.4	0.9g	青灰色、黒色 白色、茶色	チャート	
54	剥片	4.3	3.2	1.5	20g	青黒色	チャート	
55	剥片	2.3	1.3	0.4	0.7g	青黒色	チャート	
56	剥片	2.0	2.3	0.3	1.8g	青黒色	チャート	
57	剥片	5.5	2.0	0.6	8g	青黒色	チャート	
58	剥片	2.9	2.8	0.8	7g	青黒色	チャート	
59	剥片	4.1	3.2	1.4	16g	青黒色	チャート	
60	剥片	2.9	1.0	0.5	7g	青黒色	チャート	
61	剥片	1.2	1.4	0.2	0.3g	青黒色	チャート	
62	ナイフ形石器	3.6	2.0	0.7	4.7g	明褐色	玉髓	½遺存
63	剥片	1.1	1.5	0.3	0.7g	緑灰色	珪質頁岩	

挿図番号	器種	計測値 (cm) 長	幅	厚	重量(g)	色調	石質	備考
64	石鏃	1.6	0.8	0.3	0.5g	青灰色	チャート	½遺存
65	磨石	3.2	3.7	2.9	57g	淡褐色	砂岩	残欠
66	剥片	2.6	3.2	1.0	6g	灰黒色	玄武岩	
67	剥片	5.9	4.5	2.3	60g	緑色	蛇紋岩	
68	磨石	7.0	6.9	3.5	250g	褐色	玢岩	完形
69	磨石	4.1	3.5	1.3	27g	暗青灰色	粘板岩	½遺存
70	敲石	8.8	3.2	3.6	131g	暗青灰色	砂岩	¾遺存
71	磨石	5.8	3.4	3.2	58g	灰褐色	斑岩	½遺存
72	敲石	5.5	4.1	2.7	63g	褐色	流紋岩	½遺存
73	磨石	7.8	2.7	2.8	88g	青灰色	安山岩	
74	台石	7.0	6.2	4.6	206g	灰白色	石灰岩質	

２．縄文時代

本遺跡出土の縄文土器は，その多くが古墳の盛土中から出土したものである。古墳下からは関連する遺構は検出されず，また他の地区からも全くこの時期の遺構は検出されなかった。出土した量は多く，かつ時間的にも幅のある状況である。以下，文様によって分類し，説明を加える。

第１群土器（第15図１～４　図版17）

早期末に比定される条痕文系土器を一括した。胎土に植物繊維を含み，器面の表，裏ともに貝殻腹縁による条痕文が施される。１は口縁部で口唇端に刻みが加えられる。条痕は横および斜めの方向である。全体に色調がくすんだ褐色を呈する。

第２群土器（第15図５～30　図版17）

Ⅰ類　本類は胎土に植物繊維を含む土器で黒浜式に比定される（５～16）。ａ～ｃに細分される。

Ⅰ－ａ類（５～９）。

半截竹管の施された土器である。５は口縁部で縦から斜方向に条線様の文様が施されている。６～８も同様の施文方法をとっている。９は櫛歯状の整った施文がされている。

Ⅰ－ｂ類（10・11・12・14）。

縄文を地文とする土器である。10，11はやや内傾する口縁部で，原体Ｌの縄文を施文している。12はわずかに外反する口縁部で，原体ＲＬの縄文である。14は口唇部が平らに切ったようになっているのが特徴的である。

Ⅰ－ｃ類（13・15・16）。

本類は縄文を地文として半截竹管の施された土器である。13は横方向の竹管による押引文とＬＲの羽状縄文が施される。15・16は，縄文を地文として行沈線がわずかに認められる。

Ⅱ類　浮島式，興津式に比定される土器を一括した。

Ⅱ－ａ類　波状貝殻文の施されるもの（19～21）。

19・21は間隔の開いた施文方法をとる土器で浮島Ⅱ式である。20は密集して波状貝殻文を施文している。焼成が良く，緻密な土器である。興津式。

Ⅱ－ｂ類　変形爪形文を有するもの（26～30）。

26は口縁が外反して口唇部に刻みをもち，連続する爪形文との間に深い刻みが施されている。色調は黒褐色を呈する。27も同様の特徴を有する。浮島Ⅲ式。28～30は，わずかに外反する平縁の口縁部で，口唇部には刻みももたない土器である。爪形文との間の刻みは深く，21よりも間隔が広く，斜めに施されている。浮島Ⅱ式。

Ⅱ－ｃ類　三角文の施されるもの（22～25）。22～25は，口縁がわずかに外反して口唇部刻目を有し，連続する三角文が施される土器である。いずれも褐色を呈し，器面はもろい。浮島Ⅲ式

に比定される。

第3群土器（第15図32～36，図版17）

中期に属する土器を一括した。

Ⅰ類　中期初頭に位置づけられるもの（32）。

32は，わずかに外反する口縁部で，口唇部に刻目を有し，縄文を地文として，S字状結節文が横方向に施される。下小野式であろう。

Ⅱ類　阿玉台式に比定されるもの（33・34）。

33は，胎土に雲母粒を含みX字状の隆線の上部に，角押文が施されている。34は，幅のせまい工具による押引文が横方向に施されている。わずかながら胎土に雲母粒が混入している。相方とも，器面が荒れてもろくなっている。

Ⅲ類　加曽利E式に比定されるもの（35・36）。

35は屈折した胴部破片である。くびれ部の太い横方向の沈線の下に，列点文と縦方向に平行する沈線が施される。36に列点文はないが，横方向の沈線と縦に平行する沈線を有する。いずれも横方向の沈線から上は，無文でよく研磨されている。色調は明褐色を呈する。

第4群土器（第15～17図37～73，図版17～19）

後期の土器を一括する。

Ⅰ類　堀之内式土器（37・38・39）。

37・38は縄文を地文として，平行沈線で文様が構成されている。37は直線と曲線，38は蛇行する文様が認められる。縄文の原体はLRである。39はやや内傾する平縁の口縁部である。口唇部の無文帯の下に沈線を一条施し，胴部はRLの縄文を施文する。

Ⅱ類　加曽利B式に比定される土器（40～50・56～64・69）

Ⅱ－a類　40，41は磨耗縄文を特徴として沈線によって縄文帯が区画されている土器である。加曽利Ⅰ式。

Ⅱ－b類　同じく磨耗縄文を特徴とするが，沈線が平行あるいは弧条に入り，棒状工具により連続する刺突文が縄文帯にそって施される土器である。（45・61～63）

45は口縁部が肥厚して若干内傾する。63は小さい瘤条突起が認められる。加曽利BⅢ式であろう。

Ⅱ－c類　沈線あるいは条線文を主体とする土器，57・59・60がある。50は肥厚した口縁部で蛇行して垂下する沈線がみられる。57は格子条に，59は綾杉状に条線を施す。いずれも加曽利BⅡ式であろう。

Ⅱ－d類　いわゆる粗製土器と呼ばれる土器である。押捺のある紐線を貼付している。40・44・46・48・49がある。縄文を地文とするものと，条線が施されるものがあり，口縁内側に沈線が入っている。

第15図　縄文土器拓影図（１）(1/3)

Ⅱ－ｅ類　縄文を地文として条線が施されている。58・64がある。

Ⅱ－ｆ類　縄文のみが施される。土器43・47・69がある。原体は全てＲＬである。

Ⅱ－ｇ類　無文の土器である。56は浅鉢形土器の大きく直線的に広がる口縁部である。上端で小さくくびれて，稜を有する。器面は無文で丁寧にナデ整形される。加曽利ＢⅡ式であろう。

Ⅲ類　安行Ⅰ式に比定される土器（51・52・54・65～68・73）

Ⅲ－ａ類　肥厚した口縁と縄文帯を特徴とする深鉢形土器（51,54,73）

51は，平縁の口縁部で縄文帯上に縦長のこぶ条突起を有する。54は，わずかに波状となる口縁部で２段の縄文帯が認められる。73は，平縁の口縁の深鉢で４段の帯縄文に下に，斜めの条線が施文される。縄文帯にまたがって２単位のこぶ条突起を有する。縄文帯の原体は全てＲＬである。

Ⅲ－ｂ類　押捺のある紐線を貼付した土器である。（52・65～68）

浅い条線文を施文した52は，口縁内側が肥厚している。65・66は，胴部に紐線を有する。67・68も条線の特徴から本類とした。

第５群土器（第16・17図，図版18・19）

晩期の土器を一括した。

Ⅰ類　53はわずかに内傾する口縁をもつ深鉢で，窓枠状の沈線で縄文部と無文部を区画している。縄文はＬＲである。

Ⅱ類　条線文を主体とする土器（70～72）。

70は内傾する平縁の口縁部で，上部に横方向下部に斜方向の条線を施す土器である。71と同一固体である。72は胴部破片で，斜方向の条線文の上端に横方向の沈線が施される。また部分的に縄文が認められる。以上５群は，姥山Ⅱ式に比定される。

土器底部（第17図　74～76，図版19）

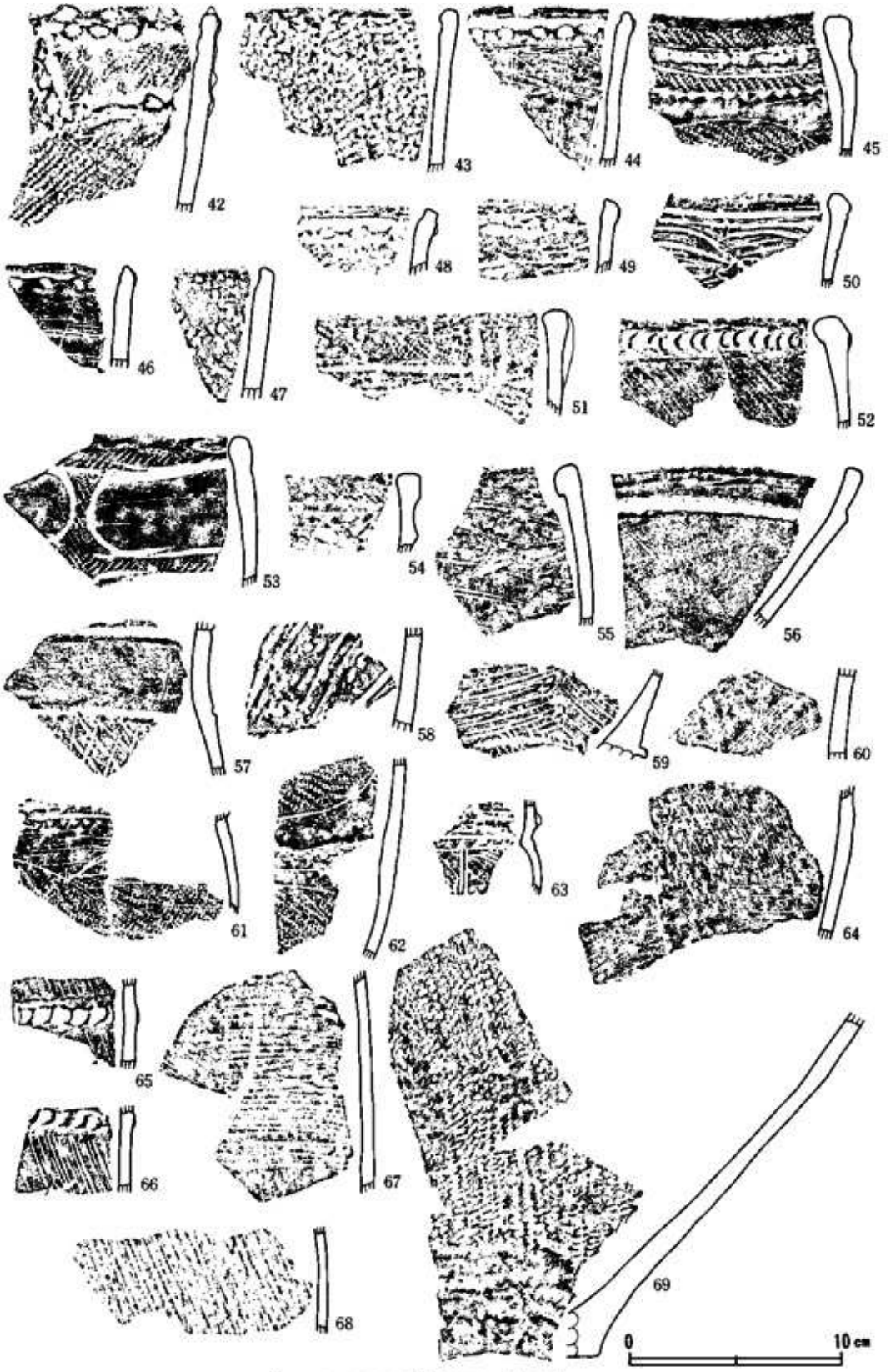
74は底縁が突出し，木葉痕が認められる。75はわずかにＲＬの縄文が施文されている。

土製品（第17図　77，図版19）

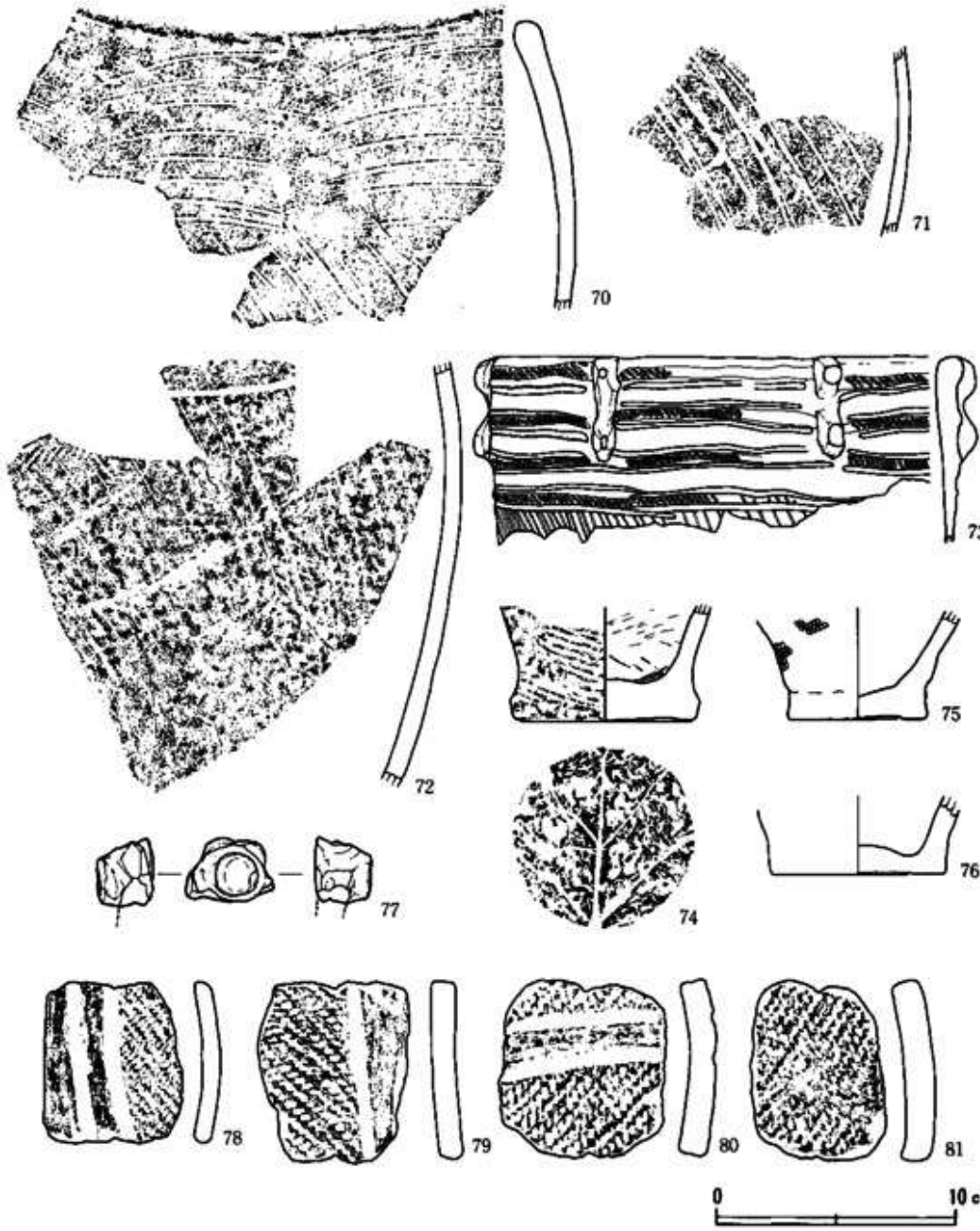
土偶の一部である。一端が突出しており，突出部上面は平坦である。胎土に砂粒をわずかに含み，明褐色を呈する。

土器片錘（第17図　78～81，図版19）

４点が出土している。いずれも周縁をよく研磨しており，糸掛けも明瞭に残っている。78は口縁部，他は胴部を利用している。４点とも加曽利Ｅ式土器である。



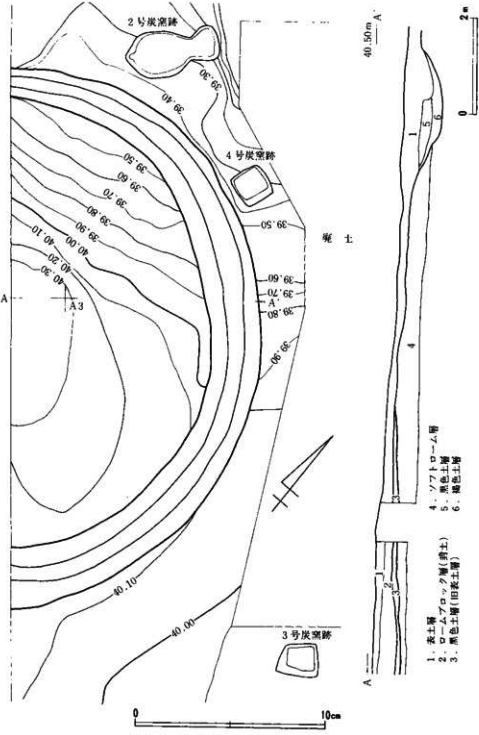
第16図　縄文土器拓影図(2)(1/3)



第17図　縄文土器拓影・実測図(3)・土製品実測図(1/3)

3．古墳時代

古墳時代のものとしては古墳が3基ある。すべて円墳で，北から001号墳，003号墳，002号墳とした。



第18図　001号墳実測図（1/200・1/80）

001号墳（第18・19図　表3　図版2）

位置と現況

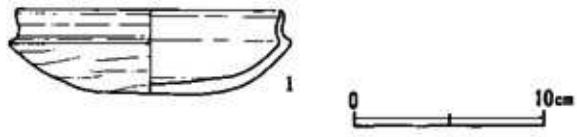
調査区の北部に位置し，台地端まで約80mである。調査区域が道路幅に限られるので，全体の½程しか調査が行えなかった。耕作などで完全に削平され，表土を除去した段階で，周溝が検出され，古墳と確認された。

規模

ほぼ円形と思われ，周溝を含めた直径は28mである。周溝は，幅1.6～2.6mで，深さは，ソフトローム面から0.6～0.7mである。円形に全周すると考えられ，南側ほど幅が広くなっている。断面は幅広のU字形を示す。主体部は検出されなかったが，調査区外の南西部分に存在する可能性れある。

遺物

遺物の出土はほとんどなく，周溝内から少量の土器片が出土している。埴輪は出土していない。図示できるものは1点だけであった。1は土師器の坏である。丸底で底部と体部との区別はなく，扁平な半球形の体部から口縁部がやや外傾して立ち上がる。口唇はわずかに内弯し，やや尖り気味である。体部にはヘラケズリの後にナデが施され，口縁部には内側両面にヨコナデが施される。



第19図　001号墳出土遺物実測図（1/4）

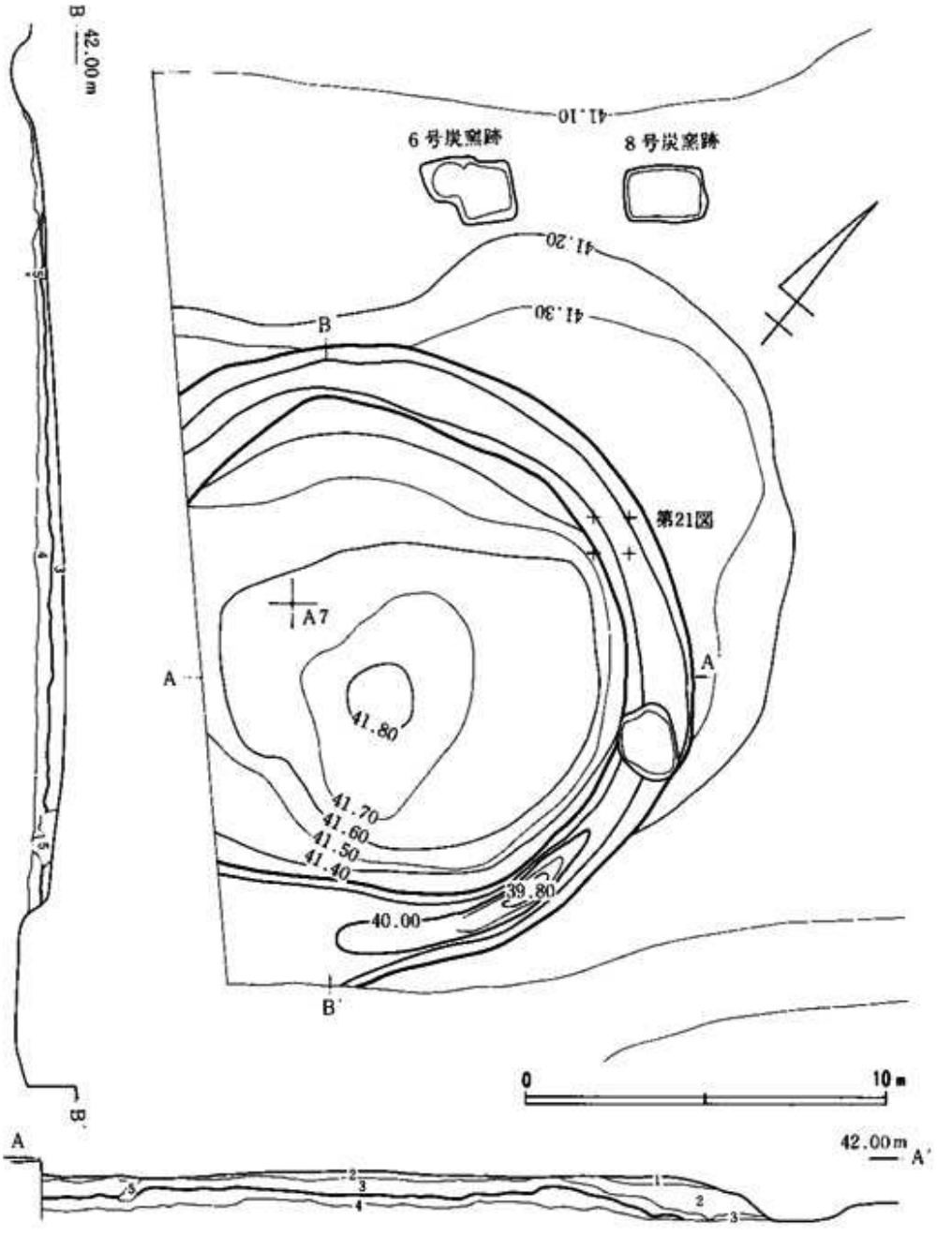
表3　001号墳出土遺物表

挿図番号	器種	遺存度	法量（cm）			色調		胎土	焼成	その他
			口径	底径	高	外	内			
1	土師器 坏	½	14.2	――	5.0	黒色 黒色処理	黒色 黒色処理	密、砂粒少 赤色粒少	良	素地は 明灰褐色

002号墳（第20～22図，表4，図版3）

位置と現況

調査区中央やや南に位置する。西側の約¼が調査区外になり，南側の周溝部が宅地にかかるので調査が行えなかった。001号墳と同様に，耕作などで墳丘が完全に削平され，表土を除去した後に円形に周溝が検出され，古墳と確認できた。



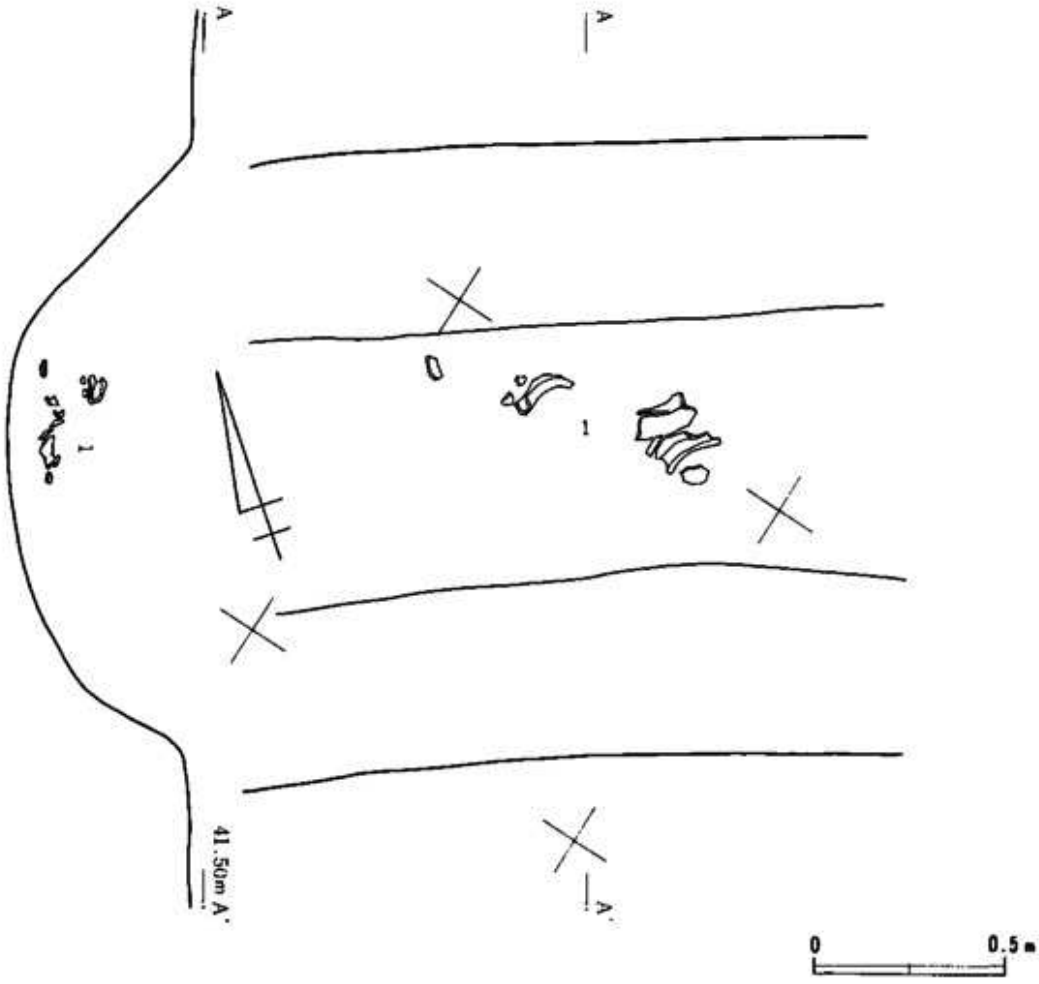
1. 暗褐色土層
2. 褐色土層
3. 暗褐色土層
4. ソフトローム層
5. 攪乱

第20図　002号墳実測図(1/200・1/120)

規模

ほぼ円形で，周溝を含めた直径は18mである。周溝は全周すると考えられる。幅は1.0～1.6mで，南側ほど幅が広くなっている。深さは，ソフトローム面から0.3～0.8mで，南側ほど深くなっている。断面は幅広のU字形を示す。主体部は検出されなかったが，周溝が調査区外に向って幅広くなるので，調査区外に主体部が存在する可能性もある。

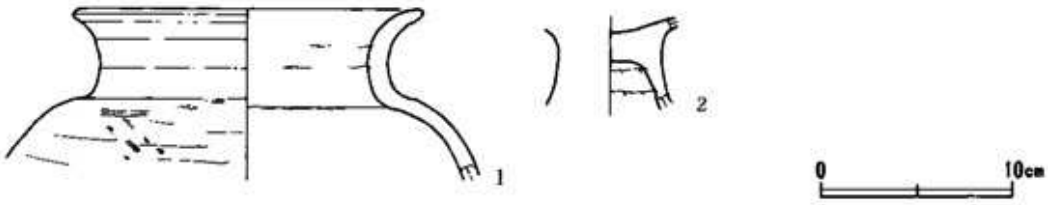
また，周溝内底面からやや浮いた状態で土師器の甕１個体分が出土している。周溝が埋まる以前に投棄または置かれたものと考えられ，古墳の年代を推定する手掛りとなると思われる。



第21図　002号墳周溝内遺物出土状況図（1/20）

遺物

1は周溝内から出土している。土師器の甕の上半部である。胴部はほぼ球形になると思われる。横方向のヘラケズリの後にナデが施される。部分的にハケ目状の調整痕がみられる。口縁部と胴部との境に稜をもつ。口縁部は直立し，外反して口唇に至る。口唇はほぼ水平になり，やや尖り気味である。2は高坏の脚部である。封土の出土で裾部を欠くが，背の低い円筒状になると考えられる。



第22図　002号墳出土遺物実測図（1/4）

表4　002号墳出土遺物表

挿図番号	器種	遺存度	法量（cm）			色調		胎土	焼成	その他
			口径	底径	高	外	内			
1	土師器 甕		18.2	—	—	淡赤褐色 黒斑有	明褐色	密 砂粒やや多	良	
2	土師器 高坏		—	—	—	赤褐色 素地 明褐色	黒色	密 砂粒やや多	良	

003号墳（第23～30図，表5・6，図版4～11・20）

位置と現況

調査区ほぼ中央に位置する。南西部の一部が調査区外になる。墳丘が遺存し，南側約¼が削り取られている。また墳丘の回りには後世の溝が「コ」字形にめぐっている。

規模

墳丘および周辺の表土を除去したところ。周溝が検出され，円墳と確認できた。周溝を含めた直径は，約35.5mである。周溝は幅1.6～3.6mである。深さはソフトローム面から0.4～0.6mで，断面は，幅広のU字形を示す。周溝は南側の横穴式石室の羨門部分で最も幅が広くなると考えられる。墳丘は，現存高が約2.5mである。封土の土層は，ロームブロック層と炭化物を

多く含んだ暗褐色土の互層が主体である。また，墳丘下の旧表土面全面に炭化物を含んだ焼土層がみられ，墳丘造営直前に何らかの行事が行われている。墳丘はほぼ平行に土が盛られ，特別に核となる土層の堆積はみられない。

主体部

主体部は南向きに開口する横穴式石室である。墳丘の南側に検出され，旧地表下，ロームを堀りこんで構築されている。羨門は周溝からやや離れているが，羨門の攪乱が激しく，周溝に接していた可能性もある。

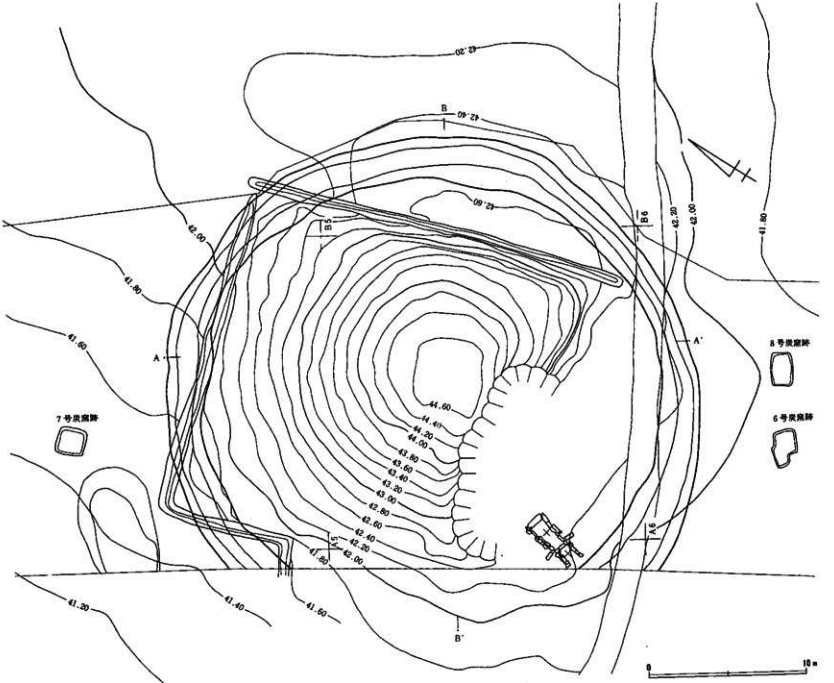
石室は，両袖式単室で，整形した軟質砂岩でつくられている。全長（奥壁内側～羨道部端）3.4mで，羨道部は長さ1.2m，幅0.7mである。長軸の方向は，S－11.5°－Wである。玄室の平面形は玄門部がややせまい長方形である。長さ2.2m，幅は，玄門部が0.8m，奥壁部が1.0mである。奥壁は三段積みで，やや内傾している。高さ1.5mで，一段目の石が最も大きく，奥壁の半分を占めている。二段目の石の内側に円形のえぐりが認められる。玄室側壁は左右とも三段積みと考えられる。右側壁は各段ともほぼ同じ大きさの部材が用いられている。高さは1.1mでやや内傾している。左側は，中央の部材二段に他に較べてやや大きな石材が使われている。そのため，玄門側の部材はやや小さくなり，四段積みになる。また，中央の三段目もやや扁平な部材になる。高さは1.1mで，やや内傾する。玄門袖石は左右とも方柱形で，間に框石がおかれる。袖石の羨道側にも奥壁と同様のえぐりがみられる。また，。框石の前に閉塞石と思われる石材が遺存している。羨道部はかなり崩壊しているが，三段積みと考えられる。
また，左右側壁とも，部材の接合部に，外側から補強材があてがわれている。

補強材は，玄室の部材の接合部にあてられている。形は直方体で，玄室部分は縦位置，最も面積の広い面があてがわれている。また，玄門の方柱状石と側壁との接合部には横位置で，最も面積の狭い面があてがわれている。また，玄門部分の補強材は，裏込め土層の上にのっているのが，断面より観察できた。

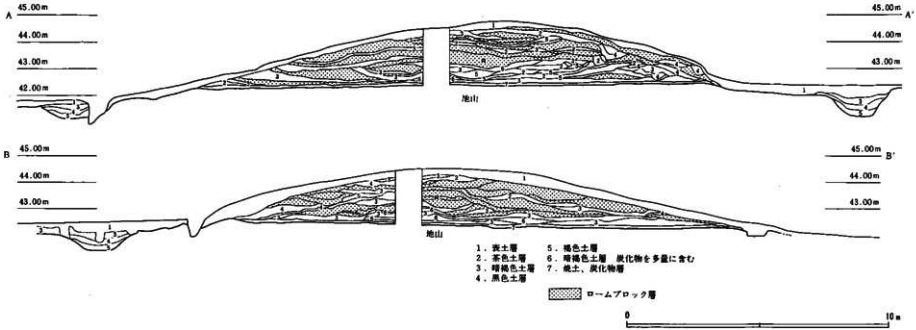
石室の床面は石敷で，不整形な部材がほぼ2列にならべられているが，奥壁前の床は1枚石である。しかし，羨道部の床には石は敷かれていない。

石室の堀り方は，平面形は，検出面では長方形になるが，底面では，羨通部分がややせまい羽子板状になり，前庭部に向って開口している。規模は，底面で，長さ4.2m，幅は，羨道部2.0m，玄室部2.6mである。堀り方は中間に段をもち，検出面の規模は長さ約6.0m，幅約4.6mである。石室裏込めの土層は，ロームブロック層と灰白色の粘土層が互層になる。

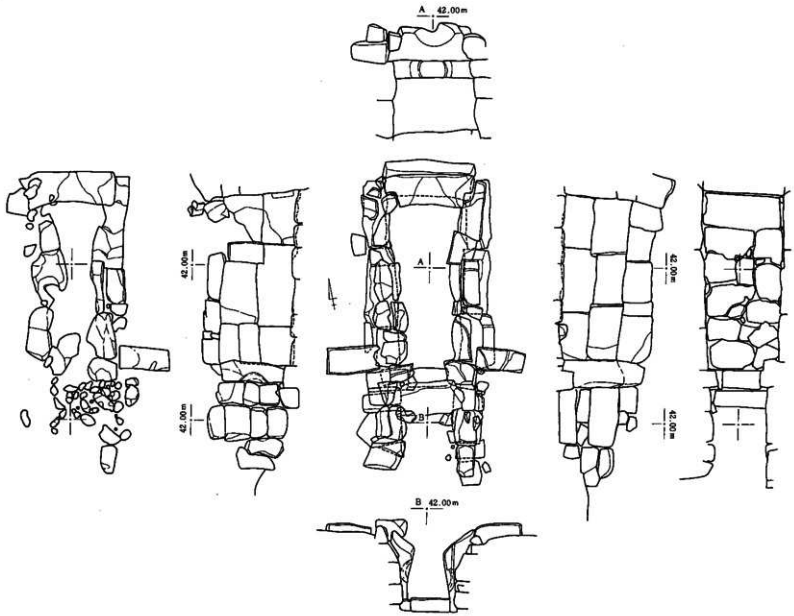
また，石室の部材をとりのぞいたときに，奥壁前の床石，側壁の補強材がわずかに堀り込まれて置かれていたことがわかる。また羨道部，羨門にも土壙がみられ，閉塞石などの施設があった可能性がある。



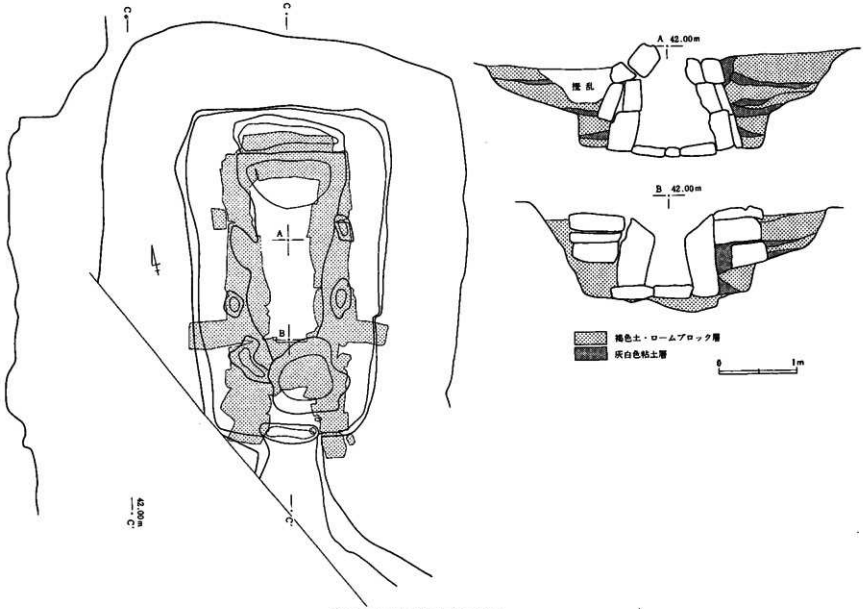
第23図　003号墳実測図（1/200）



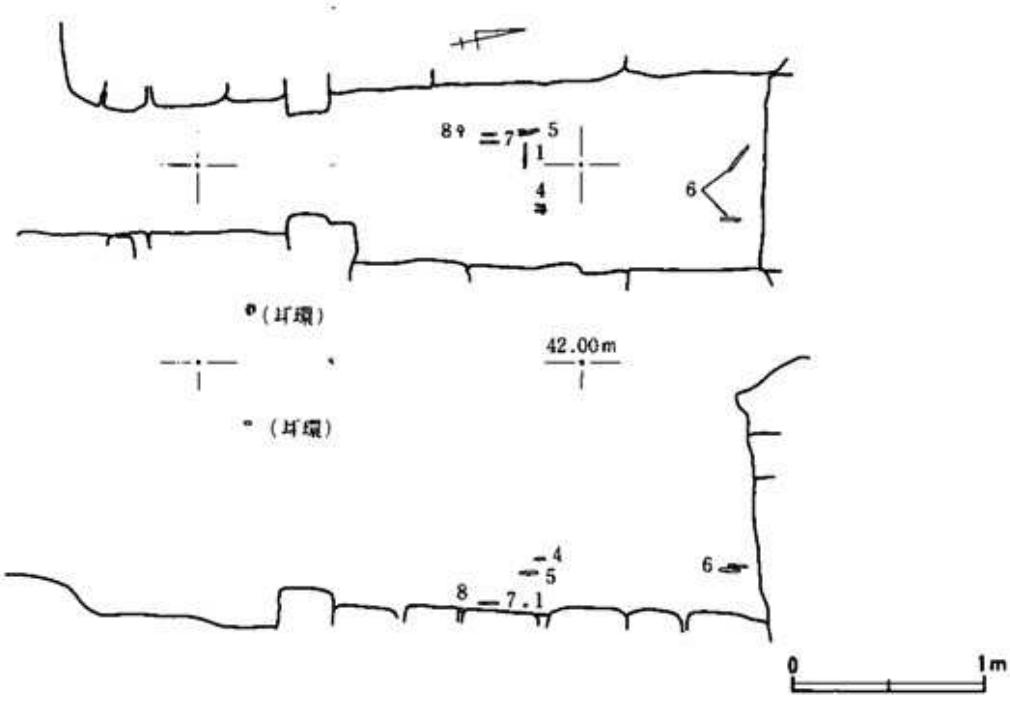
第24図　003号墳墳丘土層断面図（1/120）



第25図　003号墳石室実測図(1)(1/40)



第26図　003号墳石室実測図(2)(1/40)



第27図　003号墳石室内遺物出土状況図（1/40）

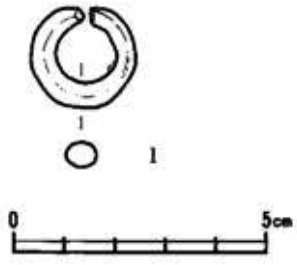
遺物

石室内出土遺物

石室内からの出土遺物は，金銅製耳環，鉄器（鏃，直刀，刀子など）である。金銅製耳環は羨道側壁上から出土している。また，鉄器は，玄室内の床面付近から出土している。とくに1・7・8は，床面直上の出土で，原位置を保っていると考えられる。

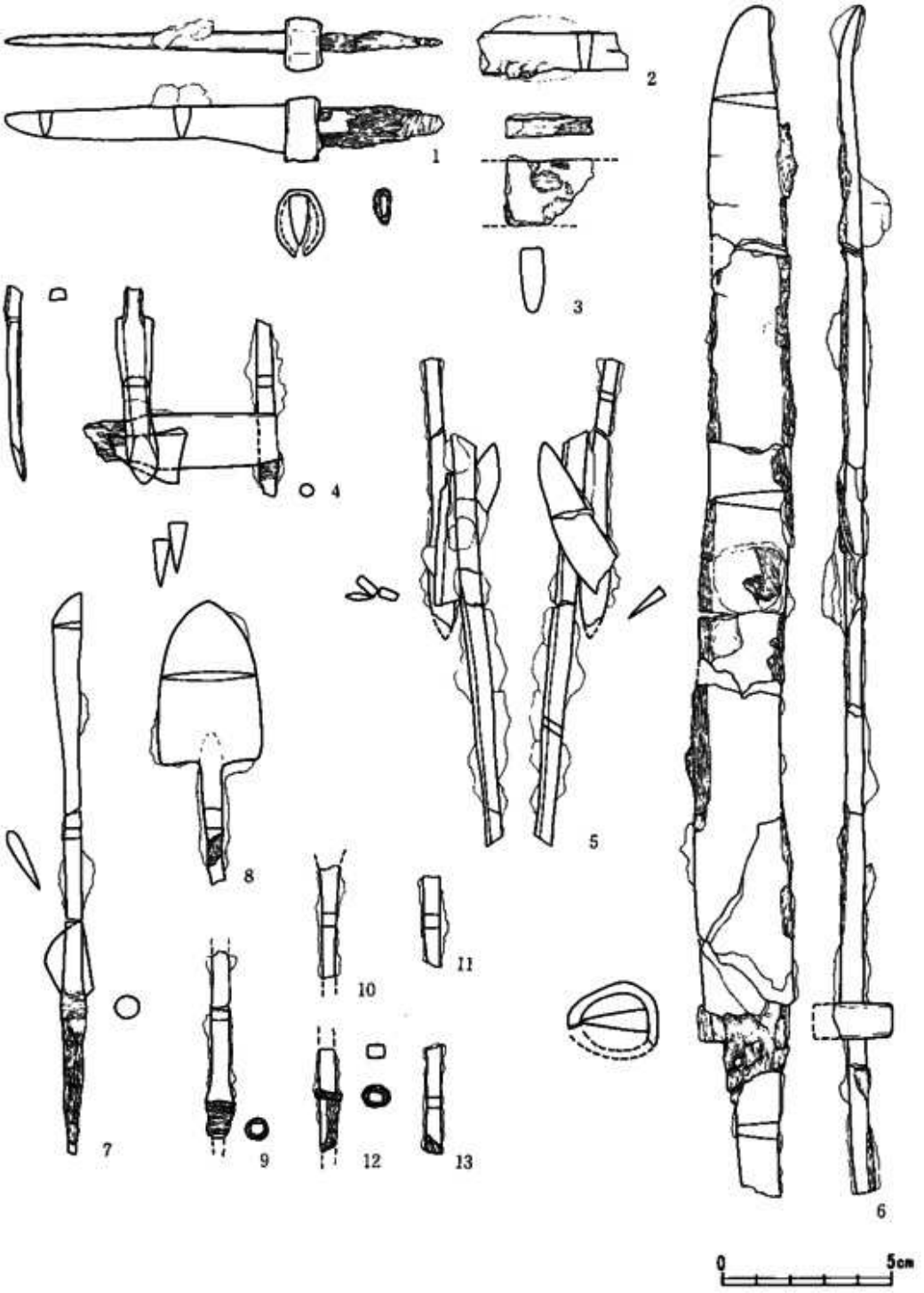
金銅製耳環

ほぼ円形で直径約2.1cmある。銅の芯に渡金が施され，一部ロクショウがみられる。断面はやや楕円形で径0.6cmである。



第28図　003号墳石室内出土遺物実測図（1）(2/3)

鉄器



第29図　003号墳石室内出土遺物実測図（２）(1/2)

1は刀子である。直刃で，先端部ほど細くなる。砥ぎのため刃部が内弯している。ハバキがはめられ，茎に柄の木質が遺存している。また，茎に木皮状のものが巻かれている。2は刀子の刃部片，3は，やや大型の刀子と思われる。どちらも木質が遺存している。4は鏃と刀子が銹着している。刀子は，先端部と茎の半分を欠く。茎に木質が遺存し，関をもつ。鏃は，鏃身と箆被である。鏃身は長身で関をもつ。先端は扁平で片刃である。鏃身の中央部断面が台形になる。箆被は断面長方形で，茎との境に木皮状のものが遺存する。5は，鏃が3，刀子1が銹着したものである。鏃は鏃身と箆被である。鏃身は長身で，関はない。断面は両丸である。箆被は断面長方形である。刀子は刃部先端で，直刃である。6は直刀である。茎の端部を欠き，刃部がやや内湾している。ハバキがはめられ，柄，鞘の木質が遺存している。刃部先端はやや丸くなる。7は鏃である。片刃で長身である。関はなく，箆被は断面長方形である。茎の部分に木皮状のものを巻き，矢柄の木質が遺存している。8は鏃身が幅広で，扁平である。茎に木質が遺存する。9～13は鏃の箆被である。9は棘をもつと思われる。9・12には木皮状のもの，9・12・13には木質が遺存している。

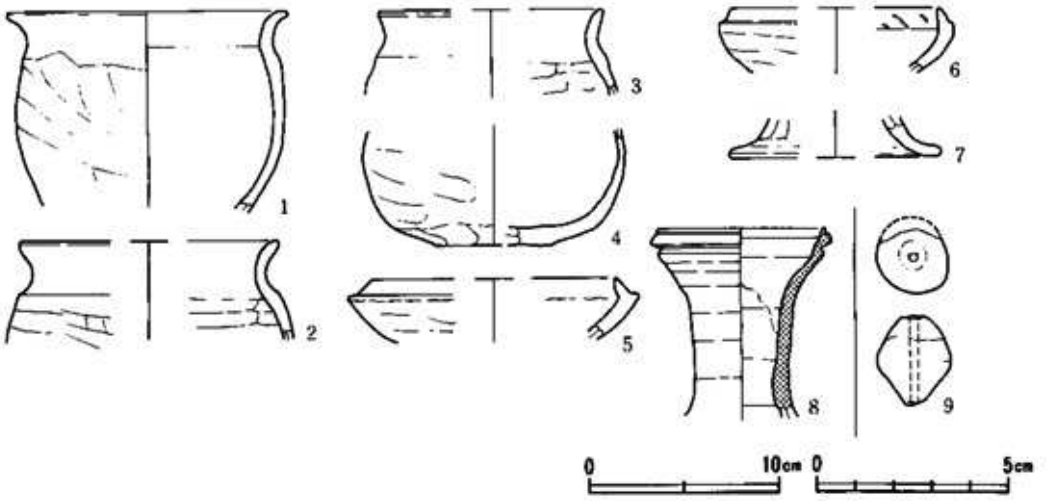
表5　003号墳石室出土遺物表

挿図番号	製品名	遺存度	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
1	刀子	ほぼ完形	12.9	刃部0.7～1.0 茎0.6	刃部0.3～0.5 茎 0.2	18.0	柄部木質遺存。 ハバキ有。
2	刀子	残欠	——	1.0	0.4	7.0	
3	刀子	残欠	——	1.8	0.7	6.2	
4	刀子	½	——	1.5	0.5	21.0	
	刀子	残欠	——	1.5	0.5		
	鏃	鏃身	身4.7	1.0	0.2		鑿箭式
	鏃	箆被	——	0.5	0.3		
5	刀子	刃部	——	1.3	0.3	26.5	
	鏃	鏃身	身3.7	0.9	0.2		鑿箭式
	鏃	箆被	——	0.5	0.2		
	鏃	箆被	——	0.7	0.2		

挿図番号	製品名	遺存度	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
6	直刀	ほぼ完形	34.3 刃部28.3	刃部2.4 茎 1.3	刃部0.6 茎 1.3	141.0	
7	鏃	ほぼ完形	身3.2 16.2 鏑被8.3 茎4.7	0.9 0.5 0.3	0.2 0.3 0.2	11.0	片刃箭式
8	鏃	ほぼ完形	8.2 身4.8 茎3.4	3.0 0.8	0.2 0.5	12.6	平造五角形式
9	鏃	鏑被	—	0.5	0.3	3.6	
10	鏃	鏑被	—	0.5	0.4	1.8	
11	鏃	鏑被	—	0.5	0.4	1.6	
12	鏃	鏑被～茎	—	0.5	0.4	2.0	
13	鏃	鏑被	—	0.4	0.3	1.7	

墳丘出土遺物

ほとんどが土器片で，細片が多い。図示できた個体は少ない。1～3はやや小型の甕である。やや縦長の半球形の胴部から口縁部が外半して立ち上がり，口唇は丸い。胴部にヘラケズリの後にナデ，口縁部にはヨコナデが施される。口縁部と胴部との境に稜をもつ。4は甕の底部と思われる。やや丸底で胴部が球形になると考えられる。ヘラケズリの後にナデが施される。5は坏である。体部は扁平な半球形である。体部と口縁部との境に受部をもつ。口縁部は内傾して短く立ち上がり，先端は尖り気味で，断面が三角形である。体部にヘラケズリの後にナデ，口縁部にヨコナデが施される。6も同様の坏である。口縁部は内弯して短く立ち上がり，口唇はやや丸い。7は高坏の脚部である。ラッパ状に開き，端部は丸い。8は須恵器の長頸壺の口頸部である。頸部は円筒形で，上部がやや外反し，口縁部に至る。口縁部は屈曲しながら外反し，口唇がごく小さく立ち上がる。内面に淡緑色の自然釉がみられる。9は土玉である。側面が菱形を示し，やや縦長のソロバン玉状である。



第30図　003号墳墳丘出土遺物実測図（1/4・1/2）

表6　003号墳墳丘出土遺物表

挿図番号	器種	遺存度	法量(cm) 口径	底径	高	色調 外	内	胎土	焼成	その他
1	土師器 甕	口縁部～胴部	14.3	—	—	赤褐色	褐色	密 細砂やや多	良	
2	土師器 甕	口縁部 1/4	13.6	—	—	赤褐色	黒色 一部 赤褐色	やや密 細砂粒やや多	良	
3	土師器 甕	口縁部～胴部	11.8	—	—	赤褐色	黒色	密 砂粒多	良	
4	土師器 甕	底部	—	6.0	—	赤褐色	灰褐色	やや密 砂粒やや多	良	
5	土師器 坏	口縁部 1/4	12.8	—	—	灰褐色	灰褐色 灰黒色	密 細砂粒やや多	良	
6	土師器 坏	口縁部 1/4	10.8	—	—	淡褐色	淡褐色	密 線砂粒少	良	
7	土師器 高坏	脚部	—	—	—	赤褐色	明褐色	密 細砂粒少	良	
8	須恵器 長頸壺	口頸部	9.4	—	—	灰色	灰色	緻密 砂粒ほとんどなし	良好	黒色微粒子 やや多 右回転ロクロ成形
9	土玉	完形						密 細砂粒少	良	

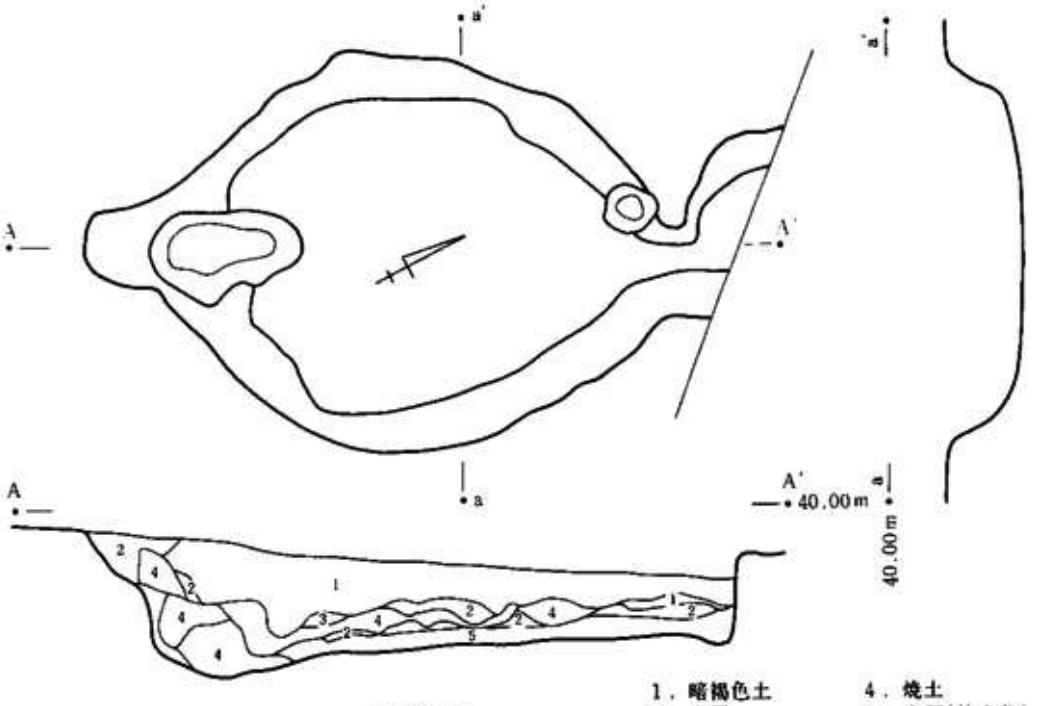
４．その他

(1) 炭窯跡（第31図，表７，図版12）

全部で９基検出されている。出土遺物がなく時期は確定できないが，中世以降の可能性が大きい。１，２号跡はほぼ同形と考えられる。煙道部，焼成部，焚口部からなり，平面形は丸味のある羽子板状になり，先端から煙道部が丸く突き出た形になる。１号跡は遺存がよく，木炭が多く堆積していた。２号跡はかなり削平され，煙道部の突出がほとんど見られない。３～９号跡は燻炭窯である。平面形は一辺1.5mの正方形か，1.0×2.0mの長方形である。底面に多量の木炭片が堆積している。

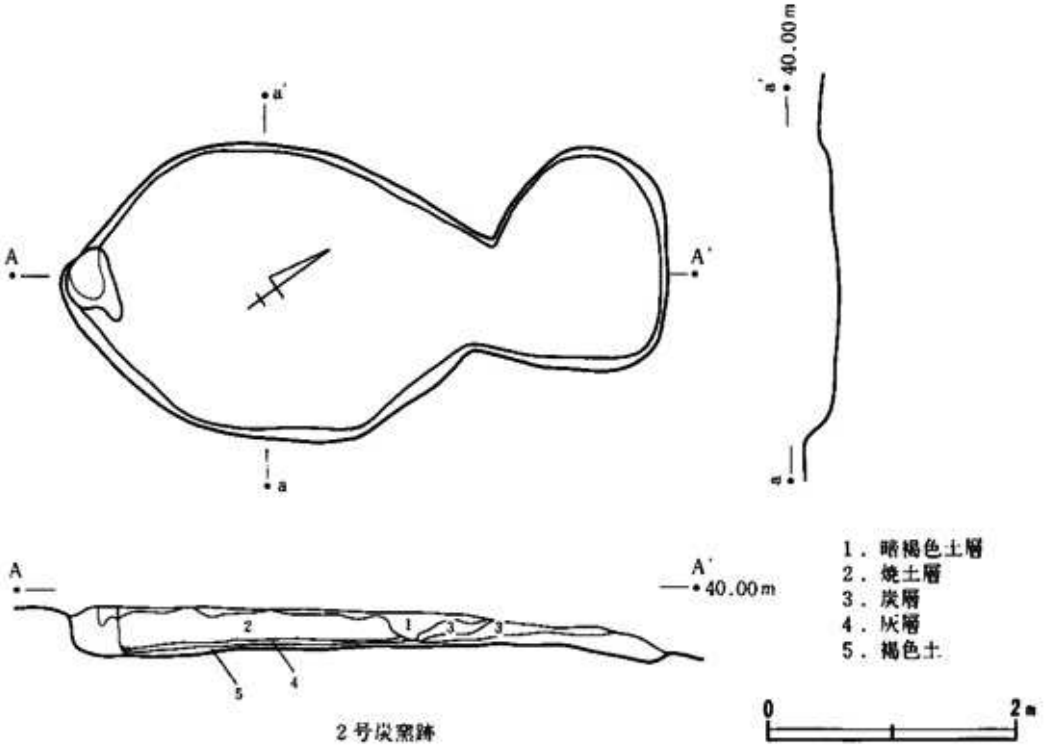
表７　炭窯計測表

挿図番号	遺構番号	長　さ(m)	幅(m)	深さ(m)	長軸方向	備　　考
1	1　号	焼成部4.8	3.1	0.7~1.1	N-151.5°W	焚口部範囲外
2	2　号	4.8 焼成部3.4 焚口部1.4	2.3 1.7	0.2 0.1	N-145°W	かなり削平されている。
3	3　号	1.7	1.6	0.4	N-133°W	ほぼ正方形
4	4　号	1.7	1.6	0.4	N-157.5°W	ややゆがんだ正方形
5	5　号	2.1	0.9	0.3	N-77°W	かなり削平されている。
6	6　号	1.6	1.6	0.5	N-134°W	ほぼ正方形
7	7　号	1.9	1.8	0.6	N-110.5°W	ほぼ正方形
8	8　号	2.3	1.5	0.4	N-117°W	
9	9　号	―	1.7	0.4	N 125.5°W	西半分範囲外



1号炭窯跡

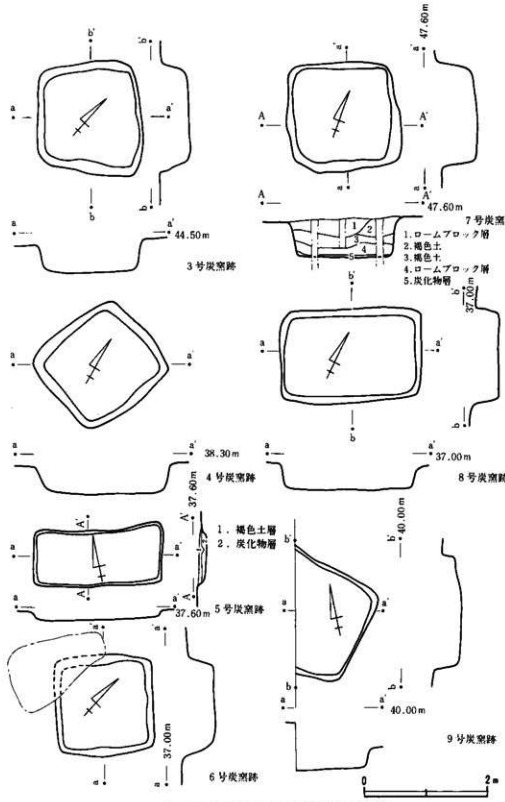
1．暗褐色土
2．炭層
3．白色粘土層
4．焼土
5．床面(焼土化)



2号炭窯跡

1．暗褐色土層
2．焼土層
3．炭層
4．灰層
5．褐色土

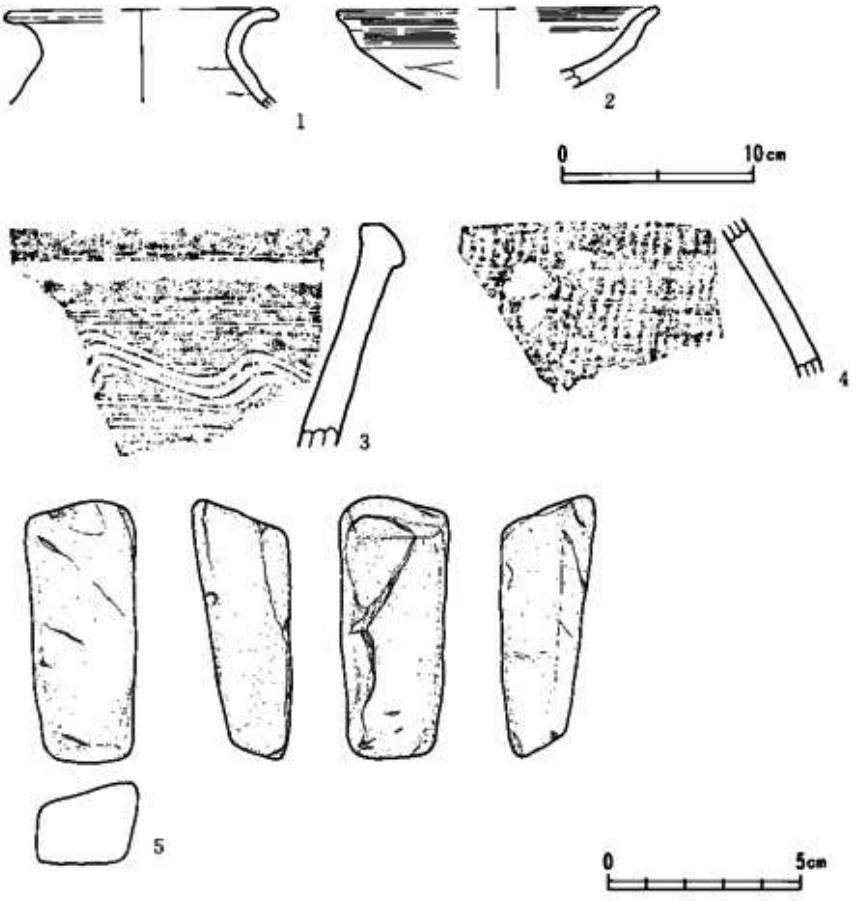
第31図　炭窯跡実測図(1)(1/60)



第32図　炭窯（煙炭窯）跡実測図（２）(1/60)

(2)　グリッド出土遺物（第33図，図版16）

1は土師器の甕の口縁部である。外反が大きく，口唇は丸い。2は土師器の坏である。扁平な半球形の体部から口縁部が外傾して立ち上がる。口唇はわずかに外反し，丸い。体部にヘラケズリの後ナデ，口縁部内外面にヨコナデが施される。体部と口縁部との境に稜をもつ。3，4は，須恵器の甕片である。3は口縁部である。口唇は縁帯状になる。外面に櫛描きの波状門が施される。4は胴部片である。外面に叩目がみられる。5は敲石と思われる。方柱状で全体に磨耗しており，ヒビが多く見られる。明瞭な敲き跡はみられない。石質は流紋岩と思われる。



第33図　グリッド出土遺物実測図(1/4・1/2)

第3項　小　結

先土器時代

石器ブロックが1か所検出されている。003号墳の墳丘下に検出され，舌状台地のほぼ中央に位置する。出土層位は，Ⅲ～Ⅵ層で，特に，Ⅳ，Ⅴ層(標高42m付近)に集中している。集中度の差はあるが，中央に径2m程の空間を残して，径8m程の半円形に石器が出土している。出土石器は，ほとんどがチャートの剝片である。形状は不定形であるが，縦形，横形の両方が共存する。製品はないが，尖頭器状の剝片（20・26・41），角錐状石器状の剝片（27・42），刃器状の剝片（13・14・23)がみられるので，石器製作跡の可能性が大きい。

縄文時代

縄文時代の遺構は検出されなかった。また，明瞭な包含層も形成していなかった。遺物の主なものは土器片である。時期は，早期末～晩期である。もっとも量の多い時期は，後期である。

本跡から約1km東には，中台貝塚が位置している。また，尾根状台地の東側には，縄文時代中期から晩期にかけての貝塚（角田貝塚，鴻ノ巣貝塚，木戸台貝塚）が位置し，縄文時代の遺跡群を形成していると考えられる。よって本跡周辺にも，縄文時代中期～晩期の集落の存在の可能性は大きい。また，本跡からは，土偶片，中期（加曽利E式）の土器片錘が出土しているのも注目されるところである。

古墳時代

古墳時代のものとしては，古墳が3基検出されている。古墳はすべて円墳である。古墳間の重複関係はなく，南北方向に，ほぼ等間隔に位置している。3基とも周溝をもち，埴輪は検出されなかった。主体部が検出された古墳は，003号墳1基だけである。主体部は半地下式の，横穴式石室である。主体部からの出土遺物は，金銅製耳環，直刀，刀子，鏃である。これらは，房総の後期古墳の一般的な遺物であり，7世紀前半と考えられる。また，墳丘出土の遺物からも時代が推定される。遺物は，土師器と須恵器である。土師器は鬼高式である。時期的には，鬼高期の後半初めと考えられ，石室出土の遺物とほぼ同時期と考えられる。001，002号墳も，出土土器から，ほぼ同時期（7世紀前半）と考えられる。ただし，古墳の構築順序は，003号墳以外は，主体部が検出されないため，不明である。

その他

以上の他に，炭窯跡が9基検出されている。遺物がないため，時期は不明である。本跡の北，新東京国際空港用地内，成田市御幸畑遺跡(1)から，製鉄跡とともに，製鉄用の木炭を焼いた炭窯が検出されている。しかし，本跡では，製鉄跡はみとめられず，また，炭窯跡の規模も小さいので，かなり新しい時期の，日常生活用の木炭を焼いた炭窯跡の可能性が大である。

注

(1)『千葉県文化財センター研究紀要7』(財)千葉県文化財センター　昭和57年

第３章　中台柿谷遺跡

第１項　調査の方法と概要

１．調査の方法

中台柿谷遺跡は，山武郡横芝町中台字柿谷に所在する。発掘調査は，昭和54年１月14日から同年３月31日にかけて実施された。調査対象地が，道路敷地内に限られたため，20m毎に設置されている道路の中心杭を基準にグリッドを設定した。中心杭№413は№414を結んだ直線を基準線として，杭の両側10mと杭間の20mを20×20mの大グリッドとした。大グリッドは，北端よりＡ１からＡ14とした。また，大グリッドの中を第35図グリッド分割図のように，北西から東へ00～09，北西から南へ00～90とし，99までの２m×２mの小グリッドを設定した。なお，調査区が道路の直線部分にあたるため，各中心杭と各大グリッド中の05小グリッドの北西隅が対応している。よって，№413とＡ13-05，№414とＡ14-05が対応する。

発掘調査は，大グリッドの南北方向の中心線（道路中心線）と，その両側３m間隔に，２m幅のトレンチを設定して，ソフトローム層上面まで発掘し，遺構，遺物の検出を行った。

本跡では，明確な遺構は検出されず，縄文土器を少量検出しただけであった。

上層遺構の確認の後，先土器時代の確認調査を行った。２×２mのグリッドを設定して，武蔵野ローム層上面まで発掘し，遺構，遺物の検出を行った。石器検出後，グリッドを拡張し，精査，記録（実測，写真撮影など）を行った。

これらの作業の後，航空写真の撮影を行った。

実測は平板測量を基本とした。写真撮影には，４×５ｉｎｃｈ，６×７cm，35mmの白黒，および35mmカラースライドを使用した。

遺物は先土器時代の石器および縄文土器である。遺物には出土グリッドの番号を付して，遺物番号を付した。整理作業においても，発掘で採用したグリッド番号，遺物番号を使用した。

２．土　層

第35図土層断面図は，Ａ12－60・70の西側壁の断面図である。標高は，42mである。土層は以下のとおりである。

Ⅰ～Ⅱ層……黒褐色土、層が薄いため分層は困難である。

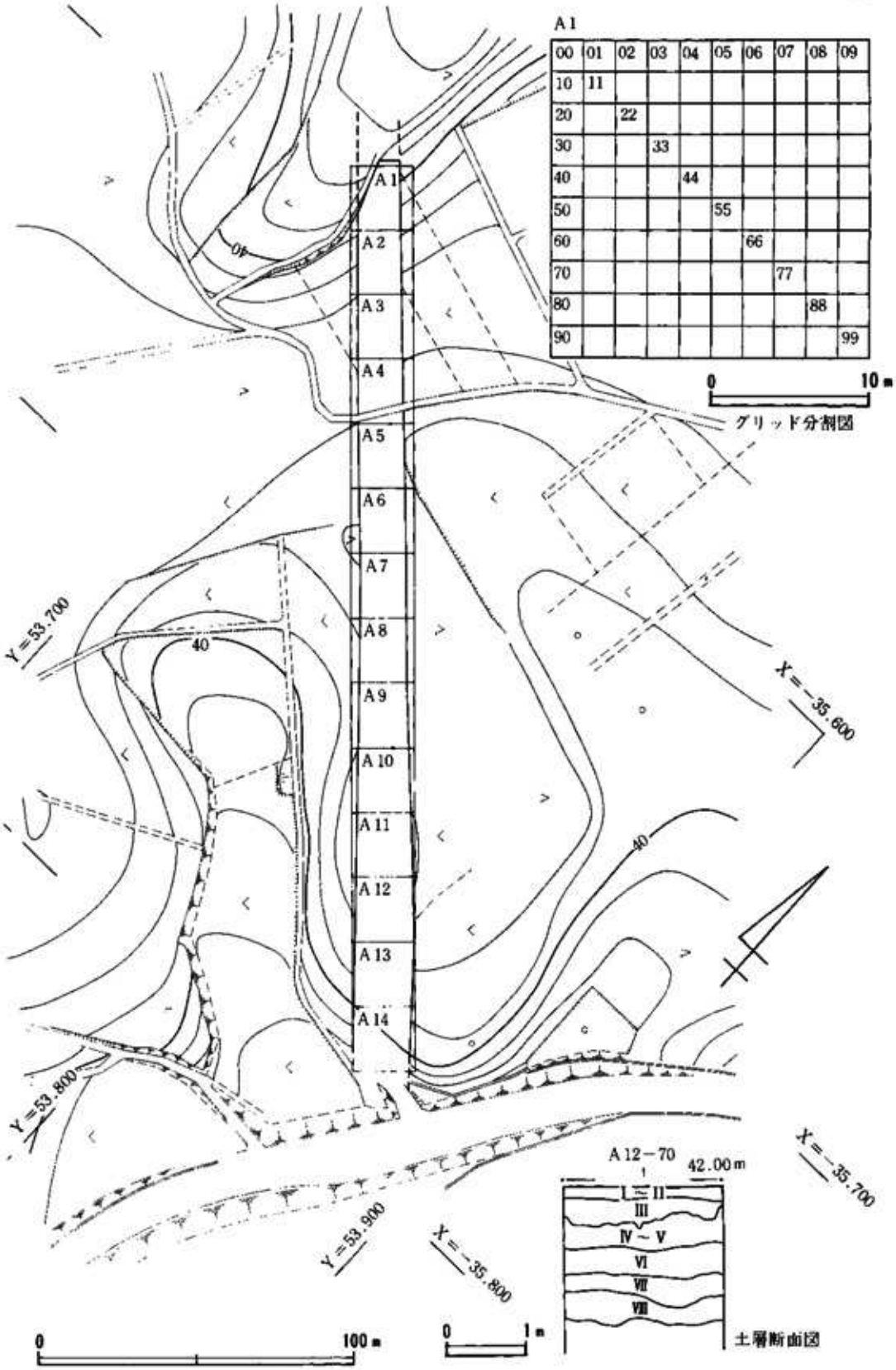
Ⅲ　　層……立川ローム層，いわゆるソフトローム層で暗褐色を呈する。

Ⅳ～Ⅴ層……立川ローム層，褐色を呈する。ソフト化が進み，分層は困難である。

Ⅵ　　層……立川ローム層，橙褐色を呈し，クラックが発達する。

Ⅶ　　層……立川ローム層，暗褐色を呈する。第二黒色帯に比定できる。

第34図　遺跡周辺地形図（1/5,000）



第35図　遺跡地形図(1/2,000)・グリッド分割図(1/400)・土層断面図(1/80)

Ⅷ　　層……立川ローム層，硬質茶褐色で，立川最下層である。

３．調査の概要

本遺跡は，木戸川と高谷川にはさまれた，標高30～40mの尾根状の台地上に位置する。殿塚古墳，姫塚古墳を有する芝山古墳群がある舌状台地の基部にあたる。

本遺跡では，明確な遺構は検出されなかった。調査対象地域が，幅約20mの道路敷であるため，遺跡の全容で把握することは困難であった。しかし，先土器時代の石器ブロック２ヶ所，および少量の縄文土器が検出されている。

第2項　遺構と遺物

本遺跡では，明確な遺構は検出されていなかった。しかし，先土器時代の石器ブロックが，A12，A13グリッドで検出されている。また，各グリッドから，少量ではあるが，縄文土器が検出されている。

1．先土器時代

石器ブロックは2ヶ所南北に並んで検出されている。両ブロックとも，調査区の南端部に位置する。標高は41～43mで，やや突出した小舌状台地の先端部にあたる。本書では，南側のブロックを第1群，北側のブロックの石器を第2群とした。

第1群石器（第37・38図1～11，表8，図版22）

石器の量が少なく，また，分散がやや大きいので，1つのブロックとしてのまとまりを持つ可能性は薄い。出土層位はⅦ層が中心であるが，4，5は，Ⅲ層とⅣ～Ⅴ層との境界付近の出土である。

1は，局部磨製石斧である。完形品で，楕円形を呈するが，刃部はほぼ直線になる。円礫の剝片を使用し，片面は周辺に調整が施され，片面は，刃部と基部以外は自然面を残す。刃部は部分的に磨かれている。断面は凸レンズ状を呈する。2は，礫片である。3点の接合資料で，長楕円形の円礫になる。3は，剝片である。片面に自然面を残し，片面の片側に調整痕状の細かな剝離がみられる。4・5は，小剝片である。出土層位が他とは異るので，別ブロックを形成すると思われる。ゆがんだ方形を呈し，薄い。6は，剝片である。石質はチャートである。7は，礫片である。扁平な円礫片で，片面に自然面を残す。石斧片の可能性がある。8は，礫片の接合資料である。円礫片で，片面に自然面を残す。9は敲石の破片である。長楕円形礫の敲石と思われ，先端の敲打部分である。10は，礫片である。片面に自然面を残し，片面の片側に調整痕状の剝離がみられる。形状から，局部磨製石斧の破片とも考えられる。11は，礫片である，石質は玉髄で，片面に自然面を残す。

第2群石器（第38・39図12～17，表8，図版23）

12は，剝片である。片面の片側にやや細かな調整痕状の剝離がみられる。13は，礫片である。やや大きな礫の一部と考えられ，側面に自然面を残す。14～17は，剝片である。ゆがんだ方形を呈する。15～17は，上下両端に細かな剝片痕がみられ，クサビ形石器とも考えられる。

A13グリッド出土石器（第39図18・19，図版22，表8）

18は，礫片である。方柱状を呈し，四面に剝離痕がみられる。19は，細石刃である。短冊形を呈し，断面は三角形である。グリッド出土のため層位は不明である。また，1点単独のものである。

Ａ３グリッド出土石器（第39・40図20～23，図版22，表８）

20は，石斧である。楕円形の扁平な礫を使用し，剝離により刃部をつくり出している。また，片側に剝離による調整が施される。21は，ナイフ形石器である。やや厚手の縦長剝片を利用し，片側と基部に細かな調整が施される。22・23は敲石である。22は，ややゆがんだ玉子形の礫を利用している。先端部と４側面に敲打痕がみられる。23は，ややゆがんだ楕円形の扁平な礫を利用し，先端に敲打痕がみられる。

２．縄文時代（第41図）

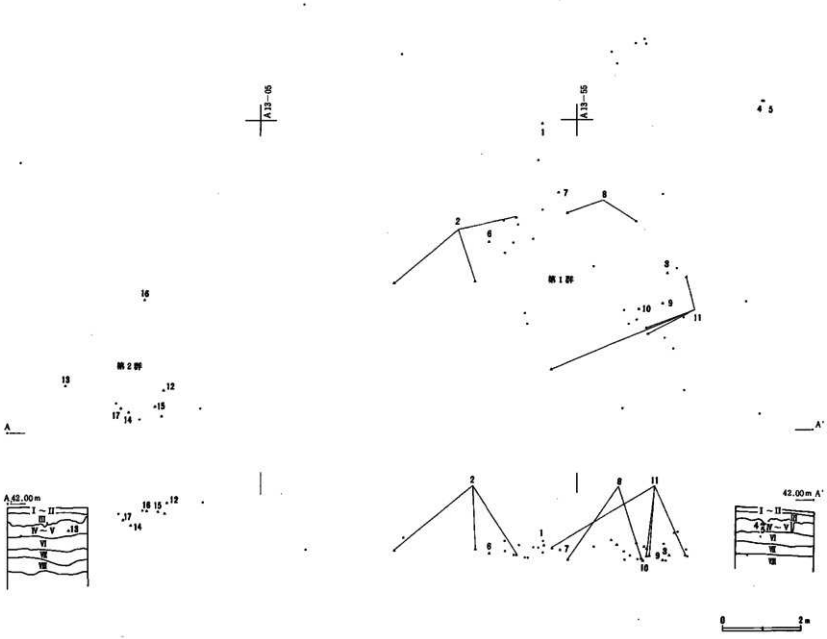
縄文時代の遺構はなく，各グリッドから少量の土器を検出したのみである。

第１群土器（１～５）

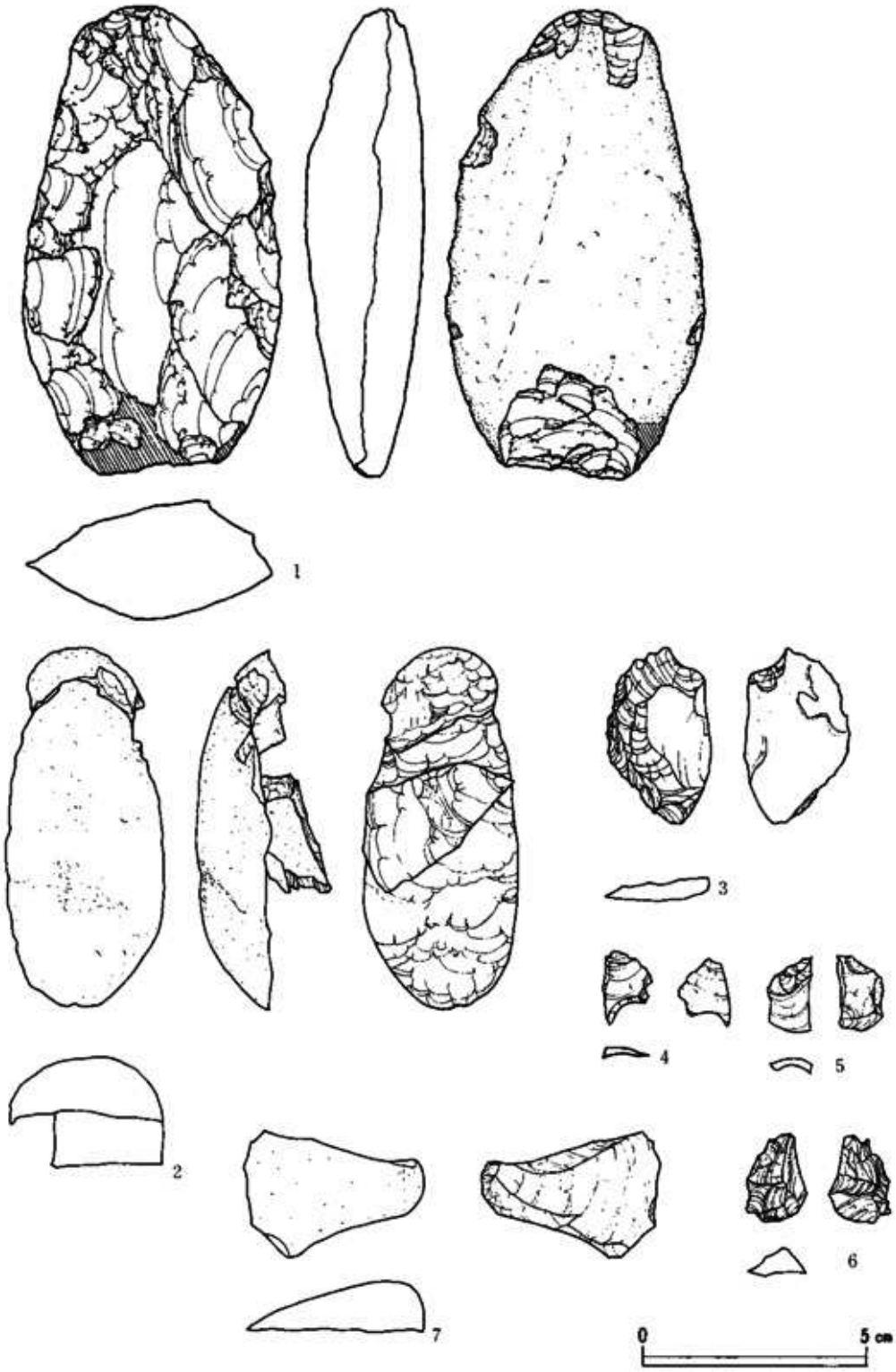
１．２は，平行沈線文の間に半載竹管による刺突文が施される。色調は暗褐色である。３は，刻目文が施される。色調は暗褐色で，胎土に雲母片が多くみられる。４は，深鉢形土器の口縁部である。口縁部直下に沈線文を施し，縄文が施される。色調は，暗褐色である。５は，沈線下にＬＲの縄文が施される。色調は暗褐色である。以上は中期に比定される。

第２群土器（６～25）

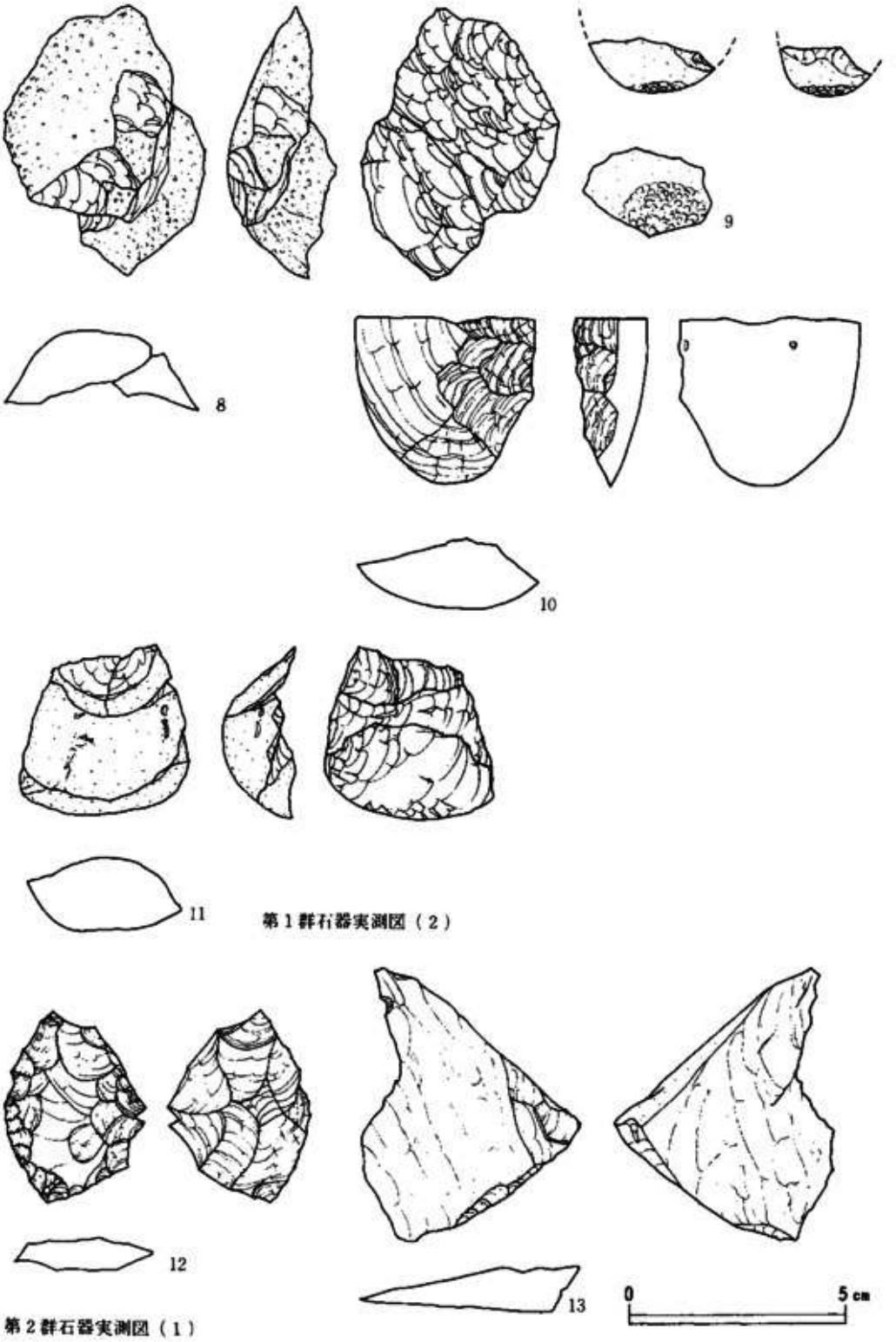
６は，深鉢形土器の口縁部である。全体にＲＬの縄文を施す。７は，平行沈線文の間にＬＲの縄文を施す。８は，浅鉢形土器の口縁部である。平行沈線文に，ＬＲの線文が施される。９は，深鉢形土器の口縁部である。ＬＲの縄文が施される。10は押捺のある紐線を貼付け，ＬＲの粗い縄文が施される。11は，深鉢形土器の口縁部である。粗い縄文を地文として条線が施される。12・13・14は，深鉢形土器の胴部である。粗い縄文が施され，12・14は条線が施される。15～17は，縄文の地文に平行沈線が施される。18は，刻目のある紐線を貼付け，条線が施される。19は，波状口縁の深鉢形土器の口縁部である。口縁部の刻目以外は無文である。20・21は，無文の地に条線が施される。20は，条線と無文部が沈線によって区画される。22は，ＬＲの縄文が粗く施される。23は，深鉢形土器の口縁部である。口縁直下に沈線が施される。24は，無文の地に刻目のある突帯が施される。６～24の色調はすべて暗褐色である。25は，浅鉢形土器と思われる。無文の地に条線が施される。色調は茶褐色である。本群の土器は後期に比定される。



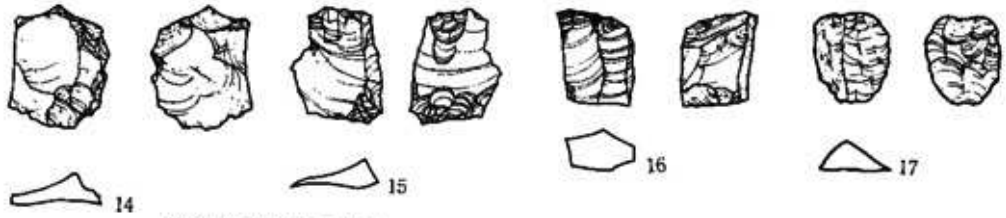
第36図　第1群・第2群石器出土状況図（1/80）



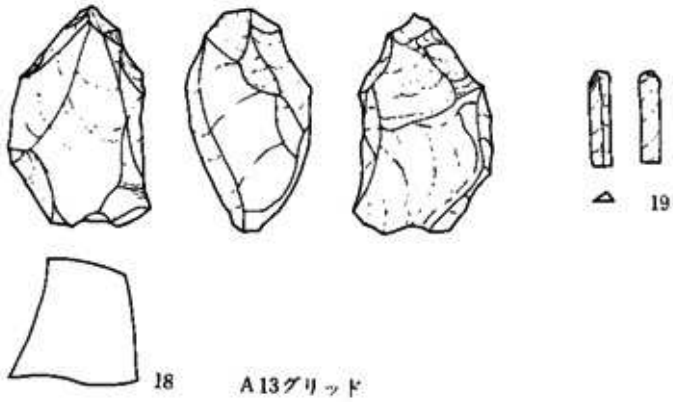
第37図　第１群石器実測図（１）(2/3)



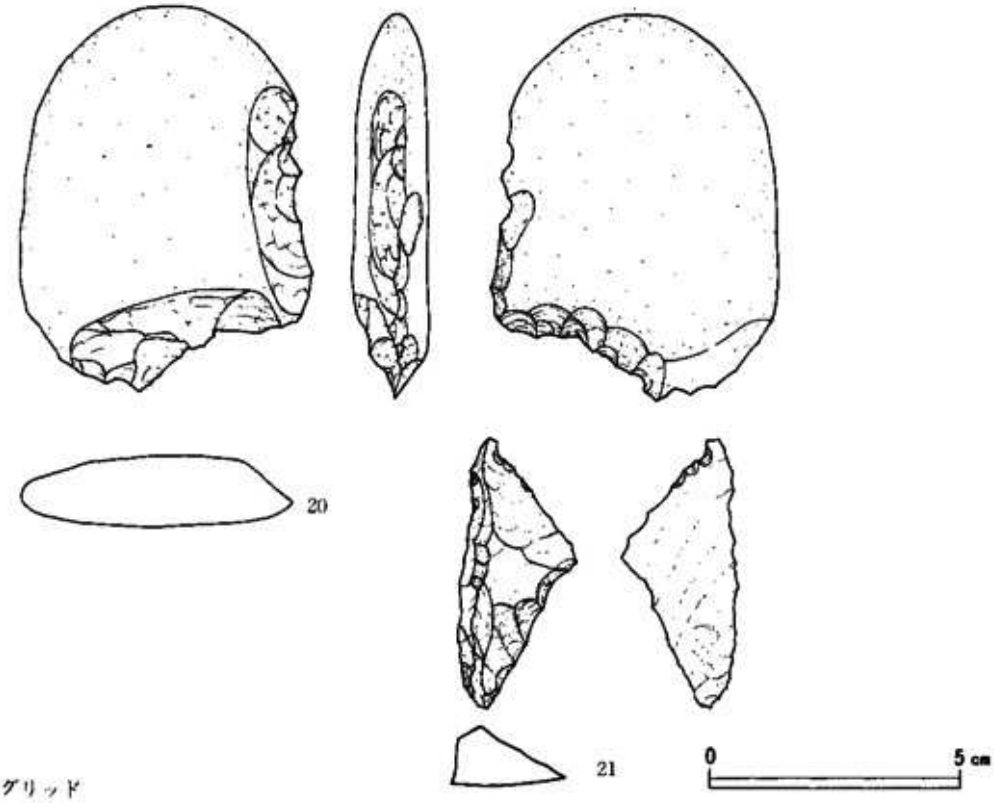
第38図　第１群石器実測図（２）・第２群石器実測図（１）(2/3)



第2群石器実測図（2）

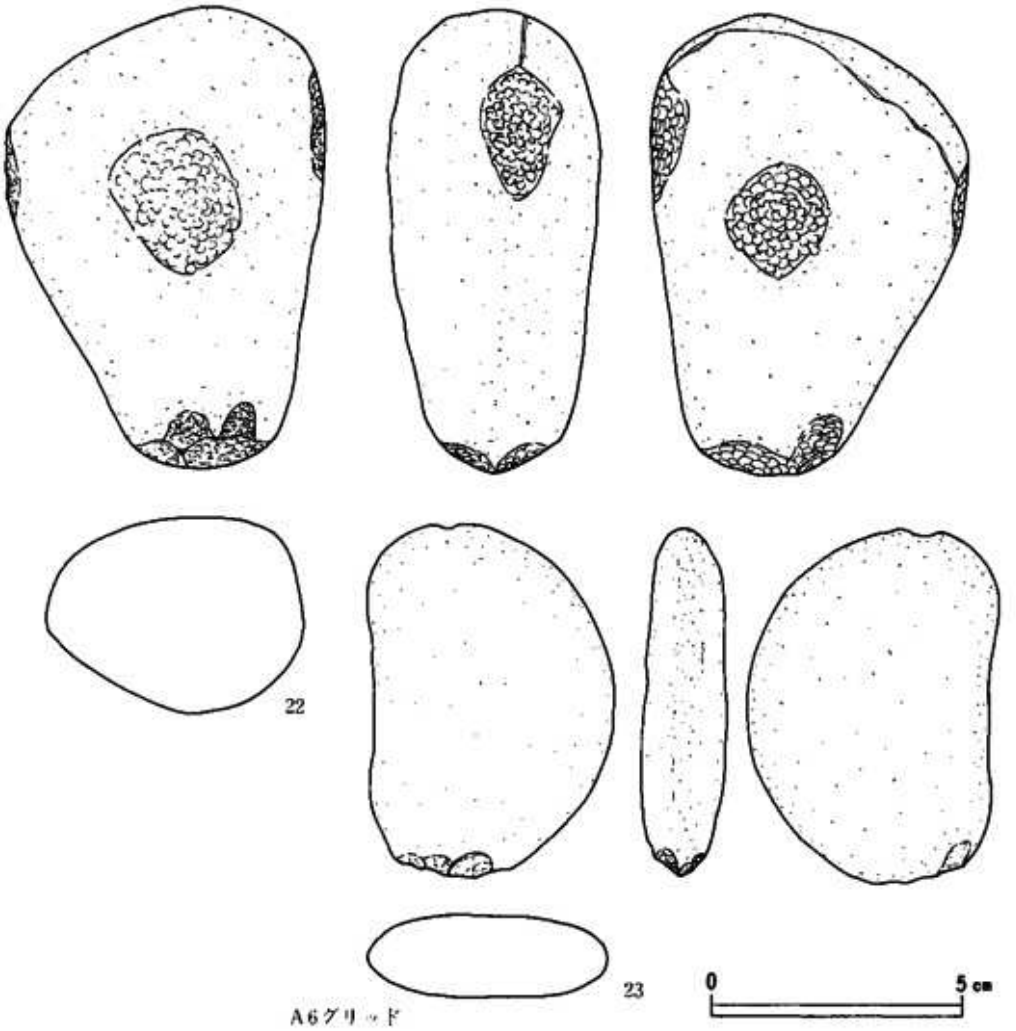


A13グリッド



A3グリッド

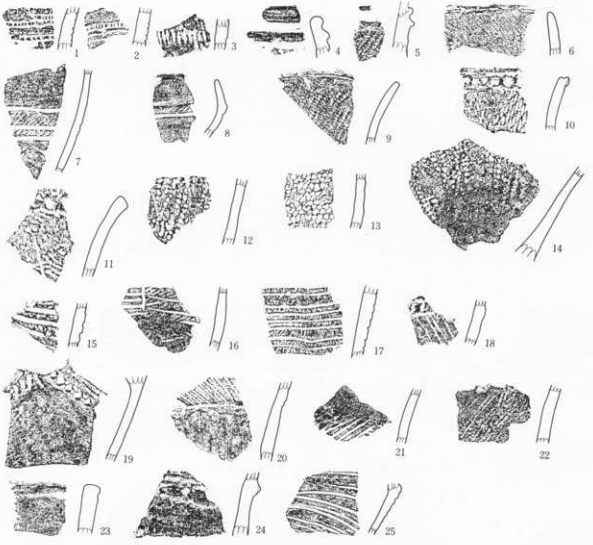
第39図　第2群石器実測図（2）・グリッド出土石器実測図（1）(2/3)



第40図　グリッド出土石器実測図　（２）（2/3）

表8　出土石器表

挿図番号	器種	計測値(cm) 長	幅	厚	重量(g)	色調	石質	備考
1	局部磨製石斧	10.3	5.8	2.6	166.0	暗灰色	砂岩	
2	礫片	7.8	3.5	3.0	65.0	茶褐色	チャート	接合資料
3	剥片	3.8	2.3	0.5	4.5	灰緑色	珪質頁岩	
4	剥片	1.5	1.0	0.2	2.0	茶褐色	チャート	
5	剥片	1.6	1.0	0.2	3.0	茶褐色	チャート	
6	剥片	1.9	1.3	0.6	1.1	黒色	チャート	
7	礫片	2.8	4.0	1.1	11.6	暗灰色	安山岩	
8	礫片	6.3	4.5	1.7	40.0	暗灰色	安山岩	接合資料
9	敲石	—	—	—	7.6	暗灰色	安山岩	
10	礫片	3.7	4.2	1.6	25.6	暗灰色	砂岩	
11	礫片	3.8	3.9	1.7	26.3	褐色	玉髓	接合資料
12	剥片	4.3	3.2	0.7	8.4	灰色	チャート	
13	礫片	6.1	5.0	1.1	26.2	暗灰色	安山岩	
14	剥片	2.4	1.9	0.6	2.1	灰褐色	珪質頁岩	
15	剥片	2.3	1.8	0.6	1.7	灰褐色	珪質頁岩	
16	剥片	1.9	1.5	0.8	2.5	黒色	黒曜石	
17	剥片	1.8	1.5	0.5	1.2	黒色	黒曜石	
18	礫片	4.3	3.6	2.4	32.4	灰白色	砂岩	
19	細石刃	1.8	0.4	0.2	2.0	灰緑色	珪質頁岩	
20	石斧	7.5	5.7	1.5	90.0	灰黒色	安山岩	
21	ナイフ形石器	5.3	2.2	1.2	10.6	茶褐色	安山岩	
22	敲石	9.1	6.3	4.2	330.0	暗灰色	砂岩	
23	敲石	6.9	5.8	1.6	80.0	灰褐色	砂岩	



第41図　縄文土器拓影図（1/3）

第3項　小　結

先土器時代

石器ブロックとしては，2ケ所確認されている。しかし，集中度は弱く，出土層位にも幅がある。製品は少なく，礫，剝片がほとんどである。石器として注目すべきものは，Ⅶ層出土の局部磨製石斧である。片面に，自然面を残す円礫片の剝離面に調整を施している。刃部が磨かれている。刃部には，自然面側にも剝離がみられるが，使用による剝離の可能性がある。石質は砂岩である。

成田市新東京国際空港No.55遺跡から，ほぼ同形の局部磨製石斧が出土している。扁平な円礫片を使用し，刃部を一部研磨している。石質は細粒砂岩である。(1)

また，グリッド出土であるが，細石刃が出土している。石質は珪質頁岩である。細石刃も，新東京国際空港No.52遺跡から出土している。石質は黒曜石である。

先土器時代の遺跡は，下総台地中央部に多く分布しているが，本跡の調査により，成田市以南木戸川と高谷川に狭まれた尾根状台地にも，立川ロームⅦ層からⅢ層までの先土器時代全時期にわたって遺跡が存在する可能性が明らかになった。

縄文時代

縄文時代の遺構は検出されなかった。また，出土した土器も少量であった。時期は，中期～後期である。密度は薄いと考えられるが，近隣に中期～後期の集落跡が存在する可能性がある。

注 (1) 西野　元他　『三里塚－新東京国際空港用地内における考古学的調査－』　昭和46年

第４章　遠山天ノ作遺跡

第１項　調査の方法と概要

１.調査の方法

遠山天ノ作遺跡は，山武郡横芝町遠山字天ノ作に所在する。発掘調査は第１次，第２次の２回に分けて行われた。第１次調査は，昭和54年４月１日から同年６月９日にかけて実施された。第２次調査は，昭和58年４月１日から同年５月10日にかけて実施された。調査対象地が，道路敷地内に限られていたため，20m毎に設地されている道路の中心杭を基準にグリッドを設定した。

第１次調査は，中心杭№500より南の地区が対象地であった。中心杭は№505と№506を結んだ直線を基準線として，杭の両側10mと杭間の20mを20×20mの大グリッドとした。大グリッドは，北よりＡ１からＡ10とした。また，大グリッドの中を第　図グリッド分割図のように，北西から東へ00～09，北西から南へ00～90とし，99までの２×２mの小グリッドを設定した。

第１次発掘調査は，大グリッドの南北方向の中心線と，その両側３m間隔に，２m幅のトレンチを設定して，ソフトローム層上面まで，発掘し，遺構，遺物の検出を行った。

第１次発掘調査では，明確な遺構は検出されず，縄文土器を少量検出しただけであった。

上層遺構の確認の後，先土器時代の確認調査を行った。２×２mのグリッドを設定して，武蔵野ローム層上面まで発掘し，遺構，遺物の検出を行った。石器検出後，グリッドを拡張し，精査，記録（実測，写真撮影など）を行った。

第２次調査は，中心杭№500より北の地区が対象であった。中心杭№495と№496を結んだ直線を基準線として，20×20mの大グリッドを設定した。基準線の東側大グリッド列をＡ，西側大グリッド列をＢとし，北端から１～11とした。また，大グリッドを第43図グリッド分割図のように５×５mの小グリッドを設定し，北東端から南へ，順に01から12までとした。

第１次調査と第２次調査では，グリッドの方向が異っている。これは，全調査区から北西にゆるくカーブしているためである。調査区外に杭が設置できないため，最長の直線になる中心杭を結んだ直線を基準線としたためである。このため，第１次調査と第２次調査では，基準線の方向が異り，グリッドの方向が異る結果となった。

第２次発掘調査は，グリッドの南北方向を基準に２m幅のトレンチを設定して，ソフトローム層上面まで発掘し，遺構，遺物の検出を行った。

第２次発掘調査においても，明確な遺構は検出されなかった。

上層遺構の確認の後，先土器時代の確認調査を行った。２×２mのグリッドを設定して，武蔵野ローム層上面まで発掘し，遺構，遺物の検出を行った。石器検出後，グリッドを拡張し，

第42図　遺跡周辺地形図（1/5,000）

精査，記録（実測，写真撮影など）を行った。

実測は平板測量を基本とした。写真撮影には，４×５ inch，６×７cm，35mmの白黒，および35mmカラースライドを使用した。

遺物は，先土器時代石器および縄文土器，石器である。遺物には出土グリッド番号を付して，遺物番号を付した。整理作業においても，発掘で採用したグリッド番号，遺物番号を使用した。

また，第１次調査では，道路中心杭№505とＡ６－05，№507とＡ７－05が対応する。第２次調査では，中心杭№495と６Ｂ－01，№496と７Ｂ－01が対応している。

２．土　層

第43図の土層断面図は，第１次調査が，Ａ４－19の東側壁，第２次調査が，５Ａ－14の北側壁の断面図である。標高は，各々約42mである。土層は以下のとおりである。

Ⅰ　層……耕作土，黒色土

Ⅱ　層……黒褐色土

Ⅲ　層……立川ローム層，いわゆるソフトローム層で暗赤褐色を呈する。

Ⅳ～Ⅴ層……立川ローム層，褐色を呈する。

ソフト化が進み，分層は困難である。

Ⅵ　層……立川ローム層，橙褐色を呈し，クラックが発達する。

（ただし，第２次調査においては，Ⅳ～Ⅵ層は，Ⅳ，Ⅴ層のソフト化が進んでいたため分層が困難であった。）

Ⅶ　層……立川ローム層，暗褐色を呈する。第二黒色帯に比定できる。

Ⅷ　層……立川ローム層，硬質茶褐色で，立川最下層である。

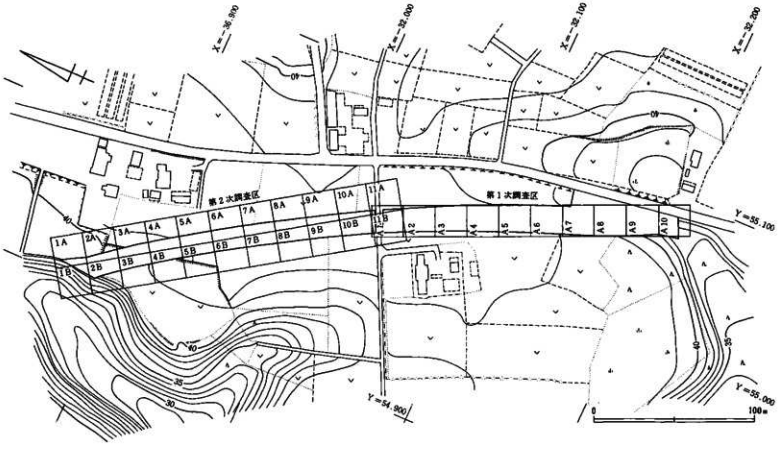
（第２次調査では，Ⅶ，Ⅷ層が全体に暗褐色で，分層が困難であった。）

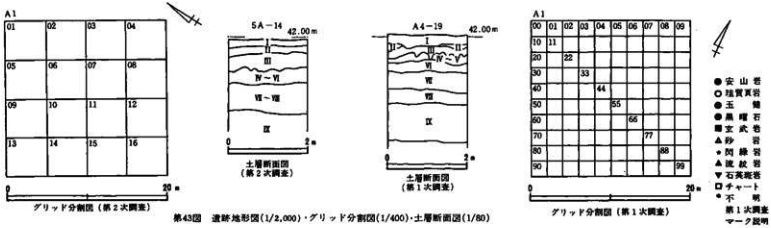
Ⅸ　層……武蔵野ローム層，暗茶褐色で硬質。粘性がある。

３．調査の概要

本遺跡は，木戸川と高谷川にはさまれた，標高30～40mの尾根状の台地上に位置する。調査区は台地の平坦部で，尾根状台地の中央部である。明確な遺構は検出されなかった。

第１次調査では，先土器時代の石器ブロックが３ヶ所，および，少量の縄文土器が検出されている。第２次調査では，先土器時代の石器ブロックが４ヶ所検出されている。





第43図　遺跡地形図(1/2,000)・グリッド分割図(1/400)・土層断面図(1/80)

第2項　遺構と遺物

1．第1次調査

（1）先土器時代

第1次調査では，先土器時代の石器ブロックが4ヶ所確認されている。

A2グリッド出土石器（第44・45図，表9，図版28）

出土状況

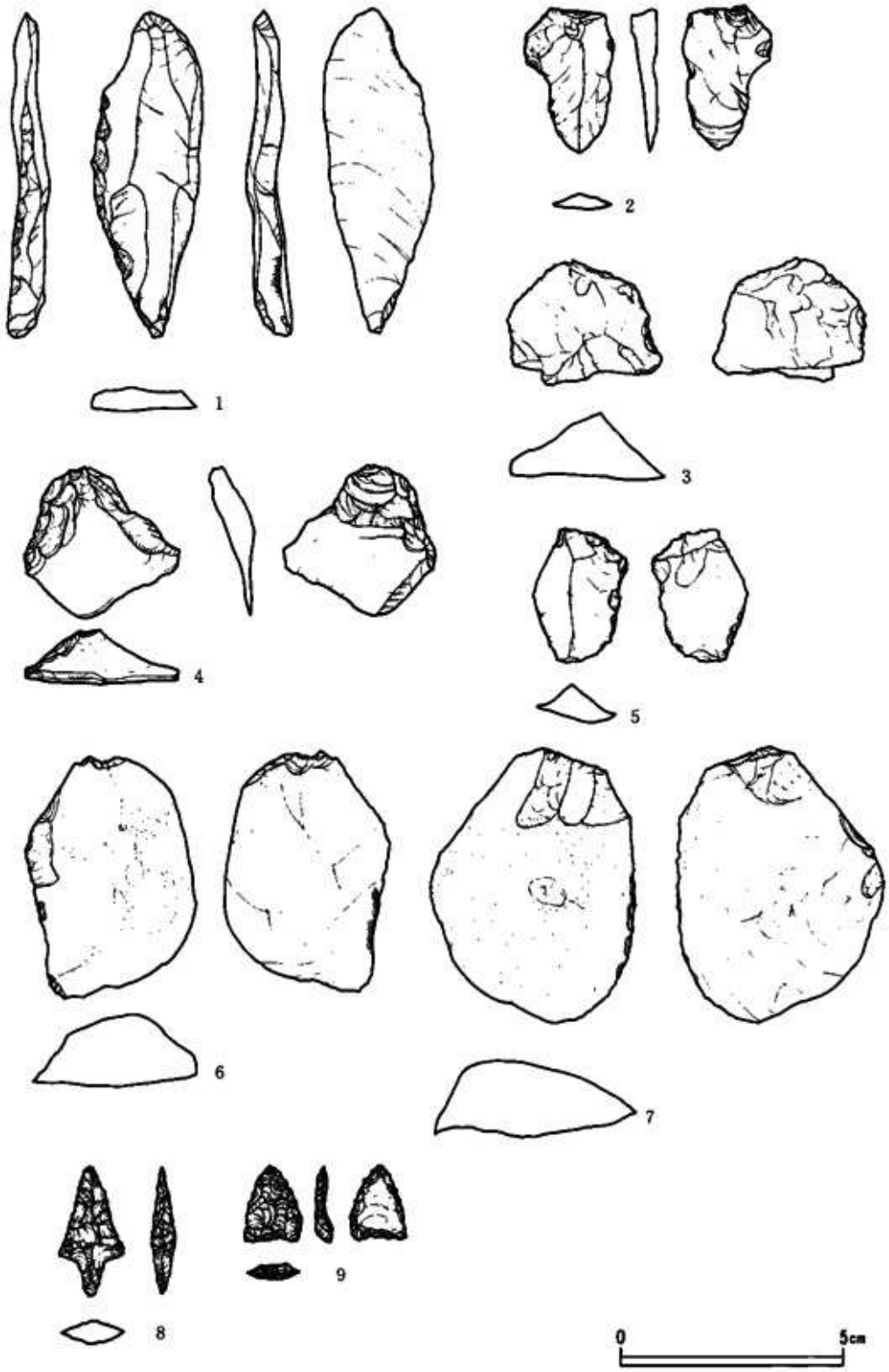
A2グリッドでは，1つのブロックが確認されている。石器の集中度は弱く，数も少ない。また，石質も多様である。石質は，チャート，珪質頁岩，玉髄，安山岩，砂岩，黒曜石である。出土層位は，Ⅲ層からⅥ層とかなりバラつきがあり，複数のブロックの可能性がある。

出土石器

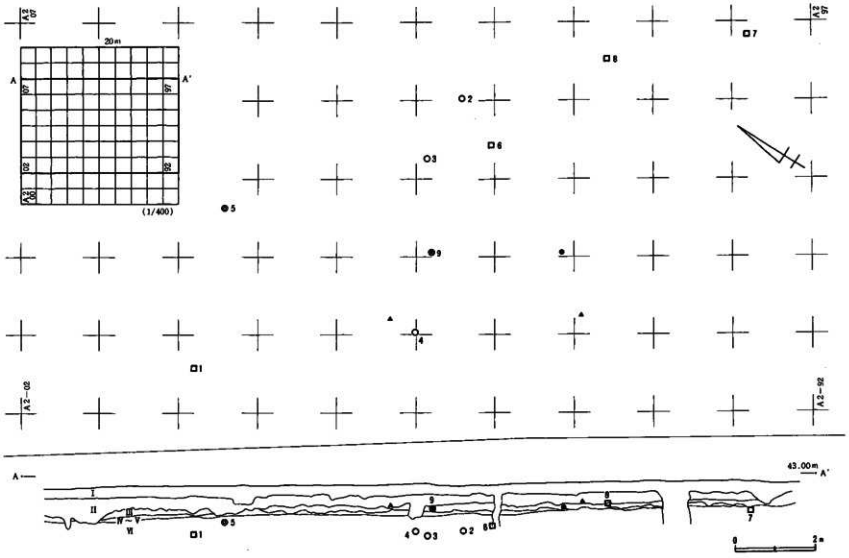
1は，ナイフ形石器である。石刃状剥片の表面，片縁に連続して調整を施してつくられている。また，基部とも細部調整が加えられている。断面は扁平な台形を示す。チャート質の石である。2～4は，珪質頁岩の剥片である。灰緑色を示す。2は，やや縦長の剥片である。3は，片面全体に剥離の痕跡があり，端部に使用痕がみられる。4はゆがんだ方形を示し，片面の両側に剥離の痕跡がある。出土層位，石質から原石は同一である可能性が強い。5は，玉髄の剥片である。やや縦長で，使用痕がみられる。6・7は，チャートの剥片である。礫片を利用し，片面に自然面を残す。自然面は風化のため褐色であるが，内面は黒色である。両者とも片側に使用痕がみられる。石質から同一原石と考えられる。8は有茎石鏃である。縦長の三角形の身部から細長い茎部が突出する。両面にていねいな調整が施され，断面は扁平な菱形である。石質はチャート。9は石鏃である。三角形を呈し，表面は全面に，裏面は周辺部に調整が施されている。石質は黒曜石である。

表9　A2グリッド出土石器表

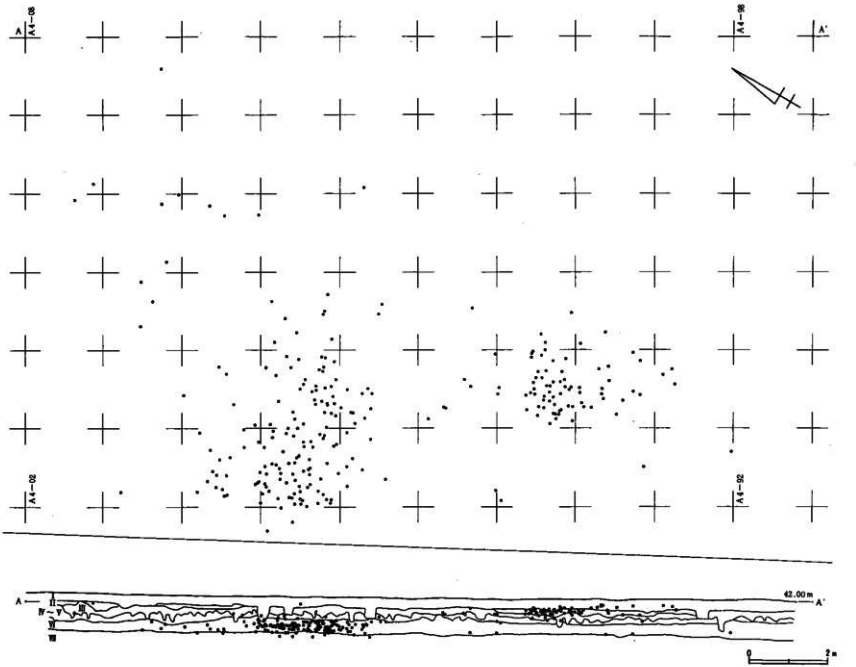
挿図番号	器種	計測値（cm）			重量(g)	色調	石質	備考
		長	幅	厚				
1	ナイフ形石器	7.3	2.2	0.6	10.9g	黒褐色	チャート	
2	剥片	3.2	2.0	0.6	2.6g	灰緑色	珪質頁岩	
3	剥片	2.7	3.4	1.4	11.6g	灰緑色	珪質頁岩	
4	剥片	3.3	3.5	1.1	6g	灰緑色	珪質頁岩	
5	剥片	2.9	2.0	0.7	4g	半透明	玉髄質	
6	剥片	5.3	3.8	1.6	26.5g	褐色	チャート	
7	剥片	6.1	4.7	1.7	45.9g	褐色	チャート	
8	有茎石鏃	3.9	1.5	0.5	1.3g	褐色	チャート	
9	石鏃	1.7	1.3	0.4	0.7g	黒色	黒曜石	



第44図　Ａ２グリッド出土石器実測図（2/3）



第45図　Ａ２グリッド石器出土状況図（1/80）



第46図　A４グリッド石器出土状況図(１)(1/80)

Ａ４グリッド出土石器（第46～57図，表10，図版28～32）

出土状況

Ａ４グリッドでは２つのブロックが確認されている。１つは第VI層を中心とし，他の１つは第III層が中心である。第47～49図は石質別の出土状況図である。第VI層を中心としたブロック（第47・48図）では，安山岩，珪質頁岩，玉髄，玄武岩の出土が多く，他に砂岩，石英斑岩，流紋岩の礫（片）が少量出土している。第III層を中心としたブロック（第49図）からは，砂岩，黒曜石が多く，メノウ，珪質頁岩，チャート，頁岩，閃緑岩の剥片，礫（片）が少量出土している。しかし，玉髄，珪質頁岩は第VI層を中心としたブロックに含まれると考えられる。剥片が多く，主剥離方向の長さが，幅より長いもの(縦形剥片)と，短いもの(横形剥片)がある。

出土石器

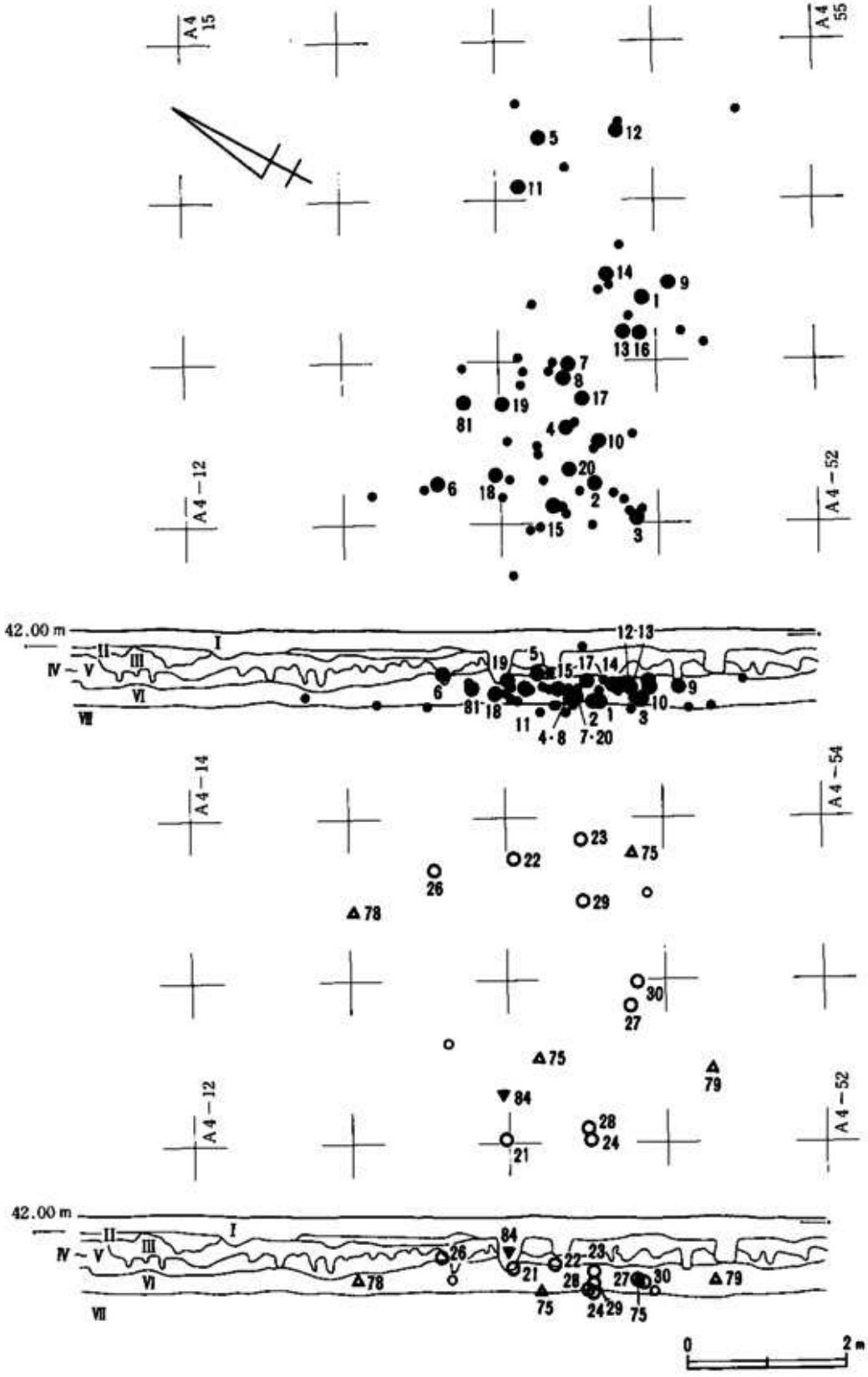
１～20は，安山岩の剥片である。接合資料はみられないが，外面の観察から同一原石の可能性が強い。色調は青灰色である。１～３は，一部に自然面を残す。２・４～６は，扁平で，ややゆがんだ方形を示す剥片である。７～11は，やや厚く，長方形を示す剥片である。７は，横形剥片であり，ナイフ形石器状の形になる。８～11も主剥離面は横方向である。12～15は，扁平で長方形をした剥片である。12・14・15が縦形剥片，13が横形剥片である。16～20は，小剥片で，16が横形剥片，17～20は縦形剥片である

21～30は珪質頁岩である。灰緑色を呈し，緻密である。接合資料はないが，同一原石の可能性が強い。21は長方形の扁平な剥片である。縦形剥片で，一部に自然面を残す。22も同様の剥片である。23は，横形剥片で，ナイフ形石器状である。24は，縦形剥片である。21・22・25は，扁平，23・24は断面三角形である。25は長方形で横形剥片である。26～30は小剥片である。26・27は断面が三角形，28～30は扁平である。

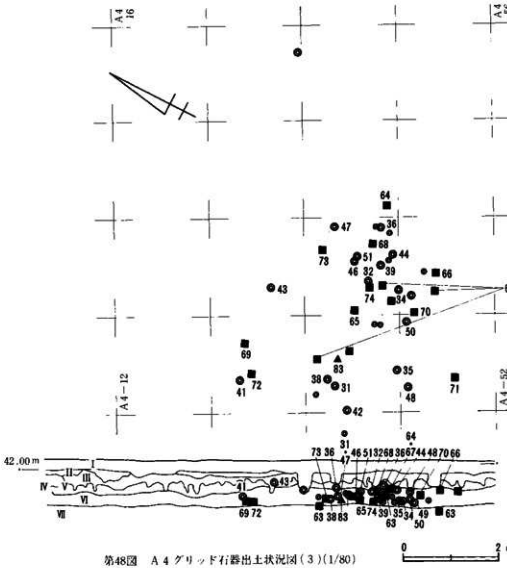
31～51は玉髄の剥片である。33は接合剥片である。黄褐色と乳白色の縞模様がみられ，斑点状に不純物がみられる。石質から，同一原石の可能性が強い。31は複数の方向からの剥離がみられる。32～36は，32・35・36は，断面が三角形である。37～39は，横形剥片である。40～51は小剥片である。41～49は，縦形剥片である。

52～62は黒曜石の剥片である。接合資料はないが，同一原石の可能性が強い。52は，横形剥片で，片面，片側に細かな調整がみられる。53は，台形状の剥片で，片面縁辺部に調整が施されている。54は，台形状で，両面に複数の剥離痕がみられる。55は，三角形状の横形剥片である。56は，三角形状の剥片である。横形剥片である。57～62は小剥片である。58は，縦形剥片である。

63～74は，玄武岩の剥片である。63は接合資料である。暗灰色で，断面は灰黒色である。すべて同一原石である可能性が強い。64～66・68・69は，縦形剥片である。67は，複数の方向の剥離痕がみられる。71・73・74は横形剥片である。74には自然面が残っている。



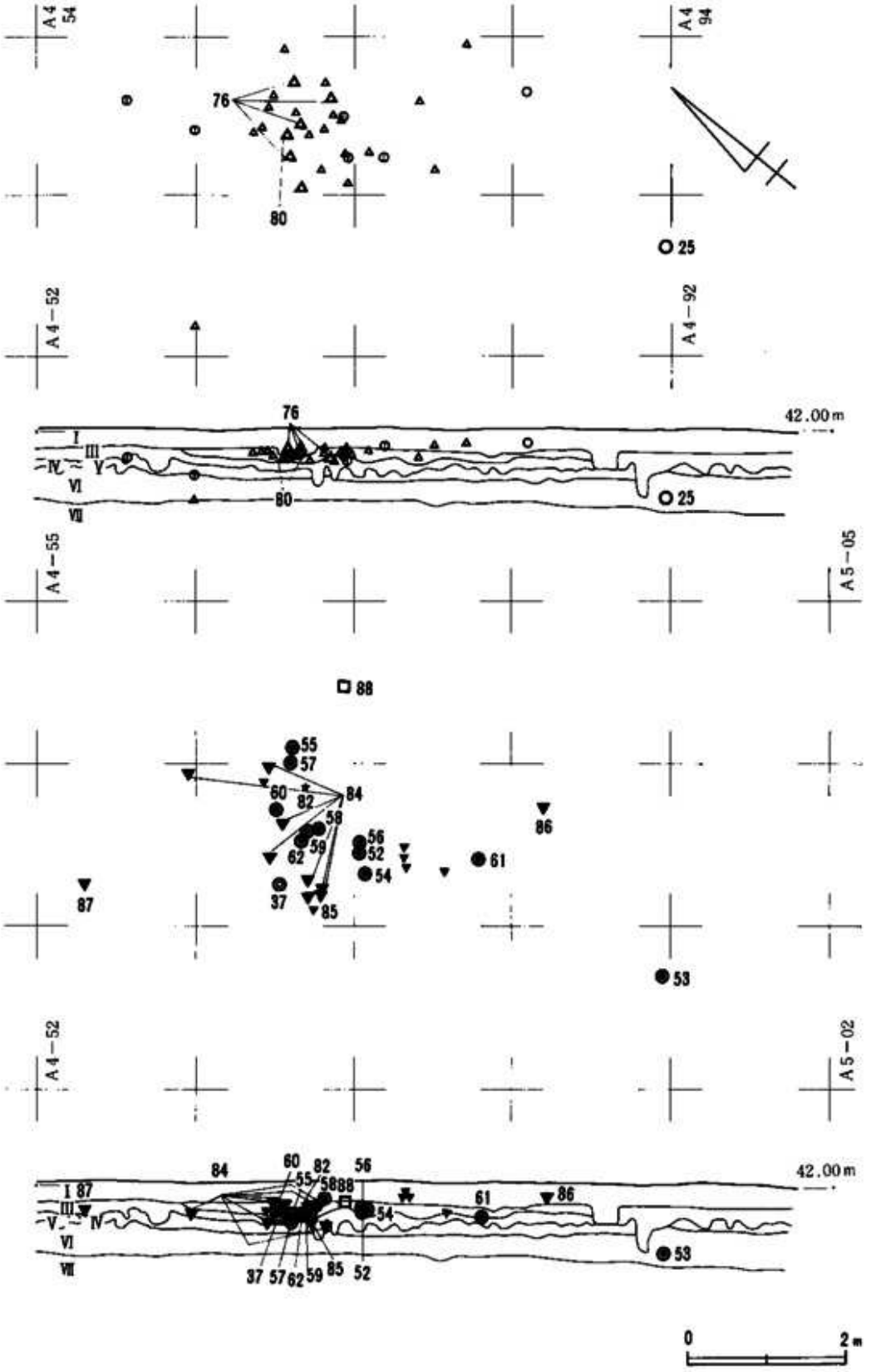
第47図　Ａ４グリッド石器出土状況図（２）（1/80）



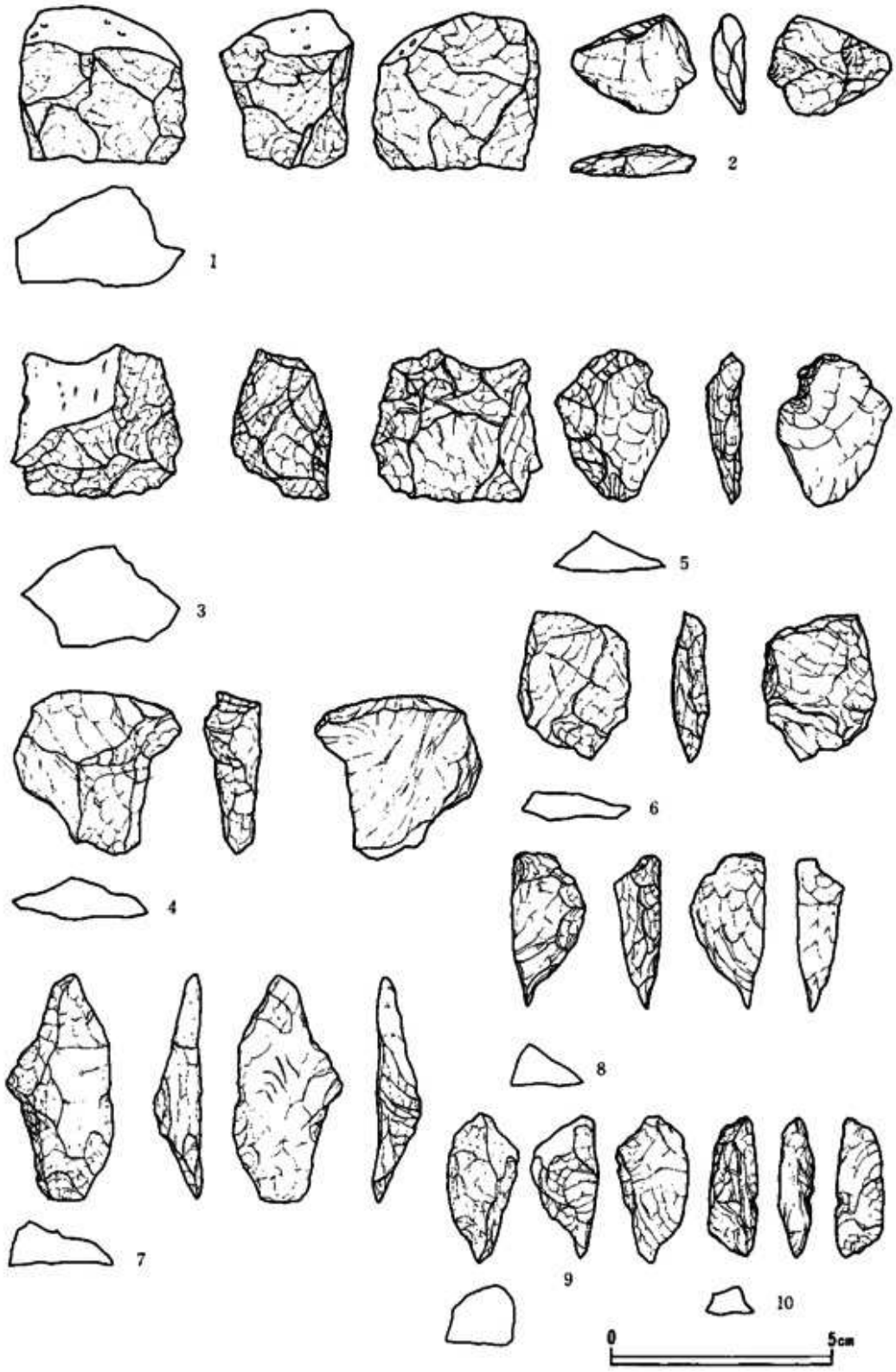
第48図　A4グリッド石器出土状況図(3)(1/80)

75～80は砂岩の礫，敲石である。75～79・80は，接合資料である。75・79・80は敲石で，打撃の跡がみられる。78は，大きなヒビが見られる。81～83は敲石である。81は安山岩，82は閃緑岩，83は流紋岩である。84～87は石英斑岩の敲石である。84は焼けた礫の接合資料である。85は，礫が縦割りにされたものである。75～87の礫は，すべて円礫であると考えられ，河原石の可能性が強い。

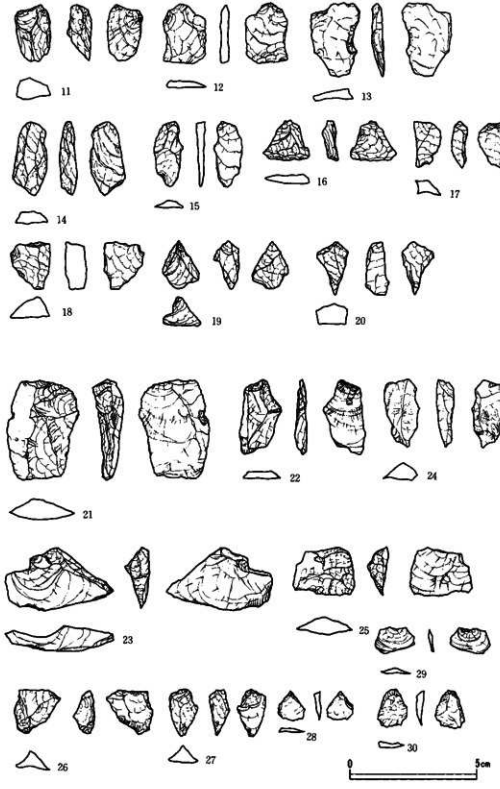
88はチャート片である。暗青灰色で，緻密である。直方体状で，全面に複数の剥離痕がみられる。



第49図　Ａ４グリッド石器出土状況図(４)(1/80)

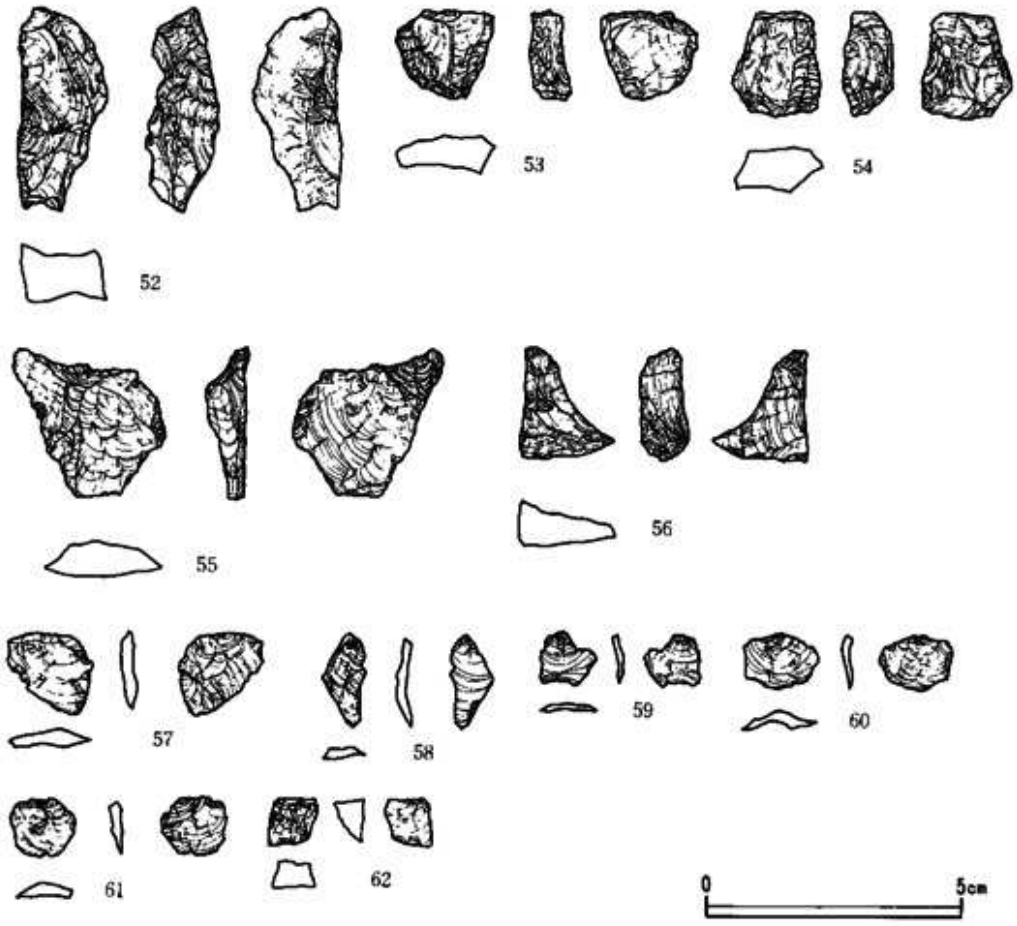


第50図　A 4 グリッド出土石器実測図（1）(2/3)

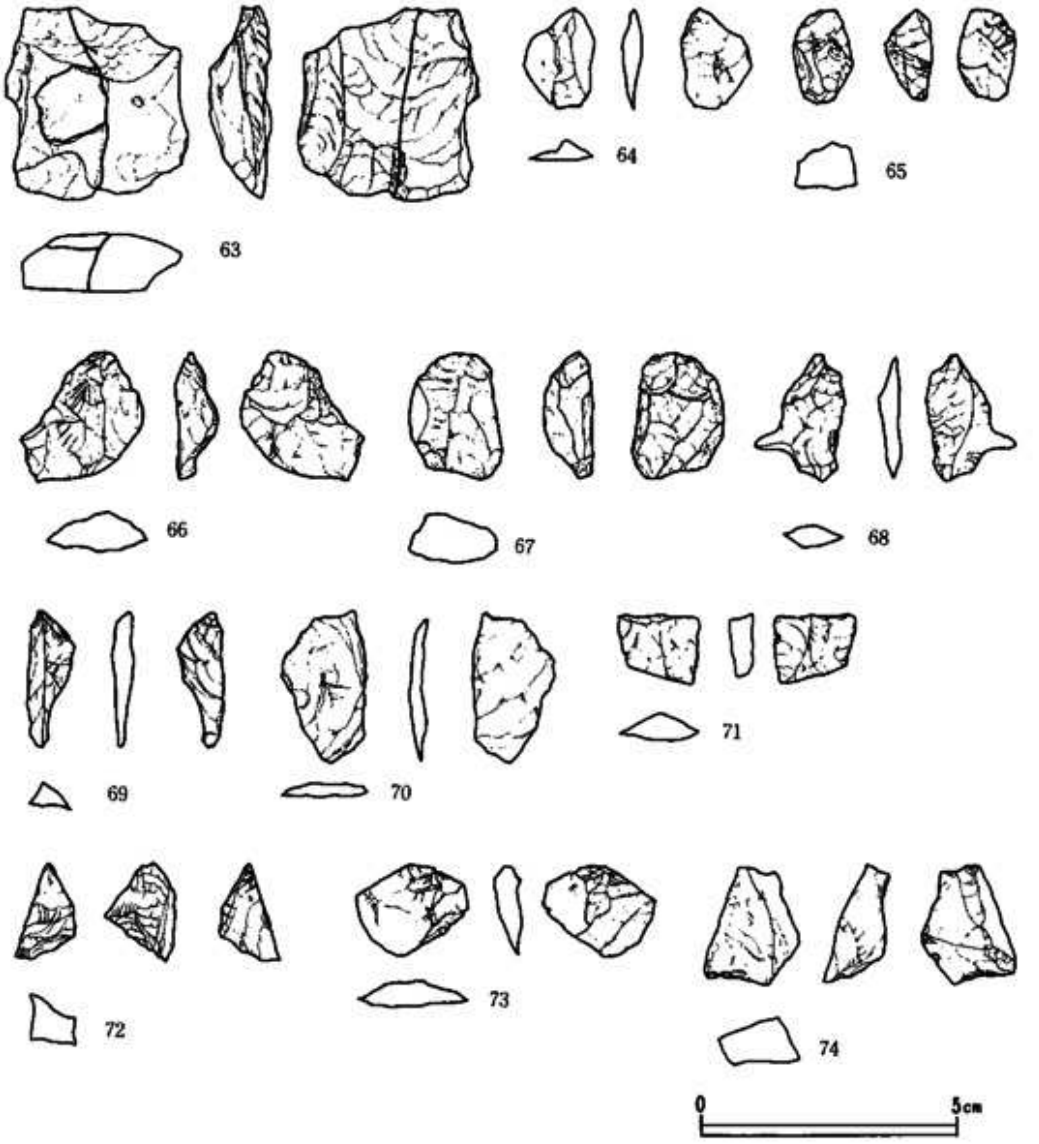


第51図　Ａ４グリッド出土石器実測図（２）(2/3)

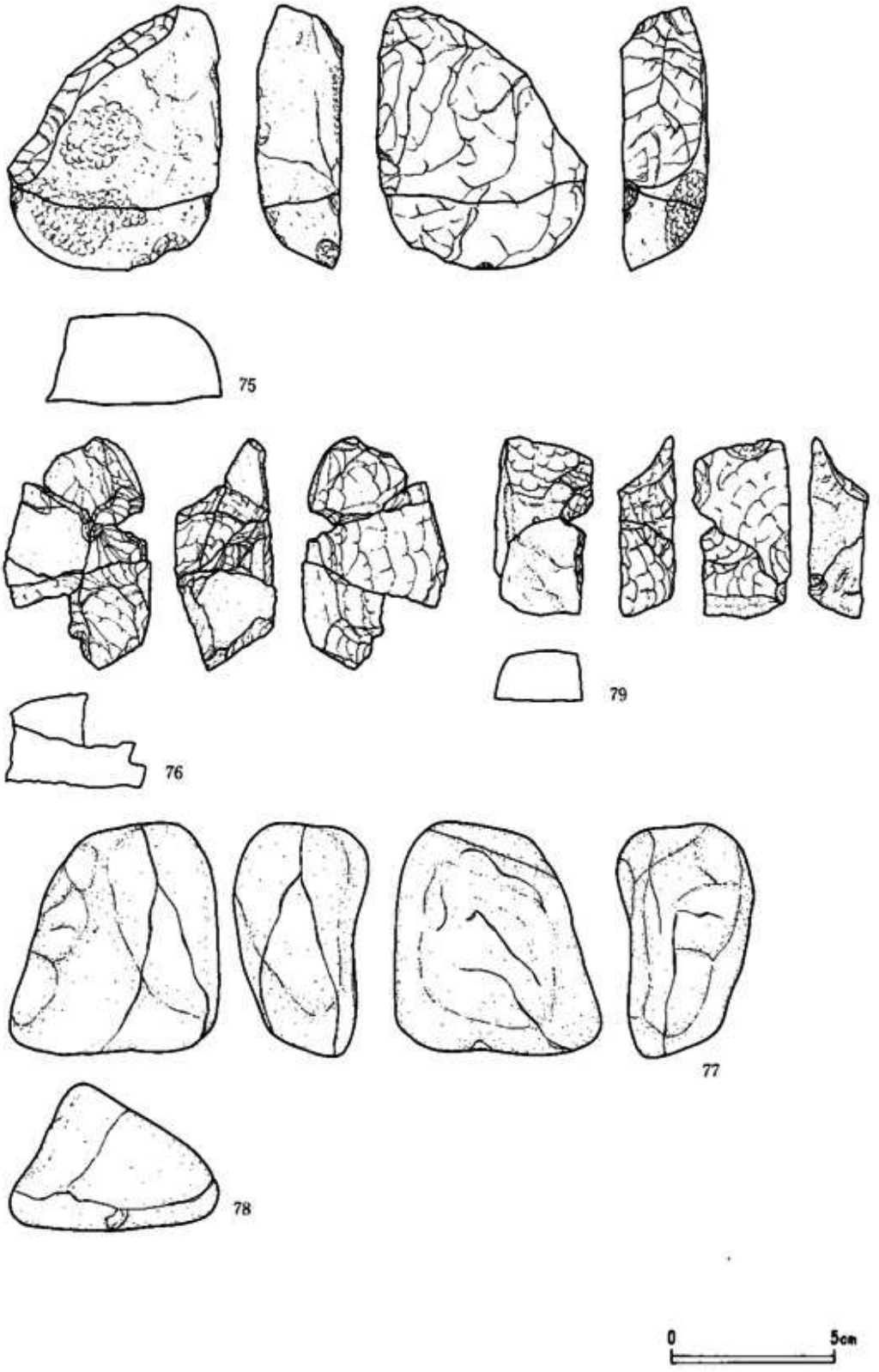
第52図　Ａ４グリッド出土石器実測図（３）（2/3）



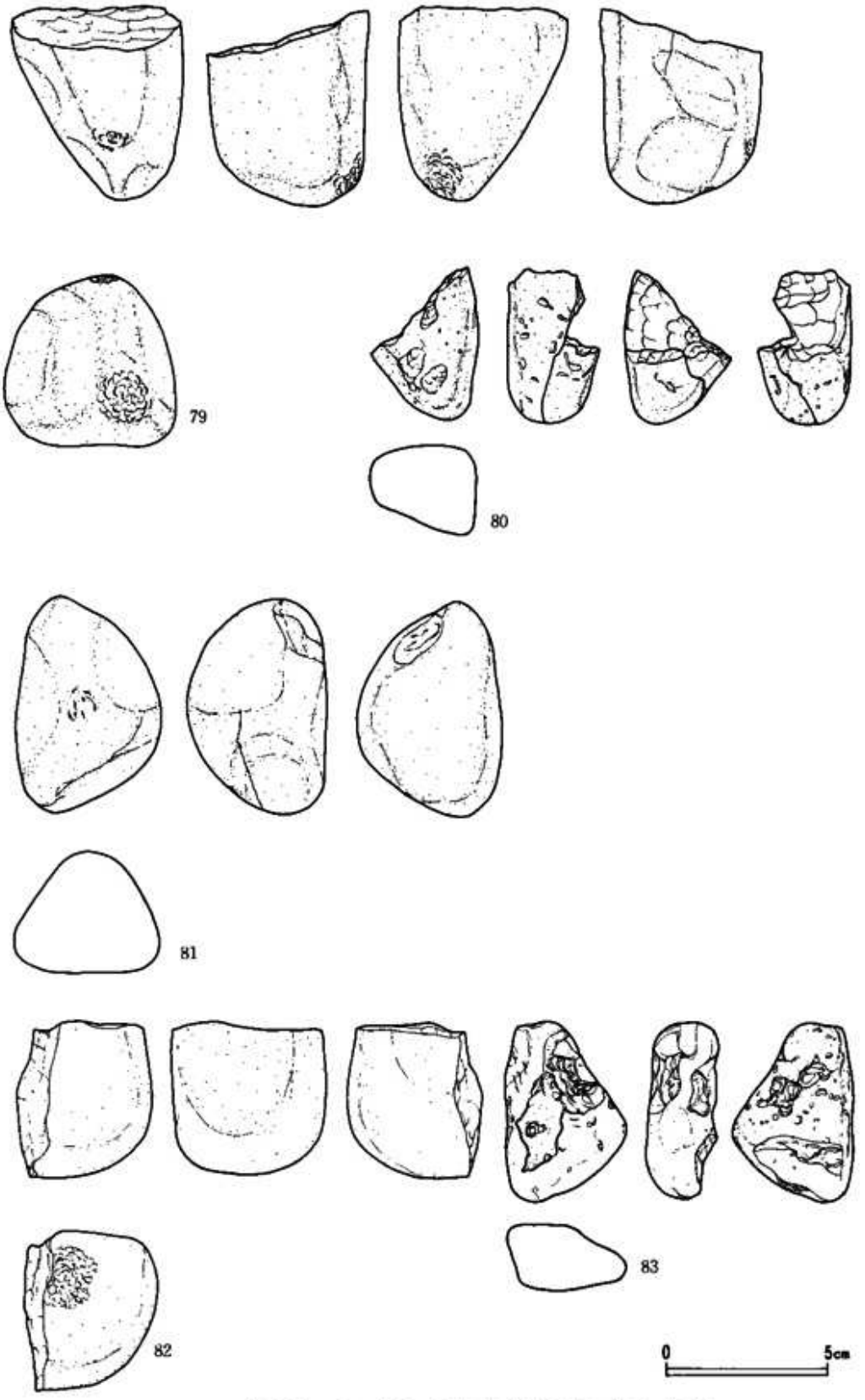
第53図　Ａ４グリッド出土石器実測図（４）(2/3)



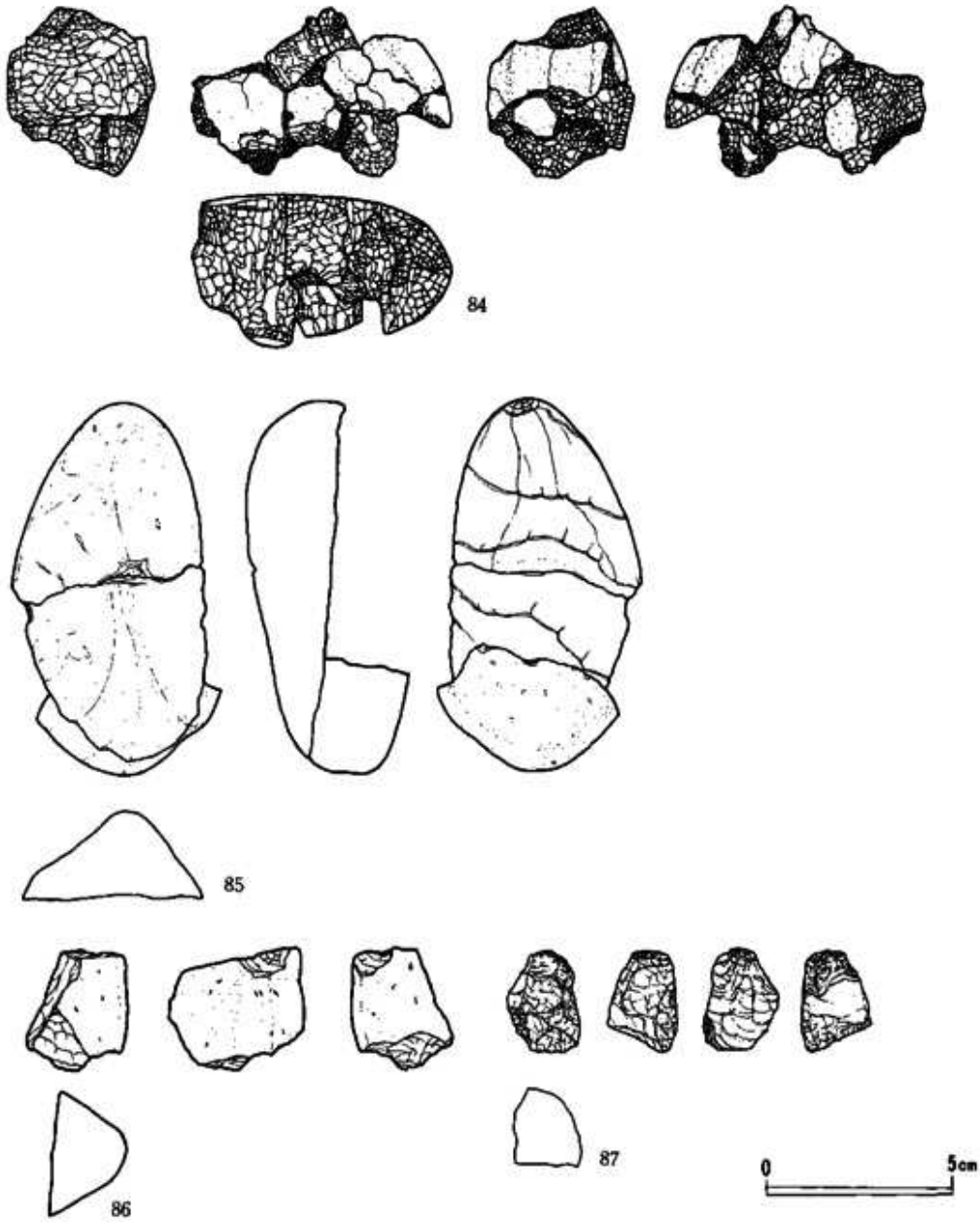
第54図　A 4 グリッド出土石器実測図（5）（2/3）



第55図　Ａ４グリッド出土石器実測図（６）（1/2）



第56図　A4グリッド出土石器実測図（7）(1/2)



第57図　Ａ４グリッド出土石器実測図（８）（1/2）

表10　A 4 グリッド出土石器表

挿図番号	器種	計測値(cm)			重量(g)	色調	石質	備考
		長	幅	厚				
1	剥片	3.6	3.8	3.0	49g	青灰色	安山岩	
2	剥片	2.3	2.9	0.7	3.9g	青灰色	安山岩	
3	剥片	3.4	3.9	2.2	26.7g	青灰色	安山岩	
4	剥片	3.6	3.8	1.4	12.6g	青灰色	安山岩	
5	剥片	3.3	2.5	0.7	5.1g	青灰色	安山岩	
6	剥片	3.3	2.6	0.8	6.4g	青灰色	安山岩	
7	剥片	5.0	2.4	1.0	7.4g	青灰色	安山岩	
8	剥片	3.4	1.7	1.0	4.5g	青灰色	安山岩	
9	剥片	3.3	1.6	1.5	2.6g	青灰色	安山岩	
10	剥片	3.1	1.1	0.6	2.3g	青灰色	安山岩	
11	剥片	2.2	1.3	0.8	2.7g	青灰色	安山岩	
12	剥片	2.5	1.6	0.3	1.6g	青灰色	安山岩	
13	剥片	3.0	2.0	0.4	2.5g	青灰色	安山岩	
14	剥片	1.3	2.9	0.5	2.1g	青灰色	安山岩	
15	剥片	2.5	1.1	0.3	0.9g	青灰色	安山岩	
16	剥片	1.6	1.8	0.3	1g	青灰色	安山岩	
17	剥片	1.8	1.1	0.4	1.1g	青灰色	安山岩	
18	剥片	1.8	1.6	0.8	2.3g	青灰色	安山岩	
19	剥片	1.8	1.4	1.1	1.5g	青灰色	安山岩	
20	剥片	2.0	1.2	0.8	1.9g	青灰色	安山岩	
21	剥片	3.8	2.7	0.7	8.7g	灰緑色	珪質頁岩	
22	剥片	2.6	1.7	0.3	1.7g	灰緑色	珪質頁岩	
23	剥片	2.3	3.3	1.1	6.4g	灰緑色	珪質頁岩	
24	剥片	2.6	0.7	1.3	1.9g	灰緑色	珪質頁岩	
25	剥片	1.8	2.4	0.8	2.6g	灰緑色	珪質頁岩	
26	剥片	1.7	1.8	0.8	1.6g	灰緑色	珪質頁岩	
27	剥片	1.8	1.1	0.7	1g	灰緑色	珪質頁岩	
28	剥片	1.1	1.1	0.1	0.3g	灰緑色	珪質頁岩	
29	剥片	1.0	1.6	0.1	0.3g	灰緑色	珪質頁岩	
30	剥片	1.4	1.2	0.15	0.6g	灰緑色	珪質頁岩	
31	剥片	2.9	2.9	1.1	7.3g	黄褐色・半透明	玉髓	
32	剥片	2.2	1.0	0.6	1.9g	黄褐色・半透明	玉髓	
33	剥片	1.7	2.3	1.0	3.3g	黄褐色・半透明	玉髓	接合剥片

挿図番号	器種	計測値(cm)			重量(g)	色調	石質	備考
		長	幅	厚				
34	剥片	3.0	2.4	0.8	4.9g	黄褐色・半透明	玉髄	
35	剥片	3.0	1.7	1.0	4g	黄褐色・半透明	玉髄	
36	剥片	2.9	1.7	0.9	5.4g	黄褐色・半透明	玉髄	
37	剥片	2.0	2.8	0.8	2.7g	黄褐色・半透明	玉髄	
38	剥片	1.4	2.1	0.6	2.1g	黄褐色・半透明	玉髄	
39	剥片	2.4	2.4	0.4	2.9g	黄褐色・半透明	玉髄	
40	剥片	2.4	2.2	0.4	2.1g	黄褐色・半透明	玉髄	
41	剥片	2.1	1.4	0.4	1.2g	黄褐色・半透明	玉髄	
42	剥片	1.8	1.0	0.6	0.8g	黄褐色・半透明	玉髄	
43	剥片	2.0	1.6	0.6	1.7g	黄褐色・半透明	玉髄	
44	剥片	1.8	1.3	0.4	1.1g	黄褐色・半透明	玉髄	
45	剥片	2.1	1.2	0.6	1.6g	黄褐色・半透明	玉髄	
46	剥片	1.6	0.9	0.4	0.7g	黄褐色・半透明	玉髄	
47	剥片	1.3	1.0	0.5	0.7g	黄褐色・半透明	玉髄	
48	剥片	1.8	0.8	0.4	0.6g	黄褐色・半透明	玉髄	
49	剥片	2.2	0.8	0.2	0.6g	黄褐色・半透明	玉髄	
50	剥片	1.6	1.6	0.2	0.7g	黄褐色・半透明	玉髄	
51	剥片	1.1	1.5	0.1	0.3g	黄褐色・半透明	玉髄	
52	剥片	4.0	1.8	1.1	8.1g	黒色・透明	黒曜石	
53	剥片	1.9	1.7	0.8	2.8g	黒色・透明	黒曜石	
54	剥片	2.1	1.8	0.9	3.7g	黒色・透明	黒曜石	
55	剥片	3.1	2.9	0.7	3.9g	黒色・透明	黒曜石	
56	剥片	2.1	1.9	0.9	2.6g	黒色・透明	黒曜石	
57	剥片	1.6	1.7	0.4	0.8g	黒色・透明	黒曜石	
58	剥片	1.3	0.9	0.2	0.3g	黒色・透明	黒曜石	
59	剥片	1.0	1.1	0.1	0.2g	黒色・透明	黒曜石	
60	剥片	1.1	1.5	0.2	0.3g	黒色・透明	黒曜石	
61	剥片	1.1	1.3	0.2	0.4g	黒色・透明	黒曜石	
62	剥片	0.9	1.0	0.5	0.6g	黒色・透明	黒曜石	
63	剥片	3.8	3.6	1.1	17.3g	暗灰色	玄武岩	接合剥片
64	剥片	2.0	1.4	0.4	0.7g	暗灰色	玄武岩	
65	剥片	1.8	1.2	0.9	2.2g	暗灰色	玄武岩	
66	剥片	2.5	2.9	0.8	3.4g	暗灰色	玄武岩	

挿図番号	器種	計測値(cm)			重量(g)	色調	石質	備考
		長	幅	厚				
67	剥片	2.4	1.7	0.9	4.3g	暗灰色	玄武岩	
68	剥片	2.4	1.6	0.4	1.2g	暗灰色	玄武岩	
69	剥片	2.6	0.9	0.5	0.7g	暗灰色	玄武岩	
70	剥片	2.9	1.7	0.2	1.4g	暗灰色	玄武岩	
71	剥片	1.3	1.6	0.5	1.2g	暗灰色	玄武岩	
72	剥片	1.8	1.2	0.9	1.9g	暗灰色	玄武岩	
73	剥片	1.7	2.3	0.4	1.8g	暗灰色	玄武岩	
74	剥片	2.3	1.9	0.8	3.5g	暗灰色	玄武岩	
75	敲石	8.0	6.5	2.7	180g	暗緑灰色	砂岩	
76	礫	6.9	4.4	3.9	77.7g	赤褐色	砂岩	接合資料
77	礫	5.3	2.7	1.5	38g	赤褐色	砂岩	
78	敲石	6.9	6.4	4.4	210g	褐色	砂岩	
79	敲石	6.8	5.3	5.1	196g	褐色	砂岩	
80	礫	4.6	3.3	2.8	46.3g	褐色	砂岩	
81	敲石	6.5	4.6	3.7	160g	褐色	砂岩	
82	敲石	4.7	4.2	5.0	157g	灰褐色	閃緑岩	
83	礫	5.5	3.7	3.0	52.3g	褐色	流紋岩	
84	礫	—	—	4.1	63g	赤褐色	石英斑岩	接合資料
85	敲石	9.4	5.3	2.5	112g	灰褐色	石英斑岩	
86	敲石	4.2	3.3	2.5	48.2g	灰褐色	石英斑岩	
87	敲石	3.0	2.8	3.7	30.9g	灰褐色	石英斑岩	
88	剥片	2.7	2.0	2.0	11.9g	暗青灰色	チャート	

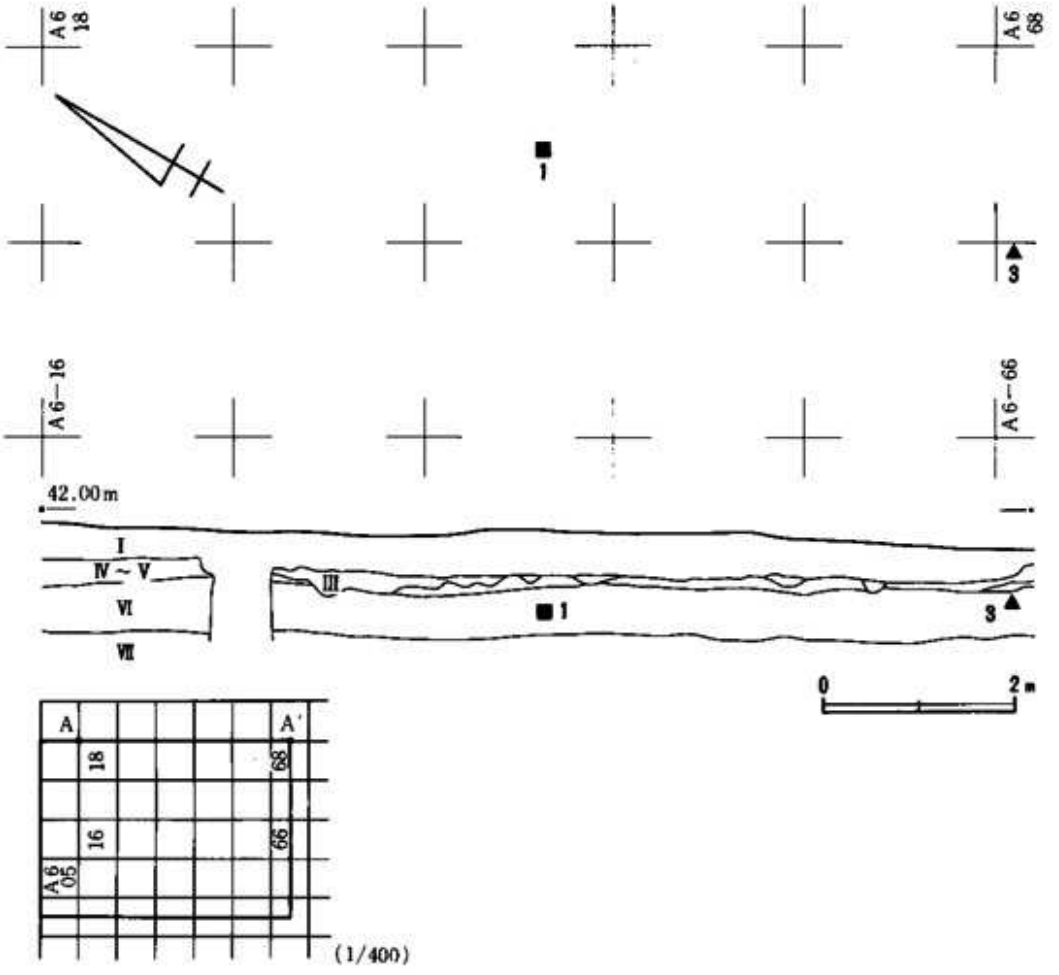
A 6 グリッド出土石器（第58・59図，表11，図版33）

出土状況

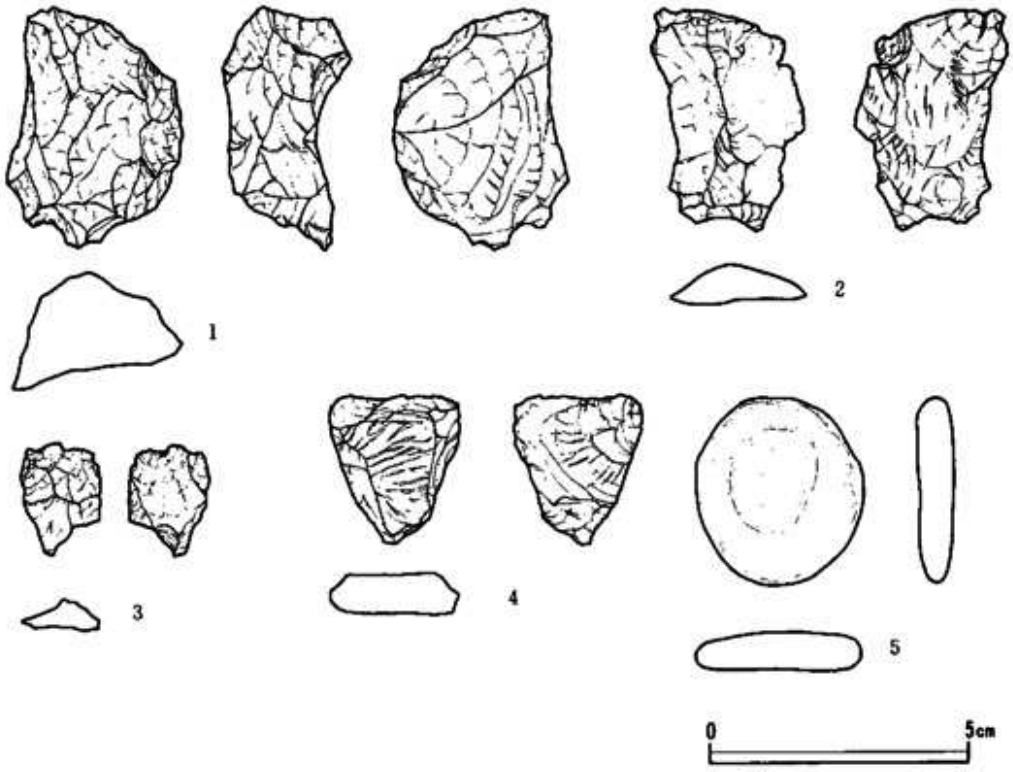
A 6 グリッドでは1ブロックが確認されている。第VI層からの出土である。しかし，石器の集中度，出土数も少ない。

出土石器

1～3は玄武岩の剝片である。1は，複数の方向からの剝離痕がみられる。2は長方形で，縦形剝片である。一部に自然面が残る。3は小剝片で，縦形剝片である。4は珪質頁岩の剝片である。三角形状で，断面は扁平な六角形である。横形剝片である。5は円盤状の礫である。石質は流紋岩である。全体に磨滅している。



第58図　A 6 グリッド石器出土状況図（1/80）



第59図　A 6 グリッド出土石器実測図（2/3）

表11　A 6 グリッド出土石器表

挿図番号	器種	計測値(cm) 長	幅	厚	重量(g)	色調	石質	備考
1	剥片	4.7	3.4	2.5	34.9g	暗灰色	玄武岩	
2	剥片	4.3	2.6	0.7	8.5g	暗灰色	玄武岩	
3	剥片	2.1	1.6	0.6	1.6g	暗灰色	玄武岩	
4	剥片	2.8	2.6	0.7	6.7g	青灰色	珪質頁岩	
5	礫	3.6	3.3	0.7	13g	黄褐色	流紋岩	

(2) 縄文時代

本遺跡において出土した縄文式土器は，すべて小破片であり，また遺構に伴う土器はなく出土点数も多いものではなかった。出土した層および地域もまとまりがなく，包含層として把えられるものでもなかった。時期的には縄文時代後期（加曽利B式）に比定される土器が主体となっている。以下に大別して説明を加える。

第１群土器（第60図１，図版34）

前期の土器で１点だけ出土している。１は比較的深い半載竹管による平行沈線と貝殻腹縁による押引文が施されている。胎土は細砂粒を含み，焼成は普通である。色調は褐色を呈する。興津式に比定される。

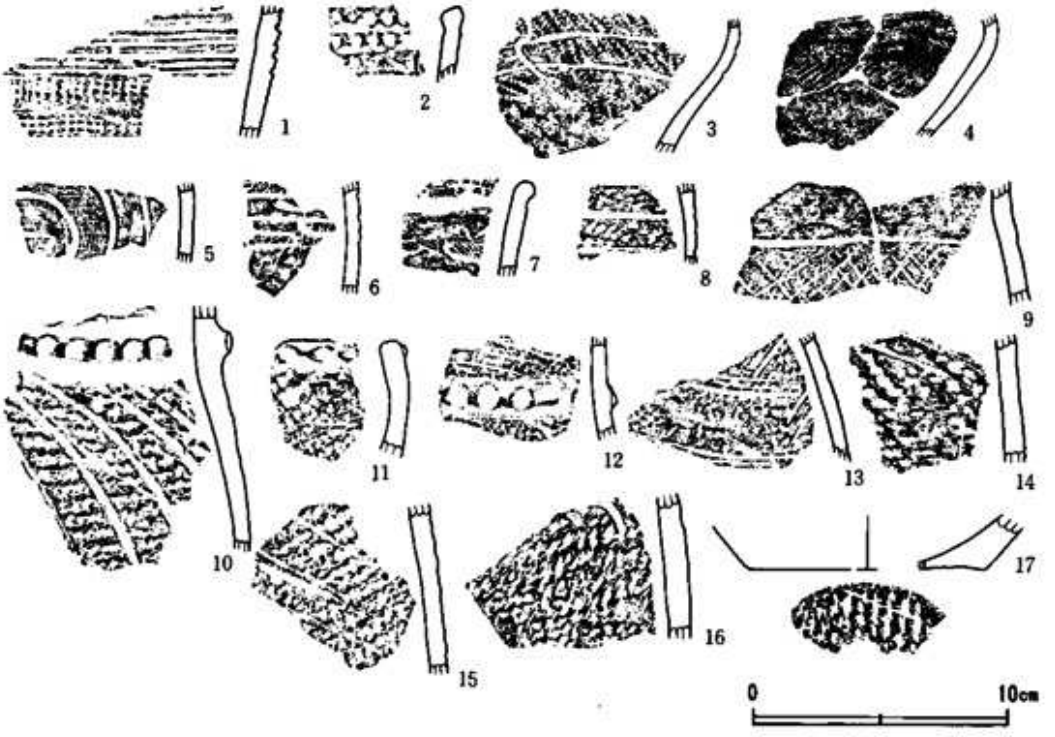
第２群土器（第60図２～17，図版34）

後期の土器で，本遺跡の主体をなすものである。

３～７はいわゆる精製土器である。３は浅鉢形土器の胴下半部で，ＲＬの縄文を地文として細い条線が施される。下端は磨消縄文となる。４は浅鉢形土器胴部で，ＬＲの縄文が帯状に施され，上下が磨消されている。５は同心円状の沈線間にＬＲの縄文が施文される。６・７は縄文を地文として，沈線を細かく区画するように施文し，磨消縄文の手法がとられている。７は口唇部に太い沈線が施してある。縄文は６がＬＲ，７がＲＬである。

２・８～16はいわゆる粗製土器である。２・10～12は押捺のある紐線を貼付け，粗い縄文を地文として条線が施されている。紐線は，２・11が口唇部，10・12が胴部に施されている。13～16も同様の特徴を有している。９は深鉢形土器の胴部で，横方向の沈線で区画された内側に格子状の条線を施している。

17は底部破片で，網代痕が認められている。平底で薄い底部である。



第60図　縄文土器拓影図（1/3）

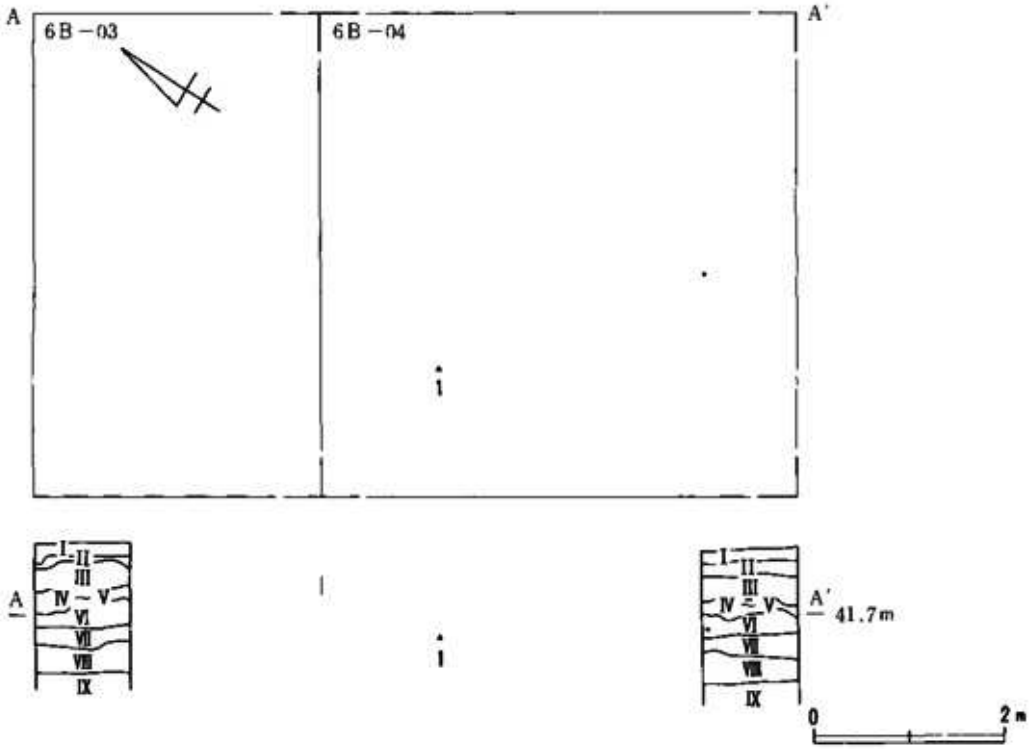
2．第2次調査

（1）先土器時代

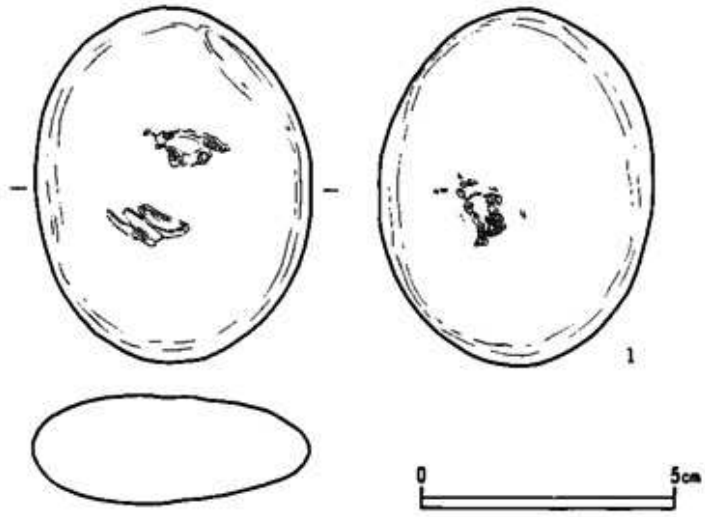
今回の調査も第1次と同様に先土器時代の石の集中地域が確認されたのみである。今回確認された石の集中地域は，第1次で確認されて地域からほぼ北へ約60mの距離にあり，6Bに1ヶ所，7Bに1ヶ所，8A・Bに2ヶ所の合計4ヶ所であり，ともに隣接して確認された。ここでは，これらの集中地域を4つの群に分類し，報告するものである。

第1群（第61・62図，表12，図版37）

6B－04グリッドの2m×2mの地域から検出されて2点のみの群である。第62図に示したものは敲石で，両面に使用痕が認められる。石質は砂岩である。



第61図　第1群石器出土状況図（1/80）



第62図　第1群石器実測図

表12　第1群石器表

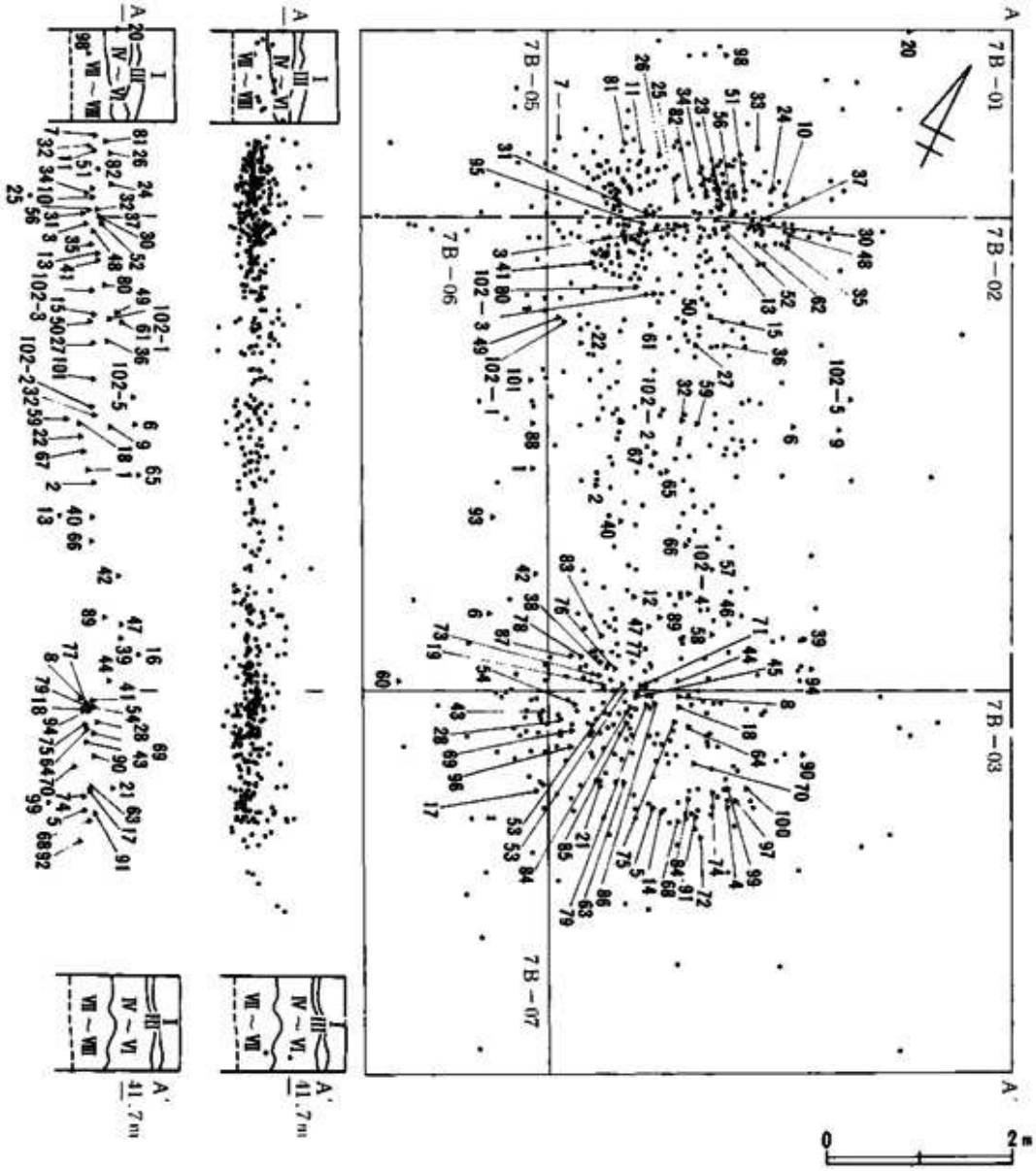
挿図番号	出土地区	計測値			重さ(g)	石質	名称	備考
		最大長(m)	最大幅(m)	最大厚(m)				
1	6 B－04	69.35	54.30	20.90	111.5	砂岩	敲打器	

第2群（第63～77図，表13，図版37～45）

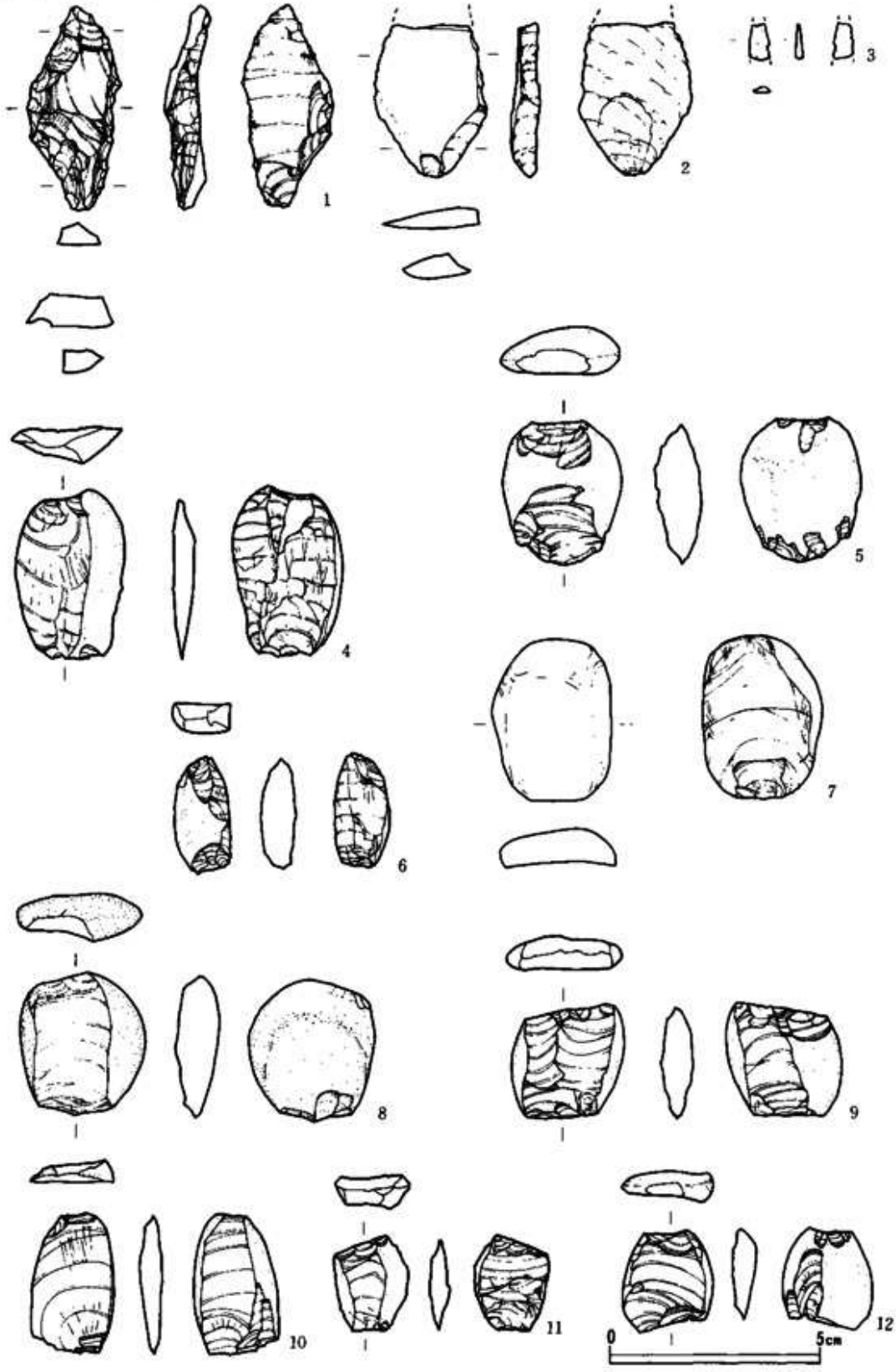
7B－01～03・05～07にわたる8m～12mの区域に検出されたもので，総数780点を数える。しかし製品としての石器はわずかである。

1は黒曜石の石刃状剥片※1を素材にしたナイフ形石器といわれるものである。背潰しが行なわれ，基部にも調整が加えられている。2は安山岩の石刃状剥片を素材にしたもので，刃部は作られていないが，形状，背部に調整が加えられていることからナイフ形石器としてもよいと考えられる。3はチャートを素材にした細石刃である。基部，先端部は欠損している。4～23は長径が5cm以下の小礫片である。いずれも長軸方向に打撃が加えられているが，両端に打点が認められ，台石を用いて打撃を加えたと考えられる。24～64もこれらと同様に打撃が加えられている中で，接合し原形を復原できるものである。これらの接合資料の多くは2つまたは3つに剝離（割るという表現が正しいとも考える）され，いずれもが接合するものである。まれに25の様に短軸方向に打撃が加えられるものも見られる。

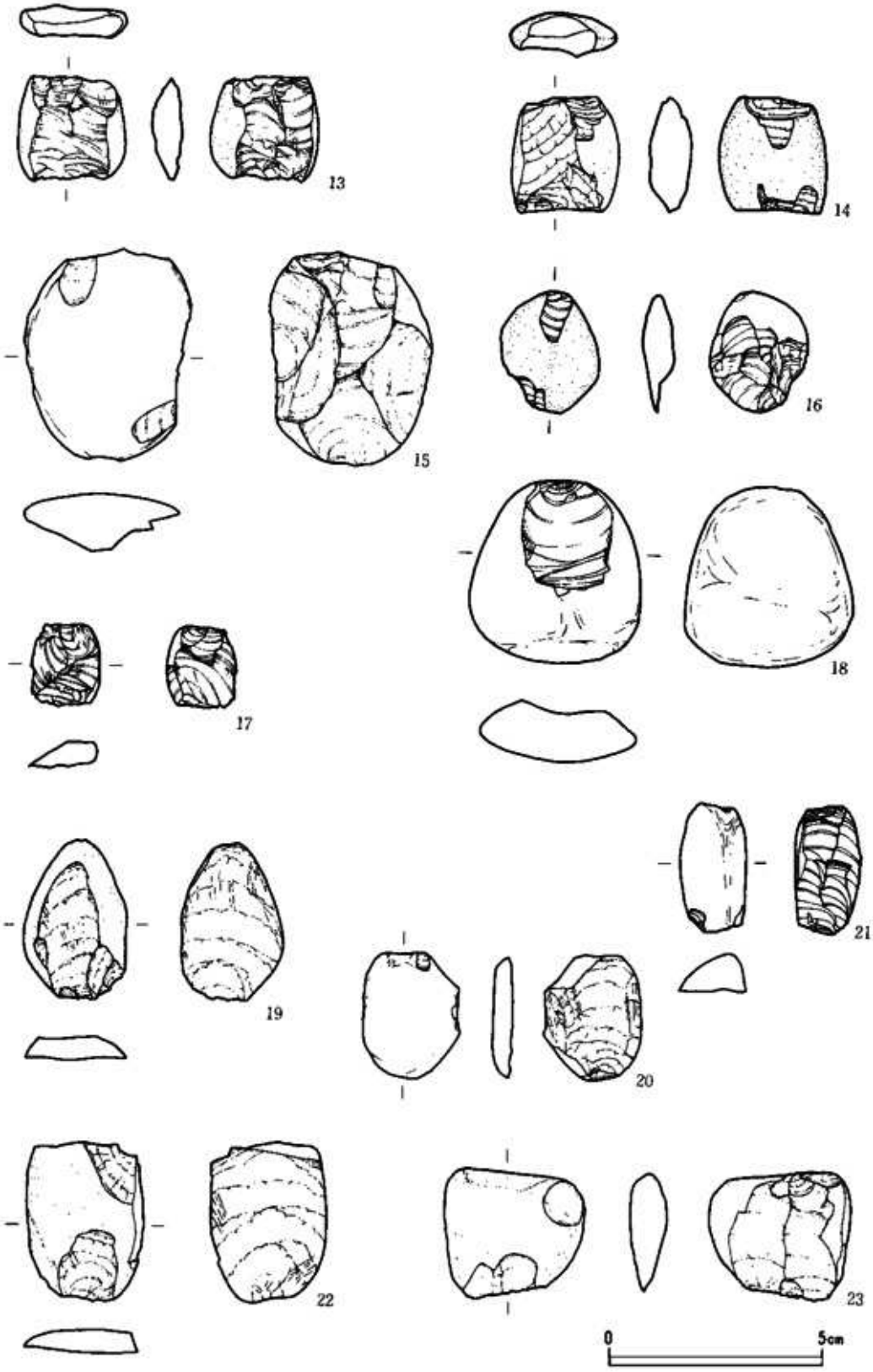
65～94はやや大きめの原石の接合を集めたものである。いずれも製品との接合はなく，剝片のみであった。また初期，または第1回の打撃によると思われる痕跡が見られることから敲石として使われていたことも考えられる。



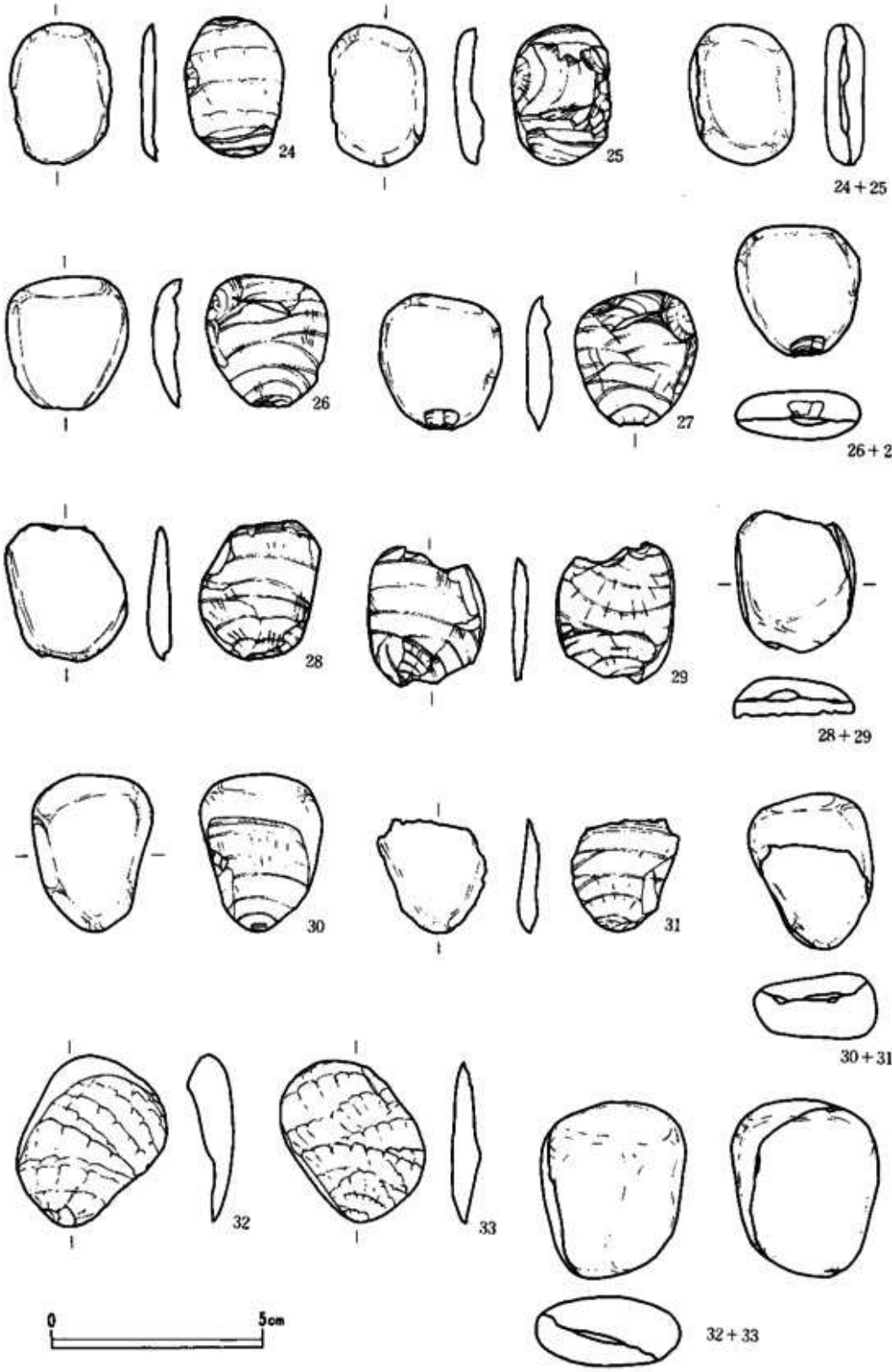
第63図　第２群石器出土状況図(1/80)



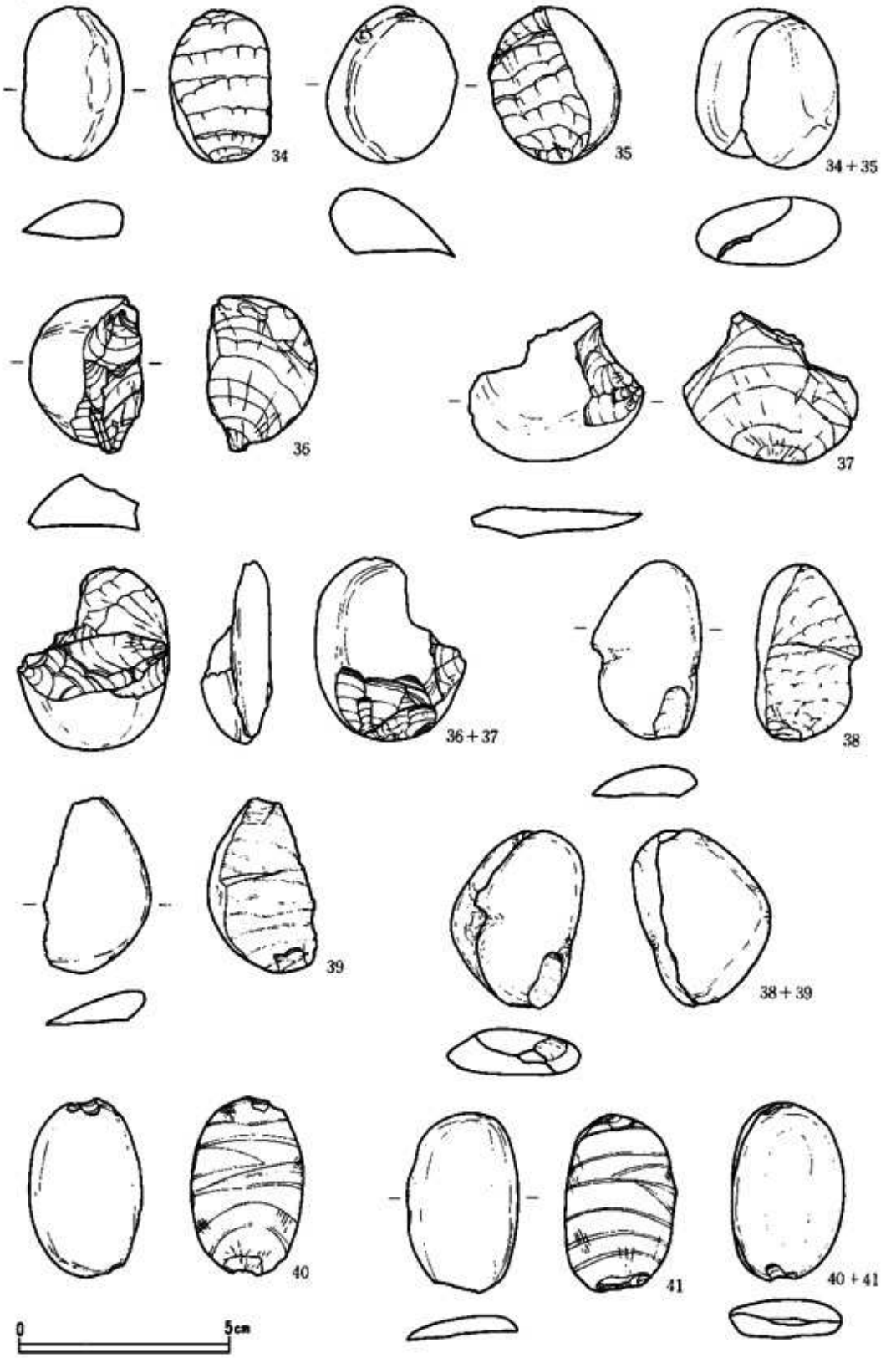
第64図　第２群石器実測図（１）（2/3）



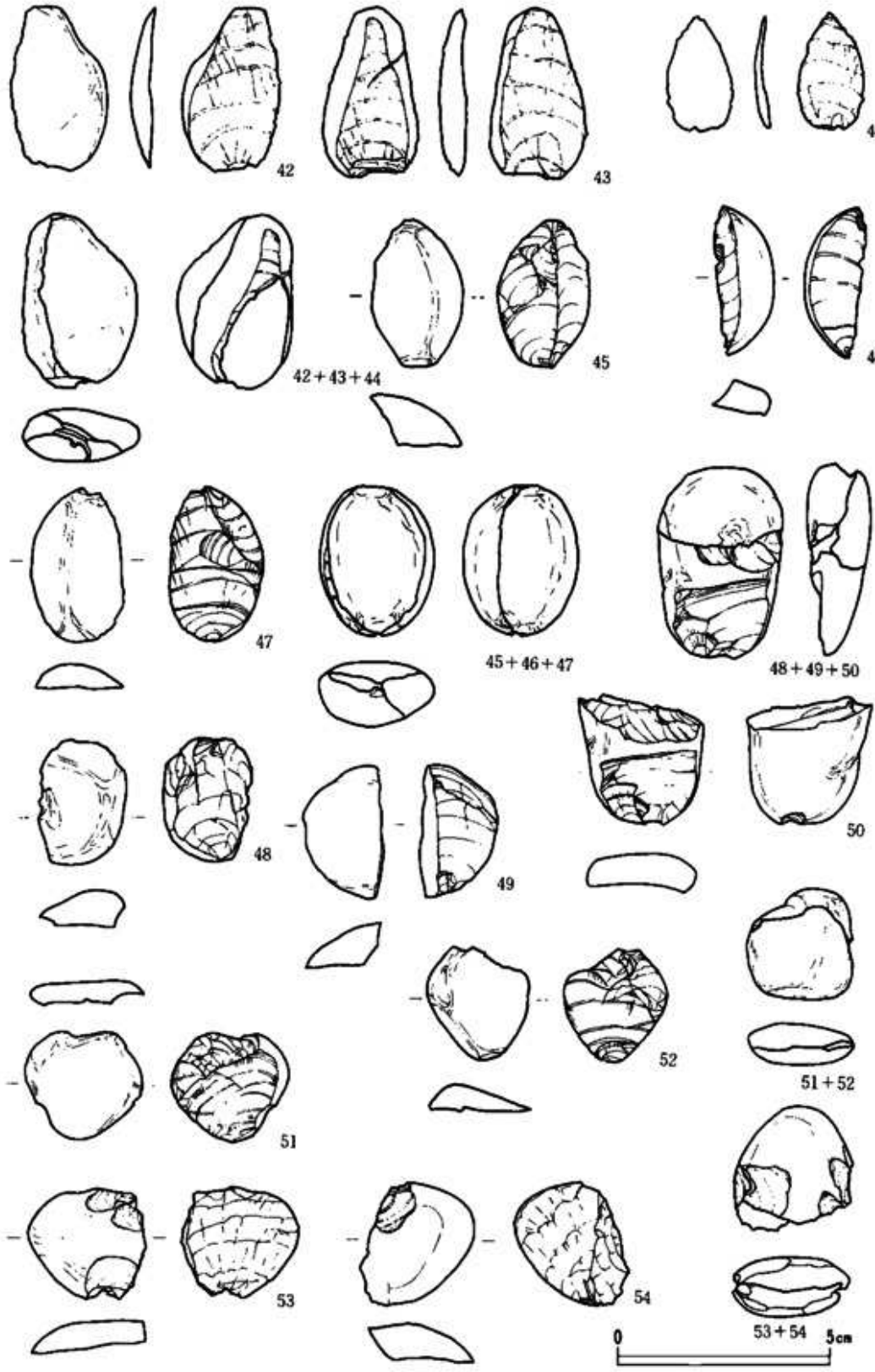
第65図　第２群石器実測図（２）(2/3)



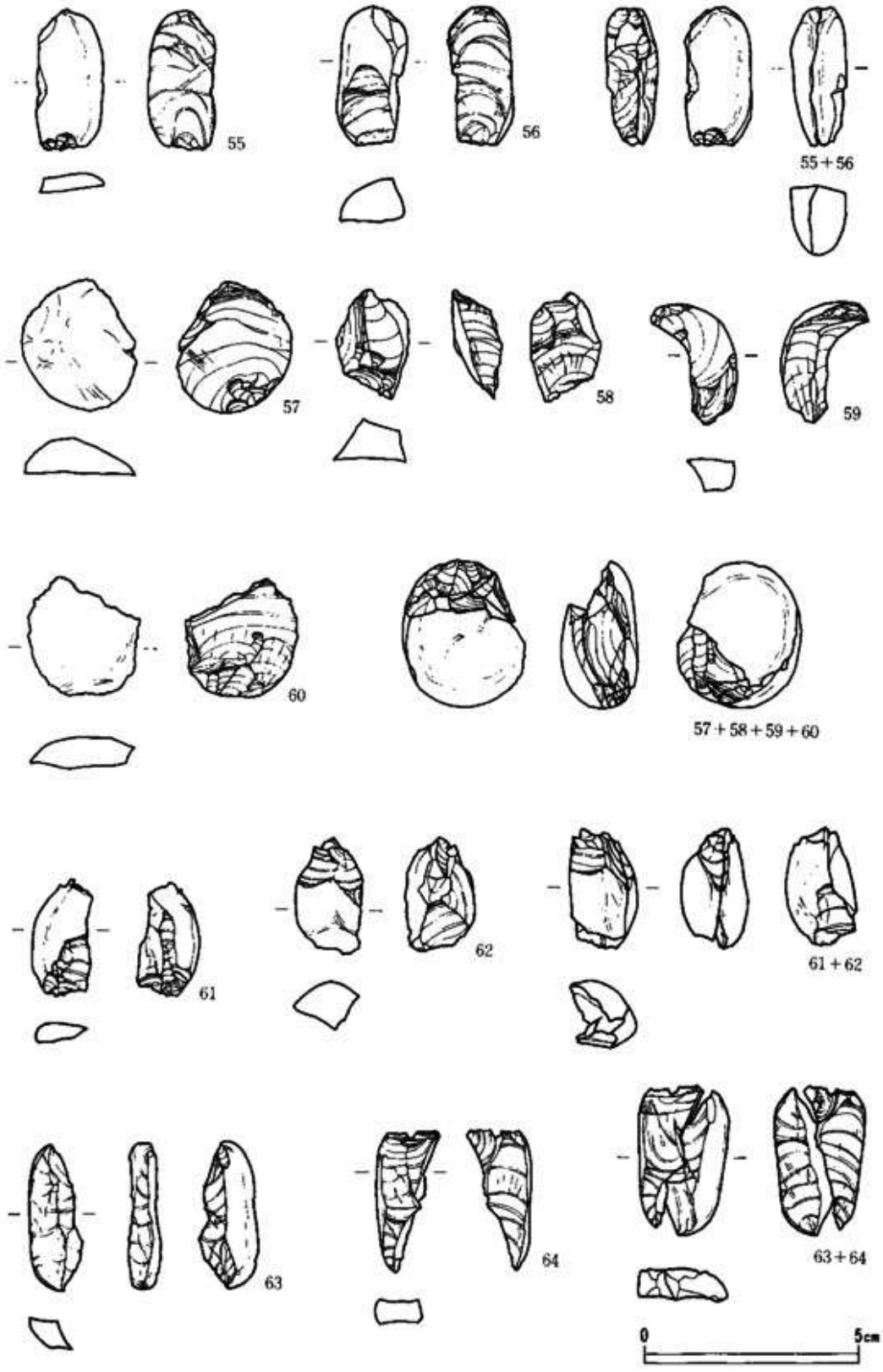
第66図　第２群石器実測図（３）（2/3）



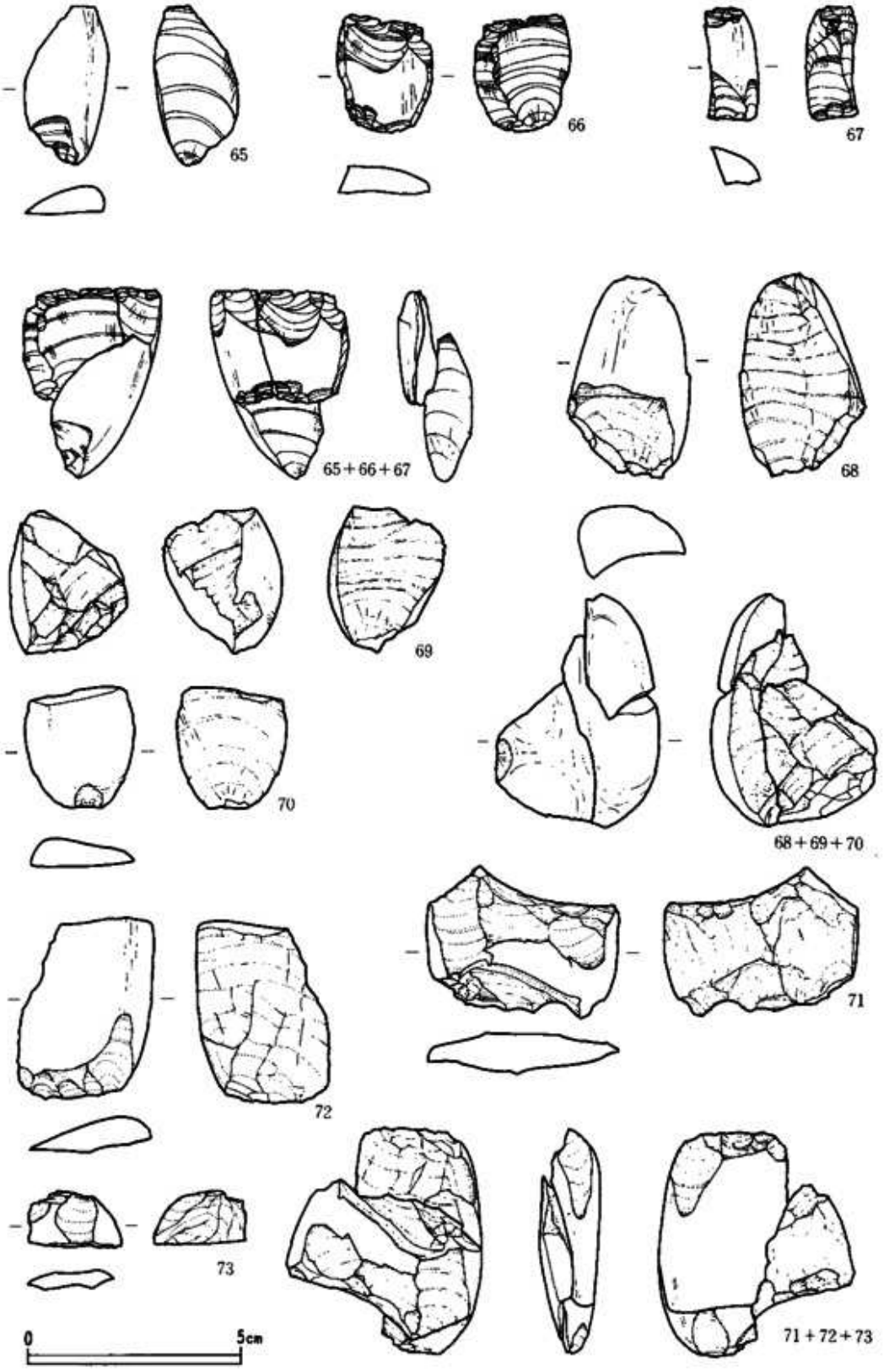
第67図　第２群石器実測図（４）(2/3)



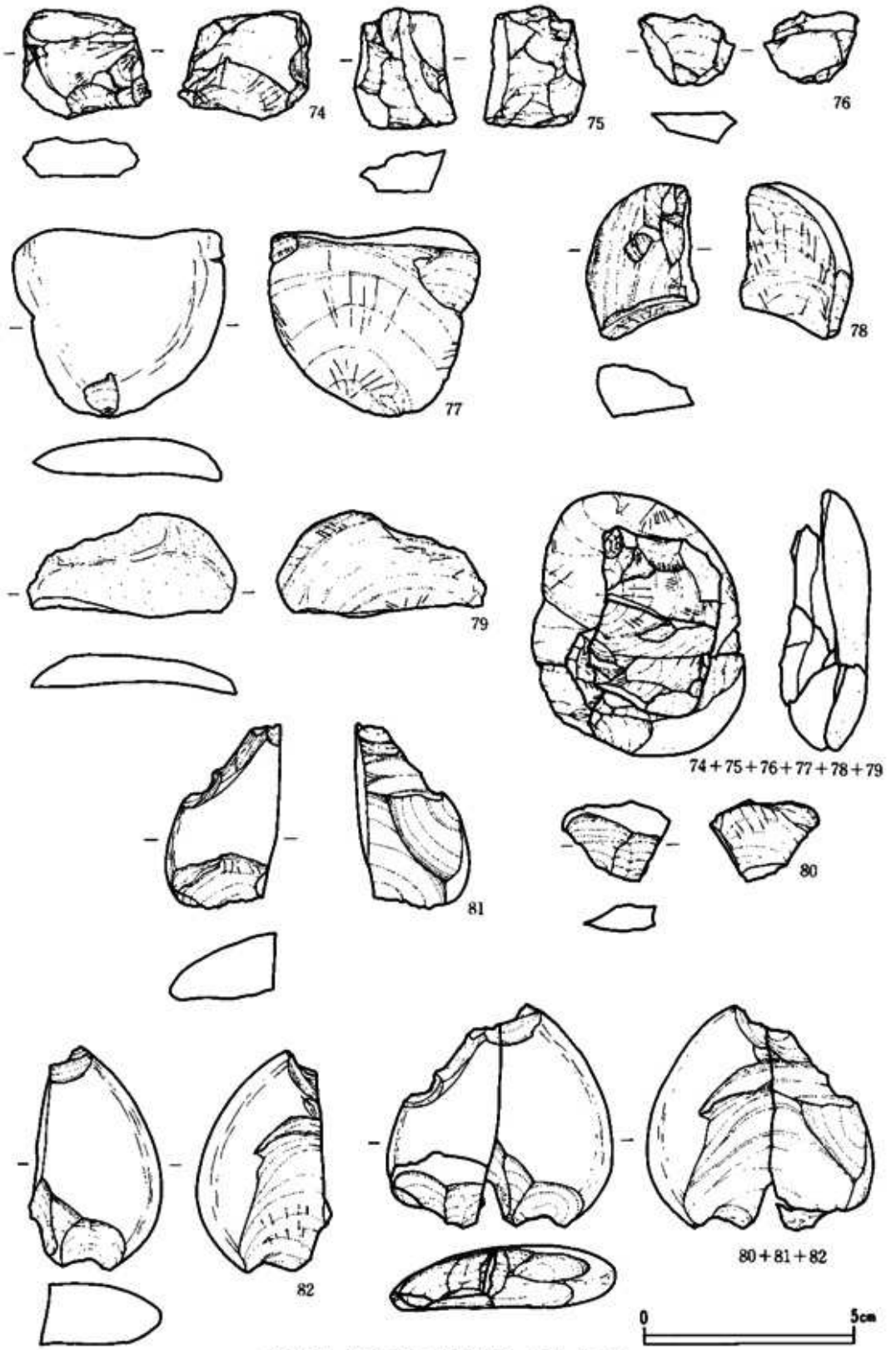
第68図　第２群石器実測図（５）（2/3）



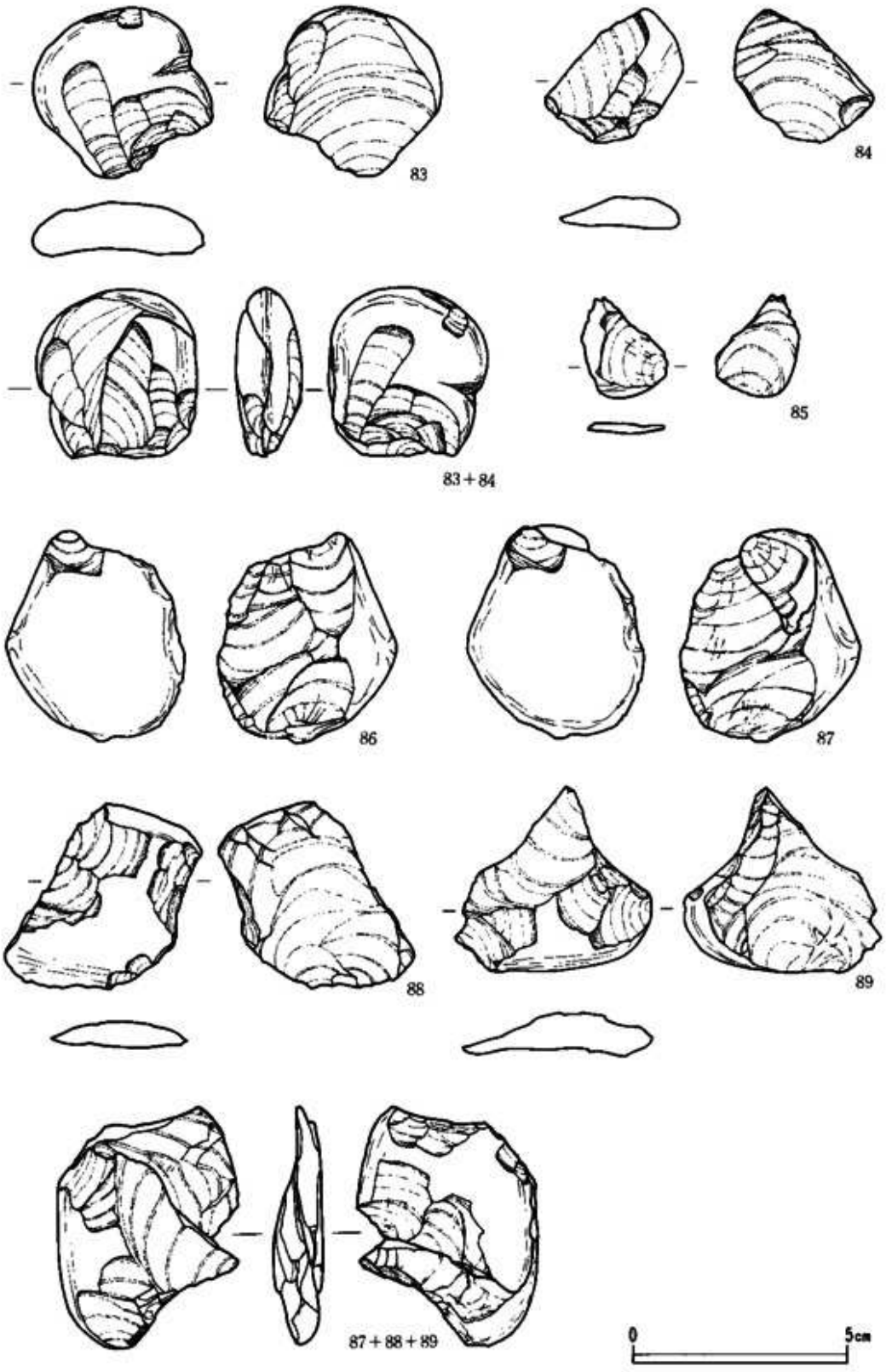
第69図　第２群石器実測図（６）（2/3）



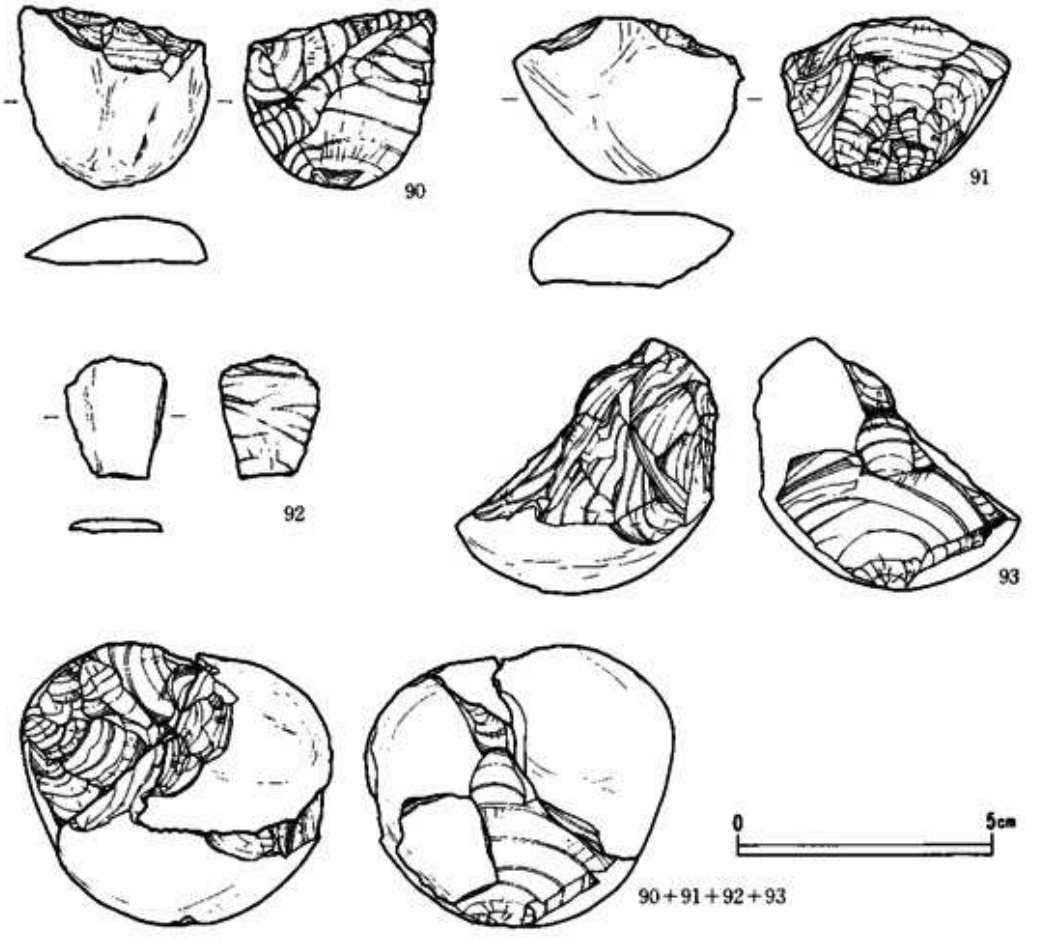
第70図　第２群石器実測図（７）(2/3)



第71図　第２群石器実測図（８）（2/3）

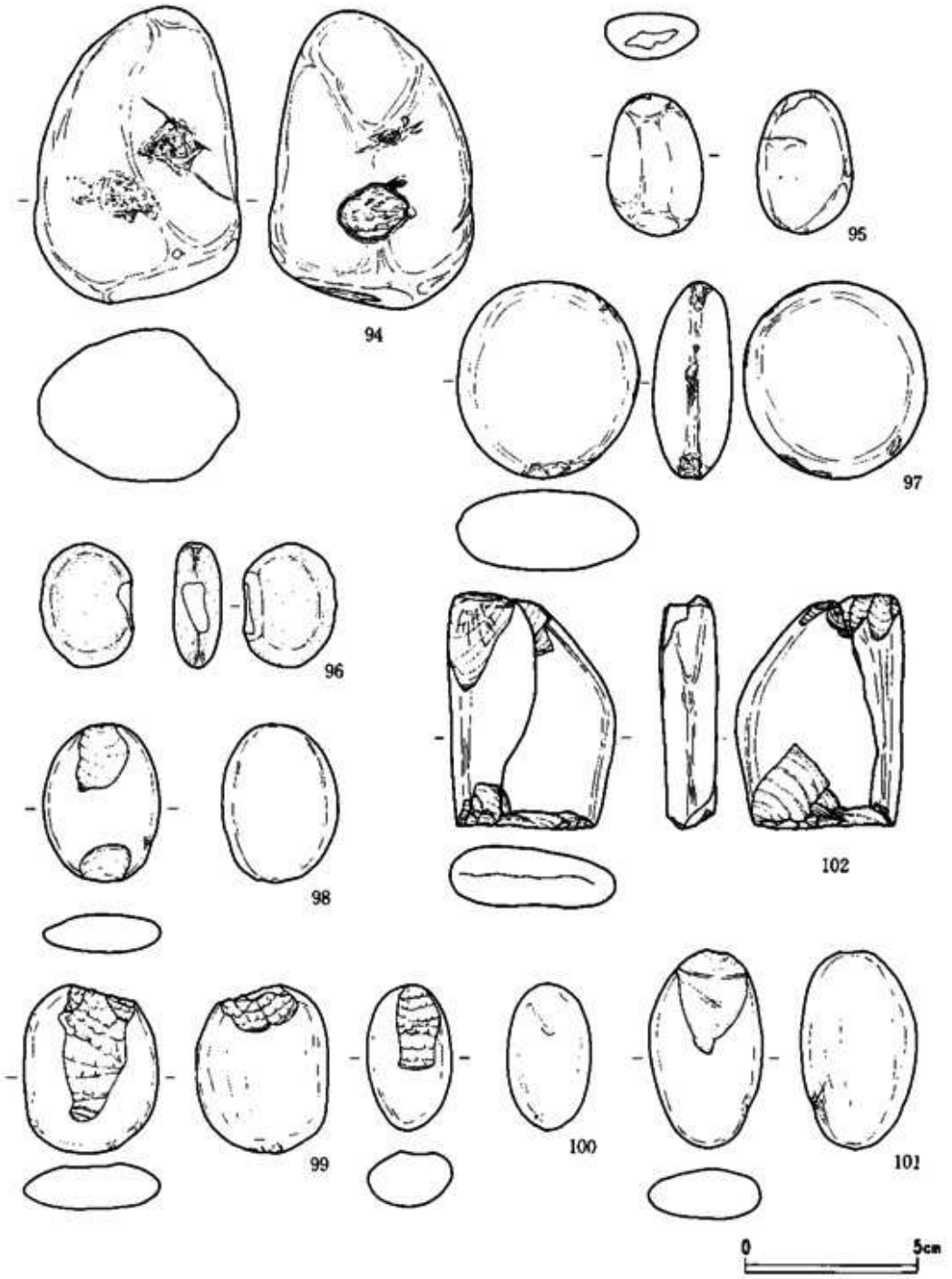


第72図　第2群石器実測図（9）（2/3）

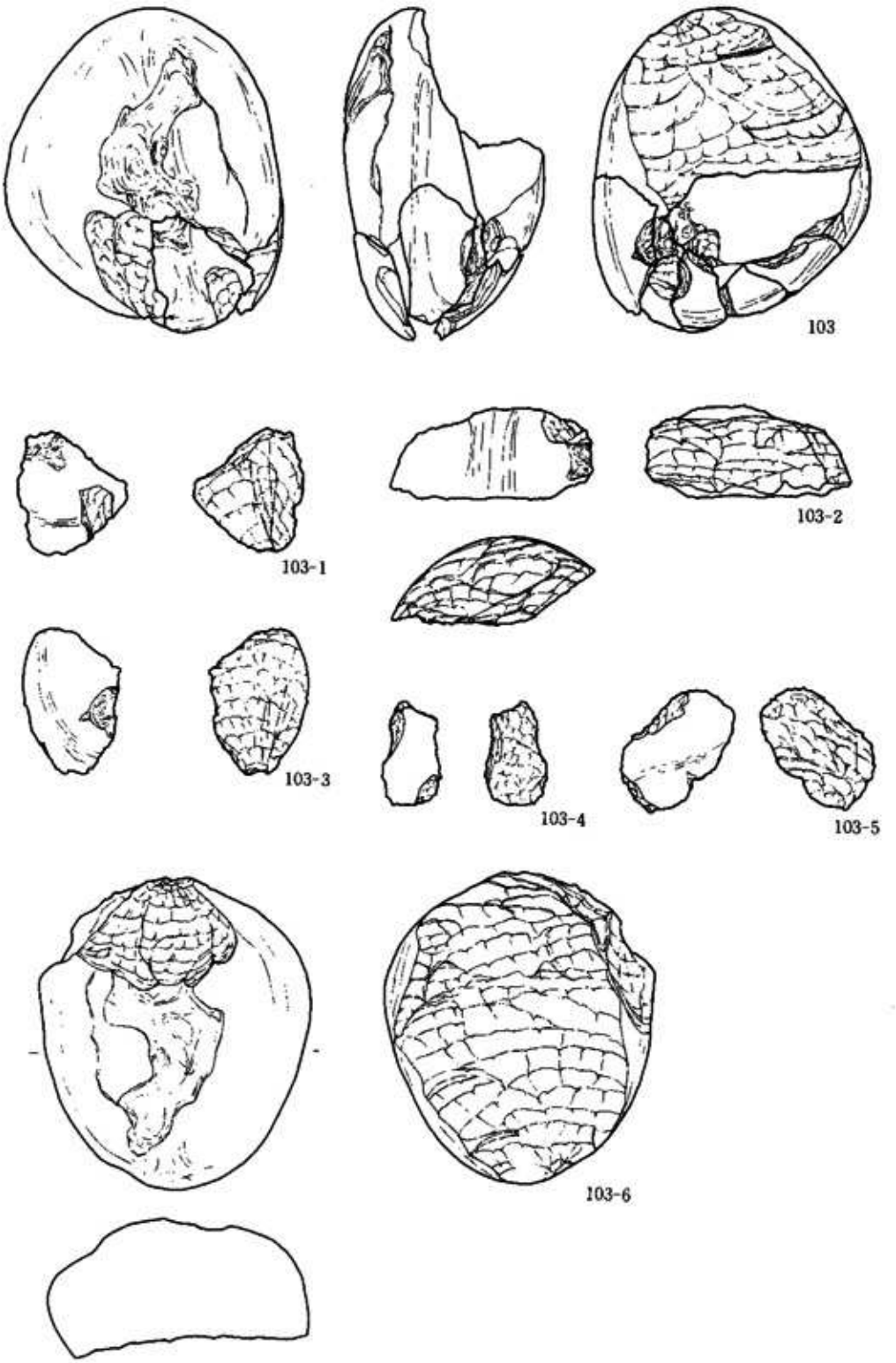


第73図　第2群石器実測図（10）（2/3）

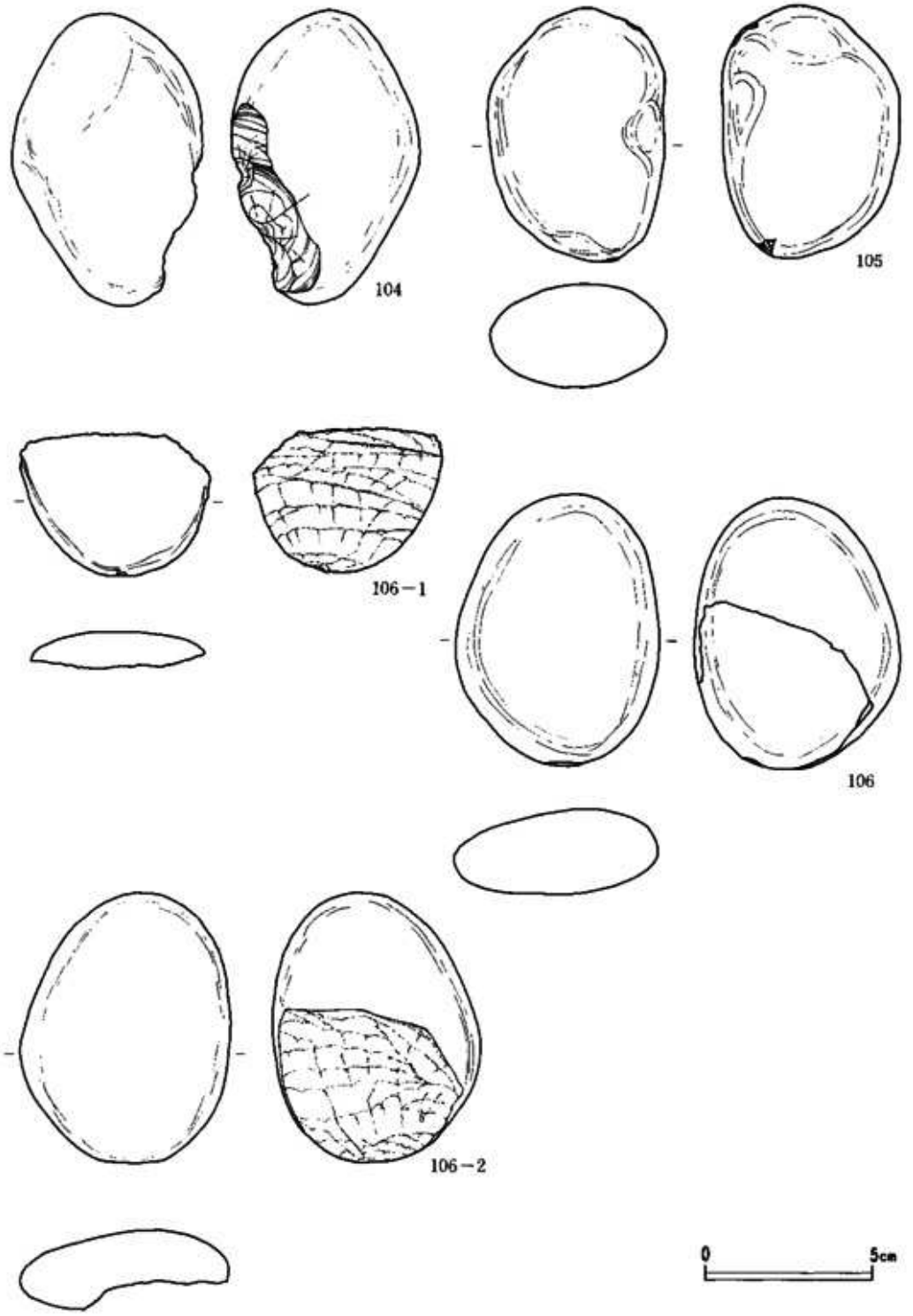
95～108は，敲打器または，礫を利用した石器である。95は，敲打器で石質は安山岩である，礫の両面には4ヶ所の痕跡が見られるが，1ヶ所は特に凹みが深くなっている。96～102はやや小さめの礫を利用した敲石で，礫の淵に使用痕が見られる。とくに99～102は，使用時打撃が強かったのか礫に欠損を生じたものである。103は，大きめ礫を利用した敲打器である。礫の両側を利用していた痕跡があるが，側縁の打撃により破損してしまったものである。104も同様である。105～106は，側縁の打撃により一部が破損しているもので，表面には使用の痕跡は見られない，本来は他の石器なのだろうか。107は砂岩質の大形の礫である。器面の平坦部には敲打の痕跡が見られる。大きさから台石として利用したとも考えられる。また礫の全体とくに使用痕の反対側の器面は非常になめらかである。何に使用されたのだろうか。



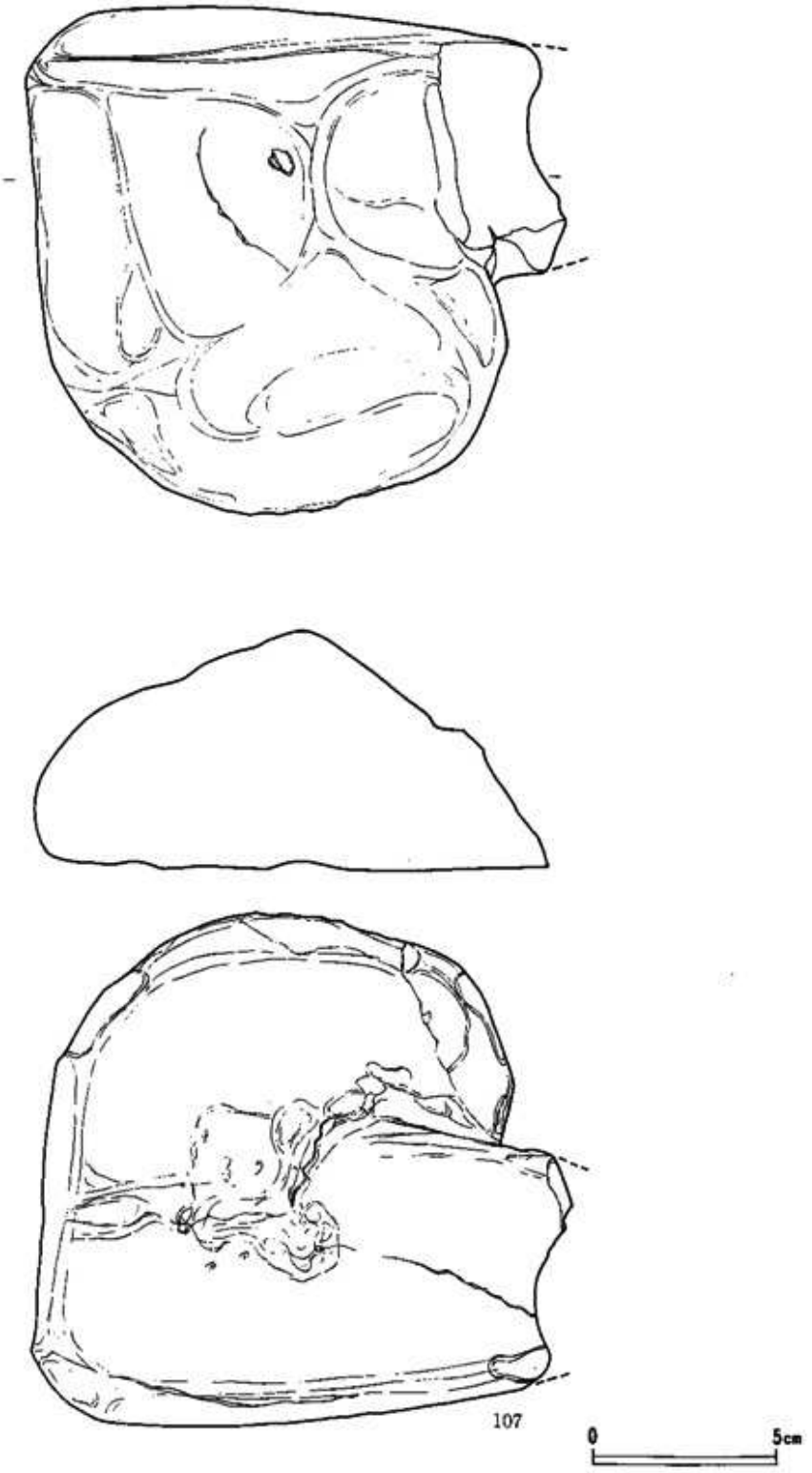
第74図　第２群石器実測図（11）（1/2）



第75図　第２群石器実測図（12）（1/2）



第76図　第２群石器実測図（13）（1/2）



第77図　第2群石器実測図（14）（1/2）

表13　第2群石器表

挿図番号	出土地区	計測値 最大長(mm)	計測値 最大幅(mm)	計測値 最大厚(mm)	重さ(g)	石質	名称	備考
1	7 B－06	49.00	23.05	10.80	7.5	黒曜石	ナイフ形石器	
2	7 B－02	37.75	27.40	6.55	7.6	安山岩	ナイフ形石器	
3	7 B－02	8.55	4.90	1.70	0.1	チャート	細石刃	
4	7 B－03	38.60	25.50	5.60	7.7	チャート		
5	7 B－03	33.40	28.45	11.60	14.4	チャート		
6	7 B－02	26.90	13.10	7.00	3.8	チャート		
7	7 B－01	37.50	28.65	10.55	15.2	頁岩		
8	7 B－03	32.80	29.50	11.25	14.2	砂岩		
9	7 B－02	25.90	28.05	7.40	7.5	砂岩		
10	7 B－01	32.55	19.70	4.65	3.9	頁岩		
11	7 B－01	22.10	17.80	6.10	4.4	チャート		
12	7 B－02	23.60	21.35	9.00	3.2	頁岩		
13	7 B－02	24.95	25.65	8.00	6.8	チャート		
14	7 B－03	27.80	26.00	10.45	12.2	頁岩		
15	7 B－02	48.90	39.20	14.75	28.0	安山岩		
16	7 B－02	27.95	23.30	7.70	5.7	頁岩		
17	7 B－07	18.45	16.85	6.05	2.0	チャート		
18	7 B－03	41.90	40.65	17.75	34.7	頁岩		
19	7 B－02	36.45	24.30	5.80	7.4	安山岩		
20	7 B－01	23.00	28.75	5.65	4.9	チャート		
21	7 B－03	29.80	15.70	8.25	4.9	硅岩		
22	7 B－02	36.75	27.65	6.00	8.4	砂岩		
23	7 B－01	30.40	33.60	10.90	12.3	頁岩		
24	7 B－01	33.00	23.20	3.70	3.7	チャート		25と接合
25	7 B－01	33.40	22.95	6.70	7.5	チャート		24と接合
26	7 B－02	30.10	27.35	6.00	6.9	チャート		27と接合
27	7 B－02	29.65	28.60	6.20	7.4	チャート		26と接合
28	7 B－03	30.50	28.20	5.40	6.2	硅岩		29と接合
29	7 B－02	30.10	27.45	3.65	4.4	硅岩		28と接合
30	7 B－02	36.40	28.80	14.85	18.6	チャート		31と接合
31	7 B－01	26.60	25.95	6.30	3.7	チャート		30と接合
32	7 B－02	42.20	38.10	13.50	17.7	安山岩		33と接合
33	7 B－01	38.50	34.60	10.00	10.5	安山岩		32と接合

挿図番号	出土地区	計測値 最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重さ(g)	石質	名称	備考
34	7 B－01	35.95	25.90	9.90	19.1	チャート		35と接合
35	7 B－02	37.50	30.75	14.40	9.8	チャート		34と接合
36	7 B－02	36.25	26.60	12.85	9.7	チャート		37と接合
37	7 B－02	32.25	41.35	6.60	13.1	チャート		36と接合
38	7 B－02	40.50	25.50	8.30	11.8	粘板岩		39と接合
39	7 B－02	40.30	25.40	8.20	9.3	粘板岩		38と接合
40	7 B－02	40.00	26.65	5.50	7.9	硅岩		41と接合
41	7 B－02	40.35	26.50	48.50	6.8	硅岩		40と接合
42	7 B－06	36.70	23.90	7.20	7.7	安山岩		43・44と接合
43	7 B－07	39.90	23.00	7.00	9.1	安山岩		42・44と接合
44	7 B－02	26.40	15.10	3.80	1.3	安山岩		42・43と接合
45	7 B－03	34.40	20.20	11.80	8.5	チャート		46・47と接合
46	7 B－02	34.30	13.80	8.70	4.6	チャート		45と47と接合
47	7 B－02	34.80	21.30	7.80	7.5	チャート		45・46と接合
48	7 B－02	28.30	20.70	8.35	6.3	チャート		49・50と接合
49	7 B－02	29.65	19.20	10.30	6.1	チャート		48と50と接合
50	7 B－02	31.30	29.10	12.35	11.5	チャート		48・49と接合
51	7 B－01	25.90	27.50	7.00	5.9	チャート		52と接合
52	7 B－02	26.10	24.15	7.00	3.7	チャート		51と接合
53	7 B－07	26.10	27.20	1.85	6.1	チャート		54と接合
54	7 B－03	29.25	28.95	8.25	7.4	チャート		53と接合
55	7 B－02	31.75	15.75	5.40	3.1	チャート		56と接合
56	7 B－01	31.90	16.70	9.00	6.5	チャート		55と接合
57	7 B－02	29.30	27.25	7.90	6.4	チャート		38・59・60と接合
58	7 B－03	20.55	16.85	9.75	4.4	チャート		57・59・60と接合
59	7 B－02	28.10	20.40	6.95	3.0	チャート		57・58・60と接合
60	7 B－06	27.35	25.75	7.40	5.2	チャート		57・58・59と接合
61	7 B－02	26.55	15.45	6.90	2.6	チャート		62と接合
62	7 B－02	26.85	16.70	11.10	4.0	チャート		61と接合
63	7 B－03	34.10	19.10	8.50	3.4	チャート		64と接合
64	7 B－03	33.00	14.95	6.40	2.8	チャート		63と接合
65	7 B－02	37.20	18.85	6.50	4.7	頁岩		66・67と接合
66	7 B－02	26.60	22.50	6.00	4.6	頁岩		65・67と接合

挿図番号	出土地区	計測値 最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重さ(g)	石質	名称	備考
67	7 B－02	26.65	11.35	7.50	3.2	頁岩		65・66と接合
68	7 B－03	45.50	29.10	15.35	18.4	安山岩		69・70と接合
69	7 B－03	34.20	28.90	27.00	26.4	安山岩		68・70と接合
70	7 B－03	28.10	25.70	6.95	6.6	安山岩		68・69と接合
71	7 B－02	42.60	32.35	9.45	16.0	砂岩		72・73と接合
72	7 B－03	34.60	45.80	10.40	11.7	砂岩		71・73と接合
73	7 B－02	12.55	21.50	4.65	1.4	砂岩		71・72と接合
74	7 B－03	25.80	31.60	8.70	9.3	安山岩		75・77～79と接合
75	7 B－03	29.70	23.90	9.60	8.8	安山岩		75・77～79と接合
76	7 B－02	12.55	25.00	8.15	2.6	安山岩		74・75・77・78と接合
77	7 B－02	43.15	49.60	8.45	25.1	安山岩		74～76・78・79と接合
78	7 B－02	33.75	25.30	11.55	12.1	安山岩		74～77・79と接合
79	7 B－03	23.95	48.55	7.20	9.5	安山岩		74～78と接合
80	7 B－02	45.25	24.50	12.45	14.8	砂岩		81・82と接合
81	7 B－01	15.25	25.50	6.00	2.2	砂岩		80・82と接合
82	7 B－01	53.00	31.80	14.55	31.2	砂岩		80・81と接合
83	7 B－02	40.15	41.90	11.80	18.5	砂岩		84と接合
84	7 B－03	29.30	31.00	7.50	6.0	砂岩		83と接合
85	7 B－03	23.65	18.40	2.80	1.1	安山岩		86と接合
86	7 B－03	48.15	41.35	8.05	21.3	安山岩		85と接合
87	7 B－02	41.0	48.35	5.50	8.0	安山岩		88と接合
88	7 B－06	42.40	46.35	7.80	10.2	安山岩		87と接合
89	7 B－02	34.55	38.10	11.00	14.1	チャート		88と接合
90	7 B－03	32.40	45.70	17.90	18.0	チャート		89・91・92と接合
91	7 B－03	48.65	49.95	18.9	1.34	チャート		89・90・92と接合
92	7 B－02	23.45	19.30	2.95	26.7	チャート		89・90・91と接合
93	7 B－06	41.65	28.10	13.75	34.0	チャート	敲打器	
94	7 B－03	87.10	60.80	44.55	40.5	砂岩	敲打器	
95	7 B－02	34.75	26.90	13.80	23.3	安山岩	敲打器	
96	7 B－03	45.20	35.15	12.35	9.4	砂岩	敲打器(?)	
97	7 B－03	55.30	53.90	22.95	19.9	花崗岩	敲打器	
98	7 B－01	44.30	33.90	10.50	26.9	花崗岩	敲打器(?)	
99	7 B－03	47.30	38.90	11.70	39.4	頁岩	敲打器(?)	

挿図番号	出土地区	計測値 最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重さ(g)	石質	名称	備考
100	7 B－03	41.00	25.00	13.90	22.4	砂岩	敲打器(?)	
101	7 B－06	46.10	33.10	12.25	36.7	砂岩	敲打器	
102	7 B－02	96.80	81.35	59.50	82.0	砂岩	敲打器	
103-1	7 B－02	35.85	31.40	11.40	12.0	石英斑岩	敲打器	103-1～6接合
103-2	7 B－02	29.30	62.90	29.35	48.7	石英斑岩	敲打器	
103-3	7 B－02	43.45	29.8	9.30	10.7	石英斑岩	敲打器	
103-4	7 B－02	30.55	18.30	7.75	4.8	石英斑岩	敲打器	
103-5	7 B－02	37.40	34.70	11.35	11.8	石英斑岩	敲打器	
103-6	7 B－02	92.00	83.00	40.00	360.0	石英斑岩	敲打器	
104	8 B－02	87.50	57.00	2.50	152.0	石英斑岩	敲打器	
105	8 A－14	76.20	53.00	3.00	168.0	石英斑岩	敲打器	
106-1	8 B－02	43.00	57.30	1.20	32.0	砂岩	敲打器	106-1.2接合
106-2	8 B－02	78.00	61.00	28.60	132.0	砂岩	敲打器	
107	7 B－02	149.00	136.80	73.00	201.0	砂岩	台石 ?	

第3群（第78～83図，表14，図版46～48）

本3群はA 8－13・14，B 8－01・02の4m×4mの範囲で出土した石の集まりである（総数386点を数え，第2群に次ぐ数である）。

第79図の1・2はともに剝片で，1は横形剝片，2は縦長の剝片※である。1は頁岩質，2は砂岩質である。3は細石刃である。素材は黒曜石である。4～7は瑪瑙の接合資料である。4は細部調整が行なわれており，尖頭器の成作途上であると考えることができる。

8～17は，頁岩質の同一素材であるが8＋9と他とに接合しなかった。いずれも製品はなく，剝片のみの接合である。18～21も，接合資料であるが，原形を復原することはできない。22～29も接合資料である，頁岩質の礫をほぼ原形に復原できるが，石器としての製品は無い，敲打器として利用したのであろうか，また長軸方向の両端に剝離が見られることから，剝片を得るための素材であったのであるとも考えられる。後者の可能性が強い。31は，敲打器であり，平坦な両面に使用痕が見られる。石質は花崗岩。

第4群

本石器群は，総数38点と，第1群，2群のそれと比べると非常に少ない。さらに非常に小さな剝片が多く，実測には適さなかった。

その他のグリッド出土石器（第84図，表15）

1は，B4-04から出土したもので，黒曜石を素材とした尖頭器と考える。欠損が多くその詳

細は知り得ない。剝片を利用し，両面両縁に調整が行なわれている。一部には原面が残っており，成作途上とも考えられる。2は8A－15区から出土したもので，砂岩質の敲打器であると考える。器面には両側に打撃による欠損が見られる。平坦面には使用痕は見られない。

以上第2次調査では得られた4群の石器群について，簡単に説明を加えてきたのである。その中で，とくに注意しておきたいものが何点かあるので，次にそれをこれもまた簡単に述べることにする。

今回の調査で得られた製品が非常に少ないということ，これは剝片も含めたことである。もう1点は，小礫が非常に多く，それも打撃が加えられて2分または3ヶ以上に割られていることである。さらにこれらの打撃で得られた剝片※を調整も行なわれずにいることである。充分に石器として加工し易い剝片もあるのにも関わらずにである。石器の素材以外として利用されていたのだろうか。中には接合しない剝片※もあるので，ここで結論を出すことは出来ない。ただしやや大きな礫の中で，礫の加工道具（打撃を与えるハンマー）として利用された様子も見ることが出来る。また他の点は，非常に小さい剝片（chipと言ってもよい）が数多く出土している。

以上のようなことから，この地域が石器の製作工場であったと考えることができるのである。

〈用語解説〉

群　　：石の集中した地域を，一つの集まりとして捕えることのできる，石の集中地点を区別するのみに使用した。

石刃状剝片：長さが幅の2倍以上ある剝片の中で，両縁が平行でなく，素面の稜が必ずしも縁と平行でないもの。

※表面（主剝離面の反対側）

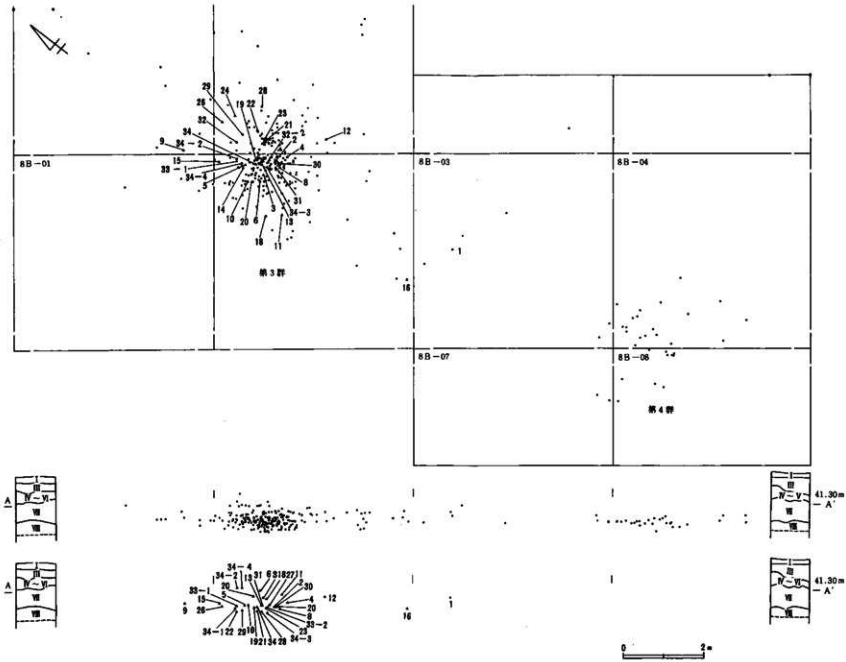
剝　　片：広義と狭義に分かれる。

広義――礫や石核から剝離されたすべての石片を言う。

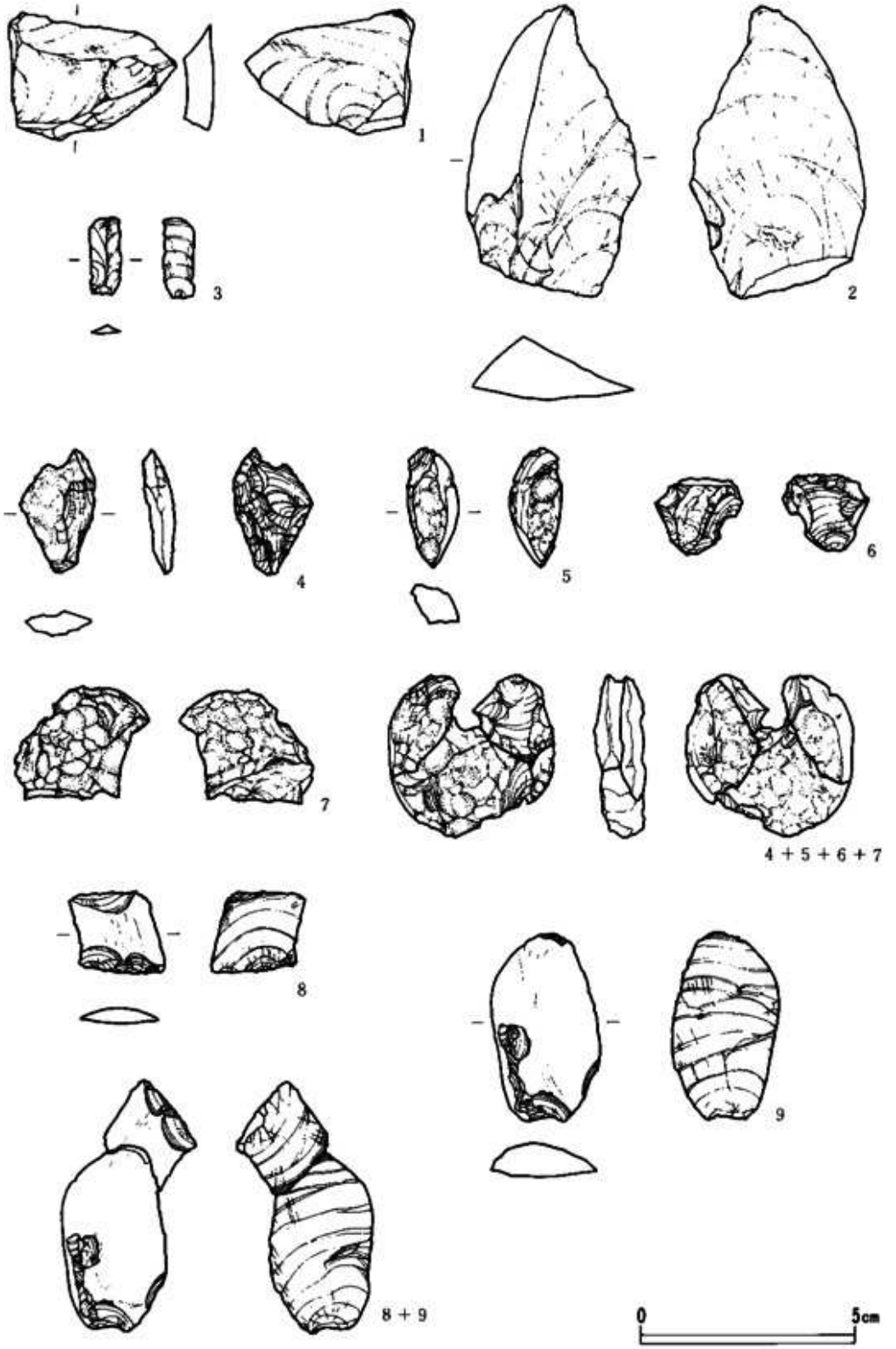
狭義――長さが幅よりも長く，幅の2倍より小さい剝片である。

また，幅が長さより大きいものを横形剝片という。ここでは※を付したものを広義の意味とした。

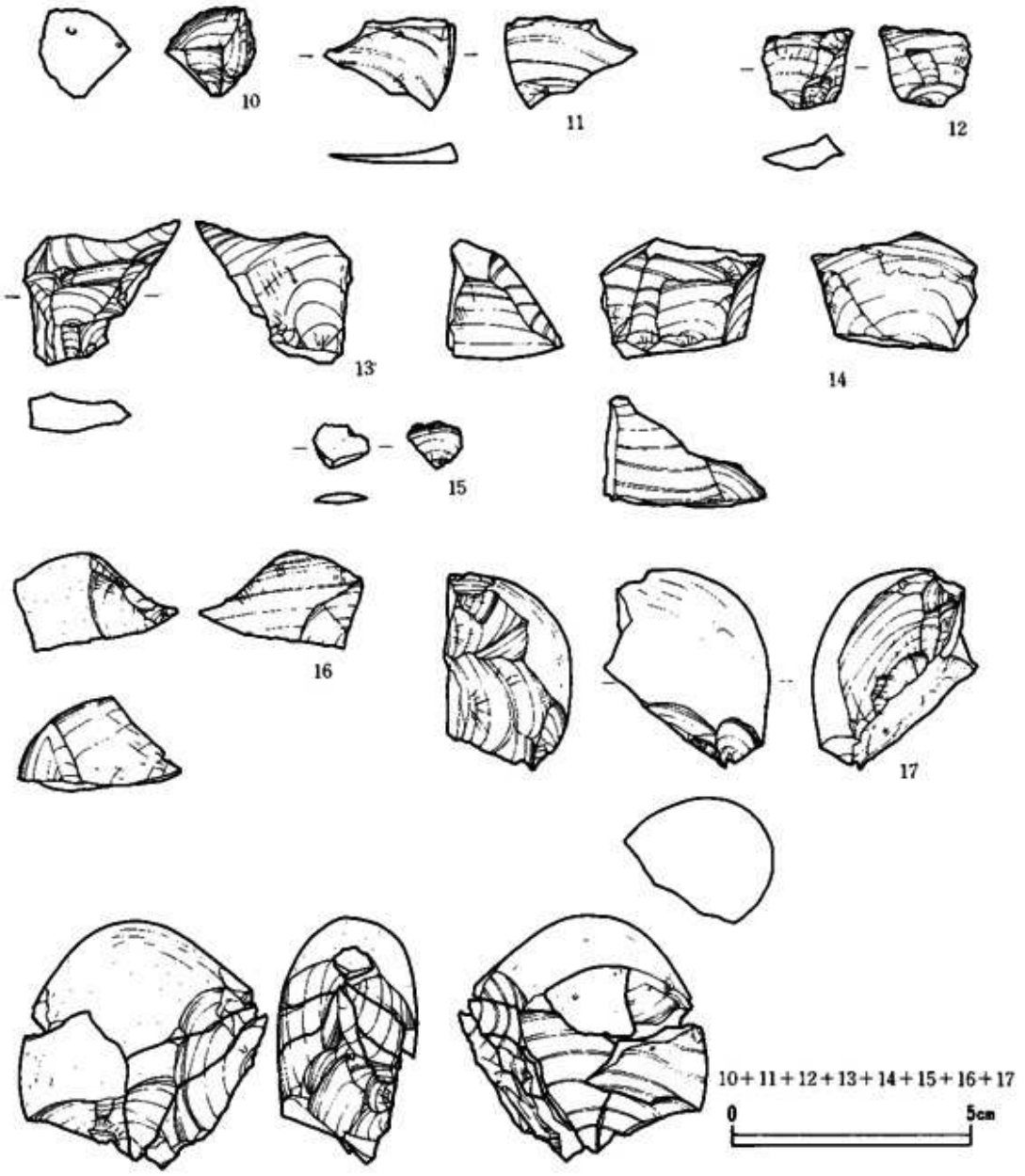
細　石　刃：長さが幅の2倍以上で，その幅が1.2cmより小さい剝片を言う。



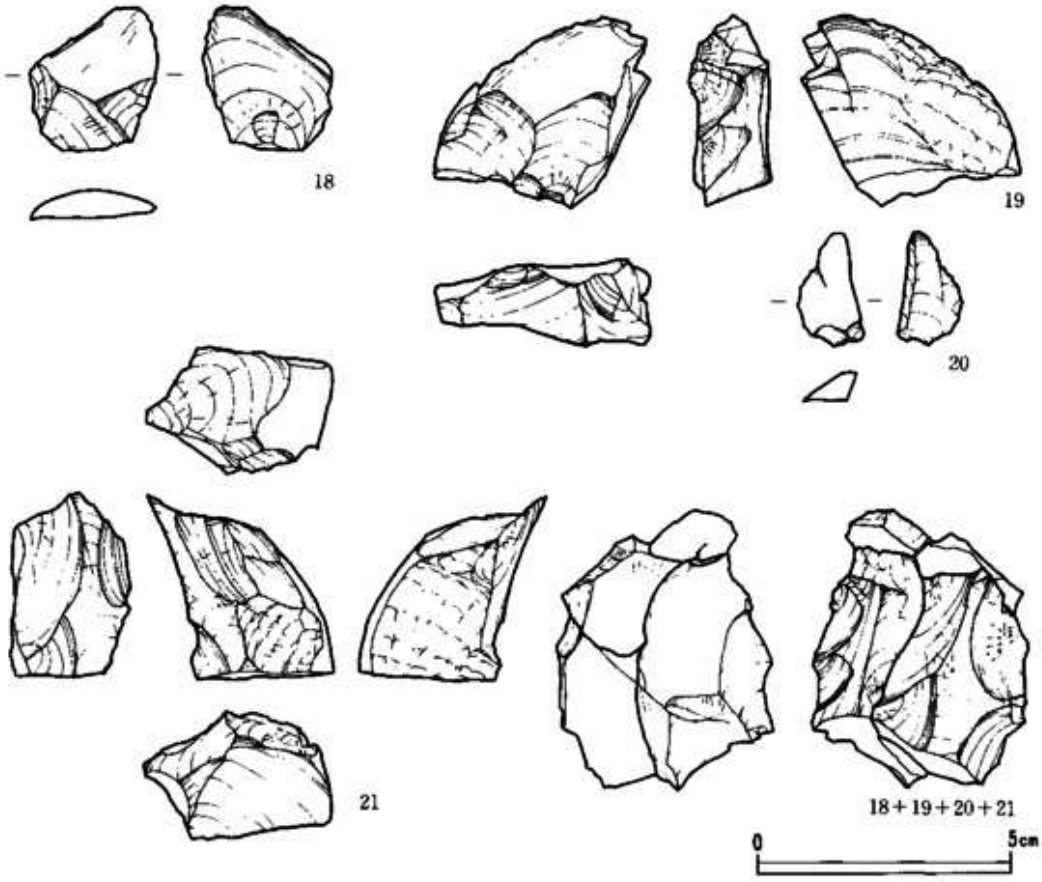
第78図　第3・4群石器出土状況図（1/80）



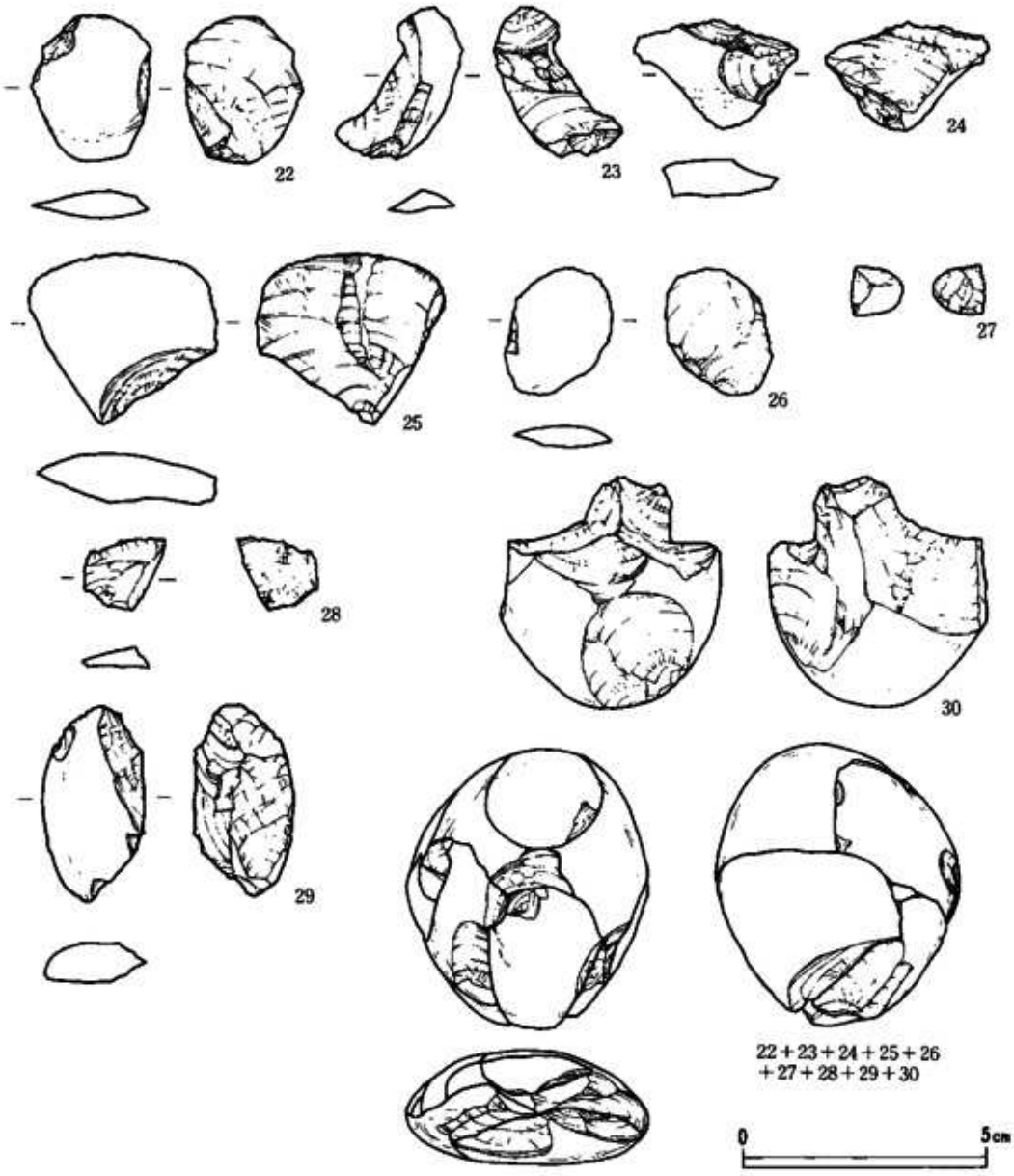
第79図　第3群石器実測図（1）（2/3）



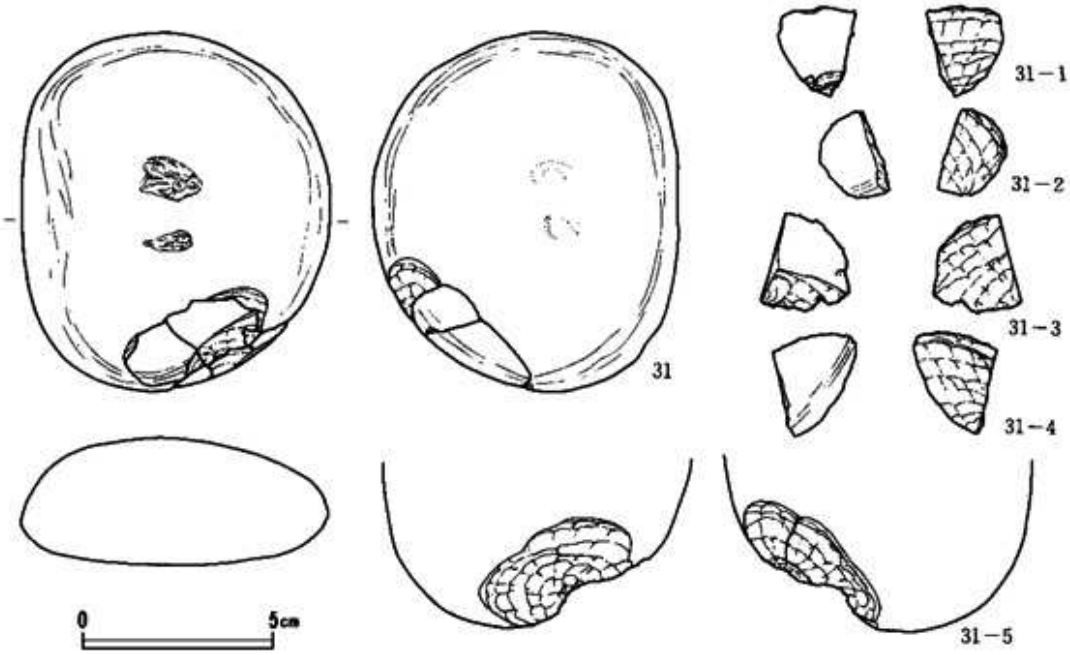
第80図　第３群石器実測図（２）（2/3）



第81図　第3群石器実測図（3）（2/3）



第82図　第3群石器実測図(4)（2/3）

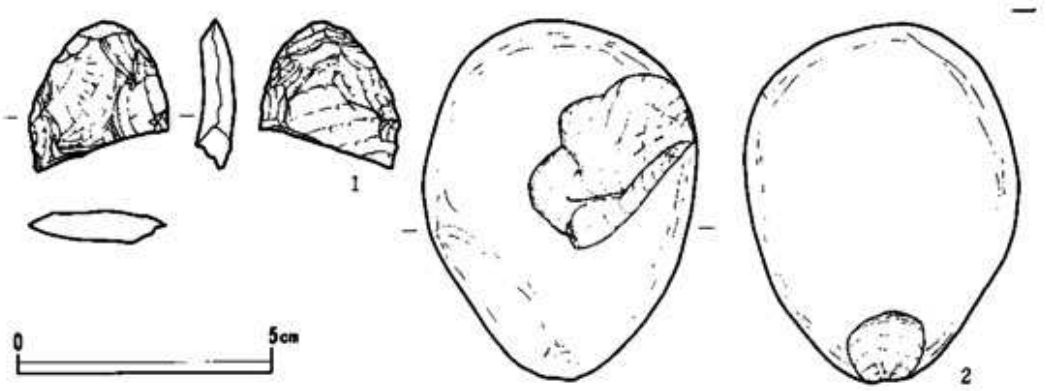


第83図　第3群石器実測図（5）（1/2）

表14　第3群石器表

挿図番号	出土地区	計測値 最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重さ(g)	石質	名称	備考
1	8 B－03	30.05	40.65	17.45	9.5	頁岩	剥片	
2	8 B－02	60.95	40.00	16.50	35.9	砂岩	剥片	
3	8 B－02	17.30	7.20	2.70	0.5	頁岩	細石刃	
4	8 B－02	28.10	18.20	6.15	2.3	メノウ	尖頭器(?)	5・6・7と接合
5	8 B－02	26.55	10.50	9.00	2.9	メノウ		4・6・7と接合
6	8 B－02	17.80	20.20	6.80	1.9	メノウ		4・5・7と接合
7	8 B－02	24.90	31.70	10.30	6.9	メノウ		4・5・6と接合
8	8 B－02	18.30	22.15	27.50	1.5	安山岩		9と接合
9	8 A－13	41.60	25.80	8.95	9.8	安山岩		8と接合
10	8 B－02	17.95	18.55	6.10	1.7	頁岩		11～17と接合
11	8 B－02	19.05	27.35	3.40	2.0	頁岩		10・12～17と接合
12	8 A－14	15.30	19.00	6.40	1.7	頁岩		10・11・13～17と接合
13	8 B－02	26.20	31.35	10.20	6.3	頁岩		10～12・14～17と接合
14	8 B－02	22.50	34.75	23.35	16.5	頁岩		10～13・15～17と接合

15	8 B－02	9.20	11.30	3.20	0.3	頁　岩		10～14・16・17と接合
16	8 B－02	17.35	34.20	19.01	8.7	頁　岩		10～15・17と接合
17	8 A－14	42.10	34.55	27.00	41.2	頁　岩		10～16と接合
18	8 B－02	23.30	25.60	8.90	5.4	安山岩		19～21と接合
19	8 B－02	37.40	43.05	16.50	22.1	安山岩		18・20・21と接合
20	8 B－02	21.40	13.35	5.50	1.3	安山岩		18・19・21と接合
21	8 B－14	36.00	36.75	24.65	31.6	安山岩		18～20と接合
22	8 A－14	29.60	25.15	5.30	4.0	頁　岩		
23	8 A－14	31.20	26.10	6.70	3.3	頁　岩		
24	8 A－14	22.10	33.95	7.75	4.6	頁　岩		
25	8 A－14	36.30	39.45	10.70	13.0	頁　岩		
26	8 A－14	25.10	21.35	4.00	2.6	頁　岩		
27	8 A－14	10.20	10.40	9.00	0.7	頁　岩		
28	8 A－14	13.85	16.90	5.45	1.0	頁　岩		
29	8 A－14	39.00	21.35	11.50	9.5	頁　岩		
30	8 B－02	46.70	45.60	21.60	40.2	頁　岩		
31	B 8－02	82.25	56.55	25.10	78.9	砂　岩	敲打器	



第84図　その他のグリッド出土石器実測図（2/3）

表15　その他のグリッド出土石器表

挿図番号	出土地用	計測値 最大長(mm)	計測値 最大幅(mm)	計測値 最大厚(mm)	重さ(g)	石質	名称	備考
1	4 B－04	28.35	27.70	8.05	86.0	硅　岩	尖頭器	
2	8 A－15	69.35	54.70	16.70	5.8	砂　岩	敲打器	

第3項　小　結

第1次，2次と2回の調査で確認された石の集中地域は，総てで8ヶ所を数える。ただし出土層位はⅢ層～Ⅵ層と幅があり，中には同一地域で重複している場合もある。また集中地域はそれぞれ20m以上を径るものや隣接する所で存在する。

1次，2次を通して総数1400点以上の遺物が出土したが，製品として認められるものは，少ない。第45図1や第64図1・2で示したような，剥片（狭義）を利用した製品はとくに少なかった。中でも第2次調査2群のように調整剥片(chip)が非常に多く出土しており，石器製作の場であったことをうかがえる。また同一原石であるにもかかわらず，接合しない剥片(※広義)があり，これらは製品を作るときは出来る剥片（広義）と考える。

2次調査では，小礫の接合資料が多く見られる。これらの多くは小礫の長軸の両端に打撃が加えられて得た小剥片※が2つ以上接合するもので，ほとんどが原形に非常に近く復原するものである。いずれも2次加工された痕跡はなく，石器の素材として利用されたものではないと考えることができる。素材としては小さすぎると思われるからだ。やや大きめの礫は敲打器として利用された結果，割れたものであると認められるものも中には何点かある。当遺跡より出土した石器の中で，中心を占める石器は敲打痕を有する礫である。形状は，洋梨状，円盤状のものが多い。これらは礫の一部または複数ヶ所認められる。それらの多くは，礫の中央部やや平坦な部分の認められる箇所である。使用痕の程度はそれぞれ違い，全体に浅い。非常に長時間は使わなかったと考えられる。また一部の礫には磨跡もあるものが認められた。

以上のように，本遺跡では，調整剥片(chip)も含め，多くの剥片※が出土しているにもかかわらず，石器の素材である石刃，剥片も含め製品の数が少ないのである。今回の調査は道路建設に伴うもので，その範囲が限られており，遺跡全体の性格を決めることはできないが，1次，2次にわたり検出された石の集中地域は，石器の製産工場とも言える性格を持っていると考えられる。

第5章　結　語

鯉ケ窪遺跡，中台柿谷遺跡，遠山天ノ作遺跡は，『主要地方道成田松尾線Ⅰ』および『同Ⅱ』で報告した4遺跡と同じように，尾根状台地から，木戸川に向って突出した舌状台地上に位置している。しかし，『Ⅰ』，『Ⅱ』の遺跡は集落跡が主であった。今回の3遺跡は，先土器時代石器ブロックと，古墳が主である。

先土器時代

先土器時代石器ブロックは，3遺跡から検出され，当地域の先土器時代の様相が，若干なりとも明らかになってきたといえるであろう。鯉ケ窪遺跡，遠山天ノ作遺跡からは，石器製作跡と考えられる石器ブロックが検出されている。また，中台柿谷遺跡からは，千葉県では最古に属する石器，局部磨製石斧が出土している。しかし，これらの中で，遠山天ノ作遺跡から，やや特異な石器ブロックが検出されている。それは，第2次調査で確認された一連の石器群である。3×4cm内外の扁平な円礫片と敲打器を主要な石器とするブロックで，他の器種はわずかである。また，円礫片も，大部分が，原形に復している。円礫の石質は大半がチャートである。製品とされる石器としては，ピエスエスキーユ(1)，が考えられる。形状としては，第64図4～12，第65図13・14が考えられる。ピエスエスキーユの製作を意図して円礫に打撃を加えたが，剝離がうまくゆかず，捨てられたのが，復原された円礫群であろう。また，使用された円礫は，下総台地の段丘砂礫層に含まれる円礫の可能性が大である。(2)，遠隔地からの搬入ではなく，地元で産出できるので，意図しない礫片を多量に放棄できたとも考えられる。

古　墳

古墳は，鯉ケ窪遺跡で3基確認されたが，主体部の検出された古墳は1基だけであった。主体部は，半地下式の両袖横穴式石室である。年代は，7世紀前半代と考えられる。当古墳の南約300mには，殿塚古墳，姫塚古墳が位置している。両古墳の年代は，7世紀初頭とされるので，鯉ケ窪遺跡の古墳とほぼ同年代と考えられる。山武郡の古墳群の特徴は，数基の前方後円墳を中心に，円墳が群を形成し，古墳群が成立していることであると考えられている。また，前方後円墳には埴輪をもつものが多い。古墳内部主体は，横穴式石室か石棺が多い。殿塚，姫塚両古墳は，横穴式石室である。両古墳の石室とも，形態は，鯉ケ窪003号墳の石室と異っている。しかし，姫塚古墳では，軟質砂岩の切石により横穴式石室が構築され，003号墳と共通する点が見られる。これらにより，鯉ケ窪遺跡の3基の古墳は，殿塚古墳，姫塚古墳を中心とする芝山古墳群の中に含まれると考えられる。(3)

注

(1) 岡村道雄　「ピエスエスキーユについて－岩手県大船渡市碁石遺跡出土資料を中心として－」『東北考古学の諸問題』　東北考古学会　昭和51年

鈴木道之助他『佐倉市星谷津遺跡』㈶千葉県文化財センター　昭和53年

また，ピエスエスキーユの製作跡として，下記の報告がある。

芹沢長介他『碁石遺跡』社教シリーズ第17集　大船渡市教育委員会　昭49年

ピエスエスキーユの製作方法としては，両極剝離法が考えられる。しかし，両極剝離は，使用の結果であるとし，製作方法としては，通常の二次加工や石刃の切断加工があるとの見解もなされている。

芹沢長介編『聖山』考古学資料別冊２　北海道亀田郡七飯町峠下縄文時代遺跡出土資料　東北大学文学部考古学研究会　昭和54年

また，上記の報告書では，ピエスエスキーユをⅠ～Ⅲ類に分類し，それらが，型式ではなく使用の過程であるとしている。そして，廃棄時のピエスエスキーユの特徴を判定している。

(2) ㈶千葉県文化助センター　田村　隆氏御教示による。

(3) 『横芝町史』横芝町史編纂委員会　昭和50年

CONTENTS

Preface

Acknowledgments

Chapter I Location and Swroundings of Sites

Section 1 Landscape and Historical Surroundings

Chapter II Koigakubo Site

Section 1 Way and Outline of Research

1 . Way of and Research

2 . Section of Site

3 . Outline of Research

Section 2 Remains and Artifacts

1 . Pre-pottery Period

2 . Jomon Period

3 . Kofun Period

4 . The Athers

(1) Charcol Kiln

(2) Artifacts from Grids

Section 3 A Conclusion

Chapter III Nakadai-Kakitani Site

Section 1 Way and Outline of Research

1 . Way of Research

2 . Section of Site

3 . Outline of Research

Section 2 Remains and Artifacts

1 . Pre-pottery Period

2 . Jomon Period

Section 3 A Conclusion

Chapter IV Tohyama-amanosaku Site

Section 1 Way and Outline of Research

1 . Way of Research

2 . Section of Site

3 . Outline of Research

Section 2 Remains and Artifacts
1 . First Research
(1) Pre-pottery Period
(2) Jomon Period
2 . Second Research
(1) Pre-Pottery Period
Section 3 A Conclusion
Chapter V Closing

SUMMARY

This is a report of archaeology about three sites.They are Koigakubo site, Nakadai-Kakitani site and Tohyama-amanosaku site.

These sites were found at Yokoshiba Town in Cliba prefecture.They were situated on a plateau between the Kido River and the Takaya River.

Koigakubo Site

The artifacts of Pre-pottery period were found in 1 Block of stone implements.

In Jomon period (Earliest~datest age), pottery fragments were found.

In Kofun period, 3 kofuns were found.

They are all round kofuns. One of them (No.003) had a Yokoana-shiki-sekishitsu, a grave pit with entrance.

The athers were 9 chacol kilns.

Nakadai-kakitani Site

The artifacts of Pre-pottery period were found in 2 Blocks of stone implements.

In Jomon period (Middle and Late age), pottery fragments were founds.

Tohyama-amanosaku Site

The artifacts of Pre-pottery period were found in 8 Blocks of stone implemens.

In Jomon period (Early and Late age), pottery fragments were found.

写 真 図 版

図版 1　鯉ヶ窪遺跡

1.鯉ヶ窪遺跡全景(航空撮影)　南より

2.同遺跡近景　南東より

図版 2　鯉ヶ窪遺跡

1.調査区北端部確認状況　南東より

2.001号墳全景　東より

1.002号墳全景　北より

2.002号墳周溝内遺物出土状況　西より

3.002号墳周溝　南東より

図版 4　鯉ヶ窪遺跡

1.003号墳全景(調査前)　北東より

2.003号墳全景　北東より

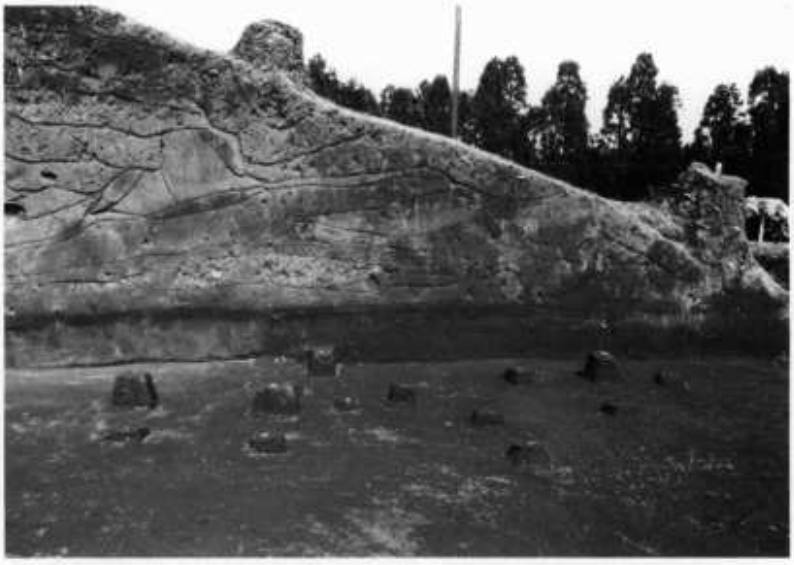
1.003号墳墳丘土層断面　南西より

2.003号墳墳丘土層断面　南西より

3.003号墳周溝内土層断面　南西より

図版 6　鯉ヶ窪遺跡

1.003号墳
周溝
北より



2.003号墳下
石器出土状況
南西より

3.003号墳下
石器出土状況
西より

1.003号墳全景(封土除去後)　北西より

2.003号墳石室検出状況　南より

図版 8 鯉ヶ窪遺跡

1.003号墳石室検出状況　北より

2.003号墳石室検出状況　南より

1.003号墳石室
玄門部
北東より

2.003号墳石室
玄門部
北より

3.003号墳
石室内遺物
検出状況
南より

図版 10 鯉ヶ窪遺跡

1.003号墳石室構築状況　北東より

2.003号墳石室構築状況　南東より

1.003号墳
石室内状況
西より

2.003号墳
石室堀り方
東より

3.003号墳
石室堀り方
北より

図版 12 鯉ヶ窪遺跡

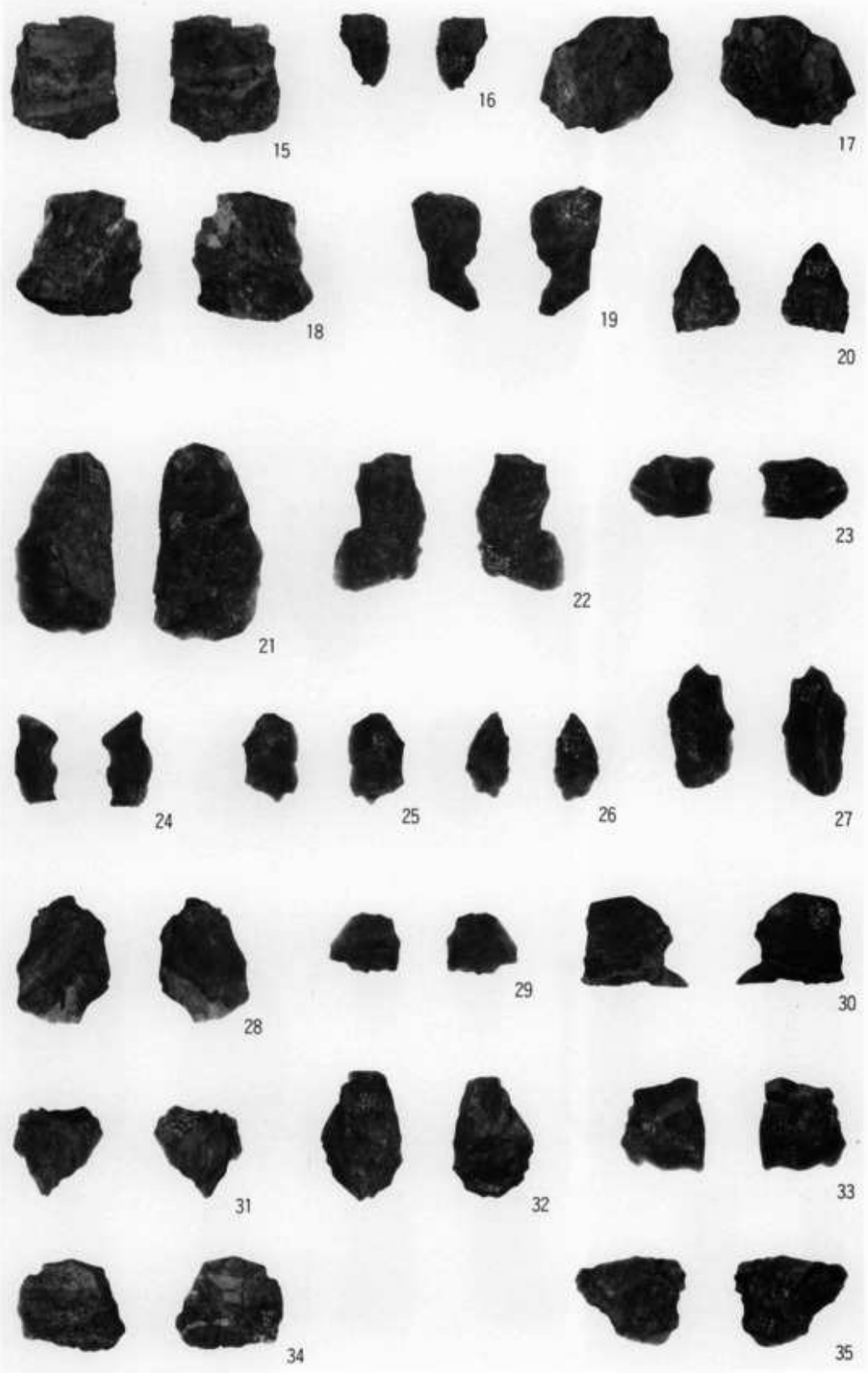
1. 1号炭窯跡
全景
北より

2. 2号炭窯跡
全景
北より

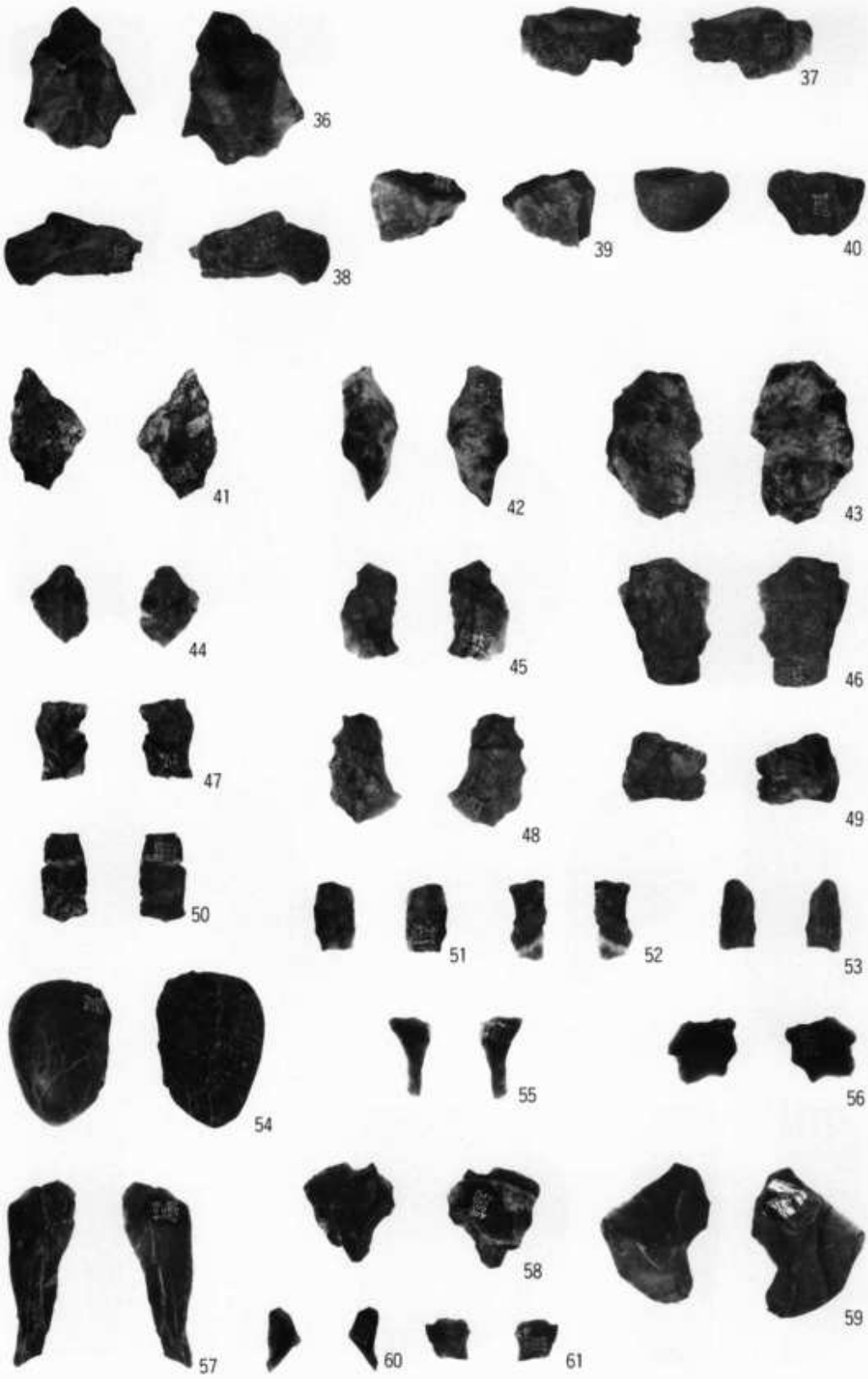
3. 7号炭窯跡
全景
南より

003号墳下出土石器(1)

図版 14 鯉ヶ窪遺跡

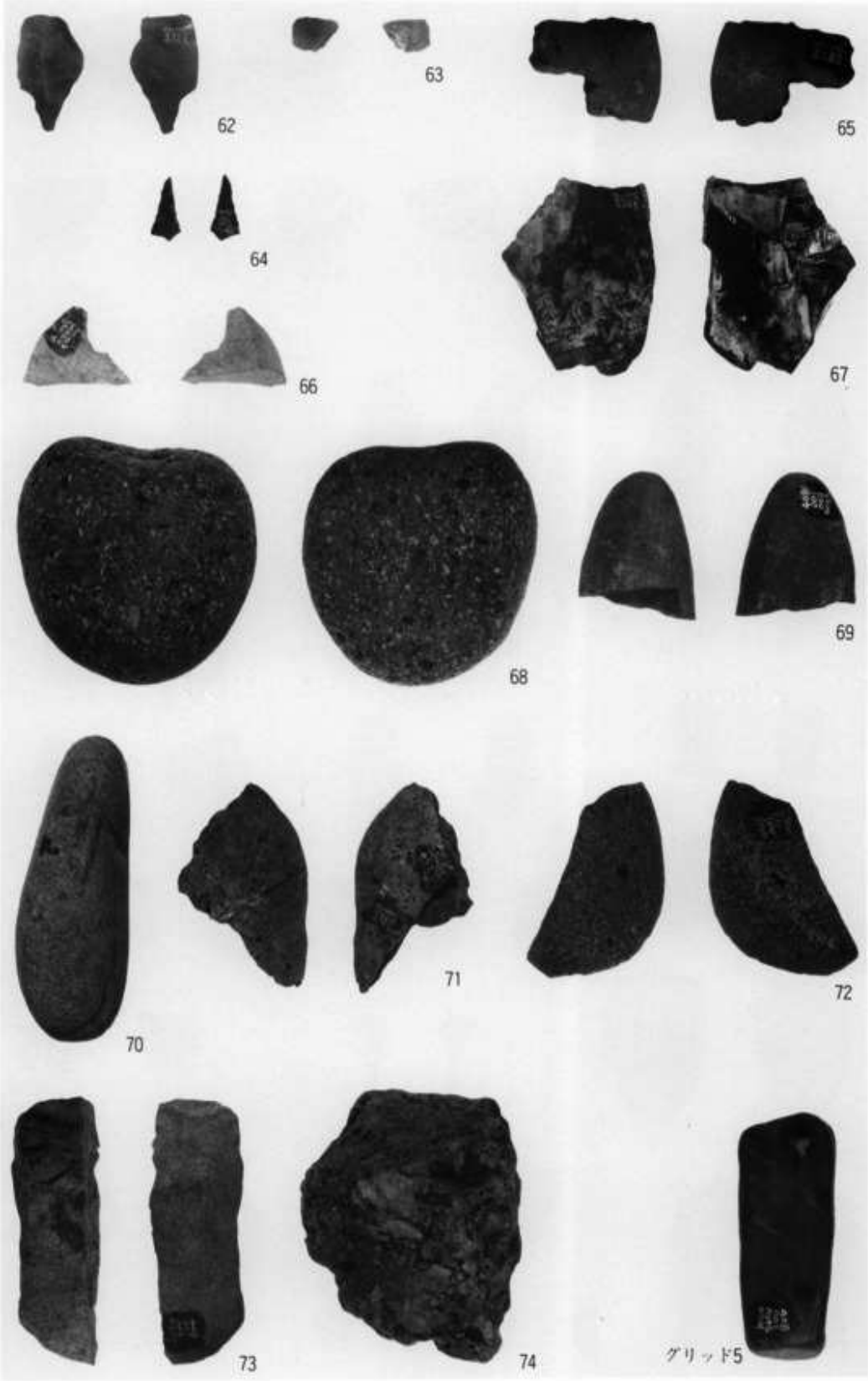


003号墳下出土石器(2)

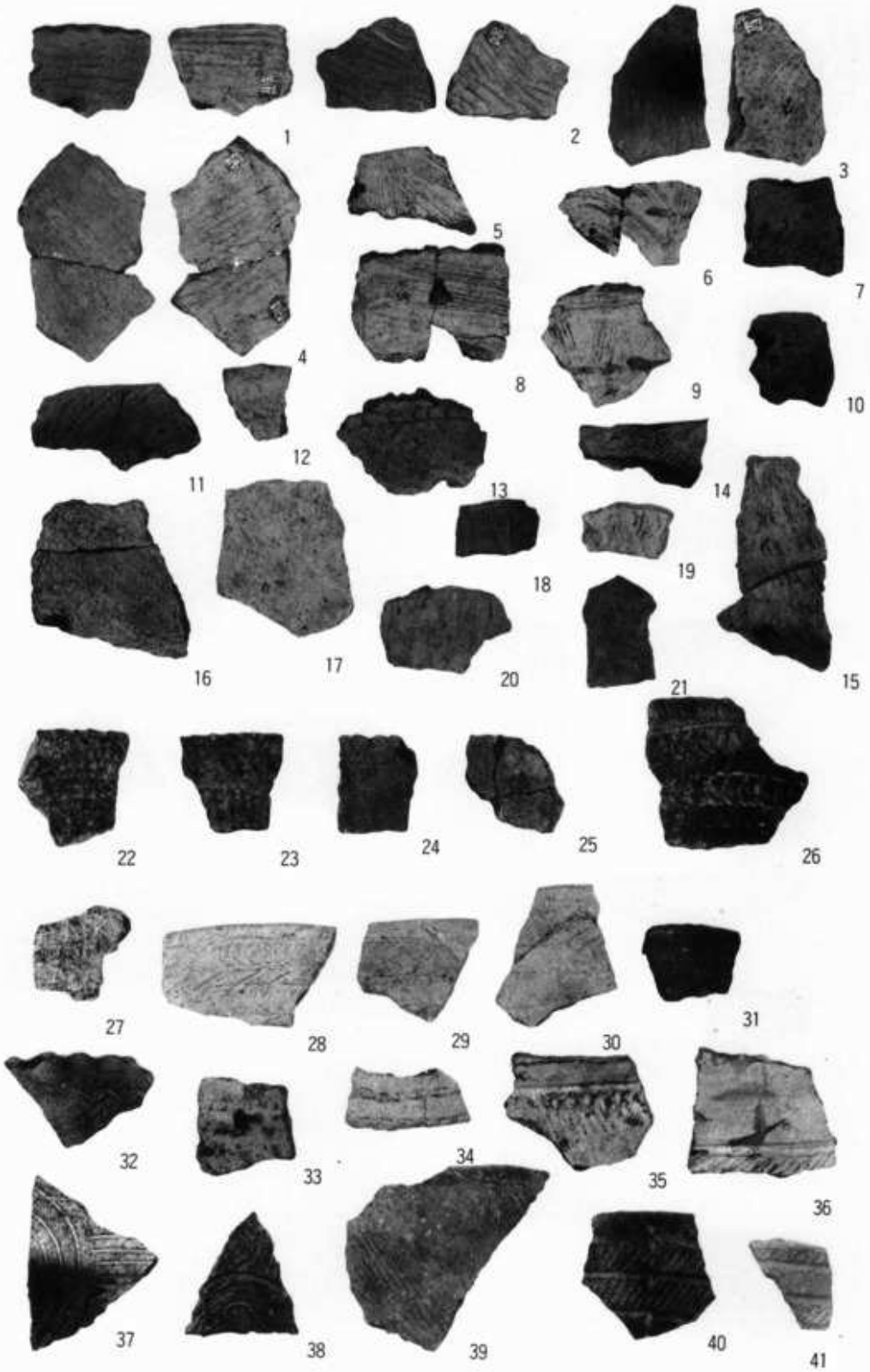


003号墳下出土石器(3)

図版 16 鯉ヶ窪遺跡

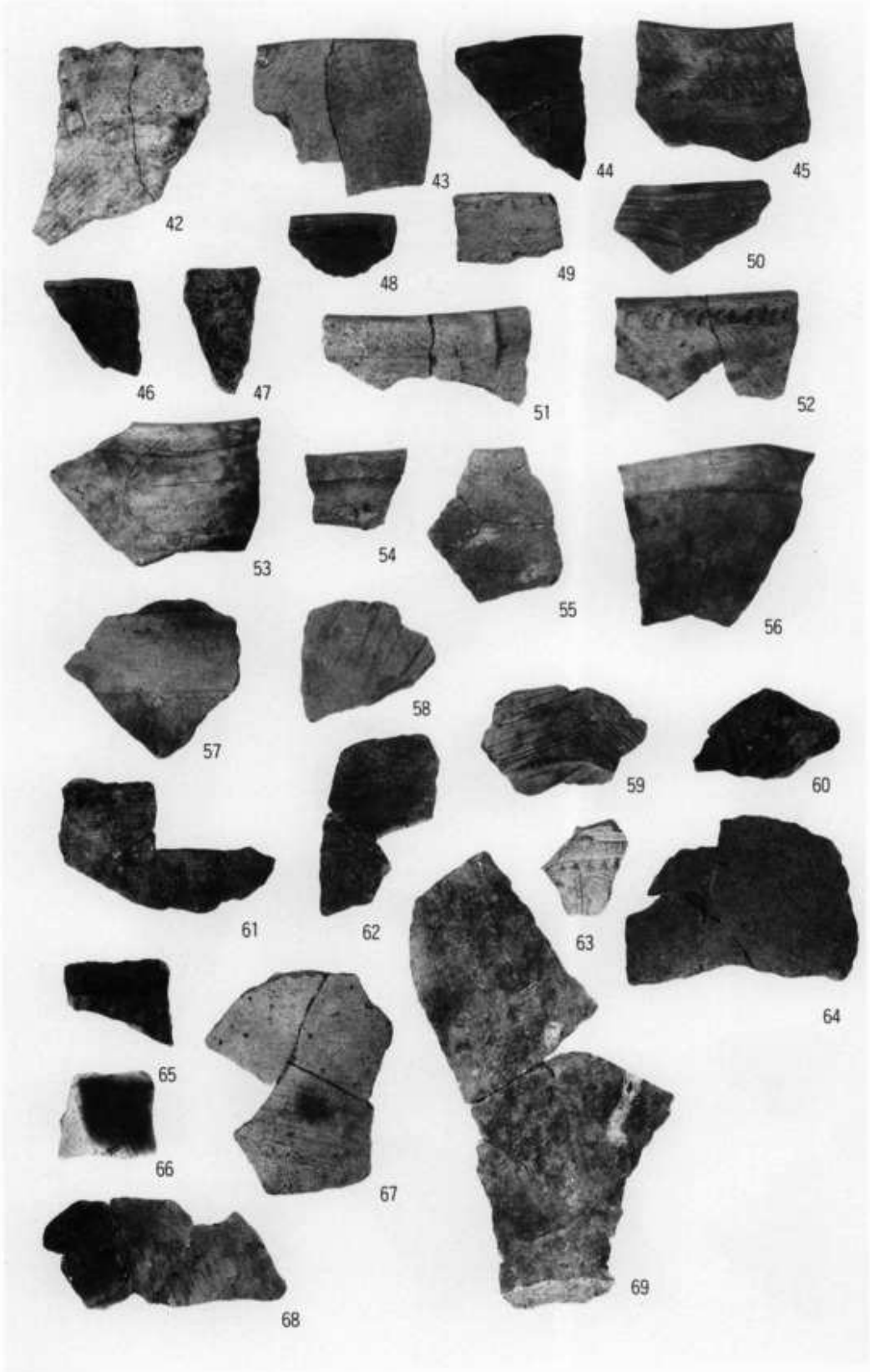


003号墳下出土石器(4)・グリッド出土石器

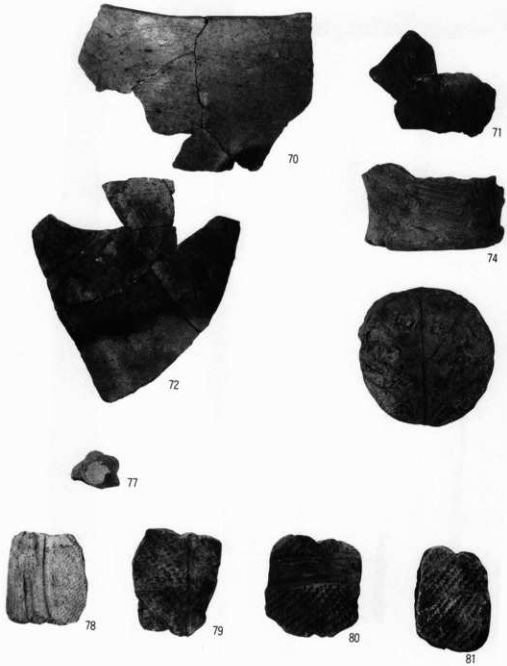

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41

縄文土器(1)

図版 18 鯉ヶ窪遺跡



縄文土器(2)



縄文土器(3)

図版 20 鯉ヶ窪遺跡

石室内出土遺物

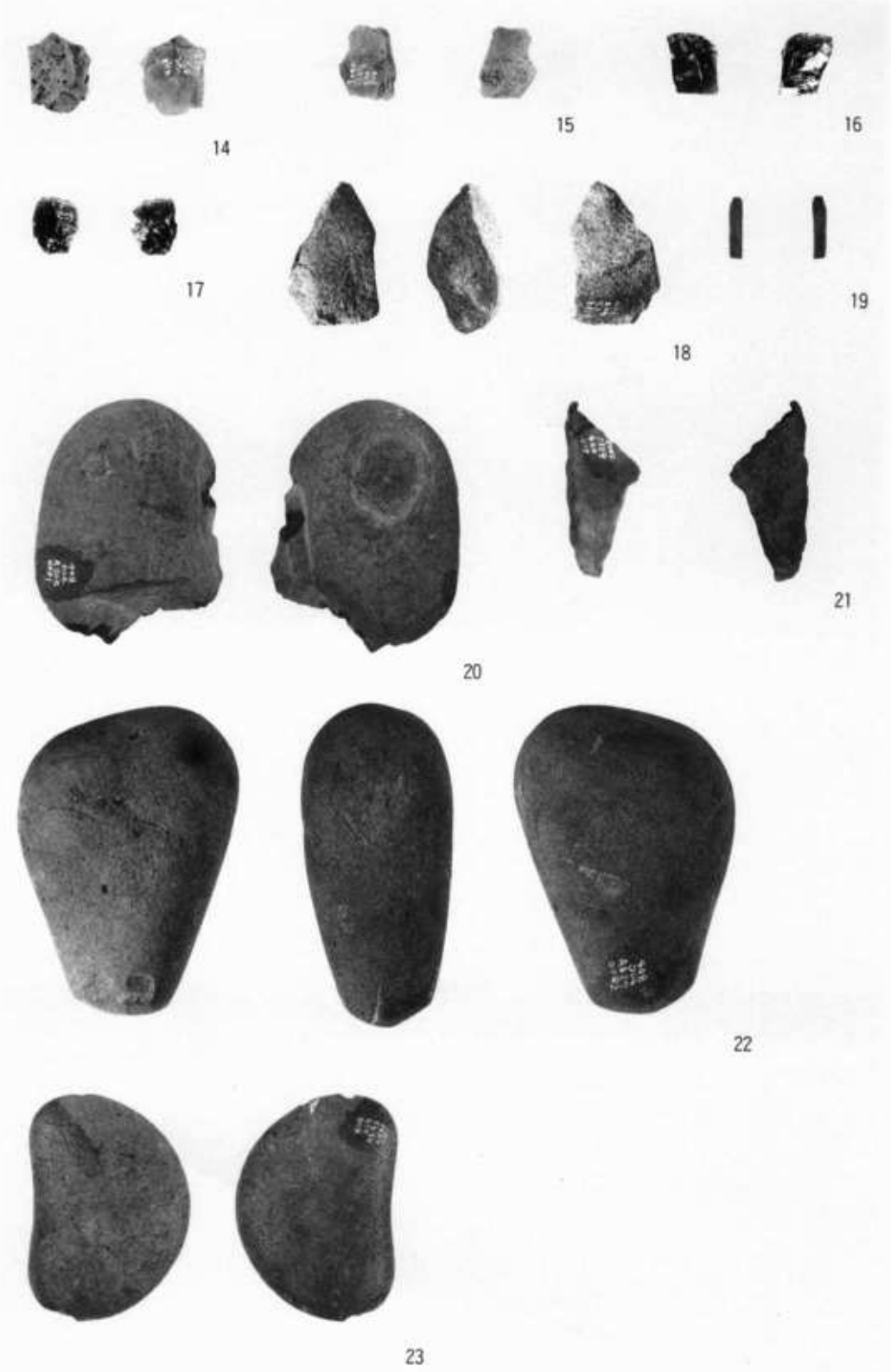
1.中台柿谷遺跡全景(航空撮影) 東より

2.土層断面

3.局部磨製石斧出土状況

図版 22　中台柿谷遺跡

第1群・第2群石器



第２群・グリッド出土石器

図版 24　遠山天ノ作遺跡(１次)

1.遠山天ノ作遺跡全景(航空撮影) 北東より

2.同遺跡近景 西より

図版 25　遠山天ノ作遺跡（１次）

1.試掘状況 南より

2.試掘状況 南より

図版 26　遠山天ノ作遺跡（１次）

1. A2グリッド土層

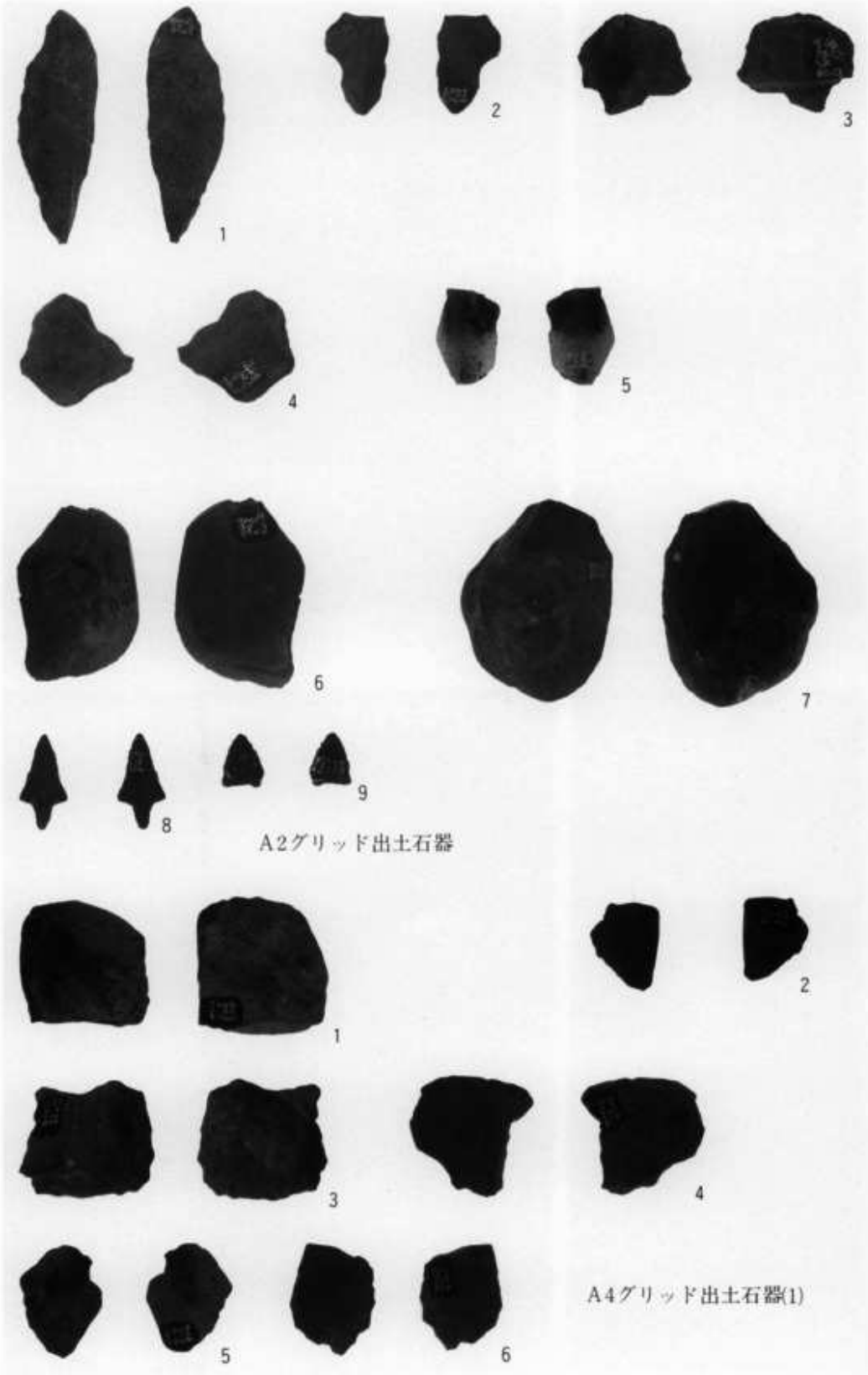
2. A4グリッド土層

図版 27　遠山天ノ作遺跡(1次)

1. A4グリッド石器出土状況

2. A4グリッド石器出土状況

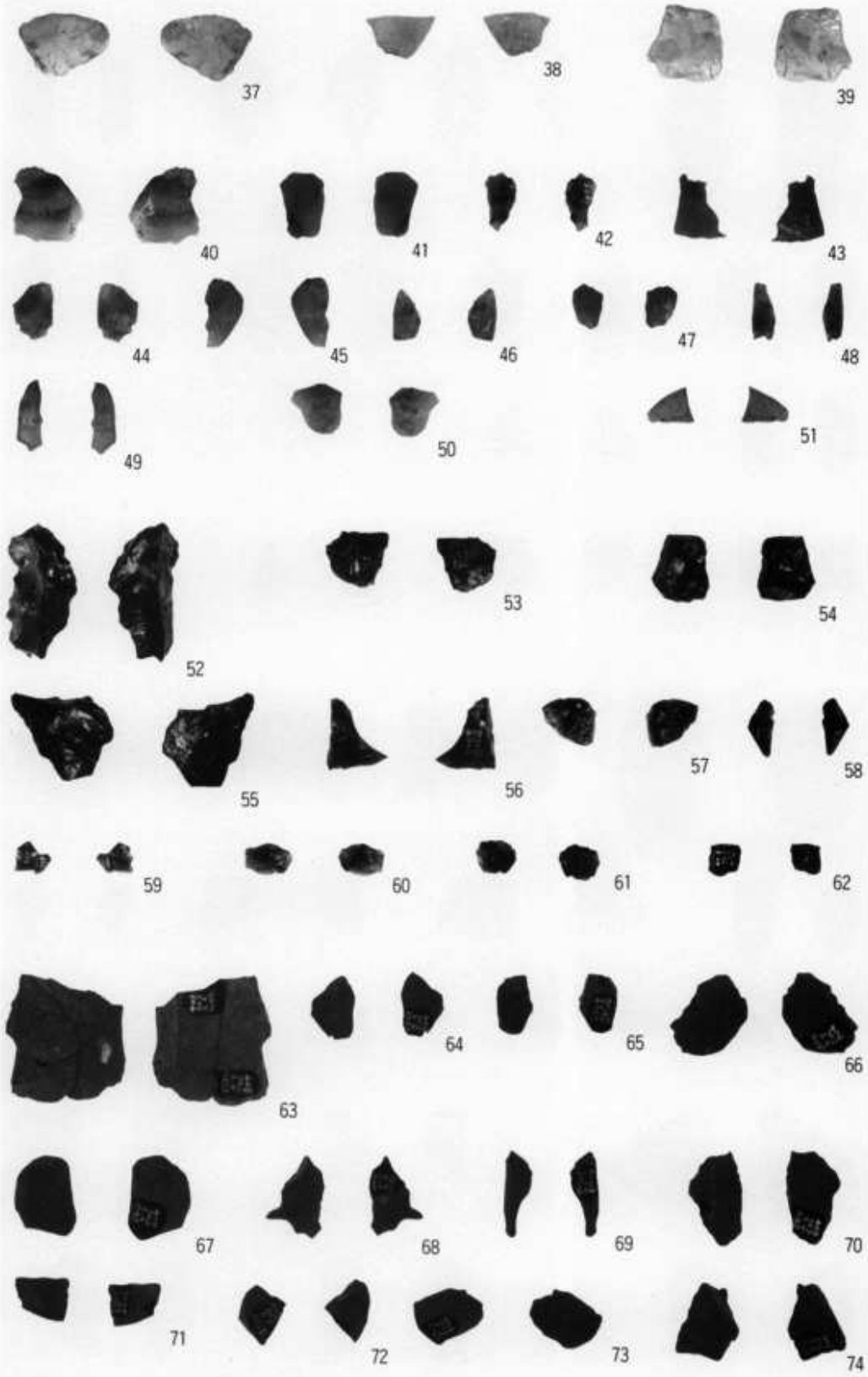
図版 28 遠山天ノ作遺跡(１次)



A2グリッド出土石器・A4グリッド出土石器(1)

A4グリッド出土石器(2)

図版 30 遠山天ノ作遺跡(1次)



A4グリッド出土石器(3)

75

76

77

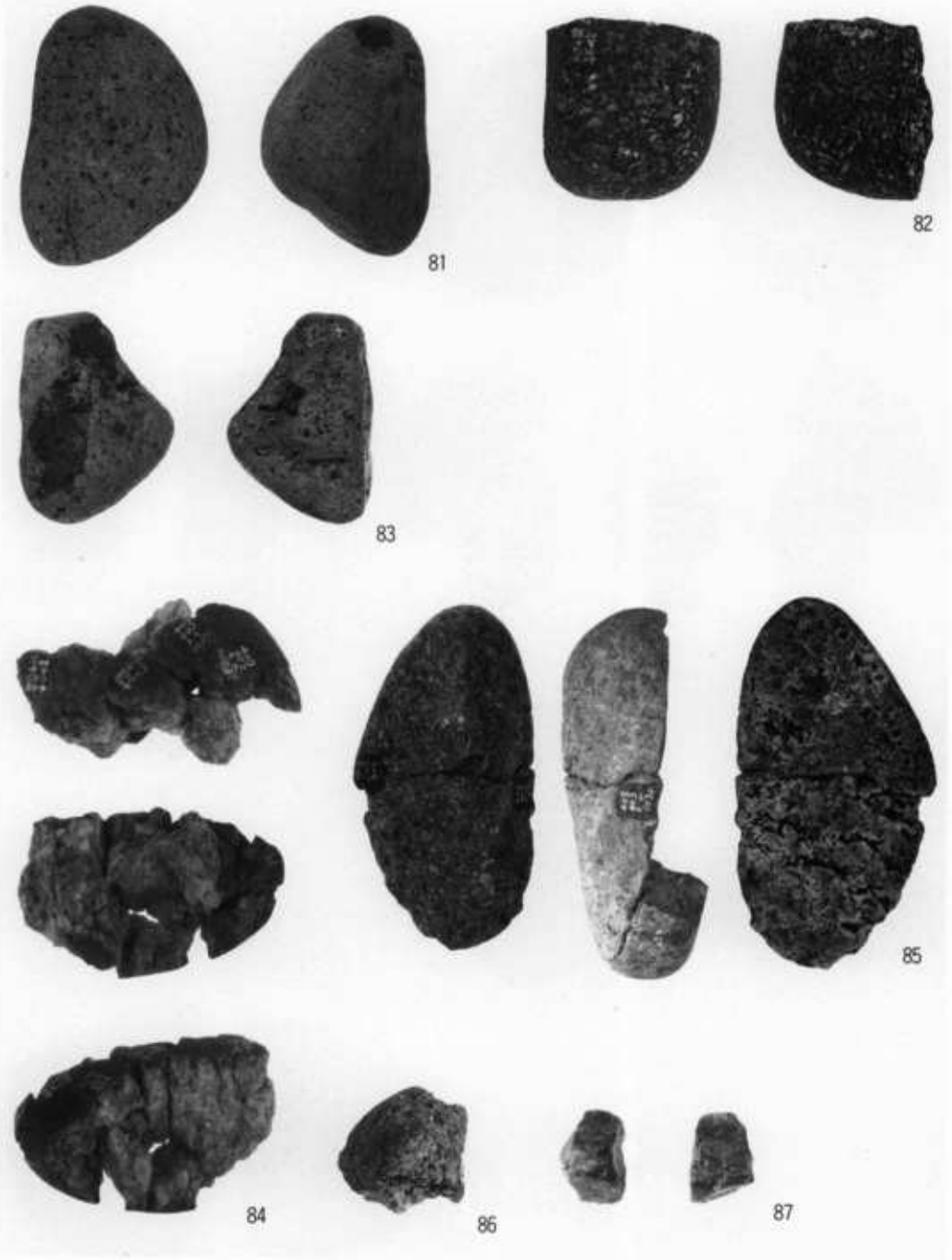
78

79

80

A4グリッド出土石器(4)

図版 32　遠山天ノ作遺跡(１次)

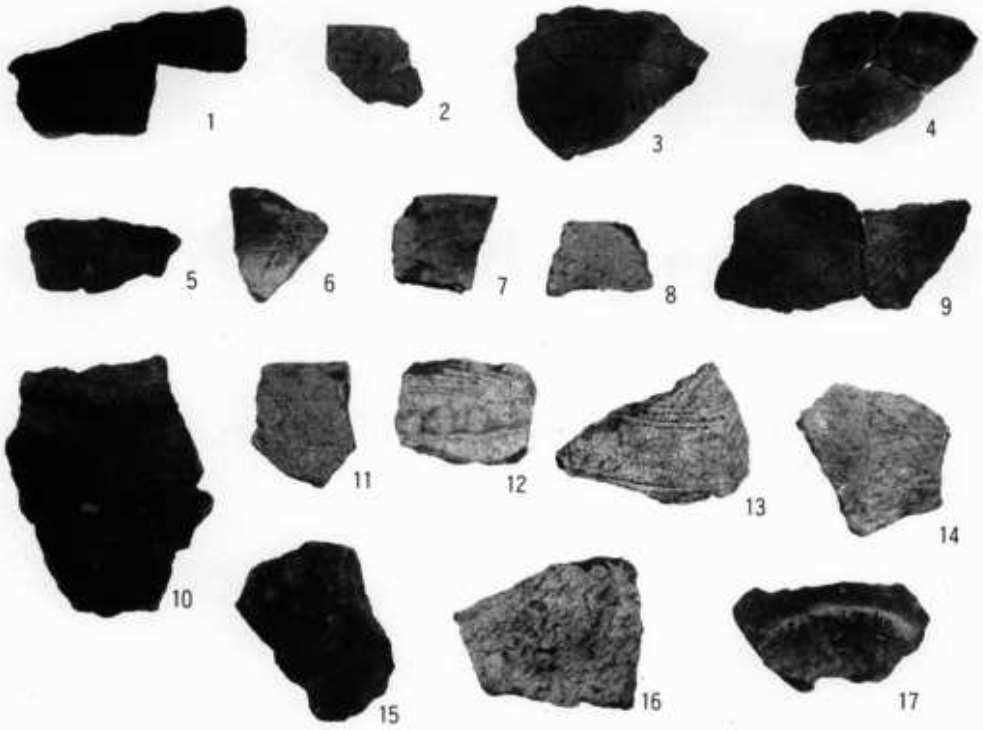


A4グリッド出土石器(5)

図版 33　遠山天ノ作遺跡(1次)

A6グリッド出土石器

図版 34　遠山天ノ作遺跡(1次)



縄文土器

図版 35　遠山天ノ作遺跡(２次)

1.発掘風景

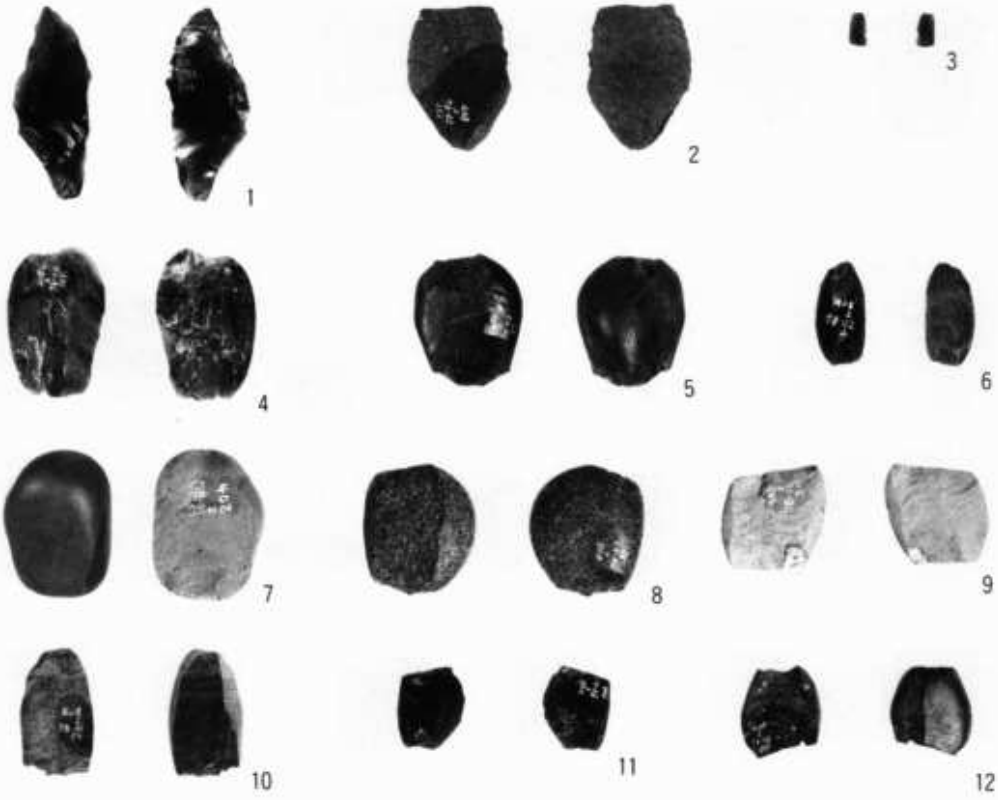
2.8Aグリッド石器出土状況

図版 36　遠山天ノ作遺跡(２次)

1.7Bグリッド石器出土状況

2.7Bグリッド石器出土状況

第1群石器

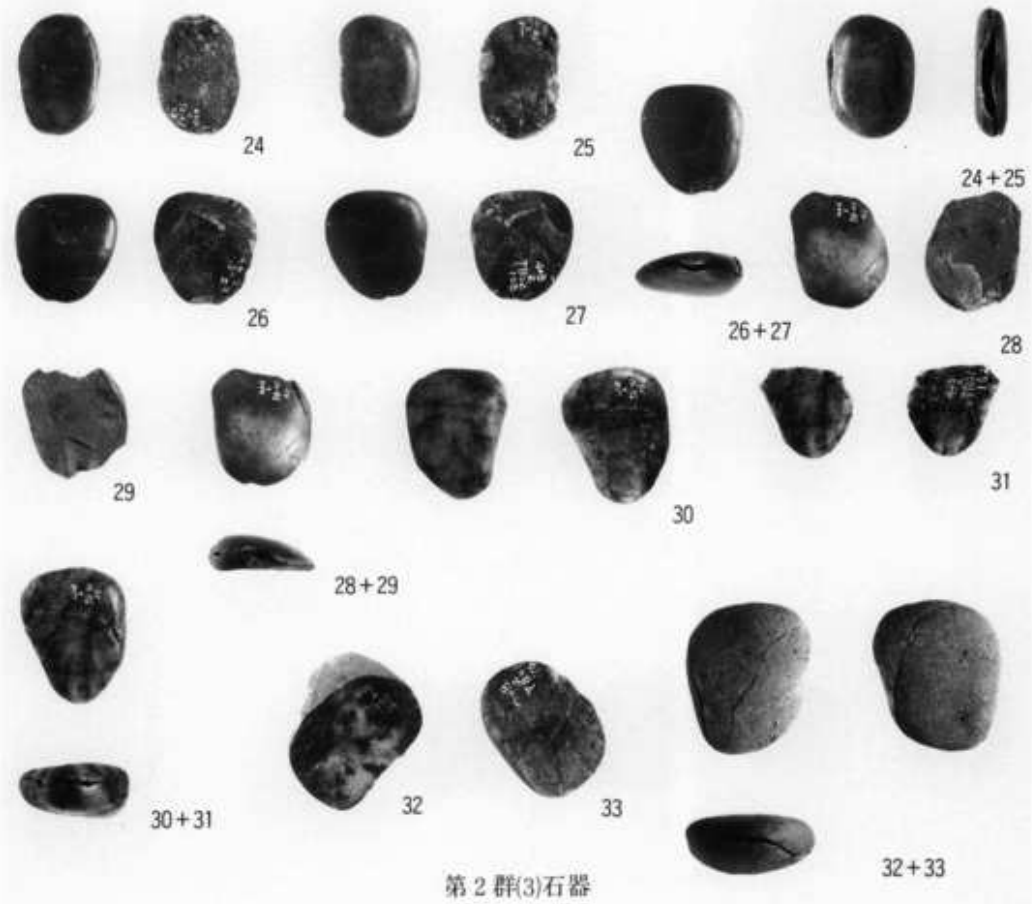


第2群(1)石器

第1群・第2群(1)・(2)石器

図版 38 遠山天ノ作遺跡(２次)

第２群(2)石器



第２群(3)石器

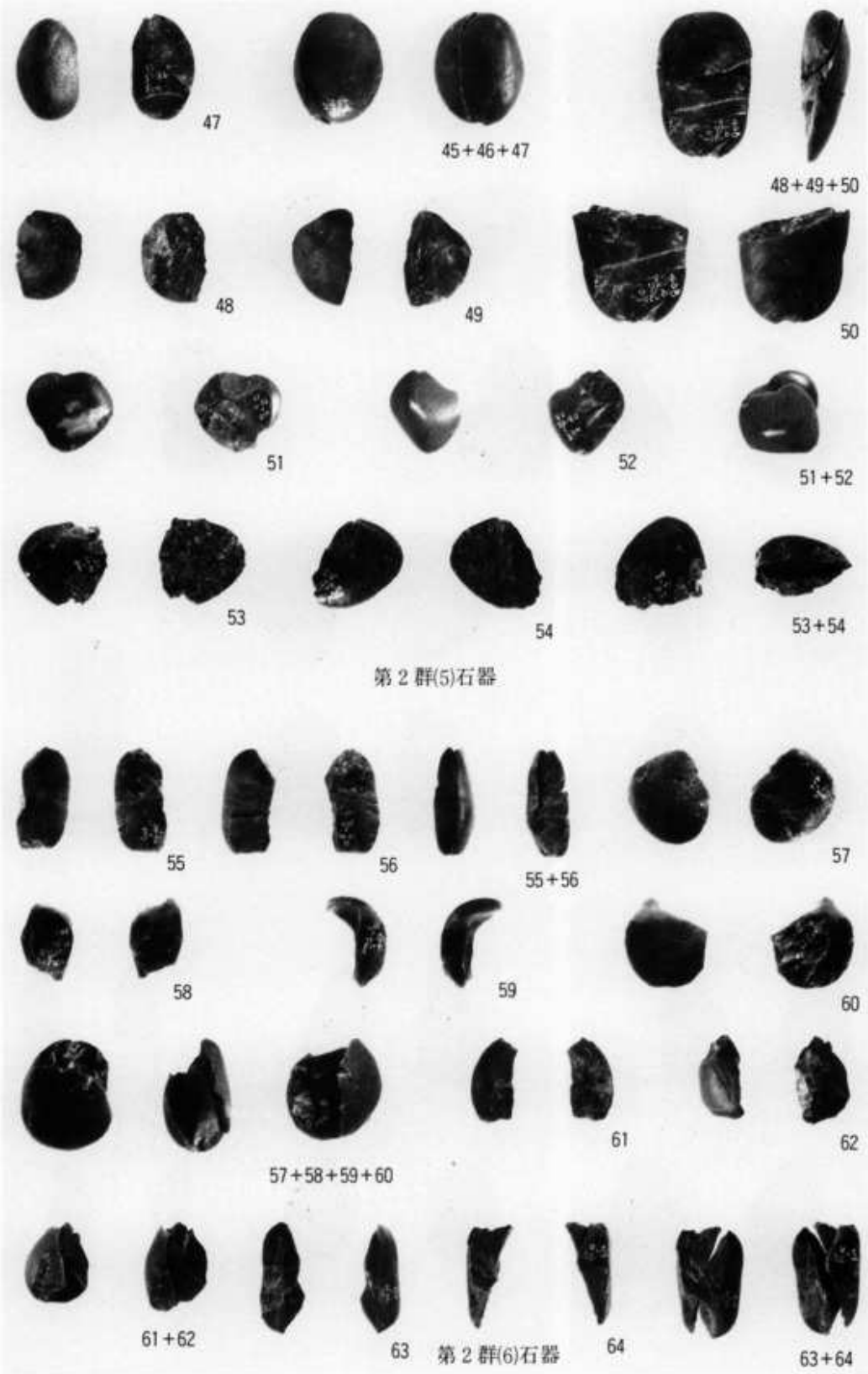
第２群(2)・(3)石器

第2群(4)石器

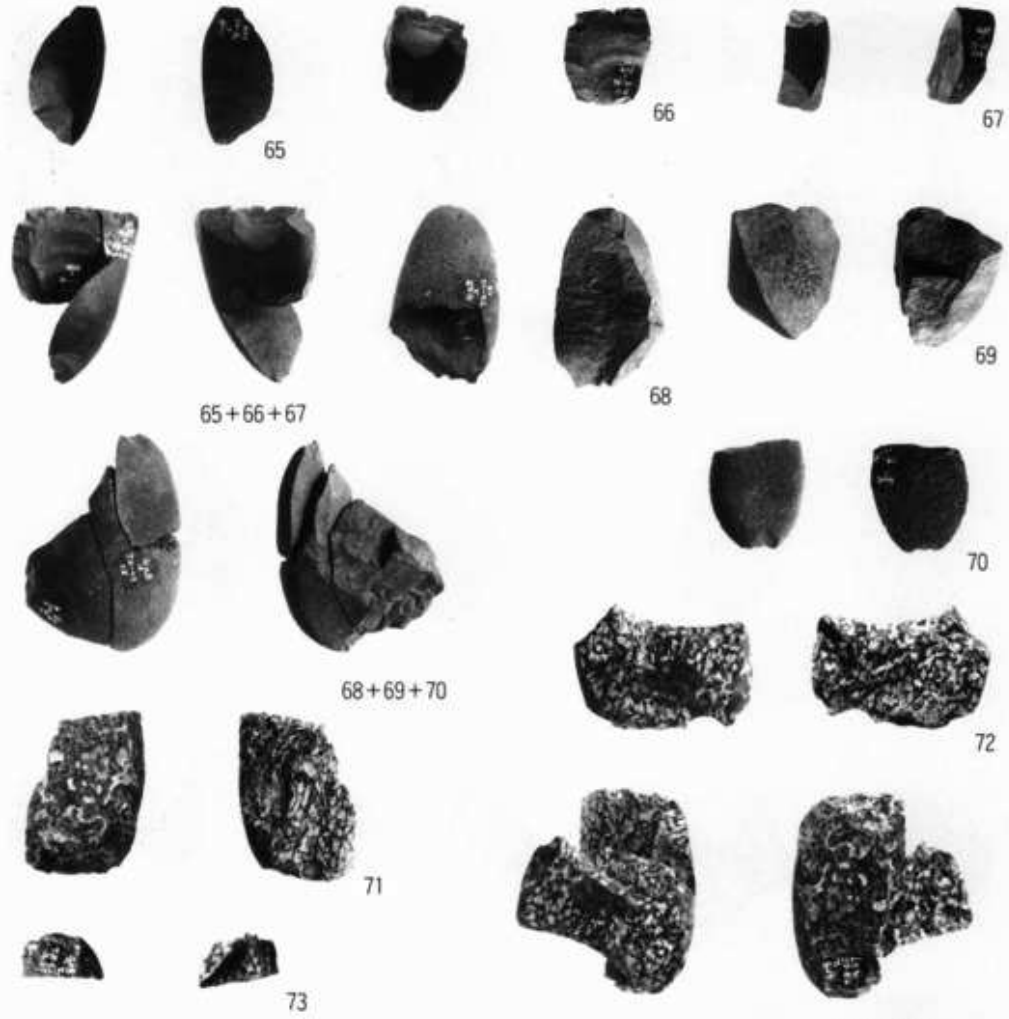
第2群(5)石器

第2群(4)・(5)石器

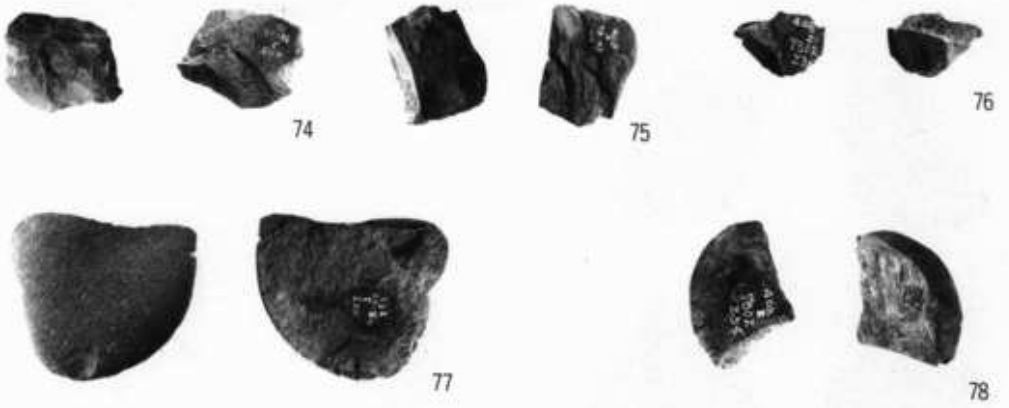
図版 40 遠山天ノ作遺跡(2次)



第2群(5)・(6)石器



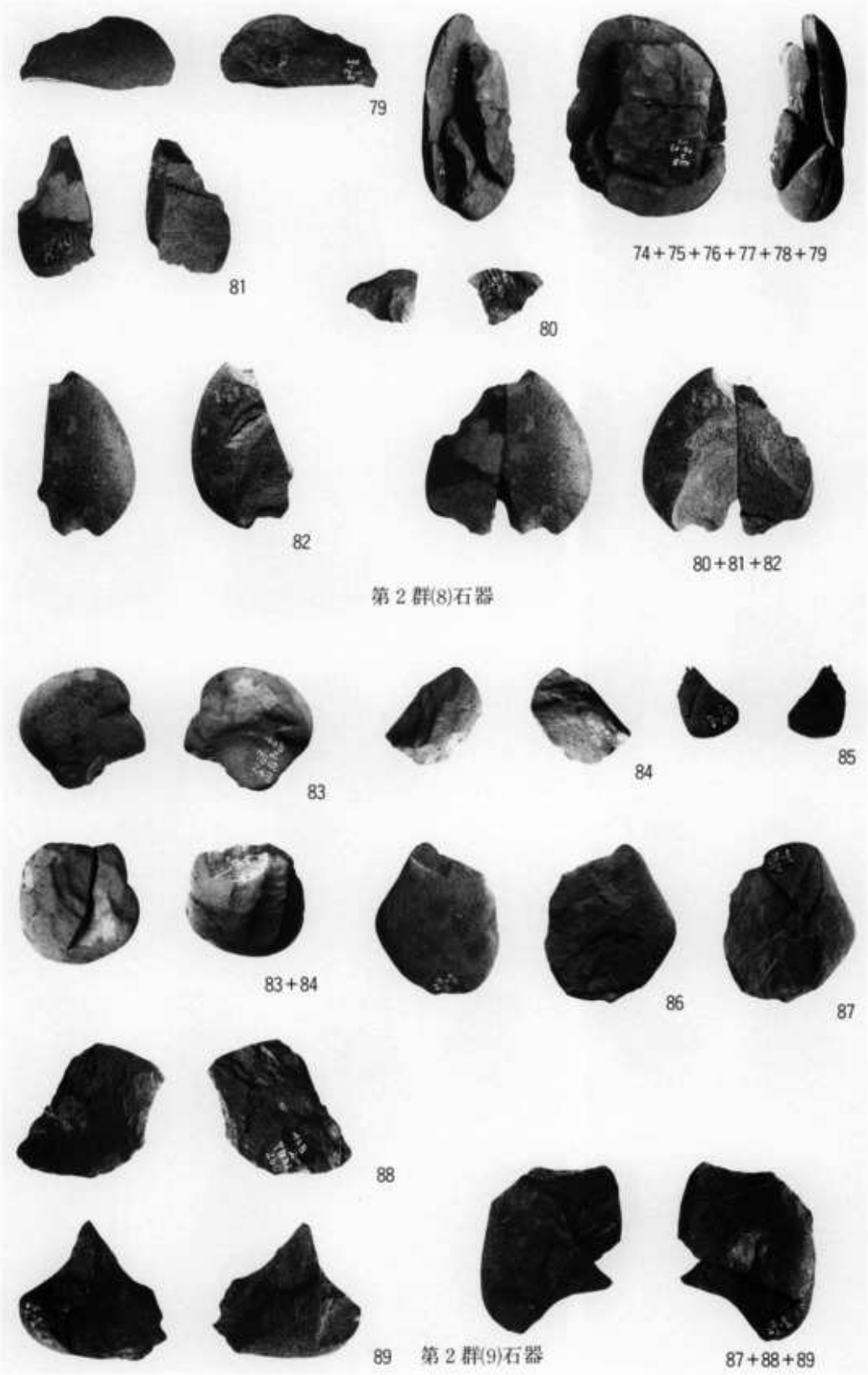
第2群(7)石器



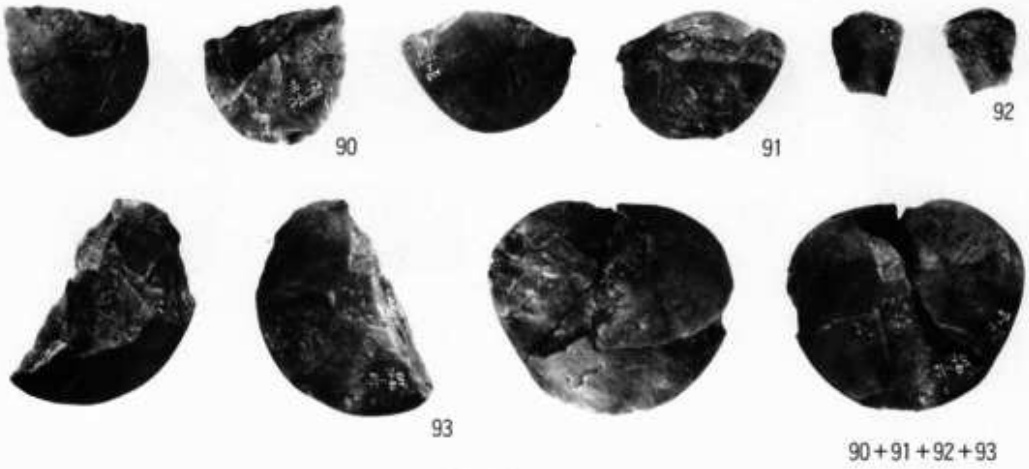
第2群(8)石器

第2群(7)・(8)石器

図版 42 遠山天ノ作遺跡(2次)



第2群(8)・(9)石器

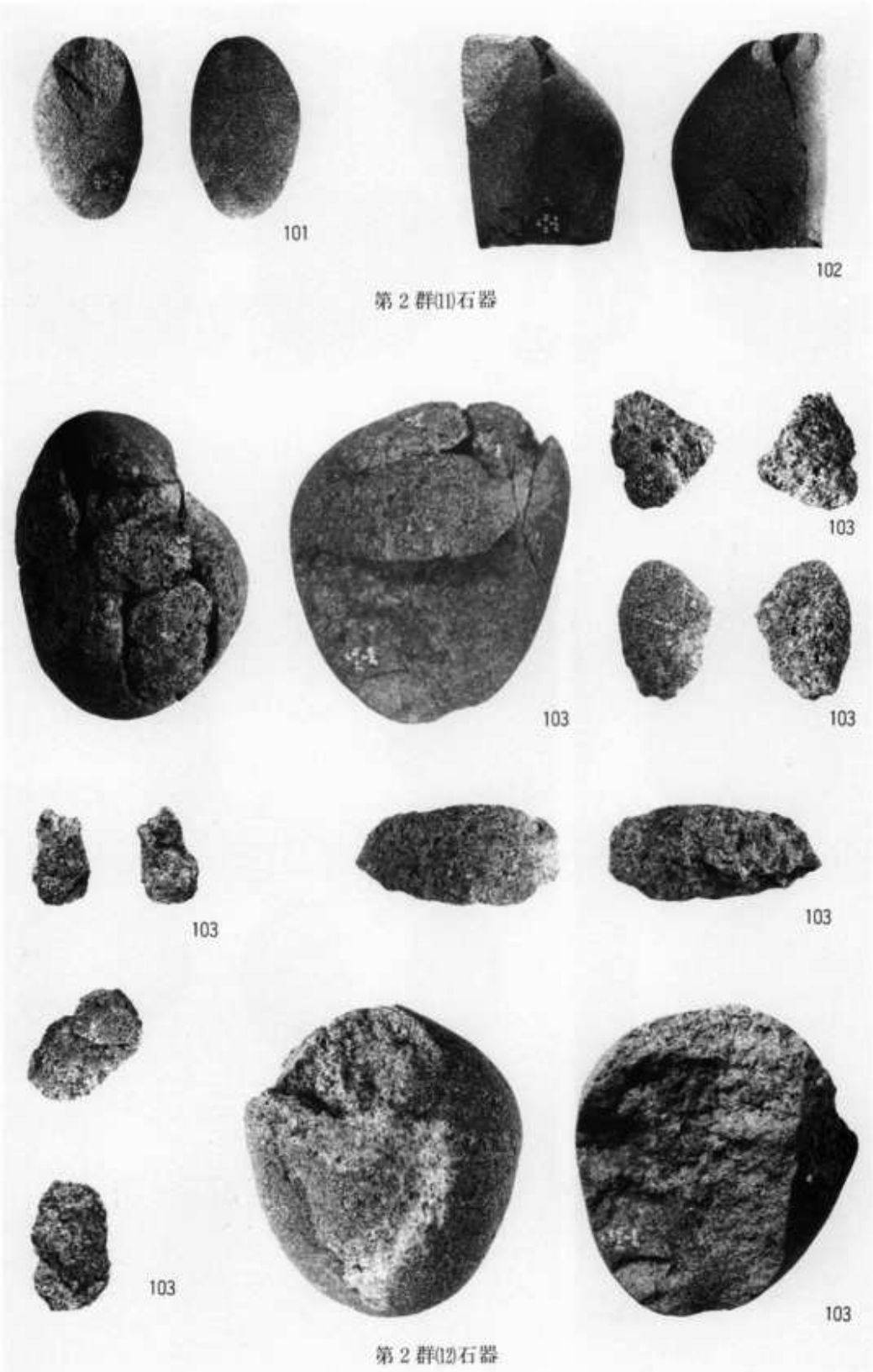


第2群(10)石器

第2群(11)石器

第2群(10)・(11)石器

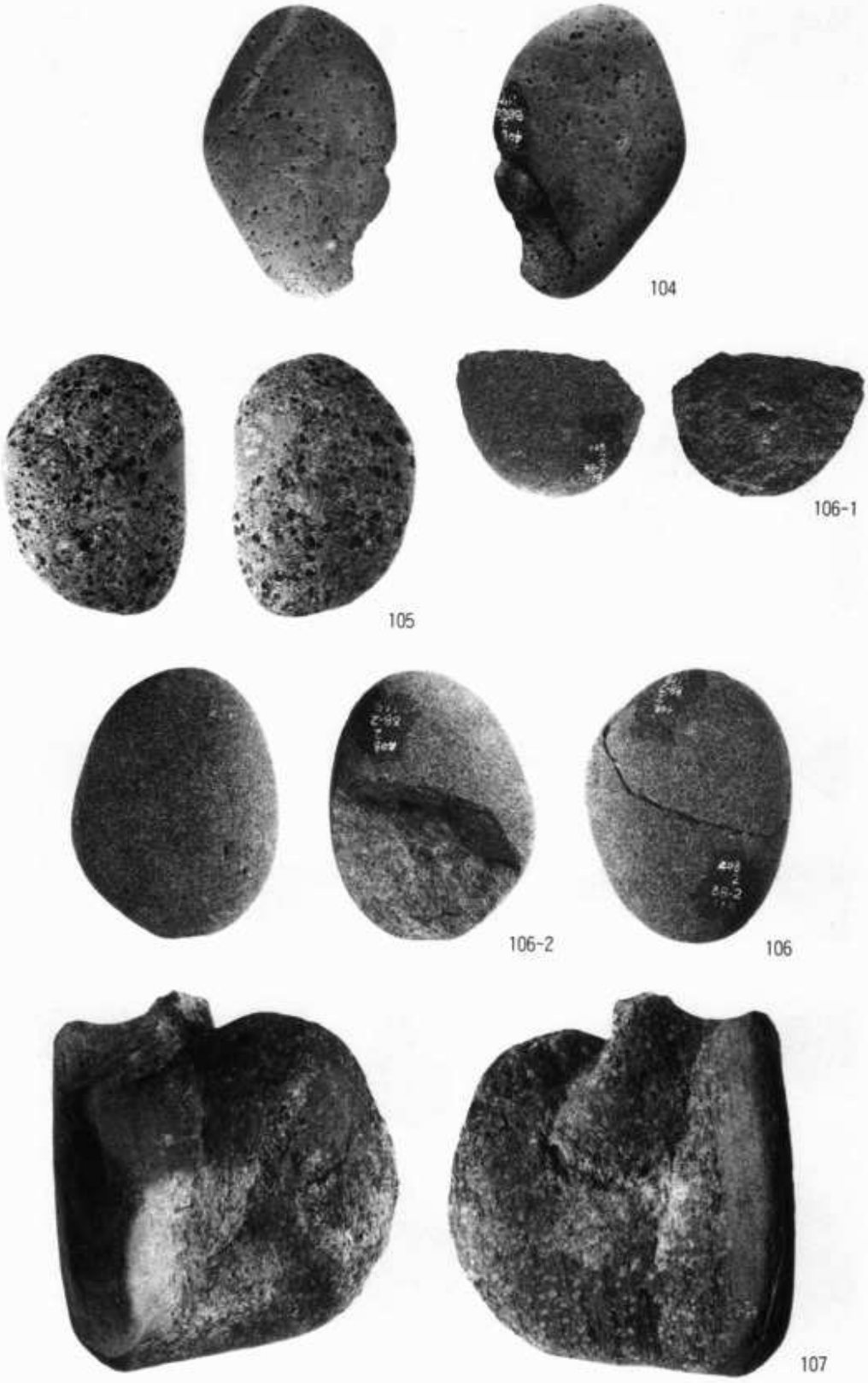
図版 44 遠山天ノ作遺跡(2次)



第2群(11)石器

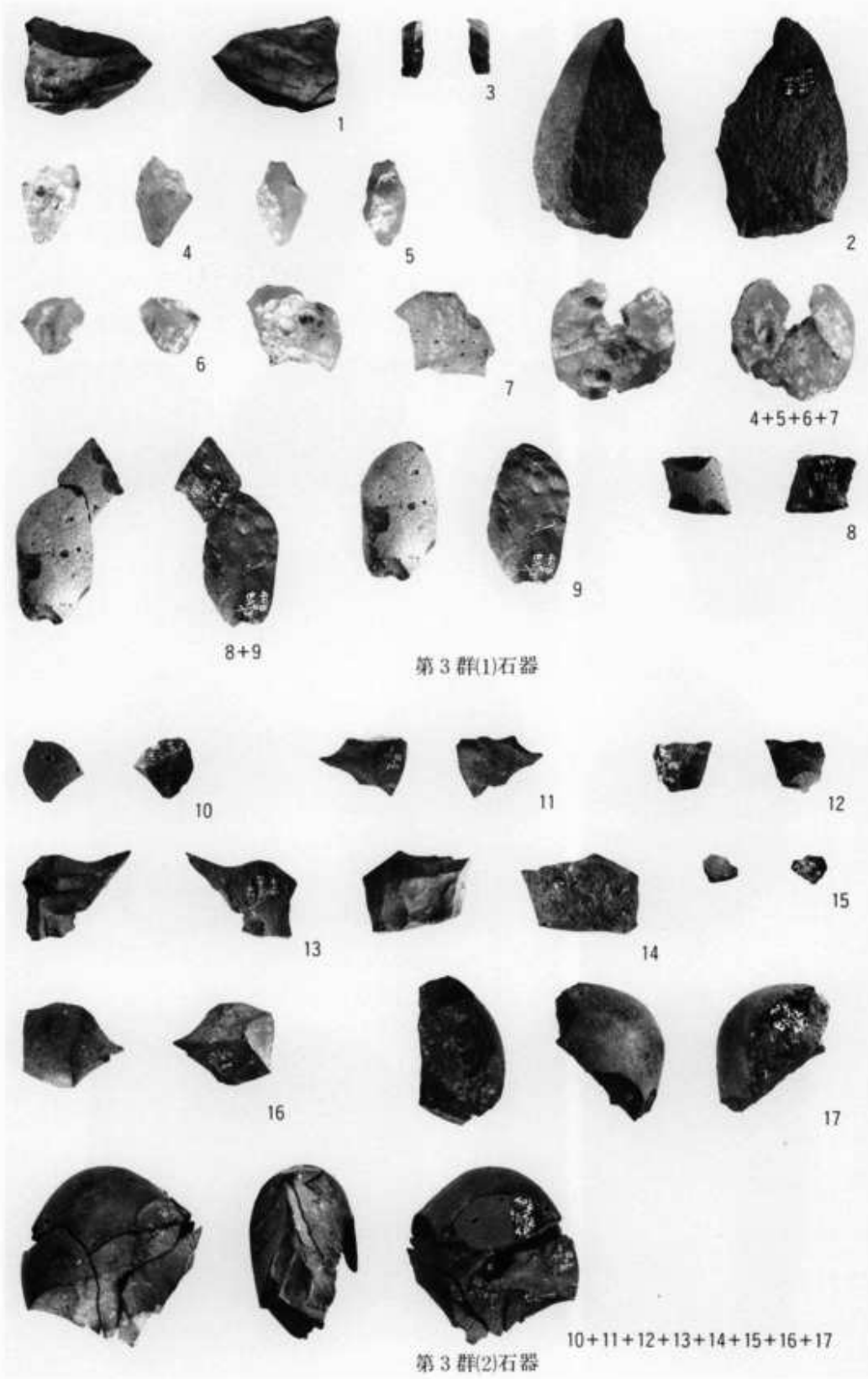
第2群(12)石器

第2群(11)・(12)石器

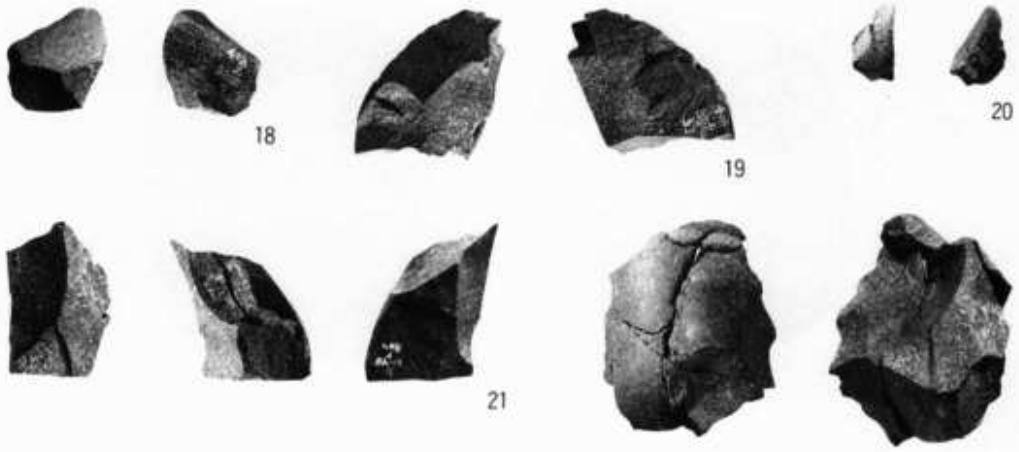


第2群(13)・(14)石器

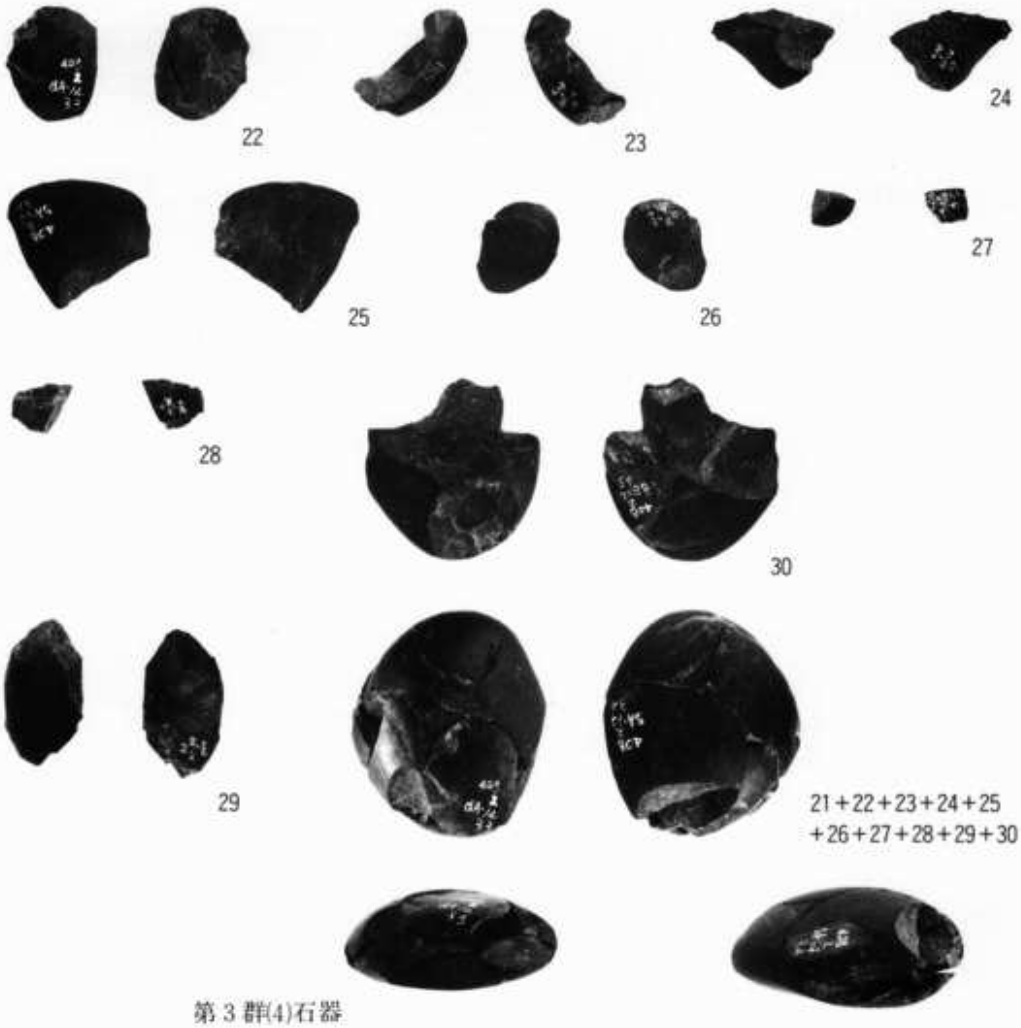
図版 46　遠山天ノ作遺跡(２次)



第３群(1)・(2)石器



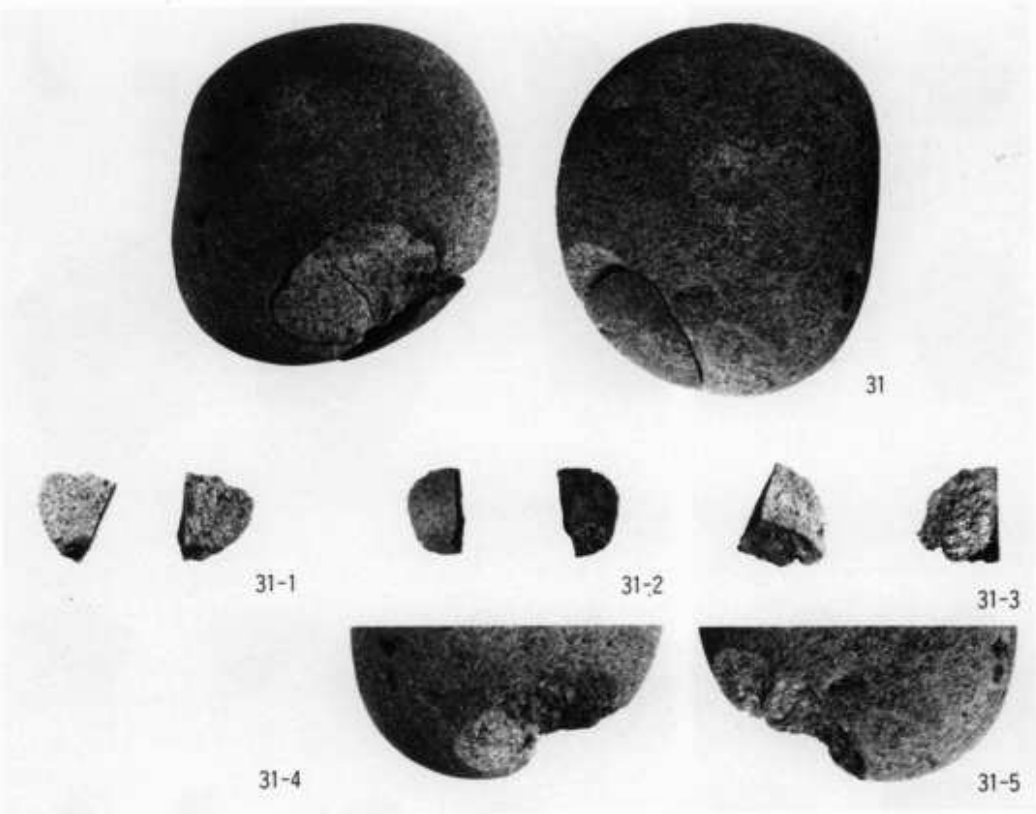
第３群(3)石器



第３群(4)石器

第３群(3)・(4)石器

図版 48　遠山天ノ作遺跡(２次)



第３群(5)石器

昭和61年3月20日印刷
昭和61年3月31日発行

主要地方道成田松尾線 III
鯉ヶ窪遺跡
中台柿谷遺跡
遠山天ノ作遺跡

発行　千葉県土木部
千葉県千葉市市場町1－1
財団法人　千葉県文化財センター
千葉県千葉市葛城2－10－1
印刷　有限会社　正文社
千葉県千葉市都町2－5－5

主要地方道成田松尾線Ⅲ　正誤表

頁	箇　　所	誤	正
挿図目次	第３図	グリッド配置図	グリッド分割図
挿図目次	第62図	第１群石器実測図	第１群石器実測図(⅔)
図版目次	図版23	第２群 グリッド	第２群・グリッド
P．1	18行目	奈良・平安時代おび	奈良・平安時代および
P．1	24行目	朝日の岡古墳	朝日ノ岡古墳
P．22	６行目	平行しはしって	平行してはしって
P．22	10行目	43は	63は
P．24	８行目	70は巾石	70は敲石
P．24	８行目	巾き跡	敲き跡
P．29	22行目	行沈線が	平行沈線が
P．30	22行目	磨耗縄文を	磨消縄文を
P．30	24行目	磨耗縄文を	磨消縄文を
P．30	28行目	57・59・60がある。	50・57・59がある。
P．30	31行目	40・	42・
P．36	10行目	可能性れある。	可能性がある。
P．36	15行目	内側両面に	内外両面に
P．52	表５６厚さ	茎1.3	茎0.6
P．54	２行目	第31図	第31・32図
P．57	５行目	波状門	波状文
P．59	４行目	昭和54年１月14日	昭和55年１月14日
P．63	27行目	剝片痕	剝離痕
P．64	10行目	半載竹管	半截竹管
P．64	16行目	ＬＲの線文が	ＬＲの縄文が
P．74	６行目	昭和58年４月１日	昭和58年３月１日
P．74	７行目	20m毎に設地	20m毎に設置
P．74	11行目	第 図グリッド分割図	第43図グリッド分割図
P．77	第43図に付加		⦶ 貢　岩
P．79	11行目	片線に	片側に
P．79	12行目	基部とも	基部にも
P．87	第48図図中無番号	◎	⊙
P．104	第62図	第１群石器実測図	第１群石器実測図(⅔)
P．132	表15　1　重さ	86.0	5.8
P．132	表15　2　重さ	5.8	86.0
CONTENTS	４行目	Swroundings	Surroundings
SUMMARY	８行目	datest	Latest
図版47	削除	21＋22＋23＋24＋25	22＋23＋24＋25